

2024年度 点検評価改善報告書
[教育研究活動報告]



西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

學 長

学長・教授

浅野 嘉延

■ 学歴

1. 1983 年 山口大学医学部卒業

■ 学位

1. 1989 年 医学博士（九州大学）

■ 研究分野

1. 内科学
2. 看護教育学
3. 疫学・保健統計学
4. 大学運営学

■ 研究キーワード

1. 白血病細胞の増殖機構
2. 疾病学の教育法
3. 保健統計学の教育法
4. 大学の統治

■ 研究課題

1. 九州大学医学部と関連病院に在籍中は、白血病細胞と増殖因子の関係などの基礎研究、白血病治療などの臨床研究を行い、数多くの医学論文を発表した。
2. 2007 年に本学に奉職してからは、医療現場における臨床医と看護大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で必要となる知識・技術を、適切かつ効率的に教授する教育法の確立を目指してきた。これまで、患者サンプルを用いた実践的な教材などを利用して、6冊のテキストを出版してきた（現在、200 校以上で教科書採用されている）
3. 2021 年度 4 月より学長に就任し、社会から求められる大学であり続けるために、学長のガバナンスを発揮し、適切に大学を運営することを模索している。

■ 担当授業科目

1. キリスト教と西南女学院のあゆみ（前期）（全学科 1 年生、必修科目）
2. 疾病学各論Ⅰ（前期）（看護学科 2 年生、必修科目）
3. 疾病学各論Ⅱ（前期）（看護学科 2 年生、必修科目）
4. 保健統計学（後期）（看護学科 1 年生、必修科目）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】 全学科の1年生に対して、本学の歴史とキリスト教主義教育について解説した。複数の教員によるオムニバス形式で進行したが、私は学長として初回到西南女学院の歴史を紹介し、本学の学生であることに自信と矜持を持つように強調した。「感恩奉仕」という共通の精神基盤のうえで学部学科を超えて高めあうことの大切さにも言及した。
2.	授業科目名【疾病学各論Ⅰ・Ⅱ】 臨床経験が豊かな専門医によってオムニバス形式で行った。内科疾患は29コマを私（内科医）が、3コマを定永教授（内科医）が、3コマを目野教授が担当した。私が編集した教科書「看護のための臨床病態学（改訂5版）」を使用して、内科疾患の系統的な講義を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。新しい試みとして、定永教授と目野教授により1年次の授業と疾病を関連付ける統合の授業を3コマ行った。 小児科疾患6コマ、外科疾患6コマ、麻酔科疾患1コマ、婦人科疾患3コマ、精神科疾患6コマは医療機関に勤務する専門医の外部講師が担当した。最新の医療知識を教授できたと考える。 医学知識だけでなく、病める患者と向き合う医療者としての心構えも教授するように心がけた。
3.	授業科目名【保健統計学】 看護学科において数少ない社会医学の系統講義である。馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計（改訂4版）」を使用して、基礎から分かりやすく解説した。毎回の授業の最初に前回の復習を行い、繰り返し説明を行うようにした。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。 授業中に統計データから「社会問題を考察する」「表をグラフ化する」などのレポートを課した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1983年6月～現在	日本内科学会	指導医・認定医（1993年9月～現在） 専門医（1993年10月～現在）
2.	1985年6月～現在	日本血液学会	指導医・認定医（1993年9月～現在） 専門医（1993年10月～現在） 九州支部評議員（2011年4月～現在） 功労会員（2023年4月～現在）
3.	1986年6月～現在	日本癌学会	
	1998年12月～現在	アメリカ内科学会	上級会員 FACP（2000年1月～現在）
	1995年4月～現在	日本医師会	認定産業医（2001年5月～現在）

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文 等の名称	単著・ 共著の 別	発行所、発表雑誌 等又は発表学会 等の名称	概 要
(教科書／単独執筆)					

1.	2025 年 3 月	看護師国家試験 対策 START BOOK～解剖 生理と疾病の特 性～（改訂 3 版）	単著	南山堂	著者：浅野嘉延 国試に必要な解剖生理と疾病学のポ イントを解説した。医学・医療の進 歩に則して内容を追加修正した。
（雑誌）					
1.	2024 年 4 月	見て覚える！解 剖ポスター 神 経系	単著	プチナース 4 月 号特別付録、 2024、照林社	神経系の解剖を分かりやすくポスタ ーにした。
2.	2024 年 5 月	見て覚える！解 剖ポスター 内 分泌系	単著	プチナース 5 月 号特別付録、 2024、照林社	内分泌系の解剖を分かりやすくポス ターにした。
3.	2024 年 5 月	からだのしくみ といっしょに学 ぶ おもしろく なる病態生理	単著	プチナース 5 月 臨時増刊号（全 130 ページ）、 2024、照林社	様々な疾患の病態を分かりやすく解 説した。
（その他の執筆）					
1.	2024 年	とどけ！笑顔 ～あなたの学び が、誰かの笑顔 になる～	単著	西南女学院大学 2025 入学案内 7	高校生を対象とした大学の紹介と学 長からのメッセージ。
2.	2023 年 4 月	とどけ！笑顔 ～あなたの学び が、誰かの笑顔 になる～	単著	西南女学院大学 ホームページ （2024.4.1～）	新年度における学内外への学長メッ セージ
3.	2024 年 4 月	社会に求められ る大学を目指し て	単著	山口大学医学部 霜仁会会報 第 304 号（2024.4 月号） 7, 2024	西南女学院大学の歴史と現状を紹介
4.	2024 年 5 月	とどけ！笑顔 ～あなたの学び が、誰かの笑顔 になる～	単著	月報 巻頭言 第 721 号(2024 年 5 月号) 2, 2024	グランドビジョン 2030 の紹介
5.	2024 年	鏡文	単著	西南女学院大 学・西南女学院 大学短期大学部 中期計画「要」 2022-2026、 2024 年度版	中期計画の鏡文

6.	2024 年 8 月	西南女学院大学 グランドビジョン 2030 とど け！笑顔 ～A hopeful future begins with a smile～	単著	広報 第 106 号 (2024 年 8 月 号) 4, 2024	グランドビジョン 2030 の紹介
7.	2024 年 12 月	ドイツのクリス マス	単著	しおんのそのあ ゆみ 巻頭言 (2024 年 12 月 号)	留学で経験したドイツのクリスマス を紹介
8.	2025 年 3 月	巻頭言	単著	看護師国家試験 対策 START BOOK～解剖生 理と疾病の特性 ～ (改訂 3 版)	執筆者としての巻頭言
(講演)					
1.	2024 年 5 月	内科医としての あゆみ ～命の 大切さと向き合 って～		明治学園高等学 校グローバルキ ャリア教育 (北 九州)	医師として歩んできた道のりを紹介
2.	2024 年 7 月	社会問題と医療		2024 年度シニア サマーカレッジ (北九州)	医療に関係した社会問題を解説
(挨拶)					
1.	2024 年 4 月	入学式式辞		西南女学院大学 入学式 (2023.4.2)	学長式辞
2.	2024 年 5 月	開講式式辞		ファーストレベ ル開講式 (2023.5.11)	学長式辞
3.	2024 年 9 月	閉講式式辞		ファーストレベ ル閉講式 (2023.9.6)	学長式辞
4.	2024 年 9 月	開講式式辞		セカンドレベル 開講式 (2024.9.11)	学長式辞
5.	2024 年 9 月	卒業式式辞		西南女学院大学 秋の卒業式 (2024.9.26)	学長式辞

6.	2024 年 12 月	閉講式式辞		セカンドレベル 閉講式 (2023.12.19)	学長式辞
7.	2025 年 3 月	卒業式式辞		西南女学院大学 卒業式 (2025.3.19)	学長式辞

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2016 年 6 月～現在	医療法人起生会 大原病院	産業医
2.	2015 年 4 月～現在	地方独立行政法人北九州市立病院機構 北九州市立医療センター	医の倫理委員
3.	2021 年 4 月～現在	独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院	治験審査委員
4.	2021 年 4 月～現在		研究倫理委員
5.	2021 年 4 月～現在		臨床研修管理委員
6.	2021 年 4 月～現在	社会福祉法人 福音会	理事長
7.	2024 年 4 月～現在	一般財団法人 平成紫川会	評議員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2011 年 4 月～現在	西南女学院評議員会	評議員
2.	2016 年 8 月～現在	地域連携室運営協議会	委員
3.	2019 年 4 月～現在	西南女学院理事会	理事

4.	2021 年 4 月～現在	西南女学院大学・大学短期大学部	学長
5.	2021 年 4 月～現在	西南女学院理事会	常任理事
6.	2021 年 4 月～現在	将来計画検討プロジェクト	主催者
7.	2021 年 4 月～現在	公的研究費運営管理部門	最高管理責任者
8.	2023 年 10 月～現在	将来計画委員会	委員

大 学

保健福祉学部

看護学科

准教授

石井 美紀代

■ 学歴

1. 2001 年 大分医科大学大学院修士課程 修了

■ 学位

1. 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 地域・在宅看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 在宅ケア
2. 家族介護
- 3.

■ 研究課題

1. 在宅療養者と家族の意思決定支援における看護師の機能と役割
- 2.

■ 担当授業科目

1. 社会保障概説（看護学科 1 年 後期）
2. 家族看護学（看護学科 2 年 後期）
3. 看護研究の基礎（看護学科 3 年 前期）
4. 在宅看護学（看護学科 3 年 前期）
5. 在宅看護学演習（看護学科 3 年 前期）
6. 在宅看護学実習（看護学科 3 年後期・4 年前期）
7. 看護総合演習（看護学科 4 年 通年）
8. 看護総合実習（看護学科 4 年 通年）
9. 看護学特論（看護学科 4 年 後期）
10. 高齢者支援学Ⅰ（保健福祉学部共通科目 2 年集中）
【未開講】高齢者支援学Ⅱ（保健福祉学部合同）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【社会保障概説】

	本講義は、社会福祉士の外部講師を含み3人で担当しており、単位認定者として調整も行った。学生は社会保障制度について「公民」の授業で学んでいるが、多くは苦手意識を持っている。学生のモチベーションをあげるため、制度や法的根拠を、患者や地域住民、家族と関連させた事例使って解説し、看護職の業務とのつながりを意識して伝えた。また、授業の最後には国家試験の過去問を解いてもらい、資格取得に必要な知識であることを学生に伝えた。さらに、授業終わりには、毎回、質問の時間を確保するとともに、出席カードに「質問・コメント」の欄を設け、学生の疑問や質問に対話する事に努めた。
2.	授業科目名【家族看護学】 本講義は、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説することから、単位認定者として社会学を専門とする外部講師の調整も行った。 学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定されることから、事前に学生支援室に協力を依頼している。事例の提示や解説する時には、自分の家族を分析させず、アニメの家族（サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん）や看護で出会う架空の事例で講義を実施した。事例分析は科目評価に使用することを説明し、基本的に授業内で、未完成の場合は自宅課題として、返却時には総評を行った。また、出席カードに「質問・コメント」の欄を設け、学生の疑問や質問に対話する事に努めた。
3.	授業科目名【看護研究の基礎】 本講義は、単位認定者の溝部教授を中心に講義と演習を看護学科教員4人で担当している。15回の授業で、論文クリティーク、英語文献の要約、研究計画書の作成・量的研究と質的研究の分析体験・抄録作成と、研究の一連の流れを体験させている。 提出物を科目評価とすることから、1つ1つの提出物に評価表を提示している。学生は自己評価を添付して提出し、返却時には、自己評価に教員評価を赤丸で示している。そのため、個人/グループの提出物は多いが、未提出の学生はほとんどいない。
4.	授業科目名【在宅看護学】 本講義は、看護学の概論と方法論を合わせることから、在宅看護の理念→在宅看護の特性→対象の特性に共通する看護を、社会問題や介護問題と関連させながら解説した。在宅看護技術は家族の介護力や個別の環境に合わせて実施されるため、How to で語れない。授業内で危険予知トレーニングや事例検討によって在宅看護の視点を学び、個別の状況に対応する必要性を伝えようとしたが、個別性や不確実性が在宅看護の特性であることを十分伝えることができなかった。
5.	授業科目名【在宅看護学演習】 本講義は助教・助手4人と共に担当したが、うち3人が初めて担当するため、事前の調整に時間をかけた。15回の授業を①在宅看護過程 ②訪問看護の技術提供・教育機能 ③臨床推論 の3つに大別して展開した。①在宅看護過程では、共通事例の看護過程を見本として配布・解説し、展開事例の看護過程をグループワークと個人ワークで完成させることで、個々人の知識・理解の習得を目指した。②技術提供はグループで手順書を作成し、実習室で試行して、方法と工夫点を発表し共有した。③臨床推論は、教員が発熱患者となって学生の質問に答えていき、その内容からグループで発熱の原因を突き止めることを実施した。臨床推論は事例のリアリティーを追及したため、複雑すぎて学生には理解が難しかった。
6.	授業科目名【在宅看護学実習】 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、医療現場ではクラスターが散発したり他の感染

	症の発生があり、依然として学生実習には厳しい状況である。実習施設に対し、大学の感染予防体制、学生の行動制限や健康観察、教員の指導体制、実習目標と実習項目などを事前に何度も協議し、ご理解をいただいた施設で臨地実習をさせていただいた。 実習指導では、教員が事前に受持ち療養者の情報を取り、個々の事例と学生の到達目標を打合せしながら、助手と単位認定者の役割を分担して指導していった。 在宅看護学・在宅看護学演習の授業評価で、学生から「わかりづらい」との厳しい指摘があったので、実習場には教科書を持参させ、在宅看護学・演習で講義したことを実習現場で解説していった。学生は「今言われたら、わかる」を連発していた。
7.	授業科目名【看護総合演習】 本科目は、看護総合実習を挟んで行われる。学生には、これまでの学習や実習で興味があるテーマを選定させた。前半はそのテーマについて文献学習し、毎週ゼミでプレゼンテーションし、ゼミメンバーから意見をもらいながら実習計画を作成する。実習後は個別に指導して、その成果や疑問をまとめて論文を作成し、ゼミの論文集を作成した。当初設定していた期日を過ぎたものの、全員が論文を完成させることができた。
8.	授業科目名【看護総合実習】 4年間の総まとめの実習であることから、学生が主体的に行動し学ぶ工夫と仕掛けをしていった。学生の選定したテーマの実習が可能な訪問看護ステーションを個別に選び、1名ずつ違う施設に依頼した。その後は、学生が看護総合演習で作成した各自の実習計画をもとに説明し、自ら日程交渉していった。学生は自分の実習テーマの答えが見出せるまで同行訪問を続けたため、個々で訪問日数が違ったが、納得いく実習を実施できた。
9.	授業科目名【看護学特論】 本講義は看護学科教員がオムニバスで講義するもので、私は在宅看護学分野の講義を1コマ担当した。4年生後期であることから、教授するのではなく在宅医療・在宅看護の国の方針を伝え、看護の展望を思考させることを意識した。一方、学生は看護の将来展望よりも身近な国家試験の方に興味がある。そこで、在宅医療・在宅ケアのトピックスを解説したのち、自分たちで国試問題と解説をつくることをレポートさせた。国試問題を作ることで、キーワードを復習することが出来ていた。
10.	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 本科目は総合人間科学に位置し保健福祉学部の3学科共同で行われる。福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。 初日は3学科教員による講義、2日目は3学科の学生合同で循環器疾患をもつ在宅の高齢者家族の事例ワークを行う。グループワークでは各学科の専門性をもとに事例ワークしていくが、栄養学科＝食事・栄養、福祉学科＝社会資源、社会保障制度の活用、と専門職の明確な視点でディスカッションが進む。入院患者でなく居宅高齢者であったことから、看護学科の学生で看護職の専門性を見出せないという質問が複数あり、あらためて地域看護の大切さと教授の難しさを感じた時間であった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997年6月～（現在に至る）	日本健康福祉政策学会	
2.	1997年10月～（現在に至る）	日本地域看護学会	
3.	1998年4月～（現在に至る）	日本看護学教育学会	

4.	1998年4月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
5.	1999年4月～現在に至る	日本老年社会科学会	
6.	1999年8月～現在に至る	日本老年看護学会	
7.	2001年11月～現在に至る	日本看護研究学会	
8.	2004年8月～現在に至る	日本在宅ケア学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					
1.	なし				
（翻訳）					
1.	なし				
（学会発表）					
1.	なし				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.	なし			

（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.	2020 年 4 月～現在に至る	戸畑区地域ケア研究会	運営委員
2.	2021 年 4 月～現在に至る	福岡県看護協会看護研究倫理審査委員会	委員
3.	2022 年 11 月～現在に至る	北九州市開発審査会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生委員	委員
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	(学科) 学力向上	共用試験主担当
3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	(学科) 4 年アドバイザー	アドバイザー

助教
井手 裕子

■ 学歴

1. 2006 年 大分大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻(修士課程) 修了

■ 学位

1. 2006 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 地域・在宅看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 地域・在宅看護領域の効果的な教育方法
2. 介護家族の心理的ケア
- 3.

■ 研究課題

1. 看護基礎教育における地域・在宅看護学領域の効果的な教育方法について、実践し考察する
2. 介護家族の心理的負担の具体的な因子について探索し、個別的な支援方法について考察する

■ 担当授業科目

1. 在宅看護学演習（前期）
2. 地域生活支援論実習（後期）
3. 看護学（栄養学科）
- 4.
- 5.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【在宅看護学演習】 この科目を履修する3年次の学生は、1・2年次における早期看護実習および基礎看護学実習は、急性期病院での実習のみの体験であり、療養の場が「在宅」であることのイメージがつきにくい。加えて大半が核家族世帯で成長してきた世代であり、在宅看護の対象の大半を占める高齢者の暮らしに触れる機会がすくなかったと思われる。従って、演習で教員が高齢の療養者および高齢の介護者を演じる際には、高齢者の生活の実態や価値観などを意識した言動を取り入れた。また看護の基本は、病院でも在宅でも同じではあるが、特に在宅での特徴は何であることを意識させるように、発問などを

	工夫した。 また、上記の内容を踏まえて、看護過程の展開では、収集する情報やアセスメントをする際に、在宅看護の特徴や根拠が考えられているかをポイントに指導を行った。
2.	授業科目名【地域生活支援実習】 今年度より開講した実習である。この実習の基盤となる授業は、1・2年次の「地域生活支援論」「地域連携協働支援論」であり、授業後半年を経ている。従って、まずは、これらの関連授業で学んだことを常に想起させながら、この実習では何を学ぶのかについて確認しながら進めた。地域包括ケアシステムという概念の理解を、実際の現場での多職種の働きをみることで学んでいくわけだが、急性期病院での実習のように、担当患者の看護過程の展開をするわけではないので、最初のうちは学生たちも戸惑いを隠せないが、看護師以外の職種とかかわることで、「地域」というものについて考えるようになった。そして、この実習では、現場のさまざまな専門職のスタッフにも、この実習の意義というものについて理解をしてもらう必要があるため、各施設に頻回に趣き、現場の指導者との話し合いの場を多く持つようにした。
3.	授業科目名【看護学（栄養学科）】 オムニバス形式の講義で、「糖尿病の看護」の項目を担当した。すでに低学年で糖尿病の病態生理や治療については基本的なことは学んでいるため、糖尿病患者の生活に視点をおいた。具体的には、持続的にインスリン注射を投与しなくてはならない患者の動画などを視聴させ、慢性疾患をもつ人々がどのような苦悩の中で生きているかについて考えさせた。そのうえで、将来、栄養士として働くうえでどのような支援が必要かについて考えてもらった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996 年 4 月～現在に至る	聖路加看護学会	
2.	1996 年 6 月～2025 年 3 月	日本看護研究学会	
3.	1998 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会	
4.	1998 年 6 月～現在に至る	日本看護診断学会	
5.	2003 年 8 月～現在に至る	日本糖尿病教育・看護学会	
6.	2008 年 10 月～現在に至る	日本看護科学学会	
7.	2017 年 7 月～現在に至る	日本慢性期看護学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					

1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等

1.	2024.4.1～2025.3.31	実習コーディネーター	
2.	2024.4.1～2025.3.31	看護学科 3 年生アドバイザー	
3.			

講師
江藤 真美子

■ 学歴

1. 2024 年 佐賀大学博士課程 卒業

■ 学位

1. 2017 年 修士（教育学）
2. 2024 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 健康教育学
2. 健康行動学
3. 養護教育

■ 研究キーワード

1. ヘルスリテラシー
2. ICT
3. 養護教諭

■ 研究課題

1. ヘルスリテラシーが向上する健康教育について考察する。また、ICT を使った授業デザインについて考察する。
2. ICT を使った養護教育について考察する。

■ 担当授業科目

※該当なし（2025 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2025 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014 年 8 月～現在に至る	教育工学会	
2.	2021 年 10 月～現在に至る	日本健康相談活動学会	
3.	2024 年 10 月～現在に至る	日本養護教諭教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又	著書、学術論	単	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名	概 要

	は 発表の 年月	文等の名称	著・ 共著 の別	称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2024. 5	Associations of eHealth Literacy with Social Activity Among Community-Dwelling Older Adults: A Cross-Sectional Study (査読付)	共	European Journal of Investigation in Health, Psychology and Education. 2024, 14(5), 1279-1294; https://doi.org/10.3390/ejihpe14050084	① 高齢化が進む多くの国では、高齢者を支える医療や介護の問題が社会問題となっている。その解決のため、高齢者には、デジタル化とリテラシーに適応することが求められている。必要な側面の 1 つは、eヘルスリテラシーである。そこで本研究では、高齢者のeヘルスリテラシーと健康行動および社会活動との関係を検証した。本研究はeヘルスリテラシーと社会的活動、高齢化の指標との関連性を示した最初の研究である。 ② 共著者名 江藤真美子,山津幸司 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能 (P1279～P1294)
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					

2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2025年度入職）

講師

鹿毛 美香

■ 学歴

1. 久留米大学大学院 医学研究科修士課程 環境医学講座（医科学修士）修了

■ 学位

1. 2008 年 修士（医科学）

■ 研究分野

1. 公衆衛生看護学
2. 産業保健学
3. 労働衛生学

■ 研究キーワード

1. 労働と健康
2. 産業保健活動
3. 保健師教育

■ 研究課題

1. 労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について
2. 産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力

■ 担当授業科目

1. 社会保障概説（後期）（看護学科）
2. 早期看護実習（前期）（看護学科）
3. 健康教育論（前期）（看護学科）
4. 疫学（前期）（看護学科）
5. 初年次セミナーⅡ（後期）（看護学科）
6. 公衆衛生看護活動演習（前期）（看護学科）
7. 公衆衛生看護学実習（通年）（看護学科）
8. 看護総合演習（通年）（看護学科）
9. 看護総合実習（通年）（看護学科）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【社会保障概説】
	1. 人の生活が安定していくように、国がどのような社会保障および施策で保障しようとしているか、ライフステージ毎に、事例を通してながら概要を捉えることができるように努めた。特に施策

	や制度は、国の課題背景があり、それを解決するために整えられるため、背景と施策や制度の流れを連動して講義を組み立て資料化することで意識づけた。 2. 基本的に講義資料は、1枚(A3)で作成し、制度の構造、支援の流れ等が体系的にイメージできるよう工夫した。
2.	授業科目名【早期看護実習】 1. 1年生対象のアーリー・エクスポージャーの要素を含んだ実習であるため、病院施設と高齢者施設、訪問看護ステーションを体験できるように実習を組んでいる。そこで生じた看護に対する気づきや発見を学内実習日に既習の知識等で意味づけできるように科目責任者と時間の配分等を検討した。 2. 患者や療養者を生活者（療養環境を含む）として理解し、日常生活行動の視点から看護活動を体験する過程で、初学者としての自己の傾向や在り様に気づくことを目指している。実習では、実習指導者とコンタクトをとり、実習指導の方向性を検討・統一する等環境調整に努めた。 3. 学生の気づきや発見から学びにつなげることができるよう、既習の講義内容を考慮した発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果につなげた。
3.	授業科目名【健康教育論】 1. 他教科の講義内容の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、講義組み立てを行った。組み立て時には、健康に関する行動変容と維持に関する理論の選定や時間数の配分、協同学習の活用など検討した。 2. 健康に関する行動変容と維持に関する理論を理解し活用できるように、図式や画像、動画を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、事例を提示することで看護活動への応用をより具体的に実感できるように努めた。事例については、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、対象者を実践的に捉えられるように工夫した。 3. 協同学習を活用し、学生個人が他人の価値観や考え方を知り、多様な対象者の存在を意識できるように努め、学生個人の施行の深まりを支援できるようにした。
4.	授業科目名【疫学】 1. 保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。 2. 授業資料の1枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるよう試みた。 3. 少人数の協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように試み、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した。 4. 保健師課程以外の学生も受講できるため、看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのかも提示しながら、現場との連動を行った。
5.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 1. 1年生対象の科目であり、大学での学び方や基本的な学習スキルを学ぶ授業であることを念頭に置き、前期の初年次セミナーⅠで養ったグループで課題解決力を初年次セミナーⅡでは、学生個々人の課題解決力、学習スキルの向上に取組んだ。 2. 科目責任者や他の科目担当者と共に、学生の学習到達状況を踏まえ、授業組み立てを行った。単元目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。

	3. 学生には必ず単元目標を伝え、学生も目標達成に向けて能動的に動けるように促した。 4. 複数人数の科目担当者で担当するため、授業終了後は必ず振り返りミーティングを行い、学生の到達状況、今後の方針、改善点などを協議した。
6.	授業科目名【公衆衛生看護活動演習】 1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。 2. 演習時は必ず協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、協同学習を実習メンバーで行うことで、実習へ繋げるように試みた。 3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4 ヶ月児までの母子への訪問を題材とし、母子手帳の交付時の保健指導から電話によるアポイント、次の訪問の予約までと一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。 4. 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわることを打破したいための策である。 5. 健康教育（集団）技術では、地区診断技術と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。 6. 地区診断技術では、保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。 7. 地区診断を進めるにあたり、教員側から指標等の提示を極力せず、学生の疑問・興味関心から思考を広げ、深めていくように努めた。
7.	授業科目名【公衆衛生看護学実習】 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 2. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。 3. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場면을再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。 4. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。 5. 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。
8.	授業科目名【看護総合演習・看護総合演習（行政・産業）】 1. すべての看護各論実習を修了した学生が、自身の疑問や課題を明確にし、実習と連動できるように指導した。そのために、演習では、地域保健や産業看護の理解を深めるために文献検討を行いレポートとしてまとめ、それと併せて実習で必要となる知識技術を振り返る機会を設けた。また、産業看護が提供される場面で初めて学生は実習するため、個々の学びを補うことを目的に、演習に関しては2グループ（3～4名/グループ）での集団学習とした。

	2. 実習終了後は、集団学習ではなく、各自の学びを基に作成していた事前レポートを追加修正し、課題解決に向けるようにした。また、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで思考の広がりを求めた。
	3. 看護総合実習は、最終学年での看護を統合する実習であるため、学生自身が臨地指導者と実習内容を検討し、実習目標を達成できるように記録用紙や評価指標も学生主体で検討できるように、学生達の思考に合わせて提示する資料や文献等を選んだ。
9.	授業科目名【その他】
	1. 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2003 年 4 月～現在に至る	日本産業衛生学会	代議員(2008 年 11 月～現在に至る) 倫理審査委員(2018 年 1 月～現在に至る)
2.	2003 年 4 月～現在に至る	日本産業衛生学会産業看護部会	産業保健看護専門家制度委員会：研修内容認定部会実務委員(2021 年 6 月～現在に至る) 産業保健看護専門家登録者（登録番号 00834）
3.	2003 年 4 月～現在に至る	日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006 年 4 月～）
4.	2008 年 4 月～現在に至る	日本公衆衛生学会会	日本公衆衛生学会認定専門家(認定番号 0901)
5.	2015 年 5 月～現在に至る	日本公衆衛生看護学会	
6.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術 論文等の名 称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	特になし				
2.					
（学術論文）					
1.	特になし				
2.					
（翻訳）					
1.	特になし				
2.					
（学会発表）					
1.	2024 年 10 月	COVID-19 流行下における政令市	共	第 83 回日本公衆衛生学会総会（札幌）	①COVID-19 流行下における政令市 A 市保健師の健康危機管理業務について、管理職保健師に迅速さが求められた事

		管理職保健師の迅速な対応と判断 (第1報)			象とその対応の特徴を明らかにするために健康危機管理業務に携わった、政令市A市保健所及び本庁の管理職保健師を対象に、インタビューを実施、質的記述的に分析を行った結果、保健師は、迅速さが求められた事象に対し、現状を客観的に見立て、優先順位を徹底し、対応可能な方法を模索しており、課内へ指示や問題提起を行い、課員に方針等を周知していた。また、行政外組織との窓口部署に説明と改善要請を行い、課内では対応できない問題の解決をはかっていた。新興感染症の感染拡大期において、管理職保健師には、不確実性が高い状況を探求し、起こった事象に適応することが求められ、それを実現するための業務管理と、自治体組織の改善要請の発信が必要である。 ②共同発表者：布花原明子、鹿毛美香、伊藤直子 ③第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集 p535
2.	2024 年 10 月	COVID-19 流行下における政令市管理職保健師の迅速な対応と判断 (第2報)	共	第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌)	①COVID-19 流行下の A 市健康危機管理業務において、管理職保健師に求められた迅速な対応時の判断について特徴を明らかにするために、健康危機管理業務に携わった、政令市 A 市保健所及び本庁の管理職保健師を対象とし、インタビューを行い、質的記述的に分析を行った結果、管理職保健師は、迅速さを求められた事象に対応する際に、現対策・体制の限界を含め把握した状況や対応を導き出すための方法を判断しながら、いかに素早く関係部署に周知し、問題を共有することが必要であった。また、横断的組織を調整するように政治的な動きも含め、誰に何を伝えるのかを考え、物事を進めなければならず、これまでの保健師活動では根拠性を重視した PDCA の展開ではなく、今回のように新興感染

					症の感染拡大期においては根拠性が不確かであっても対応を探索し、事態に即した対応を繰り返し、進めていくことが求められるため、特に管理職保健師には、組織を横断的に調整し、政治的な動き方を瞬時に判断できることが必要であると考えられた。 ②共同発表者：鹿毛美香、布花原明子、伊藤直子 ③第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集 p536

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	特になし			
2.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	特になし			
2.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2018 年 1 月～現在に至る	(公社) 日本産業衛生学会 倫理審査委員会 ・学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。	倫理審査委員
2.	2021 年 6 月～現在に至る	(公社) 日本産業衛生学会産業看護部会 産業保健看護専門家制度委員会 ・産業保健看護専門家制度における研修認定審査を担当し、各地方会や学術集会で行われる研修内容が産業保健看護専門家制度の必要単位の研修内容とし	実務委員

		て要件を満たしているか検討する。	
3.	2006 年 4 月～現在に至る	(公社) 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関係する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事
4.	2017 年 1 月～現在に至る	福岡県医師会 外国人看護師候補者資格修得支援事業 ・インドネシア現地講師および国内講師 科目：社会保障含む看護全般	講師
5.	2025 年 3 月～現在に至る	外国人医療介護人材育成事業 ・来日年に合わせた日本語および介護科目の講義全般	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生募集係	
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学科教務	
3.	2012 年 5 月～現在に至る	生協理事	

教授
梶原 江美

■ 学歴

1. 2003 年 佐賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了

■ 学位

1. 2003 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学
2. 看護教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. ラテックスアレルギー
2. 看護基礎教育
3. ケアリング

■ 研究課題

1. ラテックスアレルギーの予防に関する研究
2. 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究
3. ケアリングに関する研究

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期）（看護学科）必修
2. 生活援助技術論演習（後期）（看護学科）必修
3. ヘルスアセスメント演習（後期）（看護学科）必修
4. 診療関連技術論演習（前期）（看護学科）必修
5. 看護過程論（前期）（看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期）（看護学科）必修
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期）（看護学科）必修
8. 看護総合演習（前期・後期）（看護学科）必修
9. 看護総合実習（前期・後期）（看護学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護技術論演習】

	おもに演習での実技指導を担当した。事前の動画視聴や教員のデモンストレーションを基に根拠や身体の使い方、ボディメカニクス的重要性などを学生の実施の状況を見ながら助言した。看護技術の原則の他、看護技術のコツについても実際に教員がやって見せながら指導することを心がけた。
2.	授業科目名【生活援助技術論演習】 前期で学修した内容を相互演習での声かけやボディメカニクスでの活用、動画教材を予習として取り入れ、自分の日常生活行動の振り返りをして演習に臨む、演習開始時に要点を押さえて、実際に教員がやって見せながら助言を行い指導に活かした。Google フォームを活用し、学生から質問や意見を求めて必要時解説した。
3.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 おもに演習での実技指導を担当した。演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めていけるよう努めた。また、実技試験項目であるバイタルサインは、技術面として①コロトコフ音の聴取、②減圧時の指の巧緻性、③値の読み取りが学生の苦手部分となるため、重点的に助言をするよう心がけた。
4.	授業科目名【診療関連技術論演習】 おもに演習での実技指導を担当した。注射や採血、導尿といった患者に侵襲を及ぼす診療関連の特徴を踏まえて、手技だけでなく声掛けの重要性なども併せて助言するよう心掛けた。
5.	授業科目名【看護過程論】 基礎看護学実習Ⅱと連動し、看護過程の基本的な考え方の他、地域包括ケアシステムの中に存在する患者として退院後の患者の生活を意識するように授業やワークを行う記録用紙に反映した。記録については記録要領を作成し理解を促した。また、授業での学習の理解度や進度に合わせて、授業の時間に教員のフィードバックを新たに設けるほか、学生の質問には個別に対応して理解を促した。 また、個別に看護過程の考え方や記録の書き方について解説する時間を設けて、学生の理解を促した。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 基礎看護学実習Ⅰは、1年次後期必修科目1単位の実習形式で行う。 1週間ずつ2施設での実習施設との調整を経て、実習指導を行った。初めて担当患者をもって患者と接する実習であるため、学生の不安をやわらげながらも適度の緊張を持ちつつ、実習が円滑に進むよう実習指導者との調整を行った。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 基礎看護学実習Ⅱは、2年次前期必修科目2単位の実習形式で行う。 他領域の助教助手の支援も仰ぎ、2週間にわたって担当患者（学生2名に対して1名の患者）の看護過程の展開の指導を行った。看護過程論での学びを活かし、日々変化する患者の状態についての解説を行うなど実習指導者と調整しながら実習を進めた。
8.	授業科目名【看護総合演習】 ゼミ生5名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、実習目的を達成するための学習力や発信力（プレゼンおよび討議）を意図した関わりを行った。ラベルワークを行い、実習に向けた準備を前半に行い、後半は実習の経験から自分の関心のあるテーマを見つけてレポートを作成し、発表会を実施した。
9.	授業科目名【看護総合実習】

	学生が複数の患者を受け持つ、実習の中で自ら看護師と調整をする、チーム医療を考える機会とするなど目的意識を持って自ら学ぶ実習にすることを目指して支援した。実習指導では、学生の自立性を意識した関わりに努め、複数受け持ちによる多重課題への対応やチーム医療を意識したカンファレンスなどへの参加を事前に病棟と調整した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996 年 4 月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2000 年 9 月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
3.	2003 年 3 月～現在に至る	日本看護科学学会会員	
4.	2003 年 5 月～現在に至る	日本看護診断学会会員	2003 年 5 月～現在に至る
5.	2005 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会会員	2005 年 4 月～現在に至る
6.	2010 年 4 月～現在に至る	日本看護技術学会会員	2010 年 4 月～現在に至る
7.	2011 年 2 月～現在に至る	日本看護倫理学会会員	2011 年 2 月～現在に至る
8.	2011 年 12 月～現在に至る	STTI 会員	2011 年 12 月～現在に至る
9.	2012 年 7 月～現在に至る	日本看護管理学会会員	2012 年 7 月～現在に至る
10.	2015 年 4 月～現在に至る	日本ラテックスアレルギー研究会会員	2015 年 4 月～現在に至る
11.	2019 年～現在に至る	特定非営利活動法人日本コ克蘭センター	2019 年～現在に至る
12.	2018 年 5 月～現在に至る	日本看護福祉学会	2018 年 5 月～現在に至る
13.	2020 年 2 月～現在に至る	日本医療・病院管理学会	2020 年 2 月～現在に至る

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文 等の名称	単著・ 共 著 の別	発行所、発表雑誌 等又は発表学会 等の名称	概 要
（著書）					
（学術論文）					
（翻訳）					
（学会発表）					
1.	2024 年 10 月	ジグソー法学習法を導入した診療に伴う看護技術演習における学習活動効果ー演習リーダーを経験して得た学びと気づきから	共同	日本看護技術学会第 22 回学術集会	ジグソー法を導入した診療関連技術の授業で、演習リーダーの役割を経験した学生の学びと気づきを質的に整理し、学生の学修活動効果について考察した。

		の一考察			
2.	2024年12月	ジグソー法を導入した診療に伴う看護技術演習における学習活動効果－学習活動自己評価尺度からの一考察－	共同	第44回日本看護科学学会学術集会 (2024.12.7. 於：熊本)	アクティブラーニングの有効性が示唆されている現在、診療に関連する看護技術教育にジグソー法を教育手法として取り入れた。学習活動効果を舟島らの尺度を用いて、演習前後での比較を行い、その有効性と課題について考察した。
(その他)					
1.	2024年6月	ラテックスアレルギーと医療用手袋に含まれるタンパク質の特徴	共著	北隆館、月刊 アグリバイオ vol.8(6)p60(522)-63(525)	ラテックスアレルギーの予防に向けて行っている現在の研究テーマについて、最近の動向と医療用手袋に含まれるタンパク質の測定について出版社の依頼を受けて紹介した。

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	ラテックスアレルギー予防に向けたタンパク質フリー天然ゴム素材の開発	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	○梶原江美 (山本祥正、飯野英親)	4,290,000 円	

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2022年4月～現在に至る	入学試験会議	
2.	2024年4月～2025年3月	人事委員会	

3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	内部監査委員会	責任者
4.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	2 年生アドバイザー	リーダー
5.	2022 年 4 月～現在に至る	4 年生アドバイザー	

■ 学歴

1. 九州大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程単位取得後退学

■ 学位

1. 博士（教育学）

■ 研究分野

1. 近世教育史
2. 近代学校史
- 3.

■ 研究キーワード

1. 識字教育
2. 文字社会
- 3.

■ 研究課題

1. 近世社会における文字学習の社会史的研究
2. 明治初期小学校の教育課程

■ 担当授業科目

1. 教育原理
2. 教職概論
3. 教育課程論
4. 教育方法論
5. 養護実習事前事後指導
6. 教職実践演習
7. 看護総合演習
8. 初年次セミナーⅠ
9. 初年次セミナーⅡ
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【教育原理・教職概論・教育課程論・教育方法論】
	・毎回の授業の感想を書いてもらい、その内容を次回にフィードバックした。

	・多くの視聴覚教材を準備し、授業にリアリティを持たせるようにした。 ・おおよそ半分の授業でグループワークを実施し、その成果を報告書として提出するようにした。 ・グループワークでのデータや意見の集約方法について指導し、報告書も箇条書きではなく図解するように求めることで理解を深めるようにした。 ・視聴覚教材やグループワークの成果を事前にクラスルームを通じて提示し、それを予習してくることを前提とした反転授業を複数回実施した。
2.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 ・レポートの書き方について、段落分け、接続詞などに注意をして、論理的な文章を書けるように指導した。 ・多様な個性が集うことで新しい視野が広がるように、グループワークを広く取り入れた。特にⅡの最初の授業では複数学科混成の授業を行い、多様な学生が集えるように工夫した。
3.	授業科目名【看護総合演習】 ・一人一人の学生の興味や関心を基本的な問いから始めることにより、より深く広い視野から課題に取り組めるように努めた。とりわけ、発達障害についての認識に関して、日本社会の常識にとらわれることのないように、歴史的経緯、国際的動向に留意して指導を進めた。
4.	授業科目名【 】

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1981 年	教育史学会	理事（～2025 年）
2.	1981 年	九州教育学会	会長（～2023 年 11 月）
3.	1981 年	全国地方教育史学会	幹事（～2025 年）
4.	1987 年	日本教育学会	理事（～2023 年 8 月）

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					

(学術論文)					
1.	2024.9.30	公立夜間中学校の開設と求められる教員の資質	単著	西南女学院大学、教職論集、第3号	2024年度に九州（沖縄を除く）に新たに5校の公立夜間中学校が設置され、新しいステージに夜間中学校は入った。それに伴って起こってきた様々な課題に対して、教員としてどのような資質が求められているのかを論じた。
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	なし	自主夜間中学・福岡よみかき教	代表

		室	
2.	～2024 年度	日田市	咸宜園教育センター専門委員
3.	～2024 年度	備前市	教育遺産世界遺産登録推進協議 会専門委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024・25 年度		図書館長
2.	2022 年度～現在	教職課程委員会	委員長
3.			

准教授

財津 倫子

■ 学歴

1. 2023 年 3 月 大分県立看護科学大学大学院 博士課程修了

■ 学位

1. 2023 年 博士（看護学）

■ 研究分野

1. 看護教育学
2. 成人看護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 看護大学生 臨地実習適応感 アタッチメントスタイル
2. 医療システム 退院調整 医療提供システム
- 3.

■ 研究課題

1. 看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。①看護大学生に対し、実習適応感についてアンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感について論文をまとめた。②続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について看護大学生に対し調査を行い、結果を論文にまとめた。今後は、①②の研究結果を基に、看護大学生に対し、教育を実践し、その結果をまとめる予定である。
2. 成人看護学（急性期）に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

■ 担当授業科目

1. クリティカルケア看護学（前期：看護学科） 選択
2. 成人看護学演習（前期：看護学科）必修
3. 看護研究の基礎（前期：看護学科）必修
4. 看護学（後期：栄養学科）選択
5. 成人急性期看護方法論（後期：看護学科）必修
6. 成人急性期看護学実習（後期：看護学科）必修
7. 看護のための臨床検査（後期：看護学科）必修
8. 看護総合演習（前期・後期：看護学科）必修
9. 看護総合実習（前期・後期：看護学科）必修
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【クリティカルケア看護学】 1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう計画し、理解が深まるよう努めた。 2. 認定看護師における演習においては、ともに技術演習を行い、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。
2.	授業科目名【成人看護学看護過程演習】 <講義> 1. 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何か、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法について、実際のアセスメントや目標および計画例を提示し解説した。 <看護過程> 1. 事例の読み方、考え方を説明し、次にどの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、教科書を確認しながらの分析を進める方法を定着させた。 2. 講義後、看護過程の展開について担当グループへ再度解説し、全員が理解できるよう努めた。 3. グループワークでの学びが深まるよう、他者との意見交換の場を設けた。 4. 個人でのファイル作成であり、できているところも伝えながら、前進できるよう指導を行った。 <看護技術：周手術期の看護> 1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、時には質問も交えながら、自分で考え理解しやすいよう指導した。
3.	授業科目名【看護研究の基礎】 1. 担当部分を4名の教員が講義を行い、それを受けた形で個人ワークやグループワークを行った。研究課題の選定、情報検索について、リサーチクエスチョン2) 量的研究の基礎、分析法3) 研究成果のまとめ方（論文作成・学会発表・抄録作成）の講義を担当した。文献検索や分析法などは、学生にパソコンを持参させ、実際に検索・分析させながら理解を深めさせた。その時点で沢山の質問が出るが、質問には教員4名で対応することで、理解につなげた。 2. 研究テーマの選定から、Google フォームの作成、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、研究説明文書の作成、質問紙調査、結果の集計、分析、抄録作成、発表までを行った。研究の一連の流れを体験できる講義となっている。
4.	授業科目名【看護学】 オムニバスで行う授業の統括を行った。講義を行う領域は、小児・慢性期・急性期・老年・精神・地域包括のそれぞれの担当教員が担当領域の看護について解説した。 1・2回：看護の歴史・理論・看護の定義・生活者として人間について・多職種チームとしての情報共有について解説した。 3～14回：オムニバスで、小児・慢性期・急性期・老年・精神・在宅のそれぞれの担当教員が担当

	領域の看護について解説した（成人急性期看護学担当：胃がんの手術を受ける患者の看護を解説） 15 回：最終日には、看護の役割と看護師と栄養士との協働の在り方をレポートの整理し、発表会を行いディスカッションし、学びを分かち合う機会とした。
5.	授業科目名【成人急性期看護方法論】 1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護、人工呼吸器・IABP 装着時の看護、冠動脈バイパス手術を受ける患者の看護について、パワーポイントを用いて説明している。学生が理解しやすいように、図や画像、動画を用いてわかりやすく解説した。また、項目ごとに関連する国家試験問題を入れ込み（講義の復習及び理解度を見るため）、学生にあてて解答させるが、全員が考えることが出来るように、時間をとってあてるように工夫した。 2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な個所を自身でチェックできるよう工夫した。 3. 課題は、そのまま 3 年生の前期（看護過程）につながるものとし、学びがつながるよう工夫した。
6.	授業科目名【 成人急性期看護学実習 】 1. 2024 年度より、9 時～16 時までの 1 日実習が全ての実習施設で可能になったことで、学生が看護技術経験（コミュニケーションも含め）を詰む機会を増やすことができた。 2. 知識の上でわからなければ、どこに（教科書や参考書や事前課題）戻ればいいのかを伝え、自分で考えることが出来るよう導いた。また、質問しやすい雰囲気を作り、グループ間そして教員へもわからないことがあれば質問・確認ができるように、臨地での指導の際は、必ず学生に所在を伝えた。 3. 直接指導に当たる教員と毎日コンタクトを取り、各学生の目標やゴールを定め、協力して指導を行った。 4. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入っていない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。 5. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかをともに考えるようにした。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。
7.	授業科目名【 看護のための臨床検査 】 1. 担当部分を 3 名の教員が講義を行い、前（知識確認テスト 3 分）後（小テスト 3 分）を実施することで、知識の定着を図った。 2. 消化器・循環器における検査について、講義担当した。講義では、章が終わるごとに、関連する国家試験問題を出題し、学生に解答させることで、全員が自身の理解度を確認できる機会を必ず設けた。 3. 演習では、心電図の波形が出る人形を用い、グループごとに 12 誘導の装着を体験した。装着のポイントを学ぶとともに、装着される患者の気持ちも考えることができる機会を設けた。
8.	授業科目名【 看護総合演習 】 1. 実習希望病棟決定後、文献検索し実習テーマを決め、実習計画書作成を続け（週 1 回のゼミで指導）、実習計画書が完成した後、実習病棟に実習計画書を発表し、臨地指導者に指導を受けた。実

	習開始まで必要な事前学習を進め、臨地実習に臨んだ。 2. ケーススタディにおいては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週1ゼミを行い、完成まで指導を繰り返し、ゼミ生全員が理解できるようにした。 3. ケーススタディ完成後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。
9.	授業科目名【 看護総合実習 】 看護総合実習においては、実習開始・修了時の教育部長への連絡、実習終了時の教員への連絡を毎日交代で学生全員に実践させることで、報告・連絡・相談を学ぶことができるよう支援した。実習期間中、臨地への訪問は3回の短時間とし、病棟との調整を学生に任せ、報告・連絡・相談・調整を実践しながら学べるよう支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2004年12月～現在に至る	日本看護管理学会	
2.	2005年6月～現在に至る	日本運動器学会（日本整形外科看護研究会より改名）	査読委員(2009年4月～現在に至る)
3.	2007年3月～現在に至る	日本看護科学学会	
4.	2015年12月～現在に至る	日本看護学教育学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					

1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024年4月～2026年3月 (2009年4月～現在に至る)	日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024年4月～2025年3月	ハラスメント相談員	
2.			
3.			

教授
定永 敦司

■ 学歴

1. 2007 年 九州大学大学院医学系学府博士課程 臓器機能医学 修了

■ 学位

1. 2005 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 膠原病とライフイベント
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 膠原病
2. 医師の働き方改革
- 3.

■ 研究課題

1. 膠原病が、ライフイベントに与える影響を中心に考察する。病態、治療内容、通院頻度、医療費などが、就学、就労、結婚、出産、子育てなどに、どのように影響するか考察する。
2. 働き方改革が、医師のワークライフバランスにどのような影響を与えるかについて考察する。
また、女性医師のキャリア形成との関連についても考察する。

■ 担当授業科目

1. 看護形態機能学 I 前期 必須
2. 看護形態機能学 II 後期 必須
3. 疾病学総論 後期 必須
4. 疾病学各論 II 前期 必須
5. 医療と倫理 後期 （看護学科）選択
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ】 情報量が非常に多く、一部、難しい内容もあるが、教科書の内容に加え、実際の症例を提示し、臨床への繋がりを意識できるように工夫した。 毎回小テストを行い、講義の要点を理解してもらえるように工夫した。 国家試験対策として、国家試験の過去問を解く演習を適宜行った。
2.	授業科目名【疾病学総論】 病態が理解しやすいように、看護形態機能学の復習をしながら講義を行った。 疾病学各論で学習する多くの疾患を、「病態別の引き出しに整理する」という意識づけを行った。 教科書に記載がなくても、臨床で重要な疾患については、積極的に解説した。 毎回小テストを行い、講義の要点を理解してもらえるように工夫した。
3.	授業科目名【疾病学各論】 アレルギー、膠原病の代表疾患に加え、重篤な病態についても解説した。 理解にくい分野であるが、実際の症例をたくさん提示し、印象に残るように工夫した。 抗核抗体など、理解にくい検査項目について、実際の画像を提示して説明した。
4.	授業科目名【医療と倫理】 「倫理」、「価値観」、「規範倫理学」など、実感しながら理解できるように、具体例を挙げて解説した。 毎回、倫理的問題を含む医療の話題を提示し、自分で考え、判断したことを、自分の言葉で表現する演習を行った。 「倫理」、「価値観」が人それぞれであることを実感するため、他者の考えを聴く機会を設けた。 臨床現場での倫理問題に気づき、対応する力が身につくように、症例を多く取り入れた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000 年	日本内科学会	
2.	2003 年	日本内科学会	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2024 年 4 月	リウマチ膠原病治療薬 処方ガイド	共著	南江堂	リウマチ・膠原病の治療薬について、薬剤の基礎や使用法のコツなど、入門書として、専門医で分担して解説した
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					

2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	倫理審査委員会	学内の研究についての倫理審査	委員長

	(2024 年 4 月～2 年間)		
2.			
3.			

助教
佐藤 歩美

■ 学歴

1. 2024 年 日本赤十字九州国際看護大学大学院 看護学研究科 看護学専攻修士課程
CNS コース 在宅看護学 修了

■ 学位

1. 2024 年 看護学修士

■ 研究分野

1. 在宅看護論
2.
3.

■ 研究キーワード

1. 意思決定支援、ACP
2. 地域包括ケアシステム
3. 在宅看護

■ 研究課題

1. 様々なステージにある慢性疾患の療養者及び家族への支援の有り様について、主に在宅療養移行期にある療養者及び家族への意思決定支援に着目し、関わる医療従事者や専門職種等へのインタビューや実態調査を行い、地域包括ケアシステムとの関連から検討する。
2.

■ 担当授業科目

※該当なし（2025 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2025 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2006 年 4 月～	日本看護協会	
2.	2022 年 2 月～	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	
3.	2024 年 2 月～	日本臨床倫理学会	
4.	2024 年 5 月～	日本在宅看護学会	

5.	2024 年 5 月～	九州・沖縄高度実践看護師活動 促進協議会	
6.	2025 年 4 月～	日本高度実践看護学会	
7.	2025 年 4 月～	日本訪問看護財団	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024 年 11 月	高齢心不全 患者の在宅 療養移行に おける在宅 看護専門看 護師の ACP 支援の実態	共	日本在宅看護学 会 第 14 回学術 集会（千葉県舟 橋市）	高齢心不全患者の急性期病院から在宅 療養移行に関わる在宅看護専門看護師 の ACP 支援の実態について、在宅看護 専門看護師を対象に半構造化インタビ ューを実施した結果について、発表を行 った。 共著者名:佐藤歩美,小野ミツ,西村和美
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				

3.				

(2) 個人研究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2025 年度入職）

講師

隅田 由加里

■ 学歴

1. 産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻（修士課程）看護管理学分野 卒業

■ 学位

1. 修士（看護管理学）

■ 研究分野

1. 看護管理
2. 看護教育
- 3.

■ 研究キーワード

1. 看護実践能力，一人前レベル，急性期医療、共分散構造分析、因子分析
2. ジグソー法、協同学習、アクティブラーニング、看護学生、診療関連技術
- 3.

■ 研究課題

1. 急性期医療を担う「一人前」レベル移行期にある看護師の看護実践能力に関する研究
2. ジグソー学習法を活用した協同学習が診療に伴う看護技術の学習活動に与える効果

■ 担当授業科目

1. 診療関連技術論演習
2. 看護マネジメント論
3. 看護マネジメント総論
4. 看護総合演習（看護管理）
5. 看護総合実習（看護管理）
6. 初年次セミナーⅠ
7. 初年次セミナーⅡ
8. 看護過程論
9. 看護技術論演習
10. ヘルスアセスメント演習
11. 生活援助技術論演習
12. 早期看護実習
13. 基礎看護学実習Ⅰ
14. 基礎看護学実習Ⅱ

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【診療関連技術論演習】 「形態機能学」「生活援助技術論演習」の既習の知識を活用できるよう資料を工夫した。予習、講義・演習、振り返り・復習のプロセスのもと、各技術別に授業を構成し、Google classroom 内に動画媒体を導入し繰り返し視聴できるようにした。さらに演習後は、学生の看護技術を撮影した動画を視聴しながら振り返りを行い、各自が課題を見いだす支援を行った。また看護技術ごとのレポートを提出させることで知識習得を支援した。
2.	授業科目名【看護マネジメント論】 看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、実習部門を例にして、2年次の「看護マネジメント総論」での学びを活用しての看護サービス管理と、それをもとにした看護ケア管理を軸に授業を構成した。授業は講義とグループワーク方式を連動させ、質の高い医療・看護とは何か、これを全ての患者に提供するためにはどのようなマネジメントが必要であるかを思考する形式とした。また本授業は最後の各論実習期間と合致するため、選択している学生の実習日等を配慮し、履修学生全員が参加できるよう日程の調整を図った。
3.	授業科目名【看護マネジメント総論】 初めて聞くマネジメント用語も多いため、可能な限りわかりやすい言葉を使用し、日常生活の中に存在する身近なマネジメントともリンクさせながら、マネジメントとは何かから導入し、今の医療現場の状況を踏まえながら授業を展開し理解向上に努めた。「医療安全」の単位においては、動画等を活用してヒューマンエラーの理解と医療安全対策の必要性を教授した。授業内容の理解を深める目的でレポート課題を設けた。
4.	授業科目名【看護総合演習（看護管理）】 実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「看護部・病棟」における看護管理実習の目的・目標の立案に向け、実習前は1回／1～2週ゼミを開催し、8月上旬までに上記の部門における実習目的・目標・実習スケジュール・評価指標を構築できるように調整を図った。実習終了後は実習での学びを活用し、各自のテーマに即した卒業レポート記載の支援を行った。
5.	授業科目名【看護総合実習（看護管理）】 「医療安全管理部」「感染制御部」「看護部・病棟」の3部門での実習を、学生が円滑に行うことができるよう施設側と複数回に渡って調整を図った。実習前に実習指導者への説明会を調整し、学生がプレゼンテーションを行える機会を設けた。これによって、学生は看護管理実習のイメージ化を図ることができた。また実習期間中は、部門ごとに教員も付き添い、実習導入が円滑となるよう支援した。
6.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 1年次前期の科目であるため、学生とのコミュニケーションが図れるよう、教員から積極的に声かけを行い人間関係の構築に努めた。グループワークが主であったため全学生の発言を促す関わりと肯定に留意して支援した。学生のワークやレポートのフィードバックは、まずは全体の総括を行った後、個別でも実施した。グループ間の人間関係が構築できるように、学生間の調整を必要時図った。
7.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 初年次セミナーⅡは個人活動が主であったため、各学生が小論文を完成させることができるよう、個別に関わり各学生の疑問や悩みに対応した。発表時は学生がリラックスできる環境を調整するとと

	もに、円滑な進行に留意した。また否定はせず更なる改善ができるようなフィードバックに努めた。
8.	授業科目名【看護過程論】 看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を、わかりやすく具体例を活用し指導するとともに、学生が興味を持てるよう肯定的な言語を活用し承認を意識したコミュニケーションを図った。個別フィードバックにおいては、改善点をわかりやすく記載配布し修正が行いやすいように配慮した。授業終了後は、担当教員間で Meeting を開き教員間の情報交換と情報共有を行った。
9.	授業科目名【看護技術論演習】 科目責任者と事前調整を図り、「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「環境調整技術（ベッドメイキングとシーツ交換）」の演習に参加した。演習では1年生が理解できるよう、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントを思考できるよう心がけた。
10.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 科目責任者と事前調整を図り、全演習に参加した。演習の際は担当学生に対して、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。実技試験の評価時は、公平性を担保できるよう時間を調整し、評価ポイントに準じて実施した。
11.	授業科目名【生活援助技術論演習】 科目責任者とは、限られた時間の中で教授すべき技術ポイントの事前調整を図り演習に臨んだ。演習では「活動と休息（車椅子操作）」「清潔（足浴、洗髪台での洗髪、口腔ケア）」「排泄（オムツ交換と陰部洗浄）」に参加し、可能な限りわかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。最後の統合演習における実技試験は、事例、スケジュール、評価表を教員間で討議しながら作成し、担当者として学生にオリエンテーションと技術支援を行った。実技試験当日は公平性を担保できるよう時間を調整し、指標に準じて評価した。また実技試験後は授業内で評価のフィードバックを行った。
12.	授業科目名【早期看護実習】 入学して2ヶ月での実習のため、学生と患者の安全を最優先に教員間で時間をかけて調整し、学生が理解できるようわかりやすい説明を行った。特に身だしなみの重要性と必要性を説明した。学生が自由な発想で気づきを得ることができるよう導き、また臨地実習指導者にも学生が理解し気づきを得ることができるよう、わかりやすい言葉で細やかな説明を加えてもらえるよう調整を図った。さらに感染に留意し、日々の健康管理を各学生が行えるようにした。
13.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 実習目標達成に向けて早い段階から日程やスケジュール等を基礎看護学教員間で調整し、実習に臨み、実習期間中は臨地実習指導者と調整を図り学生が目標達成できるよう支援を行った。実習中・後は教員間で活発なコミュニケーションを図り、評価に乖離が生じないように注意した。記録の作成や患者との関わりで困難を感じている学生とは密にコミュニケーションを図り調整を行った。
14.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 実習目標達成に向けて早い段階から日程やスケジュール等を基礎看護学教員間で調整し、実習に臨み、実習期間中は臨地実習指導者と調整を図り学生が目標達成できるよう支援を行った。実習中・後は教員間で活発なコミュニケーションを図り、評価に乖離が生じないように注意した。限られた時間の中で患者理解が進むよう、患者の病状等の解説を行い、記録の作成や患者との関わりで困難を感じている学生とは密にコミュニケーションを図り調整を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護技術学会	
2.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会	
3.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護管理学会	
4.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	
5.	2022 年 8 月～現在に至る	医療の質・安全学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025 年 3 月	急性期医療を担う一人前レベル移行期にある看護師の看護実践能力に関する研究（第1報）－看護師の看護実践能力の実態とその習得過程に関わる要因の検討－	共著	西南女学院大学 紀要 Vol.29,2025	① 急性期病院の一般病床で一人前レベル移行期にある看護師の看護実践能力の実態と、その習得過程の影響因子を看護実践能力自己評価尺度との関係から明らかにすることを目的とした。看護実践能力習得過程の影響因子は「学習支援」「相互支援の雰囲気」「成功体験からの成長実感」「状況変化対応能力」「コミュニケーション能力」「看護師経験年数」で、組織は知識修得に役立つ「学習支援」と、看護技術を向上できる「相互支援の雰囲気」のある体制構築に取り組む必要性が示唆された。 ② 共著者名：林田賢史 ③ P67～P77
2.	2025 年 3 月	急性期医療を担う一人前レベル移行期にある看護師の看護実践能力に関する研	共著	西南女学院大学 紀要 Vol.29,2025	① 急性期病院に勤務する一人前レベル移行期にある看護師を対象に、看護実践能力と看護実践能力習得過程の影響因子の関連性を共分散構造分析によって明らかにすることを目的とする。一人前レベルへと看護師の成長を支援するためには、《看護実践能力習得への支援要

		究（第2報） －看護師の 看護実践能 力習得過程 に関わる影 響要因の因 子構造－			因》体制のもと【学習支援】行い、さら に《看護実践能力習得への動機づけ要 因》が存在する組織環境を構築すること の必要性が示唆された。 ② 共著者名：林田賢史 ③ P79～P88
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024 年 10 月	ジグソー学 習法を導入 した診療に 伴う看護技 術演習にお ける学習活 動効果 －演習リー ダーを経験 して得た学 びと気づき からの一考 察－	共著	日本看護技術学 会 第 22 回悪 術集会	① 診療関連技術論演習の授業にジグソ ー法を導入し、その中で演習リーダー役 割を経験した学生の学びをカテゴリ化 した。分析の結果、6 の学びと 2 つの困 難さのカテゴリ【知識の復習と理解】【技 術提供時の問題予測と正しい判断】【実 践で得る新たな発見】【上達している実 感】【有効な学習方法の探索】【他者との 関わりから得る協同的姿勢】【自信が持 てない】【集中できない】が抽出された。 ② 共同発表者名：梶原江美、長崎恵美 子、中島紀江、金山正子 ③ 第 22 回 日本看護技術学会講演抄録 集（演題番号：P2-3）
2.	2024 年 12 月	ジグソー法 を導入した 診療に伴う 看護技術演 習における 学習活動効 果 －学習活動 自己評価尺 度からの一 考察－	共著	第 44 回 日本 看護科学学会 学術集会	① ジグソー法を診療関連技術論演習の 授業に取り入れた学習活動効果を学習 活動自己評価尺度を用いて、Mann- Whitney の U 検定で分析した。ジグソ ー法による看護技術教育は、知識・技術 の獲得や課題達成に向けた能動的取り 組みの視点で効果があったと推察した。 ② 共同発表者名：梶原江美、長崎恵美 子、中島紀江、金山正子 ③ 第 44 回 日本看護科学学会講演抄録 集（演題番号：P1-9-28）
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2017年4月～現在に至る	西南女学院大学 認定看護管理者教育課程ファーストレベル講義	
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024年4月1日～現在に至る	教育経費予算配分委員会	委員
2.	2022年4月1日～現在に至る	学力向上委員会（低学年担当）	委員
3.	2017年4月～現在に至る	西南女学院大学 看護キャリア支援センター	認定看護管理者教育課程教育運営委員

准教授

高橋 甲枝

■ 学歴

1. 2004 年 佐賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了

■ 学位

1. 2004 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 看護教育
2. がん看護

■ 研究キーワード

1. 周術期 シミュレーション教育
2. 乳がん 就労支援

■ 研究課題

1. 術後の看護支援についてのシミュレーション教育研究
2. 乳がん患者の就労支援ニーズについて

■ 担当授業科目

1. 成人看護学概論 必修
2. 成人急性期看護方法論 必修
3. 成人看護学演習 必修
4. 成人急性期看護学実習（2021 年度入学生 2 単位、2020 年度入学生 3 単位） 必修
5. 継続支援実習 必修
6. 看護のための臨床検査 必修
7. 看護学特論 選択
8. 看護総合演習（通年） 必修
9. 看護総合実習（通年） 必修
10. クリティカルケア看護学 選択
11. 初年次セミナー I 必修
12. 災害看護学 必修
13. 災害看護学 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【成人看護学概論】2 年前期 成人看護学概論は、2 年生前期必修科目である。2 名で講義および課題成果発表を行っている。成人期の健康問題について理解を深めるために、課題レポート作成、グループ内で発表を行うことで学生同士の学び合う機会とした。 看護理論については事例を用いて解説を行った。
2.	授業科目名【成人急性期看護方法論】2 年後期 ① 成人急性期看護方法論は、2 年生必修科目である。2 名で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。 ② 手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。 ③ 手術侵襲の影響については、穴埋め問題を各自で取り組めるようにクラスルームにアップした。 ④ 手術室の看護については DVD 視聴と解説にてイメージ化を図った。 ⑤ 3 年前期につながるように事例を用いて看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に繋がることを実感できるようにした。
3.	授業科目名【成人看護学演習】3 年前期 ① 成人看護学演習は、3 年生前期必修科目である。看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術 演習を行っている。急性期事例（胃がん）、慢性期事例（肝硬変）の 2 例を展開し、反転授業とした。 ② グループワーク人数を 4～5 名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映するようにした。 ③ 看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、食事指導、術直後の観察演習、術後患者の清拭・離床を行った。そのうち、術直後の演習と術後の清拭・離床の演習プログラムの企画を行った。実施後にディスカッションを行い、実践の根拠について検討を行った。実施する 根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。 ④ ストーマ造設した患者の看護については、模擬便を入れて体験を行い、ディスカッションを設けた。さらに学生は 1 日装着体験を行う患者体験を行った。
4.	授業科目名【成人急性期看護学実習】3 年後期～4 年前期 成人急性期看護学実習は 3 年生後期から 4 年生前期必修科目で、2 週間の臨地実習である。実習初日に手術室オリエンテーションを取り入れ、受け持ち患者とともに手術室および ICU・HCU の見学実習ができるようにした。 周術期の看護を理解できるように、カンファレンスを術前の不安、看護計画発表、そして退院支援について行い、継続支援実習での学びに繋がるように意識して関わるようにした。
5.	授業科目名【継続支援実習】3 年前期 3 年生後期必修科目である。各論実習の前に位置づけられており、外来から始まる退院支援について、3 部門（患者支援システム部門、外来診療部門、外来治療部門）における役割や多職種連携の必要性を学ぶ。実習病院との調整を行いながら学生が見学や学びを得ることができるようにした。

	また、それぞれの施設における学びの共有を発表にて実施し、概ね目的を達成できていた。
6	授業科目名【看護のための臨床検査】 3年後期 看護のための臨床検査は2年後期必修科目である。3名にてオムニバス形式で講義を行った。また、放射線技師を外部講師として迎え1コマ放射線検査についての説明を依頼した。 授業計画は、これまでの形態機能学、疾病学、そして成人急性期方法論、成人慢性期方法論との関連を意識して、系統別に講義を組み立て、講義終了後に小テストを実施し、学生の理解を確認しながら講義を行った。また、検査データの基準値の定着のために毎回、知識確認テストを行い、Googleフォームで回答させ、解答率をみながら問題の解説を行った。さらに演習を取り入れ、シミュレーション人形を用いた心電図の装着と不整脈の講義、模擬尿での検査の実施と判断、呼吸機能検査の体験とマウスフィルタをくわえての患者体験の課題学習を取り入れた。
7	授業科目名【看護学特論】 4年後期 看護学特論は4年生後期選択科目である。8名によるオムニバスの科目で、各領域の教員で授業を行った。その中で、急性期看護の学びを深めるために、臨床検査・画像診断から得られた知見から「根拠にもとづいた看護」について考える機会とした。
8	授業科目名【看護総合演習】 4年通年 看護総合演習は4年生通年必修科目である。5名の学生を担当した。急性期看護について深めたい内容について文献検索を行い、実習計画書の作成、実習指導者との打ち合わせ、実習を行ってその学びについてレポート作成を行った。レポート指導はGoogleドライブ機能を使用し、学生のレポート指導を行った。学生は作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、ディスカッションを通して急性期の看護について学びを深めていた。さらに、他者評価・自己評価を行うことができていた。
9	授業科目名【看護総合実習】 4年通年 看護総合実習は4年生通年必修科目である。5名の学生を担当した。周術期の患者・家族の理解と看護師の理解を深めるために、各自事前学習を行い、2名の患者を受け持ち多重課題、時間調整や優先順位を考えながら実習を行った。最終日に目標に対する学びの発表とディスカッションを行った。
10	授業科目名【クリティカルケア看護学】 4年前期 クリティカルケア看護学は4年前期選択科目である。2名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護について、患者体験と看護の根拠、看護師の役割について学びを深めた。 さらに 脳神経、整形外科、周術期を中心に救急・クリティカルケア場面についての解説を行った。
11	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 1年前期 初年次セミナーⅠは1年生必修科目である。ラベルワークやディベートを取り入れた。また、「問い」とは何かについて講義内容および課題シートの変更を行い、学生が思考のステップを踏むことができるようにした。また、レポート作成の進行途中で意見交換の場を作ることでグループ学習の機会とした。学生の学習スキルをアップするために、レポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。
12	授業科目名【災害看護学】 4年後期

	災害看護学は 4 年生後期必修科目である。 4 名の教員がオムニバスで担当を行った。発災から 72 時間の急性期看護について定義やその意味や役割について、図表を用いて思考する講義を行った。また実習病院でDMA Tとして活動されている外部講師を招聘し、実際について語ってもらった。実際の活動を通して各自調べたことをレポートとしてまとめることができていた。
13	授業科目名【災害看護学】 2 年後期 災害看護学は 2 年生後期選択科目である。 4 名の教員がオムニバスで担当を行った。発災から 72 時間の急性期看護について定義やその意味や役割について、図表を用いて思考する講義を行った。また実習病院でDMA Tとして活動されている外部講師を招聘し、実際について語ってもらった。実際の活動を通して各自調べたことをレポートとしてまとめることができていた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987 年 4 月～（現在に至る）	日本看護協会会員	
2.	1995 年 5 月～（現在に至る）	日本公衆衛生学会会員	
3.	2004 年 7 月～（現在に至る）	日本看護研究学会会員	
4.	2004 年 7 月～（現在に至る）	日本看護科学学会会員	
5.	2011 年 4 月～（現在に至る）	日本看護技術員	
6.	2015 年 2 月～（現在に至る）	日本運動器看護学会会員	
7.	2021 年 1 月～（現在に至る）	日本看護教育学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					

3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	ギラバンツ北九州「防災」イベント	学生参加支援 BLS 体験	
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024.4月～現在に至る	教務委員会	委員
2.	2024.4月～2025.3月	4年アドバイザー	

講師

長崎 恵美子

■ 学歴

1. 2016 年 川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健看護学専攻修士課程 修了

■ 学位

1. 2016 年 修士（保健看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 意思決定支援
2. 看護倫理
- 3.

■ 研究課題

1. 「心疾患をもつ高齢者の DNAR 選択に対する看護師の意思決定支援」に関する研究で、看護師の困難感を明らかにした。この困難感は、ターミナルケア態度や死生観、コミュニケーションスキルとの関連性が影響していると推測されるため、これらの関連性について研究を行い、結果を学会誌に投稿する。また、困難感の得られた結果から看護師のニーズに合わせた教育コーチングの開発を進める。また、高齢者の心疾患は今後、増加することが予測されるため、心不全患者の意思決定支援に関するエイドの作成についても研究計画を進めていく。
2. 「臨床看護師における倫理的問題と道徳的感性に関する研究」では、様々な価値観を尊重する多様性が求められている現代社会において、看護師の倫理的思考や行動は適切でなければならない。研究から教育の場があると、知識や関心度が高い結果が得られたことから、現代社会に必要な倫理教育方法について計画をたてる。

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期） 必須
2. 看護過程論（前期） 必須
3. 診療関連技術論演習（前期） 必須
4. ヘルスアセスメント演習（後期） 必須
5. 生活援助技術論演習（後期） 必須
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期） 必須
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期） 必須

8. 総合演習（通年）必須
9. 総合実習（通年）必須
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護技術論演習】 1 年次前期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、「看護技術概説」「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「安全を守る技術（ボディメカニクスとポジショニング）」「環境調整技術」「コミュニケーション」「記録・報告」について教授した。履修学年が 1 年生であることから、看護への動機づけを行うとともに、臨床での具体例を用いてわかりやすい説明を心掛けた。演習でも実際に技術を教授するため、動画の作成と活用、教員が実践しながら根拠や身体の使い方などのコツを具体的に説明するように心がけた。また、演習に臨む姿勢や身だしなみ等に関する規則やルールの順守についても積み重なるように教員間で統一した指導を心掛けた。
2.	授業科目名【看護過程論】 2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。グループワークで、約 6 名/G で構成される 3 グループ 18 名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を教授した。この科目は、基礎看護学で一連のプロセスを学んだ後、各領域別実習でも共通の思考過程をたどるため、理解が深まり看護実践につなげることの楽しさを感じてもらう必要がある。そのため、学生の苦手意識を最小限にし、グループワークを通して多様な考えや意見を参考にできる学びと雰囲気づくりを心掛けた。個別指導の時間には、思考過程のポイントや情報の集め方などを紙面に起こし、補足説明を具体的に行って理解の助けとなるように対応した。
3.	授業科目名【診療関連技術論演習】 2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。学生が実際に対象者に技術を実施することはないが、侵襲や苦痛が大きい技術であり、倫理的配慮が重要な技術であることを演習指導で説明した。また、演習や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方や既習の知識や技術を応用していくことを説明し、理解を深めるようにした。本科目でも、対象の個別性を取り入れ、手順ではなく根拠をもとに考え応用していく思考を大切に指導した。
4.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 1 年次後期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、ヘルスアセスメントの意義と「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」「感覚器系」「中枢神経系」「筋・骨格器系」のフィジカルアセスメントについて教授した。看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方は必須であるため、自己学習を通して知識の定着を図った。特に看護技術の要となるバイタルサイン測定については、聴診器・アネロイド血圧計を購入してもらい、何時でも何処でも自己練習を行える環境を整え、実技試験項目として演習で具体的に説明し、理解を深める関わりや青年期～老年期までの周囲の人々の測定を課題としてあらゆるシチュエーションでも可能にする技術習得を心掛けた。正確な技術が必要であるため、全体に改善する内容についてもフィードバックを詳細に行った。
5.	授業科目名【生活援助技術論演習】 1 年次後期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、「活動と休息」「清潔」「食事」

	「排泄」について教授した。自分の日常生活行動を今一度考えながら、病や障害をもち日常生活行動に制限が生じている対象に安全・安楽・自立・倫理的配慮をふまえた援助方法について考え、基本的な技術を実践する。その際に必要な考え方、原理・原則を守りながら個性を生かした方法について、学生自身が気づけるような関わりを心掛けた。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 1 年次後期必修科目 1 単位の実習形式で行っている。初めて患者を受け持ち、入院生活を送る対象者の療養環境の見学やコミュニケーションの実践を通して、対象者が抱える思いについて考察する。また、対象者に必要な看護援助を考え実践する一連の過程を行う。学生は、初めての環境の中で緊張が大きい、身体面や心理的を細やかに見ながら、実習指導者と連携を図りつつ、受け持ち患者とのコミュニケーションの導入を具体的にやってみせ、学生につなげ、対象理解を支えた。患者の個性に関する情報を提示しつつ、援助計画の助言を行い、日常生活援助の実施と評価が行えるように支援した。また、実施後には、自ら行った援助がどうであったか、振り返りの場を設け、できた部分と改善する点を明らかにするよう努めた。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 2 年次前期必修科目 2 単位の実習形式で行っている。患者を受け持ち、初めての看護過程の展開と看護実践の一連の過程を行う。学生は、初めての長期実習となるため、緊張や体調管理などに注意を払う必要がある。そのため、患者や実習指導者とのコミュニケーション、記録を通して情報の集め方や整理、看護問題の方向性、看護実践の内容について助言や指導を行い、学生の看護実践を見守り、時に支援し、達成感を得られるように支援した。実施後には、学生と振り返りの場を設け、自ら行った看護実践を客観的に評価し、よりよい看護を行うための方向性を助言するように心がけた。
8.	授業科目名【看護総合演習】 4 年次前期・後期必修科目 2 単位の演習形式で行っている。ゼミ生 5 名に対して、看護総合実習に向けて、文献検索の方法を指導し、文献を用いた抄読会を実施し、得た知識を生かして実習計画が立案できるように指導を行った。実習後は自分で学習した知識と実習の体験の結びつきから学びを深めてレポートにまとめる一連の過程をサポートした。最終学年であり、次年度は看護師として働く社会人を意識した自主性や国家試験対策について、学習方法のアドバイスや資料の提供なども支援した。
9.	授業科目名【看護総合実習】 4 年次前期・後期必修科目 2 単位の実習形式で行っている。ゼミ生 5 名それぞれが看護総合演習で立案した実習計画を基に、病院での実習を行う。学生自らが実習の中で看護師と調整したり、多職種との連携とそこでの看護師の役割、優先順位の判断、リーダーの役割など次年度から生かせる学びの機会となるよう目的意識を持って自ら学ぶ実習にするよう支援した。複数受け持ちから優先順位の判断が学べるよう日々実習指導者との調整を図り、学生からは、社会で実際に複数受持ちを行いながら、優先順位の判断をする上で役立ったとの意見があった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014 年 4 月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2014 年 12 月～現在に至る	Sigma Theta Tau International 会員	

3.	2015 年 12 月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
4.	2016 年 2 月～現在に至る	日本看護倫理学会会員	
5.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護診断学会	
6.	2022 年 6 月～現在に至る	日本看護科学学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024.07	意思決定を 支援するツ ールとして の意思決定 ガイド作成 の一考察	共	第 30 回日本看 護診断学会学術 大会 （於：神戸国際 会議場）	①意思決定ガイドに関する先行研究や 開発過程を論文等から、整理した。2000 年代から意思決定ガイドの質保証とし て IPDAS が設立され、尺度が開発され た。資格基準 6 項目、認定基準 10 項目、 質基準項目 28 項目で構成され、特に資 格基準は満たさないと認められないと 定められている。意思決定支援に関する ツールは多様であるが、患者の価値観を 基盤とし、結果に意味づけができれば、 ガイドの開発は有用と示唆された。 ②共同発表者名：紙谷恵子，小野聡子， 奥由佳梨，那須明美，長崎恵美子，濱松 恵子，松本啓子，伊東美佐江
2.	2024.10	ジグソー法 を導入した 診療に伴う	共	日本看護技術学 会第 22 回学術 集会	①診療関連技術論演習を履修している 看護学科 2 年次生を対象に 1 項目の演習 リーダーを担い、メンバーに指導するジ

		看護技術演習における学習活動効果-演習リーダーを経験して得た学びと気づきからの一考察-		(於：札幌市教育文化会館)	グソー法を取り入れた効果を演習前後で質問紙を用いて評価した。自由記載欄を内容分析し、「内発的動機付け」「外発的動機付け」「認知的方略」「外的リソース方略」の学びに関する6カテゴリと「自信がない」「集中できない」といった困難さに関する2カテゴリに分類した。ジグソー法は、知識・技術の獲得や課題達成に向けた能動的取り組みの視点で有効であったことが示唆された。 ②共同発表者名：隅田由加里，梶原江美，長崎恵美子，中島紀江，金山正子
3.	2024.12	ジグソー法を導入した診療に伴う看護技術演習における学習活動効果 －学習活動自己評価尺度からの一考察－	共	第44回日本看護科学学会学術集会 (於：熊本城ホール)	①診療関連技術論演習を履修している看護学科2年次生を対象に1項目の演習リーダーを担い、メンバーに指導するジグソー法を取り入れた効果を演習前後で質問紙を用いて評価した。知識・技術の獲得や課題達成に向けた能動的取り組みの視点に効果があったことが示唆された。 ②共同発表者名：隅田由加里，梶原江美，長崎恵美子，中島紀江，金山正子 ③第44回日本看護科学学会学術集会プログラム集 P869-870

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	非がん性慢性呼吸器疾患患者の呼吸管理選択に関する支援ツールの開発と検証		(○小野聡子) (伊東美佐江) 長崎恵美子	2,320,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	情報システム管理運用委員	
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	2 年生アドバイザー	
3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生募集	
4.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	物品管理	

■ 学歴

1. 2021 年 3 月 九州大学大学院医学系学府保健学専攻看護学分野 修士課程修了

■ 学位

1. 2021 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学

■ 研究キーワード

1. 成人女性 下肢のむくみ 月経周期

■ 研究課題

1. 下肢のむくみは女性に多い愁訴である。下肢のむくみの予防や対処行動の生活指導を行う上での有効な基礎資料を得ることを目的に、健康成人女性の下肢のむくみの発生の現状とその発生と月経周期の関連について、下肢のむくみを自覚する成人女性の日常生活や月経周期の背景を年代別に明確にするために質問紙調査を行う。また、下肢のむくみと月経周期の関連を形態的、生理学的に評価し、加齢に伴い変動する女性ホルモン(プロゲステロン、エストロゲン)との関連をホルモンの安定期(20、30 歳代)と減少期(40～50 歳代)において明確にする。

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期・看護学科）必修
2. 看護過程論（前期・看護学科）必修
3. 診療関連技術論演習（前期・看護学科）必修
4. ヘルスアセスメント演習（後期・看護学科）必修
5. 生活援助技術論演習（後期・看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期・看護学科）必修
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期・看護学科）必修
8. 早期看護学実習（前期・看護学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護技術論演習】 演習では、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。初めて看護学を学ぶ 1 年生が対象であるため、わかりやすい言葉、理解しやすい内容となるよう、意識して指導を行った。シェアタイムでは、学生の意見交換が円滑に進行するようファシリテートした。ベッドメイキングの自

	主練習の時間は、個別に対応して、学生が根拠を理解し、技術の習得ができるよう支援した。
2.	授業科目名【看護過程論】 事例患者（心不全）の看護過程を展開し、講義資料作成の一部を担当した。事例に合わせた事前課題を作成し、心不全の病態や看護について講義を行った。2つのグループを担当し、学生のグループワークが効果的に展開できるよう支援を行った。看護過程は、これまで各科目で学修した内容をつなぎながら自分で思考を整理して根拠をもって看護の対象者に看護を実践する過程を学ぶため、学生は苦手意識や困難感を生じやすい。学生が、なるべくスムーズに思考の整理ができるよう、図を用いて説明したり、活用しやすい参考書などを紹介した。教員からのフィードバックでは、グループ単位だけでなく個別指導も行い、グループ全員の理解が統一して進むように支援した。また、基礎看護学実習Ⅱにつながるよう意識して指導を行った。
3.	授業科目名【診療関連技術論演習】 演習の際に、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。講義の一部「酸素吸入療法」を担当した。臨床で経験した知識を活用しながら、学生が根拠を理解して、安全に看護技術を習得、実践できるよう支援した。
4.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 演習の際に、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。バイタルサイン測定技術や器官系統別のフィジカルアセスメント技術の習得と、測定や観察から得た情報で、看護者としてどのようにアセスメントするのか、学生がなるべくスムーズに理解できるよう、臨床での経験を活用し、工夫して説明を行った。技術練習の習得のための自主練習の時間では、個別に対応して、技術の習得をサポートした。
5.	授業科目名【生活援助技術論演習】 科目内の「清潔衣生活の援助」と「排泄の援助」の単元を担当し、講義、演習を行った。自身が経験した患者事例を活用し、学生が看護に興味・関心を持ち、倫理的配慮に基づく看護について思考できるように工夫すること、また、科学的根拠に基づいた看護の理解につながるよう、研究論文からデータやグラフを引用し提示することなどを意識して実践した。演習のデモンストレーションでは、学生が理解しやすい状況設定、カメラワークなどを考え、進行では、学生の理解度や反応、演習の進行状況をみて、意見交換、質問対応、学生による発表などを行い、学生が積極的に演習に参加できるように工夫した。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 学生（1年生）は、初めて担当患者を受け持ち、実習を行うため、患者とのコミュニケーションや関係構築が円滑となるよう調整を行った。また、患者だけでなく、実習指導者に報告連絡相談が行えるように調整を行った。学生の強みや個性を把握するために、実習中の学生の言動や行動、患者さんとの関り方など、細やかに観察し、学生の思いや考えなどを丁寧に聞き、密に関わった。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 学生（2年生）は、患者さんを受け持ち、看護過程を展開する。看護過程の展開の指導だけでなく、わからないことや困っていることが解決できるように、学生と一対一で関わり対応した。実習中の学生の言動や行動、患者さんとの関り方など、細やかに観察し、学生の思いや考えなどを丁寧に聞き、密に関わることで、学生の強みや個性を把握することに努め、効果的な指導、学生の理解につながるよう意識した。
8.	授業科目名【早期看護学実習】

	学生（1年生）にとって、初めての実習となるため、体調管理や時間管理、身だしなみやマナーの遵守について指導を行った。実習中は、目標・目的に沿って理解できているかの確認や、体調面の配慮を行い学生にとって有意義な実習となるよう支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2021年3月～現在に至る	日本環境学会	
2.	2021年5月～現在に至る	人間－生活環境系学会	
3.	2021年11月～現在に至る	日本女性心身医学会	
4.	2021年12月～現在に至る	日本看護研究学会	
5.	2023年6月～現在に至る	日本看護科学学会	
6.	2024年11月～現在に至る	日本健康支援学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（学会発表）					
1.	2024.10	ジグソー学 習法を導入 した診療に 伴う看護技 術演習にお ける学習活 動効果-演習 リーダーを 経験して得 た学びと気 づきからの 一考察-	共	日本看護技術学 会第 22 回学術 集会（於 札幌）	①診療関連技術論演習にジグソー法を導入し、演習リーダー役割を経験した学生の学び・気づきを自由記載から抽出、学習活動効果を探ることで、今後の看護技術教育の示唆を得た。 ②共同発表者名：隅田由加里，梶原江美，長崎恵美子，中島紀江，金山正子
2.	2024.12	ジグソー法 を導入した 診療に伴う 看護技術演 習における 学習活動効 果 -学習活 動自己評価 尺度からの 一考察-	共	第 44 回日本看 護科学学会学術 集会（於 熊本）	①ジグソー法を導入した診療関連技術論演習における学習活動の効果を評価した。学習活動評価の結果よりジグソー法による看護技術教育は、知識・技術の獲得や課題達成に向けた能動的取り組みの視点で効果があったと推察された。 ②共同発表者名：隅田由加里，梶原江美，長崎恵美子，中島紀江，金山正子 ③第 44 回日本看護科学学会学術集会抄録（P225～226）

3.	2024.12	成人女性の 下肢のむく みに対する 着圧ストッ キングの着 用効果に関 する検討	共	第 44 回日本看 護科学学会学術 集会(於 熊本)	①健康な女子大学生 10 人に対し、スト ッキングのむくみ予防に対する着用効 果と圧迫除去後の下肢のむくみの変化 を調査した。45 分のストッキングの着用 は下肢の形態的増大および細胞外液の 増加を抑制する効果があることが推察 された。 ②共同発表者名：加藤法子，中島紀江， 橋口暢子 ③第 44 回日本看護科学学会学術集会抄 録（P 507～508）

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.	成人女性のライフサイクル における下肢のむくみと月 経周期の関連	科学研究費補助金・ 基盤研究 (C) 2022- 2025	○中島紀江 (橋口暢子)	3,640,000

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	2 年生アドバイザー	
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	助教助手室相談員	

助教
永野 英美

■ 学歴

1. 2024 年 福岡看護大学大学院 看護学研究科看護学専攻修士課程 修了

■ 学位

1. 2024 年 修士(看護学)

■ 研究分野

1. 小児看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 医療的ケア児
2. 訪問看護師
3. ポジティブ心理学

■ 研究課題

1. 訪問看護師による医療的ケア児の看護支援
2. NICU・GCU 看護師の支援

■ 担当授業科目

1. 小児看護方法論(後期)(看護学科) 必須
2. 小児看護学演習(前期)(看護学科) 必須
3. 小児看護学実習(後期)(看護学科) 必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【小児看護方法論】 急性期にある子どもの看護について講義した。講義では、急性期、手術を受ける子どもと家族について、またその看護について理解することを目的に、学生がイメージしやすいよう動画や写真を用い講義を展開した。さらに、臨床（NICU、PICU、小児病棟）での経験を多く取り入れ看護の実際を語ることで、学生の興味や学修意欲を増加させた。
2.	授業科目名【小児看護学演習】 講師の指導の下、看護展開では、ペーパーペイシェントを用いたアセスメントの中で、これまで学修した内容をつなげながら思考を整理できるよう支援した。また、体重、身長、頭囲および胸囲測定 of 技術演習を担当し、正確に測定できるよう、測定ポイントについて写真を掲示した。そして、子どもの安全・安楽に配慮し実践できるよう、臨床場面を想起

	できるよう具体的に説明を行い実践し、子どもの基本的援助技術を用いるための知識、技術、態度の習得につなげた。
3.	授業科目名【小児看護学実習】 3施設での実習指導を行った。学生が、各施設の特徴を捉え、患児の生活背景を把握し、治療経過や退院を見据えた看護支援の方向性を捉えることが出来るよう導き、学生の思考を整理するよう助言した。また、ケア実践やリフレクションを通し学生の看護感を養うよう関わった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等(任期)
1.	2007 年～現在に至る	日本看護協会	会員
2.	2007 年～現在に至る	福岡県看護協会	会員
3.	2021 年～現在に至る	九州・沖縄小児看護教育研究会	会員
4.	2023 年～現在に至る	日本看護科学学会	会員
5.	2023 年～現在に至る	日本小児看護学会	会員

■ 研究業績等に関する事項(2024 年度)

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌 等又は発表学会 等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2025 年 3 月	医療的ケア児 を支援する専 門職者の教育 に関する文献 検討	共著	西南女学院大学 紀要 Vol29,2025	医療的ケア児を支援する専門職者の 教育に関する文献を検討し、現状と看 護教育における課題を明らかにした。 総 102 項,P57-66 <u>永野英美</u> 、藤本奈緒子、樋口由貴子
2.	2025 年 3 月	大学初年次生 における抑う つ状態と主観 的幸福感との 間の関連性	共著	帝京科学大学紀 要 Vol21 ,2025	大学初年次生の抑うつ傾向と主観的 幸福感との間の関連性について、抑う つ傾向の高低に関わらず主観的幸福 感が保たれることを明らかにした。 谷佳成恵、津田彰、石橋香津代、 <u>永野 英美</u>
3.					
(翻訳)					
1.					

2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024 年 9 月	Sustainable Development Psychological Inventory と Stress Mindset との間の関連性	共同発表	第 88 回日本心理学会(於 熊本)	SDGs の行動準備性と向環境的行動との間の関連性について、行動準備性の高い目標ほど実行可能な向環境的行動が多いことを明らかにし、その成果を発表した。 谷佳成恵、津田彰、伏島あゆみ、三原健吾、田中芳幸、岡村尚昌、矢島潤平、堀内聡、石橋香津代、 <u>永野英美</u>
2.	2024 年 11 月	糖尿病患者の健康行動に及ぼすポジティブ心理学的介入効果： テキストマイニングによるシステムティック・メタレビュー	共同発表	第 37 回日本健康心理学会(於 大分)	システムティック・メタレビューと、量的研究の限界を補完する質的研究(テキストマイニング)によって、糖尿病患者の健康行動に及ぼすポジティブ心理学介入効果について明らかにし、その成果を発表した。 <u>石橋香津代</u> 、津田彰、谷佳成恵、 <u>永野英美</u> 、堀内聡
3.	2024 年 12 月	Analysis of the Difficulties Faced by Nurses in Preventive Care for Children with Medical Complexity Using Text Mining: Focusing on Medical Device-Related Pressure Ulcers	共同発表	CONFERENCE SUTH The 3rd National and International Academic Conference of 2024 "Co-creation for Sustainable Development in Good Health and Well-Being"(Thailand)	テキストマイニングによって医療的ケア児の医療関連機器褥瘡予防に関する訪問看護師の困難について明らかにしその成果を発表した。 <u>Emi Nagano</u> , Nami Tanaka, Kanae Tani, Katuyo Ishibashi, and Akira Tsuda

4.	2024 年 12 月	The relationship between a stress-is-enhancing mindset and a stress-is-debilitating mindset	共同発表	CONFERENCE SUTH The 3rd National and International Academic Conference of 2024 "Co-creation for Sustainable Development in Good Health and Well-Being"(Thailand)	ストレスマインドセットについて、ストレス有用マインドセットとストレス有害マインドセットとの間の関連性から、日本独自の弁証法的ストレスマインドセットの存在が示唆され、その成果を発表した。 Kanae Tani, Akira Tsuda, Katsuyo Ishibashi, and <u>Emi Nagano</u>

(その他)

1.					
2.					
3.					

■ 外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	プラダーウィリ症候群児の養育者への睡眠時無呼吸に対する療養支援プログラムの構築	文部科学省基盤研究(C) 2024-2026	(○飯野英親、得能智武、中村加奈子、青野広子) <u>永野英美</u>	4,883,000	
2.	気になる子ども・神経発達症児と親の親子関係再構築の要因ーPCITの実施からー	文部科学省基盤研究(C) 2024-2027	(○青野広子、鳥巢浩幸、笠原亜希子、岡田賢司、飯野英親) <u>永野英美</u>	4,283,000	
3.					

(2) 個人研究					
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考	
1.	NICU・GCU 入院中の児の医療関連機器圧迫創傷予防に向けた看護実践に関する実態調査	日本看護科学学会 2024 年度 挑戦的課題研究助成(対象：大学院生・ポストド	499,000		

		クター)		
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会学術集会(実行委員として会場アナウンス担当)	
2.	2025 年 2 月	佐賀県委託事業令和 6 年度助産師再就業支援事業 (乳児の発達課題とケア(～4 か月)を講師として担当した)	
3.			

■ 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	1 年生アドバイザー	
2.	2025 年 4 月～現在に至る	2 年生アドバイザー	
3.			

講師

中原 智美

■ 学歴

1. 2011 年 山口大学医学系研究科 保健学専攻 修士課程 修了

■ 学位

1. 2011 年 修士（保健学）

■ 研究分野

1. 成人看護学
2. 遺伝看護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 慢性期看護
2. 糖尿病教育・看護
3. 多因子遺伝, 遺伝看護
4. 初年次教育
5. がん看護

■ 研究課題

1. 慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究
2. 2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究
3. 初年次教育の学修効果に関する研究

■ 担当授業科目

1. [旧カリ] 緩和・がん看護学（前期）必修 / [新カリ] がん看護学（前期）選択
2. 成人看護学演習 （前期）必修
3. 成人慢性期看護方法論 （後期）必修
4. 成人慢性期看護学実習 （後期～前期）必修
5. 看護のための臨床検査 （後期）必修
6. 初年次セミナー I （前期）必修
7. 初年次セミナー II （後期）必修
8. 看護総合演習 （通年）必修
9. 看護総合実習 （通年）必修
10. 看護学 [栄養学科] （後期）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【緩和・がん看護学（旧カリ）】【がん看護学（新カリ）】 主な担当内容は、がん看護（7コマ）、症状緩和のためのマネジメント（1コマ）である。疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、看護の根拠を理解しやすいように組み立て、できるだけ具体的な看護方法を示した。薬物療法に関する内容のボリュームが多いため、本年度より2回に内容を分けて講義した。また、がんサバイバーが治療と生活を両立することをサポートするための視点にも重点を置き、法制度や社会資源、チーム連携のあり方を具体的に紹介したり、実際の患者の声（大規模調査のデータ）を題材としたディスカッションを行ったりした。 講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、医療ドラマなどの話題を盛り込んだり、講義内容と関連のある最新ニュースや新聞記事を紹介するなど、理解を深めるための工夫を行った。 講義終了後には、学び・疑問を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介し、お互いの考え・疑問を共有することにより関心を高められるように努めた。
2.	授業科目名【成人看護学演習】 看護過程演習では、慢性期疾患（肝硬変）の事例を通して看護過程の展開（10コマ）を主担当として講義した。反転学習として事前に課題に取り組みせ、自分が解決したい疑問点を整理したうえで講義に臨めるように工夫した。講義前後に教員8名で指導内容を共有し、講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。 提出物へのコメントはあえて個別記載を行わず、全体に共通する事項をClassroomに掲載する方法とした。個別に赤ペン記載すると指摘を受けた部分だけしか見直さない傾向があったが、各自で点検しながら修正することにより改善に繋がった。グループワーク時には理解を促進するよう補足説明を行い、必要時には個別面談を行いフォローアップした。 技術演習は、患者教育、血糖自己測定・インスリン自己注射、ストーマケア、手術後の離床ケアを担当した。
3.	授業科目名【成人慢性期看護方法論】 内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計8コマ）を担当した。機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆき、生活面や心理・社会的側面でのなりゆきを予測してアセスメントする力を養うためのトレーニングとして、講義で取り上げた各疾患のアセスメントの視点をふまえた観察項目を考えることを課題として課し、発表により意見を共有するなどの工夫を行った。また、既習の形態機能学、疾病学、薬理学なども想起させながら、看護を理解しやすいように講義の流れを組み立てた。 学習内容への関心を高め、授業への集中力を高めるために、講義終了後に記入してもらった学びや質問を次の講義の冒頭で共有し、単元（2～3コマ）ごとに小テストを行いこまめに振り返りができるようにした。また、【看護のための臨床検査】の講義内容を本科目の進捗と合わせて設定し、連動した内容となるように工夫した。年末年始など講義の間が空く際には課題を組み入れ、前回内容の復習、次の講義の予習につながるように工夫した。

4.	授業科目名【成人慢性期看護学実習】 本年度は従来通り臨地で実習を行うことができた。実習では、次の 3 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。 ①患者を全人的に捉え、これまでのライフスタイルや価値観を尊重した個別性のある看護実践 ②看護展開を通して一貫性・整合性のある思考 ③学生の強みと今後の課題 受け持ち患者の入退院のサイクルは早いため、状況に合わせて学生が実習目標を達成できるように調整し、できるだけケア実践の機会を多く確保できるように努めた。実践することでの気づき、失敗からの学びを大切にして自己や他者を深く理解できるように働きかけた。本年度は、個人面談を行わず、リアルタイムで指導を行えるようにできるだけ臨地に赴き、担当教員と連携しながら指導を行った。学習面、精神面などで特に指導を要す学生に対してはこまめに声掛けを行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習内容、実習場所、実習方法の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように努めた。
5.	授業科目名【看護のための臨床検査】 本科目では、基盤となる血液検査、画像検査の基本を押さえたうえで、系統別に検査の特徴、実施法、看護上の注意点が理解できるように構成した。主として、内分泌・代謝系／腎・泌尿器系／血液内科系／皮膚科・耳鼻科・眼科系の検査、技術演習（計 6 コマ）を担当した。できるだけ画像や動画を見せ、検査方法をイメージできるように工夫した。 検査の理解だけでなく、検査の基本やデータ基準値を覚えることを促進する働きかけとして、講義の初めに知識確認テストを行った。また、終了前にはその日の内容について小テストを行い、毎回の講義に集中できるように工夫した。 技術演習では、3つの項目（スパイロメトリー、心電図、尿検査）について検査方法、結果の判定、看護上の留意点が理解できるように構成した。
6.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 ①講義、課題などのスケジュール自己管理と学修の振り返りのために、ポートフォリオを毎回持参させシラバスで確認するよう指導した。 ②レポート作成にあたり以下の点について改善を行った。 ・学生が苦手とする「問いの発見」については、問いだてを理解しやすいようにシートを 3 段階の 1 系統に絞った形に改善を行った。 ・文献検索法を繰り返し説明し実践させることで、情報の入手法の習熟度を上げる取り組みをした。 ・前年度まで 3 回のレポート作成（500 字、1,000 字、2,000 字）を課したが、これを 1 回（2,000 字程度）にして、同じことの繰り返しにならないように工夫した。 ③グループワークを充実させることを目的に、グループワークを「アイデアの収束法」と「アイデアの発表法」の各 2 回、計 4 回で実施した。「収束法」では KJ 法の基礎を学び、「発表法」で取り組んだディベートにつなげた。

7.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 ①年度により初年次セミナーⅠのゼミを再編成することもあるが、本年は初年次Ⅰのグループワークによりゼミ内の交流ができていたことを考慮して、ゼミの再編成は行わないこととした。ただし、同じメンバーでは慣れも出てくる可能性もあるため、グループ内のメンバーをシャッフルした。 ②初年次Ⅰの課題を引継ぎ、シート①②の活用や「問い」の見いだし方を繰り返し指導した。 ③初年次Ⅰのグループ活動によりグループワークに必要なスタディスキルは身につけられた反面、個人で身につけるべきスタディスキルの定着には至らなかった。その課題をふまえ、初年次Ⅱでは個人のスキルアップに重点を置くこととし、レポート作成、発表は個人で取り組むよう計画した。 ④発表までの取り組みをふまえて評価できるよう、発表会はゼミ内で運営し、評価は担当教員が行うように改善した。
8.	授業科目名【看護総合演習〔慢性期・終末期〕】 自己課題に基づいたテーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもってテーマに沿った看護を追求することで今後の課題が明確になるよう指導した。レポート作成時は、研究論文の形式を意識して構成できるように、個別に繰り返し添削指導を行った。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、最終的に冊子も作成して達成感を感じられるように図った。 そのほか、ゼミメンバーや教員間との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。
9.	授業科目名【看護総合実習〔慢性期・終末期〕】 実習は7月末～8月上旬にかけて実施した。また、各論実習では3時間の時間制限付きでの臨地実習であったが、総合実習では1日実習が可能となったため、実習施設と学生間の打ち合わせを行いながら、実習が円滑に進められるように調整を図った。実習では、看護実践における自己課題を明確にすることができるよう、また、看護の質向上や互いの能力向上のために、メンバー間の連携をとりながら主体的・計画的に行動できるように指導・助言を行った。
10.	授業科目名【看護学】 慢性疾患をもつ患者の看護として「慢性期・終末期におけるがん看護」を2コマ担当した。栄養学科の学生が対象であるため、“がんの治療を受けている患者の看護”を教授する際には、治療方法や用語があまり専門的になりすぎないように配慮して講義した。“終末期における看護”では、その人らしく生きることを支えるためにどのように患者を理解すると良いか、自分自身の「らしさ」とは何かを考えてもらうことで理解を深められるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2007年4月～現在に至る	日本看護研究学会	
2.	2007年5月～現在に至る	日本糖尿病教育・看護学会	
3.	2007年5月～現在に至る	日本遺伝看護学会	

4.	2012 年 7 月～現在に至る	日本看護科学学会	
5.	2013 年 7 月～現在に至る	日本看護学教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2024.09.04	プチナース BOOKS 実 習でよく挙 げる看護診 断・計画ガイ ド 第2版	共著	照林社	各科・各領域の実習でよく挙げる 60 の 看護診断の、診断の意味と標準看護計画 を解説している。 (執筆担当) 22：非効果的呼吸パターン P84-85 44：口腔粘膜統合性障害 P136-137
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 9 月 7 日	ギラヴァンツ北九州 (チーム主催の防災イベント 「あそぼうさい」における CPR & AED の体験ブース出展)	学生ボランティアのコーディネ ートおよび指導, 引率
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024.4.1～2025.3.31	学生個人情報保護委員会	副委員長
2.	2024.4.1～2025.3.31	4 年生アドバイザー	
3.	2023.4.1～現在に至る	看護学科 学力向上委員	[知識確認試験] 担当

助教
西田 彩子

■ 学歴

1. 2021 年 3 月 九州大学大学院医学系学府保健学専攻修士課程（看護学） 修了

■ 学位

1. 2021 年 3 月 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学

■ 研究キーワード

1. 看護学生 洗髪 看護技術

■ 研究課題

1. 看護学生にとって、臨地実習に臨む前に大学内で看護技術を学ぶ演習の授業は重要である。臨地実習で患者に看護ケアを提供することは、患者との信頼関係や学生の看護観を育む一つの機会となるからである。また提供する看護ケアは原理・原則、根拠を踏まえた安全・安楽なケアであることが必要である。しかし、限られた短い演習の授業の中だけで、学生が看護技術を獲得することは難しい。様々な看護ケアの中で、洗髪技術に焦点を当て、学生が洗髪を実施する際に洗いにくい部位の皮膚の状態を洗髪の前後で比較することで、洗い残し部位の頭皮の状態を明らかにすることで、洗髪の意義をより強化することにつなげる。

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期・看護学科）必修
2. 看護過程論（前期・看護学科）必修
3. 診療関連技術論演習（前期・看護学科）必修
4. ヘルスアセスメント演習（後期・看護学科）必修
5. 生活援助技術論演習（後期・看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期・看護学科）
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期・看護学科）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護技術論演習】 演習でのデモンストレーションや、学生が演習する際の実技指導を行った。対象は 1 年次の学生であり、初めて看護の技術に触れる機会となるため、わかりやすい言葉で、学生が講義の内容も振り返りながら演習ができるように努めた。実技試験前の自己練習では、個別対応をして学生が授業時間だけでは習得が不十分だった点などを指導した。

2.	授業科目名【看護過程論】 事例をもとに、グループワークを中心に看護過程を展開する授業で、主に2グループを担当した。実習で実際に看護過程の展開を行うことを踏まえて、学生が情報の抽出やアセスメントができるようわかりやすい言葉や表現を意識して指導を行った。また事前学習が課されており、事前学習と事例内容を関連付け、学びが深まるよう努めた。
3.	授業科目名【診療関連技術論演習】 演習でのデモンストレーションや、学生が演習する際の実技指導を行った。患者に侵襲を与える技術が中心であるため、特に患者の安全・安楽や感染予防の重要性を学生が理解しながら演習ができるよう指導した。
4.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 バイタルサイン測定やフィジカルセサメント技術を学生が習得できるよう指導を行った。学生が、形態機能学と関連づけながら演習を行うことができるよう努めた。自主練習の際は、個別対応をして技術が習得できるよう支援を行った。
5.	授業科目名【生活援助技術論演習】 講義では口腔ケアを担当し、口腔ケアの意義や援助のポイントなどについて説明を行った。演習ではデモンストレーションや、学生が演習する際の実技指導を行った。口腔ケアと洗髪は演習計画の立案から行い、学生が患者の状態に合わせ、安全・安楽な援助を考えて実施できるように努めた。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 対象が1年次の学生で、初めて患者を受け持ち援助を行うことになるため、学生と患者、学生と実習指導や病棟看護師間での調整を行い、実習の目的や目標が達成できるよう関わった。学生のレディネスを把握し、学生に合わせた指導を行い、臨地でしか学ぶことができない貴重な経験ができるよう支援した。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 学生が看護過程論で学んだことを踏まえ、臨地で看護過程を展開し、患者の個別性を考えた看護が実施できるよう指導した。また、1・2年次に大学内で学んだその他の知識や技術も活用しながら、患者のアセスメントや看護が実施できるよう支援した。学生と患者、学生と実習指導や病棟看護師間での調整を行い、実習の目的や目標が達成できるよう関わった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000年4月～現在に至る	日本看護学会	
2.	2018年4月～現在に至る	日本看護研究学会	
3.	2022年4月～現在に至る	日本臨床看護マネジメント学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（学術論文）					
1.	2024年6月	Evaluation of the Oral	共著	Oral Health and Preventive	①新たに開発した口腔シミュレータが

		Health Education Programme for Nurses using an Oral Lesion Simulator		Dentistry, Volume 22	看護学生の口腔疾患・症状に関する口腔評価教育に有用であるか検討することを目的とした。 ②共著者名： Naito, Toru / Miyoshi, Maki / Aoki, Hisae / Monji, Mayumi / Nishida, Ayako / Kono, Yoshinori / Kayama, Maiko / Umezaki, Yojiro ③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能 (P.203-210)

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～2024年3月	1年生アドバイザー	

教授

原 頼子

■ 学歴

1. 2011 年 久留米大学大学院医学研究科博士課程 修了

■ 学位

1. 2011 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 慢性期看護学
2. がん看護学
3. 看護教育

■ 研究キーワード

1. 糖尿病患者の QOL
2. 自己管理行動
3. がん治療中の糖尿病患者

■ 研究課題

1. がん治療中の糖尿病患者は、優先されるがん治療の副作用や、使用する薬剤の影響によって、血糖コントロールが困難になり、今までできていたセルフケアがうまくいかないことで、つらい思いを抱く。そこで、がん治療部門と糖尿病部門による領域間の連携システムを整えること、治療ガイドラインが整備されることはがん治療中の糖尿病患者には重要なことである。看護支援としては、患者の自己効力感を低下させないための看護師が行うエンパワーメント支援がある。本研究ではその有効性について検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 成人看護学概論（前期）（看護学科）
2. 成人慢性期看護方法論（後期）（看護学科）
3. がん看護学（前期）（看護学科）選択
4. 成人看護学演習（前期）
5. 成人慢性期看護学実習（後期）
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【成人看護学概論】 発達段階ごとの成人の特徴や、発達課題、成人期に多い疾患の特徴がイメージできるよう、図や表を取り入れ、理解しやすい資料を作成した。また、後期の成人慢性期看護方法論につながるように、事例を使用し、生活習慣が及ぼす影響、予防行動の必要性を考える内容にした。
2.	授業科目名【成人慢性期看護方法論】 看護形態機能学の知識は疾患の理解に必要であり、その上で、効果的な看護を考える思考過程を作るためにアセスメントを重要視し、必要なケアを判断し、有効な看護を考える過程を何回も繰り返せる教材の工夫を行った。
3.	授業科目名【がん看護学】 がん看護学では、がんの病期ごとに患者の看護を考える必要があり、治療中の心理的問題にも初期から対応していく全人的痛みを緩和する看護も必要である。またがんが進行していくことで、終末期の症状緩和、家族へのケアも必要である。体験したことがない学生が多いため、DVD や動画を使用し、事例を基にイメージしながら看護を考える講義を行った。エンゼルケア(死後のケア)について DVD を使用し、手順や注意点、人の尊厳を守ることについて講義をしている。
4.	授業科目名【成人慢性期看護学実習】 看護学実習は、知識に基づいて患者に起こっている問題をアセスメントし、必要な看護を考えることを実践する機会でもある。そこで、電子カルテだけでなく、ベッドサイドに行き、患者のことを知ることから、看護に必要な情報を増やし、アセスメント、判断につなげることができるような思考過程ができるよう指導を行った。計画に沿って実践したことは、評価、振り返り再考することで、患者中心の看護が実践できるように指導を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002 年 4 月～現在に至る	日本糖尿病教育・看護学会	学会誌査読委員（2018 年～2022 年）
2.	2004 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2008 年 4 月～現在に至る	日本糖尿病学会	
	2010 年 4 月～現在に至る	日本がん看護学会	評議員（2013 年～2016 年） 学会誌査読委員（2016 年～2018 年）
	2010 年 4 月～現在に至る	日本緩和医療学会	
	2020 年 4 月～現在に至る	看護シミュレーションラーニング学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2025. 2	終末期肺がん患者の最期の療養場所をめぐる患者と家族の揺れに対する訪問看護師の認識と関わり	共	第 39 回日本がん看護学会（於札幌）	① 肺がんの終末期に在宅で過ごす患者を看ている家族が患者の病状に伴い揺れる気持ちを理解し、支援する訪問看護師の実践を、訪問看護師のインタビューを通し、質的に分析を行った。 ② 共同発表者：高津康弘、原 頼子、桐明あゆみ ③ 第 39 回 日本がん看護学会学術集会抄録（P137）
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	喉頭全摘出者の退院後の QOL 向上を目指す継続看護チームの介入: RCT による縦断調査	科学研究費	（○小竹久実子、鈴鴨よしみ、甲斐 一郎、岩永 和代、高橋 綾、羽場 香織、栗田 麻美、	18,460,000 円

			石橋 曜子), 原 頼子, (新 裕紀子, 太田 一 郎, 上村 裕和)	
2.	腹膜透析を受ける高齢者と 家族を支えるテレナーシ ングシステムの構築と検証	科学研究費	(○桐明あゆみ)、原 頼子、(河原田康貴、姫 野深雪)	4,680,000 円
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位: 円)	備考
1.	がん治療中の糖尿病患者の セルフケアを支援する領域 間連携システムの構築	科学研究費	2,860,000 円	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年～2023 年	福岡県糖尿病療養指導士協会養 成講習会	認定委員
2.	2015 年～2022 年	市民公開講座「グリーフケア」	講師
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学看護キャリアセ ンター	センター長
2.	2024 年 4 月～現在に至る	FD 部門会	委員
3.	2024 年 4 月～現在に至る	外部資金導入推進プロジェクト	委員

講師

樋口 由貴子

■ 学歴

1. 2017 年 産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻(修士課程)修了

■ 学位

1. 2017 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 小児看護学

■ 研究キーワード

1. 子ども
2. 感染症
3. 家族支援
4. 学生健康支援

■ 研究課題

1. 小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。
2. 病気や障害をもつ子どもとその家族への支援について考察する。
3. 学生健康支援の一つとして、本学保健福祉学部 1 年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。

■ 担当授業科目

1. 小児看護学概論（前期）（看護学科）必須
2. 小児看護学方法論（後期）（看護学科）必須
3. 小児看護学演習（前期）（看護学科）必須
4. 小児看護学実習（通年）（看護学科）必須
5. 看護総合実習・演習（通年）（看護学科）必須
6. がん看護学（前期）（看護学科）選択
7. 看護学特論（後期）（看護学科）選択
8. 看護学（後期）（栄養学科）選択
9. 助産診断・ケア学Ⅳ（前期）（助産別科）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【小児看護学概論】

	子どもの成長と発達を、教科書を基に説明した。学生が興味をもち授業に参加できるよう、また子どもとほとんど接する経験がない学生も理解できるように動画などを用い講義した。毎回「学び票」の提出を求め、学生の理解を確認した。学生の質問などには、次の講義時に再度説明を入れるなどの工夫を行った。また、途中、小テストを実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。小テストの得点率が高いが、定期テストでの得点率は低くなったことから、知識を定着することが課題となった。概論だけでなく、方法論、演習、実習などに繋げ、反復して学修できるよう工夫していく。
2.	授業科目名【小児看護学方法論】 疾患や障害をもつ子どもと家族の看護について講義した。講義では、子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、小児看護として工夫をする事の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、小児をとりまく社会や援助方法に興味を持つために、個人ワークとその発表を行った。小児医療の現場がイメージできるよう、DVD や画像、また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明した。 障がいのある子どもと家族の看護、被虐待児への看護については、実際に現場で働く外部講師に講義を依頼した。現場の写真などを多く取り入れ看護の実際を講義していただくことで、学生の興味や学修意欲を持てるよう工夫した。
3.	授業科目名【小児看護学演習】 ペーパーパישェントを用いた看護展開と実技演習を対面で実施した。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように、DVD や写真を取り入れ状況を理解し、看護展開できるよう工夫した。アセスメントまでを個人ワークとし、計画立案はグループワークでディスカッションしながら理解を深めていけるようにした。個人ワークについては、個別にコメント入れ、学生へ返却し、それぞれの学生が理解できるように対応した。グループワークについては発表を行い、その後、全体でディスカッションすることで、理解を深めた。発表を、ジグソー法を用いて行ったことで、学生一人一人が責任を持ち、理解する力、考える力、表現する力を養った。 技術演習では、短時間ではあるが、個人練習ができる環境を整えた。自己練習をする学生は少ないため、実習前に技術チェックを行い、反復して学修することで技術が習得できるようにした。
4.	授業科目名【小児看護学実習】 今年度は、コロナ感染症流行前同様に 1 日の臨地実習で実習を行った。学生が実習期間中、再大限に経験できるよう、受け持ちでない患児へのケアなどの参加など臨床指導者と時間や方法を調整した。また、学生と共に患児のベッドサイドに行き、コミュニケーション方法や技術提供方法等の指導を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、目標達成できるよう支援を求めた。臨床での経験を基に、毎日短時間のリフレクションを行い、学生それぞれの看護を見出していった。グループでリフレクションすることで、学びを深めることが出来ていた。また、看護師以外にも医師、医療保育専門士、こども療養支援士などと学生が関わり学べるよう調整し、小児看護を取り巻く多職種との協働について学べる機会を確保した。
5.	授業科目名【看護総合実習・演習】 看護総合演習では、小児医療の現場で起こる倫理的問題を、事例をあげディスカッションすることで、子どもの人権の擁護や倫理的配慮について学びを深めた。その後、学生それぞれの探求したいテーマに沿い、文献を用い、現在の状況と課題を見出し、発表を行った。 看護総合実習では、演習で学んだ知識・技術を小児外来と子育て支援施設実習を通し、看護の実際を

	学んだ。それぞれの学生が、実践を通し、看護実践の難しさ、やりがいを学び、自己の課題を見出すことができていた。最終的に、学生それぞれの探求したいテーマで論文を作成し、研究的思考ができるよう支援した。
6.	授業科目名【 がん看護学 】 小児の緩和・終末期・がん看護について1コマを担当した。DVDを用い小児の緩和・終末期医療の実際を紹介し、看護師として、どう向き合うかを思考できるように講義を展開した。「生きる」を大切にする看護の重要性について、教授した。
7.	授業科目名【 看護学特論 】 これから看護職として社会にでる4年生後期に開講された。1コマを小児医療のトピックとして、小児救急の現状や課題について、また、医療的ケア児の生活支援の現状や課題について事例や統計を用い、看護師としてできること、大切にしていきたいことをそれぞれの学生が考える機会になるよう講義を展開した。理解状況としては、講義内容を小テスト形式で出題し、把握した。
8.	授業科目名【 看護学 】 栄養学科後期「看護学」では、「子どもの健康と栄養」として、子どものアレルギーについてを担当した。栄養士として、学校現場や保育現場などで活用できるよう主に食物アレルギーについて病院での検査やアレルギー症状とその対応について具体的な援助方法までを講義と技術体験を通して習得できるよう工夫した。練習用エピペンをを用い、実際に人形にエピペンを投与する技術を実施し技術の習得もできるよう工夫した。
8.	授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅳ 】 助産別科前期「助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児）」では、乳幼児の発達について講義した。さらに、助産師として乳幼児と関わる中で遭遇しそうな事例を挙げ、事例検討する中で乳幼児の特徴を捉え児と家族への援助について思考できるようにした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002年4月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2009年1月～現在に至る	日本小児看護学会会員	
3.	2009年4月～現在に至る	日本小児保健協会会員	
4.	2010年10月～現在に至る	日本環境感染症学会会員	
5.	2013年6月～現在に至る	日本看護科学学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					
1.	2025.3	健康管理ツ	共	西南女学院大学	①大学における学生への健康支援の一

		ールとしての「健康管理カルテ」を用いた大学生への健康支援－利用状況と運用に関する考察－		紀要 Vol.29	助となることを目的に、学生自身が健康を意識し管理するツールとして、本学独自の「健康管理カルテ」を作成し入学生に配布し、その利用調査を行った。その利用状況から、学生の健康記録の保管手段として、また、正しい情報を得る手段となっていた。今後は健康管理カルテの配布に留まらず、継続的に情報発信し、学生自身による健康管理を促す取り組みが課題となった。 ②共著者：樋口由貴子，水貝洵子，山田恵，高崎智子，目野郁子 ③P47～P56
2.	2025年3月	医療的ケア児を支援する専門職者の教育に関する文献検討	共	西南女学院大学 紀要 Vol29	①医療的ケア児を支援する専門職者の教育に関する文献を検討し、現状と看護教育における課題を明らかにした。 ②共著者名：永野英美，藤本奈緒子， <u>樋口由貴子</u> ③P57～P66
(翻訳)					
1.	なし				
(学会発表)					
1.	なし				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～現在に至る	九州・沖縄 小児看護 教育研究会	幹事
2.	2025 年 3 月 (1 日)	北九州市小児慢性特定疾病対策 協議会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2011 年 6 月～現在に至る	保健福祉学部 1 年生および助産 別科 1 年生への感染症予防／予 防接種手帳配布と抗体検査後の 予防接種勧奨	
2.	2022 年 4 月～現在に至る	学生募集員	
3.	2016 年 5 月～現在に至る	親子遊びの会「ほほえみ project」運営	
4.	2022 年 4 月～現在に至る	地域貢献活動企画名「一緒に遊 ぼう」、団体名「ちゃれんじ」 の運営	
5.	2023 年 4 月～現在に至る	学生活動グループ「STEP UP」 の支援	

教授

布花原 明子

■ 学歴

1. 2001 年 兵庫県立看護大学大学院看護学研究科地域看護学専攻 修了

■ 学位

1. 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 公衆衛生看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 健康危機管理
2. 地域組織活動（地域開発）
3. 母子保健活動

■ 研究課題

1. 公衆衛生看護学に関して、感染症の健康危機管理において、特に行政管理職である保健師に求められる役割・機能を考察する。
2. 公衆衛生看護学に関して、母子（親子）保健におけるポピュレーションアプローチを中心に考察する。また、ハイリスクアプローチとの関連についても考察する。

■ 担当授業科目

1. 公衆衛生学（後期） 必修
2. 公衆衛生看護技術論（後期） 2 年生保健師課程必修・看護師課程選択
3. 対象別公衆衛生看護活動論（後期） 2 年生保健師課程必修・看護師課程選択
4. 公衆衛生看護活動演習（前期） 保健師課程必修
5. 看護総合演習・実習（通年） 必修
6. 公衆衛生看護学実習（前期） 保健師課程必修
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【公衆衛生学】 講義ノートを作成し、学生が予習・復習時に活用できるよう工夫した。また、授業の最後に知識確認の小テストを実施し、知識の定着につとめた。授業の学びと質問については、クラス全体にフィードバックできるよう、毎回、授業日のうちにクラスルームを用いて回答やコメントを配信した。
2.	授業科目名【公衆衛生看護技術論】 公衆衛生看護の対人支援に関する知識、理論、技術について講義を中心に授業を実施した。毎回、講義のキーワードを提示し、基本的な知識、理論を講義した後に事例を提示し、学生が知識や理論を事例に活用して考える機会をつくり、理解を深められるように工夫した。教材動画コンテンツを活用し、講義、視聴、ワークを組み合わせで進めた。
3.	授業科目名【対象別公衆衛生看護活動論】 公衆衛生看護の対象となるライフステージ及び健康課題別の活動について授業を実施した。公衆衛生看護活動においては、法的根拠に基づき活動を展開するため、法制度に関する自己学修を事前課題として提示した。授業では事前課題の知識と連動させて進めた。
4.	授業科目名【看護総合演習・実習】 実習では、実習企業の現場で生じている事象に関して、関連する保健統計データの分析を行い、課題解決に向けて実践する。学生が、主体的に PDCA サイクルを展開できるよう、実習指導者と事前打ち合わせを十分に行い、授業では学生が事前の文献検索、文献整理と、実習後のレポート作成をスムーズに進めることができるよう心がけた。
5.	授業科目名【公衆衛生看護活動演習・実習】 実習施設の地域診断と家庭訪問、健康教育技術の演習科目である。集中講義で進行し、多重課題となるため、学生がグループで協力し合えるよう促した。また、授業以外の時間にも技術練習時間にサポートを行い、学生が自信をつけて実習に迎えるよう配慮した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995 年 4 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
2.	2001 年 3 月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2001 年 10 月～現在に至る	日本地域看護学学会	
4.	2002 年 3 月～現在に至る	日本看護学教育学会	
5.	2014 年 4 月～現在に至る	日本公衆衛生看護学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					

(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024.10	COVID-19 流行下における政令市管理職保健師の迅速な対応と判断 (第1報)	共	第 83 回日本公衆衛生学会総会 (於 札幌コンベンションセンター)	① 政令市 A 市において、COVID-19 流行下の健康危機管理業務に携わった管理的立場の保健師を対象に半構成インタビュー調査を実施し、保健師に迅速さが求められた事象と、その対応及び判断の内容を質的に分析した。第 1 報では、管理的立場の保健師に迅速さが求められた事象とその対応の特徴をまとめた。 ② 布花原明子、鹿毛美香、伊藤直子 ③ 第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集 (p 535)
2.	2024.10	COVID-19 流行下における政令市管理職保健師の迅速な対応と判断 (第2報)	共	第 83 回日本公衆衛生学会総会 (於 札幌コンベンションセンター)	① 政令市 A 市において、COVID-19 流行下の健康危機管理業務に携わった管理的立場の保健師を対象に半構成インタビュー調査を実施し、保健師に迅速さが求められた事象と、その対応及び判断の内容を質的に分析した。第 2 報では、管理的立場の保健師が行った迅速な対応における判断の特徴をまとめた。 ② 鹿毛美香、布花原明子、伊藤直子 ③ 第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集 (p 536)

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2010 年 4 月～現在に至る	北九州市保健所運営協議会	委員
2.	2017 年 4 月～現在に至る	北九州市介護保険認定審査会	審査委員
3.	2020 年 4 月～現在に至る	北九州市社会福祉法人審査会	審査委員
4.	2023 年 4 月～現在に至る	認定看護管理者教育課程	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生募集委員及び看護学科学生 募集担当	責任者
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	1 年生アドバイザー	責任者
3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	宗教委員	

助教

藤本 奈緒子

■ 学歴

1. 2017 年 産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻コミュニティ看護学修士課程 修了

■ 学位

1. 2017 年 看護学修士

■ 研究分野

1. 在宅看護論
2. 小児看護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 在宅看護
2. 看護基礎教育
3. 地域包括ケアシステム

■ 研究課題

1. 看護基礎教育における医療的ケア児への地域包括ケアに関する教育内容を小児看護学実習における学生の学びや、重度心身障がい児のケアにあたる施設の職員からのインタビュー等により検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 小児看護学実習（通年） 必須
2. 小児看護学演習（前期） 必須
3. 小児看護学方法論（後期） 必須
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【小児看護学実習】

	子どもの表情や状態の変化から様々なサインを肌で受け取り、子供の置かれている状況や環境を子供の立場になって体験する貴重な機会となる。限られた実習時間の中で学びを深めるには、学生の体験を増やすように臨床と調整し、ロールモデルとなる指導者やスタッフのケアの場面を教材化することが重要であると考え。学生対応では成人教育であるため、一方的な指導とならないよう学生自らが能動的に思考し学修を深められる発問を工夫した。
2.	授業科目名【小児看護学演習】 典型的な成長発達を知識として理解している確認し、演習では学内で学んだ理論を根拠としながらも、対象個々の成長発達の過程に注目するように促した。対象の周囲の人々の関わり方が与える影響に気づけるように、学生の疑問や不安を表出できる態度で接することを配慮した。また、グループダイナミクスを考慮しグループワークが活発に進むように発問を工夫した。
3.	授業科目名【小児看護方法論】 小児の特徴をイメージ化しやすいように動画を活用したり、地域の実例を示したりした。教育内容が理解しやすいように目標を提示し、授業展開を短く集中できるように工夫を行った。
4.	授業科目名【 】

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995年 4月～現在に至る	日本看護協会	
2.	2014年 4月～現在に至る	日本看護福祉学会会員	
3.	2015 年 12 月～現在に至る	日本在宅ケア学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共 著 の 別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025 年 3 月	医療的ケア児を支援する専門職者の教育に関する文献検討	共著	西南女学院大学紀 要 Vol29.2025	医療的ケア児を支援する専門職者の教育に関する文献を検討し、現状と看護教育における課題を明らかにした。 総 102 項.P57-66 <u>永野恵美</u> 、藤本奈緒子、樋口由貴子
2.					
3.					
（翻訳）					

1.					
2.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～3月	3年生アドバイザー	
2.	2024年4月～3月	学力向上委員	
3.			

教授

前田 由紀子

■ 学歴

1. 2010 年 福岡大学博士課程修了

■ 学位

1. 2010 年 博士（教育学）

■ 研究分野

1. 精神看護学
2. 看護教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 精神科看護師
2. リカバリー
3. ストレングス

■ 研究課題

1. 精神科看護におけるリカバリーに関する研究
2. 精神科看護師のキャリア形成に関する研究

■ 担当授業科目

1. 精神看護学概論（後期）必須
2. 精神看護方法論（後期）必須
3. 精神看護学演習（前期）必須
4. 精神看護学実習（通年）必須
5. 看護総合演習（通年）必須
6. 看護総合実習（通年）必須
7. 看護学特論（後期）選択
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【精神看護学概論】
	心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看

	護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでグループワークの取り組みを行った。発達段階を 6 つに分けジグソー法を活用した。発表会ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーションの方法を学ぶ機会にもなった。その後、レポートを課し、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。
2.	授業科目名【精神看護方法論】 精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。今年度は、NHK の精神障がいを取り扱った番組を活用し、当事者や家族の気持ちなどグループワークに取り組んだ。グループでディスカッション後に代表グループが発表し意見交換を行った。精神疾患についてノート整理、国家試験問題を解く、精神科関連の著作を読むなどの課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。課題は、複数回に分けて提出させた。内容の不備がある場合、適宜指導を行った。
3.	授業科目名【精神看護学演習】 精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。今年度はアセスメントを充実させる目的で MSE : Mental Status Examination を取り入れたが学生には少し難しかったようである。クライシスプランも新たに取り入れたがこちらは学生に好評で実習でもよく活用していた。また、プロセスレコードの考察について資料の工夫を行なうことで自己洞察への理解が向上した
4.	授業科目名【精神看護学実習】 実習前の事前学習では、精神疾患や治療、精神保健福祉法を含む精神科看護に興味を持ってもらうように工夫した。「精神科ナースになったわけ」等、漫画を使ったものを教材に取り入れ精神看護学実習への関心を高めた。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、現地オリエンテーション・臨地実習とすべて現地で実施することができた。3 施設の実習指導者は、カンファレンスにほぼ毎日参加していただき、臨地における学生の学びの到達度は高かったと思われる。病棟と教員の連携もスムーズであった。
5.	授業科目名【看護総合演習】 5 人の学生を担当し、精神看護領域の看護総合演習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者を対象とした訪問看護と ACT : Assertive Community Treatment (包括型地域生活支援プログラム) を総合実習の施設として展開した。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケア、ACT に関する文献検討を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミで発表会を行った。精神障害者の地域ケアについて考察を深めることができた。
6.	授業科目名【看護総合実習】 5 人の学生を担当し、精神看護領域の看護総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者を対象とした一般の訪問看護と、重度の精神障がい者を対象とした ACT : Assertive Community Treatment

	(包括型地域生活支援プログラム)を実習施設として展開した。ACTは、一般的な訪問看護と違い、利用者主体でサービスが提供されるため、より実地的な地域生活支援を学ぶことができ、一般の訪問看護との違いが理解できたようであった。学生の満足度も高かったため、次年度以降も実習施設として活用したい。本科目は4年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、実習を進めた。病棟へのアポイント、実習の説明などメンバーで協力して実施することができた。
7.	授業科目名【看護学特論】
	本科目は、成人看護学（急性期・慢性期）、母性看護学、小児看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護論、基礎看護学の8つの領域でオムニバスで実施した。そのうちの精神看護学を担当した。精神科におけるオープンダイアログの講義後にグループワークを実施した。昨年より受講学生が増加した。精神科看護の最近のトピックスや国家試験に関連ある内容等を取り入れ本科目の意義を伝えたい。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1984年4月～現在に至る	日本看護学会	
2.	2003年4月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2003年4月～現在に至る	日本看護研究学会	
4.	2007年10月～現在に至る	日本精神保健看護学会	
5.	2007年10月～現在に至る	日本医学看護学教育学会	
6.	2008年4月～現在に至る	日本精神科看護技術協会	
7.	2008年4月～現在に至る	日本看護学教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					

1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年11月～現在に至る	南ヶ丘病院職員研修	講師
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024年4月～現在に至る	図書委員会	委員
2.	2024年4月～現在に至る	学力向上委員会	委員長
3.			

教授
眞崎 直子

■ 学歴

1. 久留米大学大学院 医学系健康科学 博士課程 修了

■ 学位

1. 博士（医学）

■ 研究分野

1. 公衆衛生看護学
2. 公衆衛生
3. 精神保健

■ 研究キーワード

1. ソーシャルキャピタル
2. 心の健康
3. 地域づくり

■ 研究課題

1. 都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究
2. 人口動態統計に基づく東日本大震災後の自殺死亡数 岩手県・宮城県・福島県の沿岸部と沿岸部以外
の推移

■ 担当授業科目

※該当なし（2025 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2025 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997 年	日本公衆衛生学会	評議員（2016～2020）
2.	2015 年	日本在宅ケア学会	研究評価委員（2024～）
3.	2010 年	日本看護科学学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学	概 要

				会等の名称	
(著書)					
1.	2024年4月	公衆衛生看護学演習・実習(地域ケア実習)増補版	共著	クオリティケア	
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2024年3月	大刀洗町における保健事業と介護予防の一体的実施に関する研究	共著	聖マリア学院大学紀要	
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024年12月	子育て世代包括による地域づくりに関する研究－A町における子育てに関するニーズ調査から－	共著	第44回日本看護科学学会学術集会	
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

1.	都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究	科学研究費補助金基盤研究（C）一般	○眞崎直子（竹島正、田中貴子、立森久照、松原みゆき、鈴木寿則）	4,030,000
2.	退職期にある住民主体の看取り・看取られ方力量形成プログラム開発	科学研究費補助金基盤研究（C）一般	（○尾形由起子、他 3 名）、眞崎直子	5,200,000 130,000

（２） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.	令和 7 年 4 月 1 日より 3 年	福岡県国民健康保険団体連合会 保健事業評価委員	評価委員
2.	令和 7 年 4 月 1 日より 3 年	広島県国民健康保険団体連合会 保健事業評価委員	副委員長
3.	令和 7 年 4 月 1 日より 3 年	広島市難病対策協議会委員	委員（学識経験者）

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2025 年度入職）

教授

溝部 昌子

■ 学歴

1. 2002年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 博士課程単位取得退学

■ 学位

1. 1999年 修士（保健学）
2. 2003年 博士（保健学）

■ 研究分野

1. 臨床看護学 Clinical Nursing
2. 高齢者看護学 Geriatric Nursing
3. 血管看護 Vascular Nursing
4. 異文化看護 Transcultural Nursing, 文化能力 Cultural Competency
5. 看護管理学 Nursing Administration
6. ソーシャリー・エンゲージド・アート 社会的処方 Socially Engaged Art

■ 研究キーワード

1. 血管看護、血管障害患者の看護方法、高濃度炭酸水を用いた足浴
2. 看護エコー、深部静脈血栓症予防、排泄ケアと看護エコー
3. 文化看護、異なる文化背景対象への看護、文化能力開発プログラム
4. タクティールケア、触れる看護

■ 研究課題

1. 看護観察へのハンディエコーの活用成果とスキル修得に関する研究
2. 血管看護学教育の体系化に関する研究
3. グラフィックレコーディングの学修活動やヘルスコミュニケーションに及ぼす影響に関する研究
4. タクティールケアの手技の言語化と修得方法に関する研究
5. 文化背景が異なる対象の看護、看護師の文化能力の醸成に関する研究

■ 担当授業科目

1. 老年看護学実習（通年）（看護学科）必修
2. 看護総合演習（通年）（看護学科）必修
3. 看護総合実習（通年）（看護学科）必修
4. 老年看護学概論（前期）（看護学科）必修
5. 老年看護学演習（前期）（看護学科）必修
6. 看護研究の基礎（前期）（看護学科）必修

7. 老年看護方法論（後期）（看護学科）必修
8. 国際看護学（後期）（看護学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【老年看護学概論】2年生前期 ・老年看護学の基礎知識、加齢性の心身変化を第1～4回で集中的に扱い、2回の小テストを実施することで、早い段階で知識に触れるような計画とした。 ・従来行っていた、グラフィックレコーディングや KYT（危険予知トレーニング）を用いた、高齢者の暮らしの安全についての講義に、高齢者体験装具装着下での簡易体力測定や屋外歩行を加え、より体験的に学べるように工夫した。 ・後半は、テレビ番組、書籍、雑誌等メディアで紹介されている高齢者を紹介し、多様な高齢者像やヘルシー・エイジングやプロダクティブ・エイジングを支える社会の仕組みや個人の取り組みについて触れる機会を多くし、創造的発展的に老年看護の課題を検討するようにした
2.	授業科目名【老年看護方法論】2年生後期 ・ゴードンの健康の11パターンの枠組みに沿って、高齢者看護に必要な観察、アセスメント方法、看護ケア技術を教授した。 ・看護師国家試験や老年看護学実習の内容を鑑みても、老年看護学教育構成内容が過不足ないものとなった。 ・配布資料をパワーポイント A4 1 ページに 2 枚印刷、カラー両面とした。前年度は、配布資料が多い、内容が難しかったなどの意見が書かれていたが、今年度は、その配布資料を臨地実習に持参して活用している学生も多く、有益だったと考えられる。 ・8回の課題提出と定期試験で評価し、学修の積み重ねが必要な計画となっていた。課題提出前に一旦解説し、追加記載をさせたうえで課題の提出を求め、最終的に個々に簡単にフィードバックを返却した。定期試験は出題範囲を事前予告し、ほぼ完ぺきな回答が多く、課題や試験全てにおいて組みがよかった。
3.	授業科目名【老年看護学演習】3年生前期 ・看護過程のアセスメントでは、健康パターンごとの講義で、記載すべき要点を示し、学生はそれに基づいて自身で課題を完成し、翌週提出した。グループごとにボックスを用意し、グループでまとめて提出・返却した。 ・提出時には、評価表にセルフチェックし、教員からは4段階評価を付し返却した。 ・看護計画 EP はグラフィックレコーディングで制作した。 ・未提出や提出遅れはなく、講義であらかじめ要点を示していたことから、課題に取り組む時間は従来に比べて短縮され、負担は軽減されたと考える。学生によって取り組みや成果に差があった。看護計画の EP が具体的に記載されていた。
4.	授業科目名【看護研究の基礎】3年生前期 ・感染予防対策上、特に制限のない状態での開講であり、従来通り、質問紙調査を前提とした研究計画の策定、調査の実施、研究成果報告会を実施した。 ・授業時間内で、質的データ分析、量的データ分析と図表の作成、調査の実施、エクセルデータの集計、研究に必要な文書の作成を行うことで、グループワークに伴う負担や学生間トラブルや少な

	ったと考える。 ・研究のプロセスで必要となる作業について、情報検索、研究計画書の作成、研究説明文書の作成などを、実践的に学ぶことができ、研究についての基礎知識の習得につながったと考える。
5.	授業科目名【国際看護学】2年生後期・選択 ・外部講師の講義をオンデマンドで取り入れ、英国における看護師資格取得や勤務、ボランティアの仕組みや実際、国際協力の実際について講義を受けた。看護では技術や知識だけでなく、制度や価値観によりことなるものであること、様々なキャリアの発展があることなど見聞を広めることができた。 ・国際看護の基礎知識としての講義のほかに、「映画バベル」を教材として、暮らしている場所による人々の文化的背景や価値観の違いなどについてディスカッションし、検討することができた。 ・外部講師を1コマ増やし、オンデマンドとし、調べ学修の課題を減らし、選択科目としての負担は軽減しつつ、文化的対応や国際的な課題に対する見聞は広がったと考える。
6.	授業科目名【看護総合演習】4年生通年 ・書籍「役立つ！使える！看護のエコー」を各自購入し、前腕皮静脈の観察についてトレーニングを継続した。 ・看護や看護教育におけるエコーの活用について、各自文献検索を行い、精読会を複数回行った。 ・3年生老年看護学演習の技術において、前腕皮静脈マッピングの演習補助を行った。
7.	授業科目名【看護総合実習】4年生通年 ・A病院において、前腕皮静脈マッピングとタクティールケアを実践し、その看護における意義を文献的考察を加えて整理し記述した。
8.	授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】3年生後期 ・実習病院A,B,C,D病院では、それぞれ特徴的な看護を学ぶ機会を得ている。 ・学生2～3名一組が、患者一人を担当し、情報収集、コミュニケーション、アセスメント、看護の実践、アクティビティケア、文献的考察、まとめの発表を行った。 ・グループでの担当は、学生のチームで働く力を育むことにつながり、また、複雑な病態や背景を有する患者の看護における問題解決においても有用で合理的な方法であると考え。 ・「豊かな生を支える看護」においては、患者の強みを生かしたアクティビティーや、タクティールケア、生活や療養の指導など、多彩な計画を実施することにつながった。このために実習指導者、病棟管理者、多職種の方々にはご協力いただき、学生の実習を支援していただいた。 ・欠員があるため、非常勤実習助手として週2～3日の実習指導があるが、プラチナナース登用の意義として、2人の確保を大学へは希望している。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1999年より現在に至る	日本看護科学学会	
2.	2003年より現在に至る	日本看護管理学会	
3.	2011年より現在に至る	日本看護評価学会	2022年より編集委員会委員長
4.	2014年より現在に至る	日本血管外科学会	2014年よりチーム医療推進委員会委員
5.	2014年より現在に至る	日本循環器看護学会	

6.	2016 年より現在に至る	日本看護理工学会	
7.	2015 年より現在に至る	日本血管看護研究会	2015 年より代表世話人 2015 年より毎年プログラム委員 2024 年より血管看護研修コース運営委員会副委員長、運営事務局
8.	2016 年より現在に至る	日本リンパ浮腫治療学会	2016 年より評議員
9.	2018 年より現在に至る	日本老年看護学会	
10.	2019 年より現在に至る	国際臨床医学会	
11.	2022 年より現在に至る	日本静脈学会	
12.	2022 年より現在に至る	日本フットケア・足病学会	
13.	2023 年より現在に至る	Society for Vascular Nursing	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文 等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表 学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					
1.	2025 年 3 月	〈査読あり〉 総説 看護エコーの 意義と活用へ の課題に関す る文献的研究	共著	西南女学院大 学紀要 VoL29	看護エコーの有効性は、①排泄ケア（尿・便）、②褥瘡ケア、③下大静脈径計測による体液管理、④末梢静脈穿刺で示された。看護エコーの適応対象として、尿意便意の把握が困難な患者での膀胱・直腸内貯留物、褥瘡深達度や周囲皮膚構造、心不全・慢性腎不全患者のうっ血、末梢静脈穿刺部位や留置の評価があり、看護師向けのエコー教育プログラムには、エコー観察の技術に加えて、焦点化する病態に関する臨床推論と、観察結果から導かれる看護ケアシナリオの知識を含める必要があること、病態や臨床指標といった成果だけでなく、看護学的に評価し、実証してことが課題であることを示した。 A4 版総頁数:101 頁、p23-36 <u>溝部昌子</u> 、吉原悦子、金子由里
（翻訳）					

1.	なし				
(学会発表)					
1.	2025年3月	〈査読あり〉 看護エコーの 活用に関する 文献的研究	共著	第17回日本静 脈学会瀬戸内 西日本支部総 会 (長崎)	看護エコーは、POCUSとして、焦点化 された病態に対する所見の有無を観察 し、その看護方法を選定、あるいは成果 を評価しながら看護ケアを提供するも ので、実践例の文献検討をもとに、看護 エコーが用いられた看護場面を示し た。 <u>溝部昌子</u> 、金子由里
(その他)					
1.	2024年5月	血管看護研修 コース運営委 員会 教材作成の手 引き 1.1	共著	日本血管看護 研究会	血管看護研修コース運営委員会が運営 する研修の教材作成手引きを示した <u>血管看護研修コース運営委員会</u>
2.	2024年12 月	編集後記	単著	日本看護評価 学会誌 第14巻第1号	<u>溝部昌子</u>

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	看護師による POCUS 活用に関する研究-DVT 予防対策と安全なケアへの効果-	文部科学省 科学研究費補助金 基盤（B）	○溝部昌子、吉原悦子、(宮田哲郎、重松邦広、岩倉真由美)	1040,000 円
2.	「病院と看護の国際化ガイドラインの普及と活用-文化多様性の包摂と医療格差の解消-	文部科学省科 学研究費補助金 基盤（C）	(○野地有子、) 溝部昌子	40,000 円

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

任 期	団体・委員会等の名称	役 職 名 等

	期 間 等	(内 容)	
1.	2023 年～	北九州市国民健康保険運営協議会	公益代表委員
2.	2018 年～	西南女学院看護キャリア支援センター 認定看護管理者コースセカンドレベル	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2018 年より現在に至る	西南女学院看護キャリア支援センター 認定看護管理者研修コース運営委員会	運営委員
2.	2018 年より現在に至る	国際交流委員会	委員
3.	2023 年より現在に至る	看護学科実習コーディネーター ・実習記録等機密文書の保管と廃棄 ・実習用品の交換や配布 ・実習欠席情報の集約 ・代替実習の報告	責任者
4.	2023 年より現在に至る	看護学科3年生アドバイザー	責任者
5.	2025 年 1 月より現在に至る	看護学教育課程コアカリキュラム改訂 対応	責任者

教授

目野 郁子

■ 学歴

1. 1982 年 福岡県立福岡女子大学家政学部 卒業

■ 学位

1. 1994 年 九州大学 博士 (医学)

■ 研究分野

1. 病原微生物学
2. 免疫学

■ 研究キーワード

1. 病原微生物
2. 感染症
3. 感染対策
4. ワクチン
5. 免疫

■ 研究課題

1. 感染症の予防と感染制御対策：予防接種制度の変更にともなう定期予防接種対象疾病の概要とワクチンについて新しい知見をもとに図書の改訂にむけて検討を行う。
2. 本学 1 年生を対象に配布している健康管理カルテの有用性について継続し検討を行う。

■ 担当授業科目

1. 感染と免疫（前期）（看護学科）必須
2. 生物と生命科学（前期）（看護学科）選択
3. 生物と生命科学（前期）（福祉学科）選択
4. 疾病学各論Ⅱ（前期）（看護学科）必須
5. 初年次セミナーⅡ（後期）（看護学科）必須
6. 微生物学（後期）（福祉学科）選択
7. 女性の心と身体の健康（前期）（大学全学科）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【感染と免疫】
	①ポートフォリオ・「ポイント整理」をまとめる方法について、第 3 回目の講義でモデルを示しな

	から指導した。また、講義に自身で作成したポートフォリオ・「ポイント整理」を常に持参するよう指示し、講義中にラウンドして整理の状況を確認した。整理の仕方、まとめ方がうまくいっていない学生には直接指導した。 ②学内実習においては、医療現場を想起させ感染症の疑いがある患者の検体採取から細菌観察までを自身の体を使い実施した。 ③講義内容を整理するための「ポイント整理」と小テストを組み合わせることで主体的学習を促した。今年度は、正答率が悪い問題について丁寧に解説し、振り返りをさせた。 ④質問は講義中と講義時間外にも積極的にうけるようにした。
2.	授業科目名【生物と生命科学（看護）】 ①1年生の前期科目であることを意識し、高校の生物の基礎知識→解剖学・生理学の知識→疾病の発症要因と、段階をおって講義を組み立てた。難しいと思われる疾病事例は、日常生活で見聞きするものを数例選択し、学生に興味をもたせ学ばせるよう工夫した。 ②ポートフォリオ・「ポイント整理」をまとめる方法を講義で説明し、自身で作成したポートフォリオ・「ポイント整理」を持参するよう指示した。また、整理の状況を確認した。整理の仕方、まとめ方がうまくいっていない学生には直接指導した。 ③理解が難しい講義内容については、学生同士で話し合いの場を設ける、それでも理解できなかった場合には、再度講義を行い、内容理解ができるようにし繰り返し学ぶ場を提供した。
3.	授業科目名【生物と生命科学（福祉・英語・観光文化）】 ①講義内容は、高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに、ヒトの生体に焦点をあてる講義内容とした。興味を持たせるために日常生活の中で見聞きする疾患を事例に、高校の生物基礎→解剖学・生理学の知識→疾病の発症要因と、段階を追って講義を行った。加えて、1疾患をモデルに講義を行い、その内容を振り返らせ、課題としてまとめ提出するよう指示した。 ②科目内容に苦手意識を持たせない工夫としては、講義後に必ず振り返りの時間を設ける、また、講義中にラウンドして一人一人に声かけを行い質問をうける、また、こちらから質問するなど、理解度の把握をしながら講義を進行させた。 ③講義内容を整理するための「ポイント整理」は、小テストと組み合わせることで、積極的に学習に取り組むように促した。また、正答率の悪い問題は解説を行い、学習意欲を高めるように心がけた。
4.	授業科目名【疾病学各論Ⅱ（看護学科）】 ① 主担当講義として4コマを担当した。テーマは、感染症で全身感染症、呼吸器感染症、消化器感染症、そして、感染症予防法について講義を実施した。いずれの内容も病態について理解を促すためにポイントをまとめて図表を作成し、スライドを使い説明した。 ② 加えて、感染症予防法については、看護師国家試験を意識し、院内感染、消毒法・消毒剤について教科書を用い丁寧に説明をした。
5.	授業科目名【初年次セミナーⅡ（看護学科）】 ①5人の教員で持つ科目のため、教員間での打ち合わせをした後、教員間で差が出ないように注意しながら指導を行った。 ② レポートは、例年グループで一つのテーマで章立てをし、各章を各自が担当するという方式をとっていたが、今年は、各自に責任を持たせるために各自がテーマをもち、レポートを作成するようにした。 ③ 「プレゼン発表スキル」についての講義を担当した。プレゼンの良し悪しについて、モデルを示

	すことで、学生がより良いプレゼンスキルを学べるよう工夫した。また、プレゼン発表会の前段階にミニプレゼンとして練習のための時間を1コマ設けた。
6.	授業科目名【微生物学（福祉学科）】
	① 興味を持たせるために最近の感染症に関するトピックス・事例を織り交ぜ講義を実施した。 ② 教育現場に関連した知識に焦点を当て、学校現場で問題になる感染症を中心に教科書から内容をピックアップして講義を行った。 ③ また、他の教職関連科目と連携させて、学校保健安全法での出席停止期間などを具体例をあげ説明した。 ④ 小テストを2回実施している。正答率の悪い問題については、解説を行い、必ず、振り返りを促すために次の小テスト問題にも問題を加える工夫をした。
7.	授業科目名【女性の心と身体の健康（大学全学科）】
	① 今年度から開講した大学全学科の1年生を対象にした科目である。主担当講義として1コマを担当する。テーマは、「感染症とその予防」で1年生に理解しやすいように身近な疾患モデルをあげて、感染源、感染経路、症状について説明する。そして、そのうえで予防法についての講義を行った。 ② 興味関心を持ってもらうために最新の感染症情報・動向を内容に組み入れた。また、自身の健康を振り返るために過去に罹患した感染症・症状など書きとめ、学生間でディスカッションさせた。 ③ トピックスとして、性感染症・子宮頸がん予防のHPVワクチンについて説明しキャッチアップ接種についての情報を提供した。 ④ 講義に対する質問には、丁寧に応答した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987年4月	日本細菌学会	
2.	1996年4月	日本感染症学会	
3.	2000年4月	日本小児保健協会	
4.	2004年4月	日本感染症学会	
5.	2016年4月	日本ワクチン学会	
6.	2024年4月	日本私立看護系大学協会	西南女学院大学看護学科代表

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					
1.	2025.3	健康管理 ツールとし ての「健康管	共	西南女学院大学 紀要 Vol.29	①大学における学生への健康支援の一助となることを目的に、学生自身が健康を意識し管理するツールとして、本学独

		理カルテ」を用いた大学生への健康支援 ー利用状況と運用に関する考察			自の「健康管理カルテ」を作成し入学生に配布し、その利用調査を行った。その利用状況から、学生の健康記録の保管手段として、また、正しい情報を得る手段となっていた。今後は健康管理カルテの配布に留まらず、継続的に情報発信し、学生自身による健康管理を促す取り組みが課題となった。 ②共著者：樋口由貴子，水貝洵子，山田恵，高崎智子，目野郁子 ④ p 47～56
2.					
(翻訳)					
1.	なし				
(学会発表)					
1.	なし				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 5 月 1 日～2027 年 4 月 30 日	福岡県食品安全・安心委員会	有識者委員
2.	2024 年 10 月 7 日	西南女学院中学・高等学校の 5 年生を対象に「看護学科での学び」について講義を行う。	高大連携講座講師
3.	2024 年 2 月 7 日	北九州市市民カレッジにおい	北九州市民カレッジ講師

		て、免疫低下により発症するウイルス感染症「带状疱疹」をテーマに予防法も含め「带状疱疹」の発症の仕組み、症状などについて講演する。	

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2025 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学 助産別科	別科長
2.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学保健福祉学部 看護学科	学科長
3.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学 看護キャリア支援センター	運営委員
4.	2023 年 4 月～現在に至る	西南女学院評議会	評議委員
5.	2011 年～現在に至る	学生の健康支援：保健室と協働しワクチンで予防可能な感染症について予防接種手帳配布・抗体検査結果配布、予防接種が必要な学生には個別に接種勧奨を行う。	大学学生健康支援メンバー
6.	2003 年 4 月～ 現在に至る	保健福祉学部附属保健福祉学研究所	運営委員

助教

矢治 亜樹子

■ 学歴

1. 2020 年 公立大学法人福岡県立大学 大学院看護学研究科 看護学専攻修士課程
(精神看護専門看護師コース) 卒業

■ 学位

1. 2020 年 修士 (看護学)

■ 研究分野

1. 精神看護学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 統合失調症 長期入院 退院支援 地域生活
- 2.
- 3.

■ 研究課題

1. 長期入院後に退院した統合失調症患者の地域生活について実際を明らかにしたうえで考察する。
また、その中で得た示唆から長期入院に至っている統合失調症の退院支援の在り方について考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 看護キャリア形成論 (前期) 必修
2. 精神看護学演習 (前期) 必修
3. 精神看護方法論 (後期) 必修
4. 災害看護学 (後期) 必修・選択
5. 看護学(栄養学科) (後期) 選択
6. 精神看護学実習 (通年) 必修
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護キャリア形成論】 専門看護師の資格取得に至った自身のキャリア形成を事例として学生がイメージしやすいように工夫いたしました。その中で、資格取得の方法やそのための準備など、関心を持ちながら具体的なイメージが持てるように工夫しました。さらに、資格取得後の活動について紹介し、専門看護師の役割を知ると同時に自身の今後のキャリアについて考えることができるように工夫しました。
2.	授業科目名【精神看護学演習】 実習での看護実践へ繋がることを意識し、統合失調症をもつ人へのケアについて事例をもとに展開しました。オレムアンダーウッド理論に加え、リカバリー、ストレングスの概念をもとに、その人が歩んできた人生に触れながら統合的な視点で事例への理解が深まるように工夫いたしました。さらに精神医療の現場で求められる地域移行についての基本的な枠組みの意識や地域の中で、その人が自分の人生を生きることができるケアが見いだせるようにクライシスプランの活用を取り入れるなどの工夫をしました。
3.	授業科目名【精神看護方法論】 「精神障害をもつ人への看護」として、知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠如/多動症、PTSD、パーソナリティ障害などをもつ人へのケアについて解説いたしました。基本的な病態や関わりについて、臨床現場での実際の体験をふまえ、イメージしやすいように工夫いたしました。その中では、単に関わりの事例のみならず、疾患をもつ人の苦しみ、そしてストレングスを最大限に活かすることができる専門職の関わり、そして医療者の葛藤を支える専門看護師の役割などについて解説いたしました。また、国家試験問題を用いながら学んだ知識が定着するよう工夫しました。
4.	授業科目名【災害看護学】 「災害時の被災者および援助者へのこころのケア」として、被災者のストレスと心理過程について防衛機制、悲嘆のプロセス、危機理論などを用いて説明しました。また PTSD などの疾患の成り立ちとケアについて動画などを用いてイメージできるように工夫しました。さらに DPAT の取り組みについては実際に活動した先遣隊の方へのインタビューを伝えるなど、少しでも実践を感じることが出来るように工夫しました。
5.	授業科目名【看護学】 「統合失調症・うつ病、アルコール依存症・摂食障害をもつ人のケアとチームアプローチ」としてそれぞれの疾患における基本的な知識と必要な看護について事例を用いて説明することや、AUDIT を用いてスクリーニングテストを体験するなどイメージしやすいように工夫いたしました。また、他職種としてチームアプローチをする際の注意点や工夫について説明しながら、他職種連携についての重要性と専門職の役割が理解できるようにしました。
6.	授業科目名【精神看護学実習】 入院中の患者さんとの関わりを通して、その人の人生に触れながら看護理論を用いて統合的な理解を行い、患者さんのニーズに沿ったケアが行えるように工夫いたしました。その中では、精神看護学演習で学んだ知識や技法が活用できるように意味づけを行い、学生自身が治療資源の一部としての役割を担い、より患者さんにとって必要なケアが見出せるように工夫しました。さらに、実習場面における感情の揺れをもとにプロセスレコードを活用し学生が自分自身の傾向に気づき、専門職として自己を活用することができるように工夫いたしました。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2011 年 6 月	日本精神科看護学会会員	
2.	2017 年 4 月	日本看護協会会員	
3.	2021 年 3 月	九州・沖縄 高度実践看護師活動促進協議会	精神看護担当代議員 (2021 年 3 月～現在に至る)
4.	2021 年 9 月	PAS セルフケアセラピー看護学会	
5.	2022 年 11 月	日本専門看護師協議会	
6.	2024 年 2 月	日本精神保健看護学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024 年 6 月	長期入院後に退院した統合失調症患者の地域移行支援の時期と局面	単	日本精神保健看護学会第 34 回学術集会	長期入院後に退院した統合失調症患者を対象に質的記述的研究を行った。その語りから 141 のカテゴリーと 4 つの時期と局面が抽出された。その時期と局面に合わせ、患者と支援者との相互採用を大切にした支援の重要性が示唆された。
2.	2024 年 6 月	長期入院後に退院した統合失調症患者の地域移行期を中	単	第 49 回日本精神科看護学術集会	長期入院後に退院した統合失調症患者を対象に質的記述的研究を行った。それにより、精神科長期入院患者が退院を決定するまでの時期における専門職やチームによる支援について患者がどのよ

		心とした退 院支援に対 する思い(第 2 報)			うに認識し、どのような思いを抱いて退 院に動機づけられたのかが明らかにな った。
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年～現在に至る	エルゼビア・ジャパン株式会社 ナーシングスキル精神科看護コ ンテンツ うつ病の患者さんの 看護	動画講義における講師 監修
2.	2024 年 2 月	九州・沖縄高度実践看護師活動 促進協議会 第 6 回精神看護事 例検討会	事例提供
3.	2024 年 4 月	医療法人青陵会 南ヶ丘病院 2024 年度採用時研修	研修講師
4.	2024 年 6 月	株式会社 夢 訪問看護ステーションリカバリ ー 職員研修	研修講師

5.	2024 年 7 月	株式会社 夢 訪問看護ステーションリカバリ ー 職員研修	研修講師
6	2024 年 7 月	市民ボランティアグループ 介護者サロン まなみどり 職員研修	研修講師
7.	2024 年 8 月	医療法人青陵会 南ヶ丘病院 職員研修	研修講師
8	2024 年 8 月	福岡県精神科病院協会 北九州地区 看護部長会主催 一般研修会	研修講師
9.	2024 年 9 月	PASセルフケアセラピー看護学 会第 7 回大会	実行委員
10.	2024 年 9 月	株式会社 夢 訪問看護ステーションリカバリ ー 職員研修	研修講師
11.	2024 年 12 月	株式会社 夢 訪問看護ステーションリカバリ ー 職員研修	研修講師
12.	2025 年 1 月	福岡県精神科病院協会 北九州地区 看護部長会研修	研修講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	職員研修委員会	委員
2.	2024 年 4 月～	3 年生アドバイザー	委員
3.	2024 年 4 月～現在に至る	学力向上委員会	委員

教授
幸 史子

■ 学歴

1. 熊本大学社会文化科学研究科博士課程 修了

■ 学位

1. 学術博士

■ 研究分野

1. コミュニケーション
2. 高齢者の腹膜透析
3.

■ 研究キーワード

1. 臨床看護師
2. コミュニケーション力
3. 腹膜透析

■ 研究課題

1. 臨床看護師のコミュニケーション力について、スキルタイプを特定し、新人看護師と熟練看護師にどのような違いがあるかを考察する。
2. 高齢の腹膜透析患者が、住み慣れた場所で生活を続けていくための方法を検討し、腹膜透析の普及を目指す。

■ 担当授業科目

※該当なし（2025 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2025 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2015年4月	日本看護学教育学会	なし
2.	2015年4月	日本看護科学学会	なし
3.	2014年10月	日本医療・病院管理学会	なし

2

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.	2024年 7月	Nursing explanation skills in education and practice Development skills and influence on incident occurrence	共著	Journal of Nursing Education and Practice.	① 心理学的尺度を開発し、説明スキルが、患者の安全に与える影響を調査することを目的とした。その結果、7つの共通サブスキルと患者/家族およびスタッフごとに1つの特定のサブスキルを含む9つのサブスキルが特定され、「思いやり」と「共有メンタルモデル」に分類された。また、臨床ラダーの進行は、思いやりと共有メンタルの両方に関連していた。更に、思いやりは相互作用の失敗による様々なインシデントの可能性を高める要因として特定され、対照的に共有されたメンタルモデルは、判断ミスによる重大インシデントや概念的欠陥による軽微なインシデントの発生確率高めた。 ② 共著者名：藤本学、島村美香、幸史子
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024年 4月	ディスコミュニケーションを防ぐ看護職の説明スキル	共著	第10回日本医療安全学会学術集会	① 総合病院に勤務する看護師を対象にグーグルフォームを用いた質問紙調査を実施した。その結果、説明者である看護師の説明スキルの低さがディスコミュニケーションを招き、結果としてインシデントが誘発されることが明らかとなった。 ② 共著者名：藤本学、島村美香、幸史

					子
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	高齢腹膜透析患者の地元くらしを支える看護－介護チームビルディングプログラムの開発	日本学術振興会（科学研究費助成事業基盤研究 C）	○（遠藤和子） 研究分担者：幸 史子	500000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2025 年度入職）

講師

吉原 悦子

■ 学歴

1. 大分大学 修士課程 卒業

■ 学位

1. 2007 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 老年看護学
2. 地域包括ケア
- 3.

■ 研究キーワード

1. 認知症ケア
2. 聞き書き
3. 認知症マップ

■ 研究課題

1. 高齢者への聞き書きの効果
2. 認知症マップの活用の可能性と使用方法の検討

■ 担当授業科目

1. 地域生活支援論（再履修者）
2. 地域生活支援論
3. 地域連携協働支援論
4. 看護研究の基礎
5. 高齢者支援学Ⅰ
6. 保健福祉学入門
7. 看護学（栄養学科）
8. 老年看護学実習Ⅱ
9. 看護総合演習
10. 看護総合実習
11. 地域生活支援実習
12. 早期看護実習

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【地域生活支援論】再履修者 受講学生は3名であり、昨年度、地域生活支援論を一度履修した学生である。そのため、昨年度の講義内容を基本とし、さらに深める講義内容とした。地域包括ケアに至った社会背景についてのデータや地域のアセスメントを実際に行い、データを解釈し、学生同士でディスカッションを行った。3人での講義であったため、グループダイナミクスの効果がむつかしく、やや個人でのワークとなった。
2.	授業科目名【地域生活支援論】 今年度よりテキストを変更し、講義内容を学生自身の生活と地域社会との繋がりを深く理解することに重点を置いた。具体的には学生自身の生活を振り返る時間を設け、その振り返りを通じて自身の価値観や大事にしていることに改めて目を向け、自己の考えを再認識した。また、学生が自身の居住地域を概観し、地域の課題を発見することを通し、学生自身も地域の一員であるの自覚を促した。さらに、社会保障概説との連携を強化するため両科目のテキストを併用し、関連する内容について統合する形で講義に取り入れ、学生が社会保障制度をより身近な問題として取り入れられるように工夫した。地域包括ケアシステムの概念は学生にとって理解するのが難しいため、具体的な事例や社会的背景提示し、理解を進めていった。
3.	授業科目名【地域連携協働支援論】 本講義では地域におけるあらゆるライフステージの健康上、生活上の課題や社会資源を理解し、地域での生活支援を学ぶことを目的としている。地域生活支援論に引き続き、学生が地域での生活を具体的にイメージできるよう、事例検討を取り入れ、健康と生活両面から支援を考える力が養えるように講義を行った。
4.	授業科目名【看護研究の基礎】 本講義は4名の教員で担当した。研究の基本となる講義とグループワークで科目を構成している。研究テーマの選定から論文クリティーク、研究計画書の作成、依頼文、同意書の作成、調査票の作成、結果の集計、分析、抄録作成、発表まで行った。
5.	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 本科目は、保健福祉学部3学科合同の科目であり、アクティブシニアへの支援について、講義とPBL（事例検討）を通して検討した。本年度は、昨年度同様の事例で行った。講義では、高齢者の健康の維持増進のための高齢者の生活機能の評価や身体機能の維持に向けた講義を行った。3学科合同の特性を生かし、議論ができるように工夫した。
6.	授業科目名【保健福祉学入門】 看護の専門領域における多職種協働について講義を行った。入学して立てで、専門職についての学びは薄いですが、これから専門知識を学ぶものとして医療や福祉の現場では多くの専門職が存在し、連携を図ることを具体的に講義した。
7.	授業科目名【看護学（栄養学科）】 対象に応じた看護の方法論について、脳血管疾患、認知症、地域で療養する人々の看護について、多職種連携を含めながら講義を行った。解剖生理や疾患については履修しているため、理解度を確認しながら講義を行った。
8.	授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】 この実習では、高齢者施設で実習を行うため、対面でかかわる時間・人数の制限がある中で、コミュニケーションを中心に受け持ち高齢者の全体像を描くように指導を行った。また、施設内での多職種

	の協働連携に重点を置いた。認知力が低下している高齢者とのかかわりになるため、言語だけではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。
9.	授業科目名【看護総合演習・実習】 今年度は5人の学生を担当した。地域在住の高齢者の人生を「聞き書き」で記録し、冊子を作成する実習を実施した。実習に先立ち、傾聴に関する講義を行い、2-3人一組で高齢者の方にお話を伺う形式とした。学生は、対象者の人生における様々な経験や選択に触れ、それぞれの人生の多様性に気づくことができ、また、冊子を作成する際にも個別性を鑑み学生は工夫を凝らしていた。さらに、フィールドワークを行い、特定の地域の特徴や課題を見出し、その地域に住む住民の生活上や健康の課題を見出し、支援を検討した。
11.	授業科目名【地域生活支援実習】 今年度から始まった実習であり、地域生活支援論、地域連携協働支援論に続く実習である。高齢者施設やデイサービス、ケアプランセンター、訪問診療など地域に密着した多岐にわたる施設で実習を行った。実習機関との綿密な連携により、実習目標の共有を行い、学生個々の目標に合わせた実習環境を整備を行った。また、実習中は指導者と密な情報共有を図り、教育効果の向上に努めた。本実習は療養者個人から地域住民という広範な対象への包括的な支援を学ぶため、学生が現場での経験の意味を深く理解できるようあいまいな点の解消と経験の振り返りを重視した。
12.	授業科目名【早期看護実習】 基礎看護学、地域在宅看護学の領域の教員9名で担当した。昨年度と同様に、急性期病院と高齢者療養施設等（地域包括ケア・回復期病棟・高齢者施設・訪問看護師テーション）の2か所で幅広い看護活動の場を体験した。さらに病院と施設の実習の間に設けた学内日ではラベルワークを用いたグループ学習を行い、学生間の学びの共有と学びの進化を図った。最終日は実習発表会は、オープンキャンパスの来場者も見学する中、学生は緊張しつつも積極的に発表会の運営や質疑応答などを行い、貴重な経験になった。実習中は、臨床指導者の説明を理解しにくい場面が見られたため今後の学習内容との関連を説明し、既習内容の定着と活用を促した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001年4月～現在に至る	日本看護学教育学会	
2.	2003年4月～現在に至る	日本老年看護学会	
3.	2003年4月～現在に至る	日本老年社会科学会	
4.	2006年4月～現在に至る	日本認知症ケア学会	
5.	2008年6月～現在に至る	日本看護科学学会	
6.	2016年5月～現在に至る	公益社団法人「認知症の人と家族の会」	
7.	2021年11月～現在に至る	血管看護研究会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学	概要

				会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2025年3月	看護エコーの意義と活用への課題に関する文献検討	共著	西南女学院大学 紀要 Vol29	① 看護における POCUS の特徴を概観し、看護エコーの意義を文献的に検討し、その課題について考察した。 ② 溝部昌子、吉原悦子、金子由里 ③ p 23-36
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	看護師による POCUS 活用に関する研究—DVT 予防対策と安全なケアへの効果—	文部科学省科学研究費補助金 基盤（B）	○溝部昌子、 <u>吉原悦子</u> 、金子由里	
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～現在まで	北九州市障害支援区分認定審査会	委員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年 4 月～	地域連携室	室員
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	就職委員会	委員
3.	2024 年 4 月～	学力向上（国家試験対策）	学科役割
4.	2024 年 9 月 11 日	地域貢献活動「乳がん検診」	

福 祉 学 科

教授
荒木 剛

■ 学歴

1. 2021 年 久留米大学大学院 比較文化研究科 後期博士課程 修了

■ 学位

1. 2021 年 博士（保健福祉学）

■ 研究分野

1. 高齢者福祉
2. ソーシャルワーク
3. 実習教育（社会福祉士養成課程）

■ 研究キーワード

1. 地域包括支援センター
2. 地域を基盤としたソーシャルワーク
3. ソーシャルワーク実習

■ 研究課題

1. 高齢者福祉領域における地域を基盤としたソーシャルワークのあり方を検討する。
2. 社会福祉士養成課程における実習教育のあり方を検討する。

■ 担当授業科目

1. 福祉入門（1 年前期）必修
2. 基礎実習（1 年通年）選択
3. 高齢者福祉（2 年前期）必修
4. ソーシャルワーク実習指導 I（2 年通年）選択
5. ソーシャルワーク実習 I（2 年後期）選択
6. ソーシャルワーク演習（専門）I（2 年前期）選択
7. ソーシャルワーク演習（専門）II（2 年後期）選択
8. 高齢者支援学 I（2 年前期）（保健福祉学部）選択
9. 社会福祉の原理と政策 I（3 年前期）必修
10. 社会福祉の原理と政策 II（3 年後期）必修
11. ソーシャルワーク実習指導 II（3 年通年）選択
12. ソーシャルワーク実習 II（3 年通年）選択
13. ソーシャルワーク演習（専門）III（3 年前期）選択
14. ソーシャルワーク演習（専門）IV（3 年後期）選択
15. 専門研究 II（4 年通年）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【福祉入門】 本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、さまざまな社会福祉の実践現場を学び、今後の学習や実習への動機づけを行うことを目的としている。講義では、学生が社会に生じる福祉課題の現状とその背景を理解すると共に、対人援助職の魅力とやりがいを具体的にイメージできるよう工夫した。また、教授内容の検討や外部講師との日程調整など、授業全体の運営を担った。
2.	授業科目名【基礎実習】 本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、学生が対人援助のフィールドで体験型学習（100 時間）を行うものである。講義は学生を 2 グループに分け、担当制により実施した。実習前には、自己学習により実習先や利用者の特性について理解を深めさせ、実習への準備性と動機が高まるよう工夫した。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験からの学びや気づきを深めさせた。
3.	授業科目名【高齢者福祉】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられている。講義では、単元ごとに教科書の内容を踏まえたレジュメを作成し、学生の内容理解を助けた。また、高齢者福祉に関する最新の情報提供にも努めた。毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努め、理解が不十分と判断された内容については、次の授業時に再度解説を行った。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 本科目は、社会福祉士の指定科目であり、ソーシャルワーク実習Ⅰの事前・実習中・事後指導を主な内容としている。高齢者福祉と地域福祉領域を担当し、実習前指導では、自己学習やグループ学習、DVD 等の視覚教材により、実習現場で必要となる知識・支援技術の習得に努めた。また、実習計画書、個人紹介票、誓約書などの作成指導を通して、実習への準備性と動機を高めさせた。実習後指導では、個別面談、自己評価、実習報告会の実施により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。
5.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅰ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられ、福祉施設・事業所等において学外実習（60 時間）を行うものである。高齢者福祉と地域福祉領域を担当し、実習先との日程調整や実習プログラムの確認等を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生個々の状況について実習指導者と情報を共有し、各人が円滑かつ適切に実習に取り組めるよう配慮した。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられている。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点や姿勢、ソーシャルワークの支援過程について教授した。また、支援事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを実践的に理解・習得できるよう工夫した。 ※ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、4 グループのローテーションによる授業展開となっており、各科目の教授内容・方法は同じとなっている。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられており、地域福祉の基盤整備に関わる実践について教授するものである。講義では、調べ学習、グループ学習、事例検討などを用いて、地域特性や課題の理解、地域づくりに必要なソーシャルワークの知識・技術の習得に努めた。また、実習後の講義では、各人の実習体験の共有を行うとともに、それらを一般化し、ソーシャルワークの視点から知識・技術として習得できるよう指導した。

8.	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 本科目は、保健福祉学部3学科による合同講義であり、アクティブ高齢者への支援について講義（3回）とPBL（5回）を通して教授するものである。講義では、高齢者福祉制度（主に介護保険制度）について解説し、他学科の学生も理解が深まるよう説明の内容や方法、配布資料を工夫した。また、PBLにおいては、3学科の学生が多職種連携の視点から議論を深められるよう助言を行った。
9.	授業科目名【社会福祉の原理と政策Ⅰ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられ、現代の社会状況や社会福祉の史的展開が主な内容となっている。学生にとってはやや難易度が高い科目であり、講義では内容理解を助けるためのレジュメの作成や図解を用いるなどの工夫を行った。また、毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めるとともに、理解が不十分と判断された内容については、次の授業時に再度解説を行った。
10.	授業科目名【社会福祉の原理と政策Ⅱ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられ、社会福祉の理論や政策論が主な内容となっている。学生にとってはやや難易度が高い科目であり、講義では内容理解を助けるためのレジュメの作成や図解を用いるなどの工夫を行った。また、毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めるとともに、理解が不十分と判断された内容については、次の授業時に再度解説を行った。
11.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 本科目は、社会福祉士の指定科目であり、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前・実習中・事後指導を主な内容としている。高齢者福祉と地域福祉領域を担当し、実習前指導では、自己学習やグループ学習、DVD等の視覚教材により、実習現場で必要となる知識・支援技術の習得に努めた。また、実習計画書、個人紹介票、誓約書などの作成指導を通して、実習への準備性と動機を高めた。実習後指導では、個別面談、自己評価、実習報告会の実施により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。
12.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅱ】 本科目は、社会福祉士の指定科目に位置づけられており、福祉施設・事業所等において学外実習（180時間）を行うものである。高齢者福祉と地域福祉領域を担当し、実習先との日程調整や実習プログラムの確認等を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生個々の状況について実習指導者と情報を共有し、各人が円滑かつ適切に実習に取り組めるよう配慮した。
13.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 本科目では、学生自身が研究課題を設定し、レポートの作成に取り組んだ。学生指導においては、継続的・意欲的に学習できるよう動機づけと進捗状況に合わせた助言や情報提供を心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1998年4月～現在に至る	日本社会福祉士会	
2.	2002年3月～現在に至る	日本社会福祉学会	
3.	2007年3月～現在に至る	日本地域福祉学会	
4.	2007年3月～現在に至る	日本介護福祉学会	
5.	2008年1月～現在に至る	日本ケアマネジメント学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.	小地域における住民主体による地域福祉推進のガバナンスに関する研究－地域づくりの参加と協働の場に焦点を当てて－	保健福祉学部附属研究所	○荒木剛 （村山浩一郎）	215,000
2.				
3.				
（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.				
2.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2009 年 4 月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 権利擁護・市民後見センター運用委員会	委員
2.	2018 年 4 月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 総合企画委員会	委員
3.	2017 年 4 月～現在に至る	社会福祉法人兼恵園 評議員会	評議員
4.	2021 年 6 月～現在に至る	社会福祉法人北九州市福祉事業団 評議員会	評議員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～現在に至る	入試会議	
2.	2021 年 4 月～現在に至る	地域連携室	室長
3.	2024 年 4 月～現在に至る	福祉学科	学科長

■ 学歴

1. 1994 年 筑波大学大学院体育科学研究科体育科学専攻（博士課程）修了

■ 学位

1. 1994 年 博士（体育科学）

■ 研究分野

1. 運動生理学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 運動
2. 持久性パフォーマンス
3. メンタルヘルス

■ 研究課題

1. 持久性競技のパフォーマンス向上に関して、運動生理学・栄養学の視点から考察する。
2. 運動によるメンタルヘルス改善のメカニズムに関して、広く文献研究を行い、総合的に考察する。

■ 担当授業科目

1. 運動と健康（前期）（看護・福祉学科）必修
2. チームスポーツ（前期）（看護・福祉学科）選択
3. 生涯スポーツ（後期）（看護・福祉学科）選択
4. 運動処方論（後期）（福祉学科）選択
5. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科）必修
6. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）必修
7. 母性の運動科学（前期）（助産別科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【運動と健康】
	生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。また、最新情報を提供するように心掛けた。
	授業の終わりに、感想、質問等を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で回答するようにした。また、授業内容に関して理解したことを毎回クラスルームを通して提出してもらい、理

	解度をチェックした。
2.	授業科目名【チームスポーツ】 カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。また、具体的な活動内容とチームとしての課題をチーム記録表に記録させ、次回の活動に繋げさせた。
3.	授業科目名【生涯スポーツ】 カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。また、ウォーキング・ジョギングは学生個人の体調や体力レベルに合ったペース設定で行わせた。
4.	授業科目名【運動処方論】 学生の理解度をチェックしながら授業を進めた。 授業の終わりに、感想、質問等を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で回答するようにした。また、授業内容に関して理解したことを毎回クラスルームを通して提出してもらい、理解度をチェックした。
5.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 様々な健康や体力に関連する記事や動画を用いて、興味関心の幅を広げた。 記事や動画内容についての理解度を確認し、また知らなかった用語等について調べさせ、より多くの知識を獲得できるよう促した。
6.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。 学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。
7.	授業科目名【母性の運動科学】 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 授業の終わりに、授業内容に関して理解したことや感想、質問をクラスルームを通して提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1988 年～現在に至る	日本体力医学会	評議員（1999 年～現在に至る）
2.	American College of Medicine	1993 年 4 月～現在に至る	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.	2025年3月	現代人のからだと心の健康-運動の意義と応用-第2版第2刷	共	杏林書院	①運動(身体活動)と健康とのかかわりを中心題材として扱い、大学におけるスポーツ・健康科学の講義用テキストとして作成されたものである。 ②編者名 平木場浩二 共著者名 西村秀樹, 稲木光晴, 他2名 ③担当部分 第2章 運動と身体の健康(P49-P84) 総頁数 P179 ④B5判
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	第一警備スポーツセンター戸畑	マラソン教室アドバイザー
2.	2024 年 4 月～現在に至る	公益財団法人福岡県スポーツ振興センター	スポーツアドバイザー
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	入試会議	
2.	2019 年 4 月～現在に至る	衛生委員会	
3.	2018 年 4 月～現在に至る	保健福祉学研究所 運営委員会	

教授

今村 浩司

■ 学歴

1. 九州大学 大学院 医学系学府 医療経営・管理学専攻 専門職学位課程 修了

■ 学位

1. 医療経営・管理学修士（専門職）
2. 修士（福祉社会）

■ 研究分野

1. メンタルヘルス（精神保健・こころの健康）領域におけるソーシャルワーク実践
2. 刑事司法領域におけるソーシャルワーク実践
3. 障害者・高齢者の地域移行支援・地域定着支援・地域包括支援

■ 研究キーワード

1. メンタルヘルスソーシャルワーク
2. 臨床実践・生活支援・地域支援
3. 更生保護・成年後見・触法障害者

■ 研究課題

1. メンタルヘルス領域における地域生活支援に関する研究
2. 精神障害者の成年後見に関する研究
3. 触法障害者・高齢者の地域定着に関する研究
4. 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究
5. 諸外国におけるメンタルヘルスサポートシステムの歴史的変遷の研究

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの基盤と専門職（福祉学科 1 年前期必修 2 単位）
2. ソーシャルワークの基盤と専門職（社会専門）（福祉学科 1 年後期必修 2 単位）
3. 福祉入門（福祉学科 1 年前期必修 2 単位）
4. 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（福祉学科 3 年後期選択 2 単位）
5. 精神障害者地域生活支援論（福祉学科 4 年後期選択 2 単位）
6. ソーシャルワーク実習指導 A（精神）（福祉学科 3 年通年選択 2 単位）
7. ソーシャルワーク実習指導 B（精神）（福祉学科 4 年通年選択 2 単位）
8. ソーシャルワーク演習 A（精神）（福祉学科 2 年後期選択 1 単位）
9. ソーシャルワーク演習 C（精神）（福祉学科 4 年後期選択 1 単位）
10. ソーシャルワーク実習 A（精神）（福祉学科 3 年選択 4 単位）
11. ソーシャルワーク実習 B（精神）（福祉学科 4 年選択 4 単位）

12. ボランティア概論（保健福祉学部 of 看護学科・福祉学科・栄養学科 1 年前期選択 1 単位）
13. ボランティア概論（人文学部の英語学科・観光文化学科 1 年前期選択 1 単位）
14. 専門研究Ⅰ（福祉学科 3 年通年必修 2 単位）
15. 専門研究Ⅱ（福祉学科 4 年通年必修 2 単位）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワークの基盤と専門職】および【ソーシャルワークの基盤と専門職（社会専門）】 福祉学科 1 年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。新カリ移行で、通年講義から半期ごとでの単元が変わった。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、高等学校の福祉科教諭やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーの機能を使用して理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを実施し、理解を深めた。
2.	授業科目名【福祉入門】 対人サービスを行う福祉専門職（ソーシャルワーカー）養成のために、福祉学科 4 名の教員で、現実的な福祉実践臨床現場における活動などを、それぞれの設定したテーマに沿って、臨場感溢れリアリティな内容の授業を提供し、①障害福祉、②司法福祉、③低所得者福祉、④子ども家庭福祉、⑤災害福祉を担当した。福祉専門職が実践にてどのような活動を展開しているのかを伝え、そのために必要なコミュニケーション、自己表現、チームワーク等の技能の習得の必要性を理解することを中心に展開させた。リアクションペーパーの機能を利用して、次の担当の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
3.	授業科目名【現代の精神保健の課題と支援Ⅱ】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職課程においても必修の科目である。可能な限り臨床的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士を受験しない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパーの機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
4.	授業科目名【精神障害者地域生活支援論】 精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4 年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアク

	ションペーパーの機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
5.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導A】 精神保健福祉士レーン担当の2人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導B】 上記同様2人の教員合同で行い、実習Iを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク演習A】 メンタルヘルスの専門家である、精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、まずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませよう心掛けた。
8.	授業科目名【ソーシャルワーク演習C】 メンタルヘルスの専門家である、精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。
9.	授業科目名【ボランティア概論】 人間総合科学の中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、さまざまな角度からのリアリティにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。
10.	授業科目名【専門研究I】 3年のゼミ生に対して、精神保健福祉士・社会福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、精神科病院や福祉施設等の見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的イメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い参加を促進した。さらには、社会福祉士、精

	神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。
11.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 4年のゼミ生に対して専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士・社会福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスをを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格を含め、多数輩出することができた。今年度も、ゼミ生のダブル合格者多数の結果であったので、次年度に向けても同様に取り組みたい。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994年～現在	日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年4月～2020年3月）
2	1996年～現在	日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）
3	1996年～現在	日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）
4	2006年～現在	日本病院・地域精神医学会	
5	2008年～現在	日本精神障害リハビリテーション学会	
6	2012年～現在	日本精神保健福祉学会	
7	2012年～現在	九州精神神経学会	
8	2013年～現在	日本更生保護学会	
9	2018年～現在	日本医療ソーシャルワーク学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2025年1月	「権利擁護を支える法制度」（最新・社会福祉養成講座・精神保健福祉士養成講座9）	共	中央法規	① 社会福祉士・精神保健福祉士養成の「権利擁護を支える法制度」のテキストである。権利擁護を支える法制度に関する意思決定支援や成年後見制度について、福祉専門職の視点からまとめた。 ② 編集 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 ③ 担当部分 「第6章成年後見制度 第

					1節成年後見制度の概要 第2節後見の概要 第3節保佐の概要 第4節補助の概要 第5節任意後見の概要」を執筆 ④ Pp192～213 総頁数 239 頁 A 4 版
(報告)					
1.	2024年8月	「北九州市教育委員会事務点検・評価報告書(令和5年度実績)」	共	北九州市教育委員会	①北九州市教育委員会の業務に関する事務の管理及び執行状況の点検評価を、有識者の立場で評価をまとめた報告書である。 ②総頁数 80 頁
(学会発表)					
1.	なし				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者	交付決定額 (単位：円)
1.	「成年後見人等の死後事務の実態についての基礎的研究」	日本学術振興会科学研究費助成事業（挑戦的研究（萌芽））	○古野みはる（福岡医療短期大学） 今村浩司（西南女学院大学） 笠修彰（西南女学院大学短期大学部）	4,546,000
(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
2001年4月～2020年3月 2001年4月～ 2012年7月～	日本精神保健福祉士協会 福岡県精神保健福祉士協会 福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	理事 会長（代表理事） 顧問

2002 年 9 月～ 2006 年 4 月～	北九州地区精神保健福祉士協会 北九州地区社会福祉専門職 5 団体連絡協議会	会長 代表世話人
2005 年 10 月～ 2006 年 3 月～ 2005 年 4 月～	北九州市手をつなぐ育成会 北九州成年後見センター 北九州市障害福祉ボランティア協会	苦情解決委員 理事 理事
2001 年 4 月～ 2005 年 7 月～2020 年 3 月 2012 年 4 月～2021 年 3 月 2005 年 4 月～2019 年 3 月 2006 年 4 月～	北九州精神保健福祉事業協会 福岡地方裁判所 北九州市保健福祉局 北九州市精神保健福祉審議会 北九州市障害支援区分認定審査会	評議員 精神保健参与員 オンブズパーソン 委員 委員
2008 年 4 月～	北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員
2008 年 4 月～	福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員
2006 年 4 月～	北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）
2008 年 7 月～	北九州市要保護児童対策地域協議会	委員
2013 年 4 月～ 2013 年 4 月～ 2014 年 6 月～2021 年 3 月	福岡県精神保健福祉審議会 福岡県精神医療審査会 厚生労働省（社会福祉振興・試験センター） 精神保健福祉士国家試験委員会	委員 委員 委員
2016 年 8 月～	北九州市障害者差別解消法委員会	委員長
2021 年 3 月～ 2021 年 3 月～ 2022 年 7 月～	北九州市社会福祉協議会 中間市社会福祉協議会 北九州あゆみの会	評議員 評議員 評議員

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～	学校法人西南女学院	評議員
2.	2021 年 4 月～	西南女学院大学・短期大学部	評議会・運営協議会メンバー
3.	2021 年 4 月～	西南女学院大学・短期大学部	入試部長・学生募集委員長
4.		西南女学院大学・短期大学部	地域連携室室員

准教授
上村 眞生

■ 学歴

1. 2012 年 広島大学博士課程後期 修了

■ 学位

1. 2012 年 博士（教育学）

■ 研究分野

1. 幼児教育学
2. 保育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 保育の質
2. 保育者のストレス・メンタルヘルス
3. 保育者の研修

■ 研究課題

1. 保育者のストレスマネジメント
2. 保育者の研修効果に関する研究

■ 担当授業科目

1. 保育原理（前期）
2. 子どもの理解と援助（前期）
3. 保育内容 環境（前期）
4. 保育内容の理解と方法Ⅲ（前期）
5. 保育課程論（後期）
6. 保育内容 総論（前期）
7. 保育内容 ことば（後期）
8. 保育内容の理解と方法Ⅳ（後期）
9. 保育実践演習
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【保育原理】
	保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないよう、関連する例題、デ

	ッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。
2.	授業科目名【子どもの理解と援助】 子どもを理解するための理論と方法について、教授した。種々の保育論の解説、学生による発表に加え、子ども理解のための観察技法、記録法について解説し、観察技術の獲得を目指した。
3.	授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅲ】 造形的表現技術の獲得を目的として、各技法の解説・実演を通して、保育における表現活動の展開方法について教授を行った。
4.	授業科目名【保育内容 環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。
5.	授業科目名【保育内容 総論】 保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。
6.	授業科目名【保育内容 ことば】 保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。発達を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。
7.	授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】 保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。
8.	授業科目名【保育課程論】 保育を実施する上で必要となる、カリキュラム論について解説し、保育の中で展開の仕方について解説した。合わせて、子どもの発達について、学生にプレゼンテーションを課し、定型発達児と障害のある子どもの保育に展開についても解説した。
9.	授業科目名【保育実践演習】 保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005年6月～現在に至る	日本保育学会	特になし
2.	2006年7月～現在に至る	日本小児保健協会	特になし
3.	2007年8月～現在に至る	日本保育園保健学会	特になし

	る		
4.	2018年5月～現在に至る	日本乳幼児教育学会	特になし

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2025年3月	福岡県保育士会発 連絡帳スタディブック — 一家庭に寄り添う保育をめざして —	共	ミネルヴァ書房	福岡県保育士会研究部会の3年にわたる連絡帳に関する研究を基に、まとめられた本。日々保育者が連絡帳を書くために必要な内容及び、自主研修教材が附されている。第1部、理論編を執筆。
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024年12月	Physical Activity Assessment for Daycare Teachers Reflecting Childcare Contents	共	2024 IEEE Global Conference on Consumer Electronics	幼児の身体活動について、保育内容との関連について検討した。保育内容によってはWHOが推奨する基準を満たすことができないケースがあり、日々の活動について検討する必要があることが明らかとなった。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	幼児の身体活動が健康に及ぼす影響に関する研究	共同研究費	○上村眞生 樋口由貴子 （田中沙織） 原田利枝	1,231,000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等
1.	2017 年～現在に至る	指定講師	福岡県保育士等キャリアアップ研修
2.	2018 年～現在に至る	研修コーディネーター	福岡県保育協会遠賀中間地区
3.	2020 年～現在に至る	専門委員	北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会専門委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 （内容）	役職名等
1.			
2.			
3.			

教授

岡田 和敏

■ 学歴

1. 1984 年 3 月 佛教大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻（博士前期課程）修了（社会学修士）

■ 学位

1. 修士（社会学）

■ 研究分野

1. 社会福祉学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 保健医療ソーシャルワーク
- 2.
- 3.

■ 研究課題

1. 障害者、難病患者の法制度における諸課題
- 2.

■ 担当授業科目

1. 保健医療と福祉（前期）（社会福祉学科）選択
2. 保健医療と福祉（前期）（社会福祉学科）選択
3. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（通年）（社会福祉学科）選択
4. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）（社会福祉学科）選択
5. 専門研究Ⅱ（通年）（社会福祉学科）必修
6. 社会福祉概説（後期）（栄養学科）必修
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【保健医療と福祉】
	この科目は教養としてではなく、将来的に社会福祉専門職として就くことを目指すのであれば、医療

	領域を目指す者だけが学ばば良いのではない。自分自身、家族を含め、関わりをもつ子ども、高齢者、障害者一人ひとりの健康面で病気、ケガをしない者はいないを考える。他人事ではなく我がごととして理解しておくことが求められる問題であると説明し講義した。また、現実社会において起きている事象に関心を持ち、突然に襲う病気やケガがもとで経済的、社会的、精神的な問題を抱え苦しんでいる対象者と出会ってから考えるのではなく人々の実情を理解できるよう具体的に指導した。
2.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう医療機関の機能、そこに働く専門職、保健医療制度、倫理綱領などをグループで調べさせ発表するなど基本的な学習を中心に講義、演習をおこなった。
3.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 医療機関における社会的な問題を抱える人々の生活課題を解決調整する意味について感じ、考えることを学生らに求め講義した。 医療機関での実習に必要なと思われる知識と技術について参考資料の提示と講義を行った。
4.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 基本的には学生自らが研究領域、テーマを決め主体的、積極的に研究の成果をまとめる取り組みを指示した。また、研究に必要な論文・研究レポートの作成について図書館でのガイダンスを受講させ、合わせて学生の研究に必要な資料を通して学ばせた。
5.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 福祉学科の教育内容と幾分指導上異なるものの、生活者として、また将来的に栄養の専門職として人々に関わることや、更に国家試験出題範囲として試験に臨むことを意識して社会福祉、社会保障を身近なこととして理解出来るよう医療・福祉現場での話を取り入れながら講義した。

学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1990年10月～現在に至る	日本社会福祉学会	代議員 2024年5月～
2.	1985年4月～現在に至る	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	正会員
3.	1998年6月～現在に至る	佐賀県医療ソーシャルワーカー協会	正会員
4.	1998年4月～現在に至る	日本医療ソーシャルワーカー協会	正会員
5.	2010年9月～現在に至る	日本医療ソーシャルワーク学会	正会員
6.	2001年4月～現在に至る	日本キリスト教社会福祉学会	正会員

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日	北九州市民生委員推薦委員会	
2.	2005 年 8 月～現在に至る	北九州市福祉有償運送運営協議会	会長
3.	2013 年 5 月～現在に至る	公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長
4.	2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日	社会福祉法人 北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員
5.	2003 年 4 月～現在に至る	社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長
6.	2003 年 4 月～現在に至る	社会福祉法人孝徳会入所判定委員会	委員長
8.	2015 年 6 月 15 日～現在	社会福祉法人 絆の会	理事

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月 1 日～2026 年 3 月末日	公開講座委員会	委員長
2.			
3.			

准教授

梶原 浩介

■ 学歴

1. 2017 年 熊本学園大学大学院 社会福祉学研究科社会福祉学専攻(博士後期課程)修了

■ 学位

1. 2017 年 博士(社会福祉学)

■ 研究分野

1. 社会福祉学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 精神保健福祉
2. 障害者福祉(知的障害・発達障害)
3. 子ども家庭福祉

■ 研究課題

1. 地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、精神疾患等)に各当事者(家族1人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上で生じる語りを対象として、主に質的研究・量的研究の方法を用いて社会問題の現状と課題を明らかにするとともに、ソーシャルワーカーとして各当事者に対する支援に求められる知識・技術について明らかにすることを目指している。特に、家族が抱える生活課題の現状及び傾向、家族支援における視点、援助技術の生成等について社会福祉学の観点により研究している。
- 2.

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワーク演習(後期)(福祉学科) 必修
2. 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ(前期)(福祉学科) 必修
3. 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ(後期)(福祉学科) 必修
4. 精神保健福祉制度論(後期)(福祉学科) 選択
5. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ(前期)(福祉学科) 選択
6. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ(後期)(福祉学科) 選択
7. 健康相談(後期)(看護学科) 選択
8. 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ(前期)(福祉学科) 選択
9. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ(前期)(福祉学科) 選択
10. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ(後期)(福祉学科) 選択

11. ソーシャルワーク実習指導 A（通年）（福祉学科）選択
12. ソーシャルワーク実習 A（通年）（福祉学科）選択
13. 専門研究 I（通年）（福祉学科）必修
14. ソーシャルワーク実習指導 B（通年）（福祉学科）選択
15. ソーシャルワーク実習 B（通年）（福祉学科）選択
16. 専門研究 II（通年）（福祉学科）必修
17. 国家試験対策(地域福祉と包括的支援体制 I・IIを担当)（集中）（福祉学科）(学科主催の対策指導)

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 近年の社会福祉に関する問題を取り上げ、その事例を基にグループワークを通して他者と意見を共有しながら、自分なりの理解を深めていく機会をできるだけ確保した。学生同士の振り返りを通して、個別の内容をグループ全体に共有することにより、学生自身の気づきを共有できる時間を設けた。福祉的課題・問題の理解については、主に複合課題を抱える家族の問題を事例として取り上げ、自己覚知・他者理解の促し、支援者に求められる基本的なコミュニケーション技術等について学生同士の関わりを生かして理解を深めた。
2.	授業科目名【地域福祉と包括的支援体制 I・II】 地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。前期は、地域福祉の概念、行政システム、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉教育、コミュニティワーク等を中心に指導に従事した。後期は、コミュニティソーシャルワーク、事例教材等を基にした地域福祉の実践について触れ、地域福祉の推進の在り方について指導に従事した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
3.	授業科目名【精神保健福祉制度論】 メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク演習(専門) I～IV】 本科目は、社会福祉士指定科目の 1 つである。講義では、複合課題を抱える家族への支援事例を用いて、ケースワークの展開プロセス、アセスメント技法、地域組織化活動の手法等について教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。
5.	授業科目名【健康相談】 本科目は、看護学科のうち養護教諭を目指す学生を対象に、福祉専門職の立場により、学校に通う児童生徒が抱える問題（不登校・虐待、貧困など）の現状と課題、家族支援の在り方、校内での支援体制の構築、養護教諭として地域の支援機関との連携・協働の在り方について指導に従事した。

	文部科学省の資料の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
6.	授業科目名【現代の精神保健の課題と支援Ⅰ】 本科目は、メンタルヘルス（精神保健）に関する現象・問題などを体系的に捉え、対応策や予防策を見出していくための学問となる。精神的な健康や精神障害等が、当事者を取り巻く生活環境と強い関連性があることから、その対応と予防においても、さまざまな要素を同時的、継時的にみてい上で、精神保健の概要、現代の精神保健分野の動向、基本的な考え方、ライフサイクルにおける精神保健を概観するとともに、精神保健の視点からみた家族、学校、地域における精神保健活動と精神保健対策治療的アプローチ、法律等について、公的資料等の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導 A】 福祉学科 3 年生を対象にした実習科目。精神科医療機関への実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。
8.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を高め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。
9.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導 B】 福祉学科 4 年生を対象にした実習科目。3 年次の医療機関の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指していけるよう、4 年次の地域実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。
10.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。
11.	授業科目名【国家試験対策(地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱを担当)(学科主催の対策指導)】 本科目は、4 年次の社会福祉士国家試験の受験を目指す学生を対象に指導に従事した。講義では、地域福祉論を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014 年 6 月～現在に至る	日本社会福祉学会	九州地域部会事務局・事務局員 (2018 年 6 月～2022 年 6 月迄) 国際学術交流促進委員会・委員兼総務(2024 年 6 月～現在に至る) 日本社会福祉学会第 72 回秋季大会

			国際学術交流促進委員会主催 学術シンポジウム・実行委員兼コーディネーター (2024 年 6 月～2024 年 10 月迄)
2.	2019 年 6 月～現在に至る	日本地域福祉学会	日本地域福祉学会全国大会第 36 回 年次大会事務局・実行委員兼コーディネーター (2020 年 6 月～2022 年 6 月迄)
3.	2014 年 7 月～現在に至る	日本ソーシャルワーク学会	正会員
4.	2012 年 5 月～現在に至る	日本学校ソーシャルワーク学会	日本学校ソーシャルワーク学会全国大会第 15 回熊本大会事務局・運営委員 (2021 年 6 月～2021 年 8 月迄)

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2024. 4	イタリア ボローニャにおける社会的協同組合の状況-地域包括ケアにおける高齢者福祉に関する取り組みを中心に-	共	地域ケアリング 4 月号 vol.26、 No.4	① 本論文は、イタリア共和国エミリア・ロマーニャ州ボローニャ市にある社会的協同組合の（１）ソシエタ・ドルチェ及び（２）ベアータ・ベルジーネ・デッレ・グラッツィエで実施した高齢者福祉活動に関するインタビュー調査の結果を報告した。 ② 共著者名 本郷 秀和、 <u>梶原 浩介</u> 、畑 香理、大場 敬太 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能。
2.	2024. 7	ソーシャルワーカー養成教育を巡る状況①＜イタリア編	共	地域ケアリング 7 月号 vol.26、 No.8	① 本論文では、ヨーロッパ最古の大学といわれるイタリア共和国エミリア・ロマーニャ州ボローニャ市にあるボローニャ大学におけるソーシャルワーク教育(社会福祉学部)の概要とボローニャ市における福祉相談の体制について報告

					する。具体的には 2023 年 9 月に実施した①ボローニャ大学(社会福祉学部)の教授 2 名及び②ボローニャ市役所(社会福祉部門)部門責任者及び担当者で実施したインタビュー調査結果の要約を紹介したい。 ② 共著者名 本郷 秀和、畑 香理、 梶原 浩介 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能。
3.					
(その他)					
1.	2025. 3	地域包括ケアシステム推進に伴う介護系 NPO の役割とソーシャルワーク・制度外サービスの役割と開発を中心に-(報告書)	共 (研究分担者・編集)	本郷秀和・梶原浩介 編集・発行,(総ページ数)227 頁 (※2019 - 2023 年度,科学研究費補助金【基盤研究 C】最終報告書)	① 本報告書は、2019-2023 年度の科学研究費補助金による研究成果報告書である。第 I 部では「インタビュー調査にみる介護系 NPO (介護保険事業を行う NPO 法人)の概要とサービス開発プロセス」(全 3 章)、第 II 部では「2022 年度介護系 NPO 全国調査の概要と結果」(全 5 章)、第 III 部では「イタリアのソーシャルワーカー養成と社会的協同組合の状況-イタリア・ボローニャ市での調査事例-」(全 5 章)である。筆者は共同研究者として、研究代表者等と共に、担当章の分担執筆及び報告書編集等を行った。執筆箇所は、第 I 部の第 2 章第 5・6・11 節、第 3 章(共著部分)、第 III 部の第 2・3 章である。 ② 共著者名 本郷秀和・梶原浩介・松岡佐智・島崎剛・畑香理・田中将太・青柳壮悟・大場敬太 ③ 担当頁 16-21,29-30,30-48(共著部分),207-220 頁。
2.	2025. 3	地域共生社会の推進に伴う、家族会の役割とソーシャルワ	共 (研究代表者・編集)	梶原浩介 編集・発行,(総ページ数)150 頁 (※2019 - 2023 年度,科学研究	① 本報告書は、2019 - 2023 年度の科学研究費補助金による研究成果報告書である。第 I 部では「地域共生社会と制度の狭間の問題(主に、ひきこもり)の概要と家族支援の考察」(全 2 章)、第 II 部

		ーク-ひきこもり支援における現状・課題と家族会の組織化を中心に-(報告書)		費補助金【若手研究】最終報告書)	では「インタビュー調査にみる機関別のひきこもり支援における組織概要と家族会の組織化に関する考察」(全2章)、第Ⅲ部では「アンケート調査にみる機関別の現状・課題、社会的役割、ソーシャルワーカーの役割・技能の結果」(全3章)、第Ⅳ部では「イタリアの社会的協同組合とひきこもり問題と支援の状況」(全3章)である。筆者は研究代表者として報告書全体のまとめを行った。執筆箇所は、はじめに、第Ⅰ部-第1章、第Ⅰ部-第2章(分担執筆)、第Ⅱ部-第3・4章、第Ⅲ部-第5・6・7章、第Ⅳ部-第8章、第Ⅳ部-第10章、おわりにである。 ② 共著者名 <u>梶原浩介</u> ・本郷秀和 ③ 担当頁 1-2,4-20,21-31 頁(分担執筆部分),33-54,56-132,134,140-144,145-150 頁。
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割	日本学術振興会	研究代表者(○本郷秀和)、分担研究者(鬼崎信好、村山浩一郎、松岡佐智、畑香理、田中将太、島崎剛)、 <u>梶原浩介</u>	4,420,000 円
2.				

3.				

(2) 個人研究

	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問題に対するソーシャルワーカーの役割と技能	日本学術振興会	2,210,000 円	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014 年 11 月～現在に至る	熊本県精神保健福祉士協会 SSW 委員会	
2.	2014 年 5 月～現在に至る	日本精神保健福祉士協会	会員
3.	2019 年 12 月～現在に至る	福岡県精神保健福祉士協会	実習指導委員会 (2021 年 4 月～現在に至る)
4.	2019 年 12 月～現在に至る	北九州地区精神保健福祉士協会	会員
5.	2019 年 12 月～現在に至る	北九州市民カレッジ企画運営委員	企画運営委員
6.	2021 年 4 月～現在に至る	北九州市福祉事業団 福祉サービス苦情解決体制・第三者合同委員会	専門委員
7.	2021 年 4 月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター 運営委員会	運営委員
8.	2021 年 6 月～現在に至る	NPO 法人障害者支援要会 カフェ・ラポール	監事
9.	2021 年 7 月～現在に至る	北九州市発達支援センターつばさ・ケース検討会	アドバイザー
10.	2022 年 4 月～現在に至る	宮若市地域福祉計画策定委員会	委員長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等

1.	2019 年 4 月～現在に至る	学生アドバイザー	アドバイザー教員
2.	2019 年 4 月～2021 年 3 月迄	宗教委員会	委員、副委員長(2020 年度)
3.	2020 年 4 月～現在に至る	地域連携室	室員
4.	2021 年 4 月～2022 年 3 月迄	国際交流委員会	委員
5.	2021 年 4 月～2022 年 3 月迄	ハラスメント相談員	相談員
6.	2022 年 4 月～2023 年 3 月迄	教職員懇談会	委員
7.	2022 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室	アドバイザー
8.	2024 年 4 月～現在に至る	学生活動グループ STEP UP	管理責任者(2 年任期)

講師

金谷 めぐみ

■ 学歴

1. 日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程

■ 学位

1. 修士（芸術学）

■ 研究分野

1. 声楽発声研究
2. 子どもの音楽
3. 教会音楽

■ 研究キーワード

1. 歌唱技術
2. 子どもの歌
3. 讃美歌

■ 研究課題

1. 歌唱における発声および技術の習得について W.A.モーツァルトの声楽作品から検討する。
2. 子どもの音楽表現活動の指導法について検討する。
3. キリスト教音楽の歴史と讃美歌について文献的考察を行う。

■ 担当授業科目

1. キリスト教と西南女学院のあゆみ（前期1回）（保健福祉学部,人文学部）必修
2. キリスト教と文化（後期2回）（保健福祉学部,人文学部）選択
3. 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉学科）必修
4. 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科）必修
5. 保育実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科）選択必修
6. 保育実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科）選択必修
7. 保育実習Ⅰ（通年）（福祉学科）選択必修
8. 保育実習Ⅱ（通年）（福祉学科）選択必修
9. 保育内容・表現（前期）（福祉学科）選択必修
10. 保育内容の理解と方法Ⅰ（前期）選択必修
11. 保育内容の理解と方法Ⅱ（後期）（福祉学科）選択必修
12. 保育実践演習（通年）（福祉学科）選択必修
13. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科）必修
14. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】 キリスト教音楽の歴史を概観し、日本における讃美歌集の編纂過程について解説した。キリスト教教育を柱とする本学において讃美歌を歌う意義について解説し、西南女学院ゆかりの讃美歌を紹介した。
2.	授業科目名【キリスト教と文化】 教会音楽の成り立ちについて解説した。教会暦について解説し、1回目は待降節および降誕節に関連する音楽について、2回目は復活祭について解説を行った。クリスマスおよびイースターの音楽を紹介し、受講者と一緒に歌いキリスト教音楽に親しむ機会を設けた。
3.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 初年次セミナーⅠでは、大学と高校の学びの違いについて説明し、学生自らが積極的に課題を探究していくために、スタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図った。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索の演習を行うことで、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。
4.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力を獲得するために自らが積極的に課題を探究していく課題を設定し、学びの質を高めた。初年次セミナーⅠのスタディ・スキルズを強化および発展させ、物事を多面的・多角的に捉えて思考し、それらの考えを伝える力を身につけるための演習を行った。
5.	授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 保育実習指導Ⅰでは、保育実習の事前から事後において必要とされる知識、技能の内容について取り扱う。実習生としての姿勢・心構え、実習先施設の機能・役割、子どもを理解する視点等、各自の実習課題を明確にすることで事前学習を深める。また、実習に必要な書類作成において個別指導を行うことで、日誌および計画書等の書き方を学べるよう工夫を行った。実習後は個別面談により実習の振り返りを行い、実習での学びを整理し、実習報告会にて発表することで、実習における各自の自己課題を明確化させた。
6.	授業科目名【保育実習指導Ⅱ】 保育所の機能・役割、子どもを理解する視点、保育士に求められる知識と技術について実習Ⅰを振り返り、自己の課題を確認し、事前学習を深め、新たに各自の実習課題を明確化した。実習に必要な書類の作成においては、個別指導を取り入れることで、理解を深める工夫を行った。実習後は個別面接により実習の振り返りを行い、報告会で発表することで実習での学びを整理する機会を設けた。
7.	授業科目名【保育実習Ⅰ】 保育実習指導Ⅰと一体的に構成される実習について指導・教授を行った。実習期間中の巡回指導では個別面談を行うと共に、実習先の指導者との連携・強化を図った。また、設定保育を行う学生には指導案作成について適宜指導を行った。さらに実習後は実践現場での体験を通して理解した内容を自分の言葉で説明できるよう、報告会の資料作成について指導を行った。

8.	授業科目名【保育実習Ⅱ】 保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、保育実践を円滑に行うことができるよう、実習オリエンテーション、実習関連書類の作成について個別指導を行った。実習では、学生が実習生として家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を身につけるとともに、子育てを支援するために必要とされる能力について、自身の言葉で説明できるよう、ディスカッションを行った。また、他科目の教員との連携を図るよう心掛けた。
9.	授業科目名【保育内容 表現】 乳幼児の「表現」について他の領域と関連付けながら解説することで、特定の表現活動だけでなく、日常の総合的な子どもの表現について考察する視点を持てるよう工夫を行った。また、保育者自身の「表現」に係わる知識・技能習得ための演習を段階的に行い、自分自身を解放して表現する楽しさを共有することで、保育における指導のありかたを模索する機会を設けた。乳幼児の「表現」を導くための指導案を作成し発表を行うことで、子どもの表現への理解を深めた。
10.	授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅰ】 保育内容の理解と方法Ⅰでは、保育士として求められる基礎技能において、声の使い方について解説し、身近なテーマで歌や言葉遊びを創作することができるよう、演習内容の工夫を行った。また、ピアノ演奏の基礎に関する実技指導ピアノ実技指導に関しては、学生のピアノの演奏技能の程度によってグループ別および個別に授業を行うことで、丁寧な指導を心掛けた。
11.	授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅱ】 保育士の現場で活用できる音楽の基礎技能について解説し、ピアノの演奏技術を高め、弾き歌いや伴奏法について指導した。前期の「保育内容の理解と方法Ⅰ」を引き継ぎ、グループ別および個別に授業を行い、一人ひとりに適した指導を行った。また、歌唱においてはわらべ歌など子どもの遊び歌に即興的な身体表現を取り入れた発声を行い、自然な発声ができるよう指導した。また合唱を通して声を合わせる楽しさを感じることができるよう、音楽を用いた幅広い演習を行った。
12.	授業科目名【保育実践演習】 子どもの身体的表現、音楽的表現、身体的表現を十分に引き出すための技術について解説し、子どもの様々な動きや表現力を引き出す具体的な方法について検討させた。表現活動を実施するため技能における自己の課題を設定し、授業期間全体を通して各自課題に取り組み、発表することで個人の音楽の能力を向上させることができた。また、様々な演習に表現活動を組み入れることで、様々な場面における表現活動の計画・立案・実践などの総合的な力を養うよう心掛けた。
14.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の指導を行った。また、充実した学びの確保のため、学生生活全般にわたってサポートを行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009 年 12 月～現在に至る	日本演奏連盟	
2.	2012 年 10 月～現在に至る	日本保育学会	
3.	2013 年～現在に至る	日本声楽発声学会	
4.	2018 年 3 月～現在に至る	日本音楽療法学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2006 年～現在に至る	荏田キリスト教会	役員・奏楽者
2.	2011 年 4 月～現在に至る	国立音楽大学同調会北九州支部	副支部長
3.	2018 年 6 月～現在に至る	ふたば保育園	リトミック講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	懇親会委員会	
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	宗教委員会	
3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	キリスト教センター運営委員会	運営委員
4.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	キリスト教センター	音楽主事
5.	2019 年 4 月～現在に至る	クールベルフィーユ	顧問
6.	2019 年 4 月～現在に至る	ハンドベル部	顧問
7.	2024 年 4 月 25 日 2025 年 2 月 20 日	聖書学課 奏楽	
8.	2024 年 9 月 19 日	西南女学院中学高等学校 讃美歌コンクール	審査員
9.	2024 年 4 月, 2025 年 3 月	入学式・卒業式 特別賛美	

教授

木村 茂喜

■ 学歴

1. 2000 年 九州大学大学院法学研究科 博士後期課程 単位取得退学

■ 学位

1. 1997 年 修士（法学）（九州大学）

■ 研究分野

1. 社会保障法
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 児童の権利
2. 犯罪をした者
3. 自立支援

■ 研究課題

1. 福祉サービスにおける各主体の責任分担
2. 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方
3. 犯罪をした者に対する社会復帰・自立支援と社会保障のあり方

■ 担当授業科目

1. 法学（看護学科）（前期）選択
2. 法学（福祉学科）（前期）選択
3. 法学（栄養学科）（前期）選択
4. 日本国憲法（看護学科）（後期）選択
5. 日本国憲法（看護学科）（後期）選択
6. 日本国憲法（看護学科）（後期）選択
7. 初年次セミナーI（前期）必修
8. 初年次セミナーII（後期）必修
9. 社会保障Ⅰ（前期）必修
10. 社会保障Ⅱ（後期）必修
11. 貧困に対する支援（前期）必修
12. 権利擁護を支える法制度（後期）選択
13. 刑事司法と福祉（前期）選択
14. 専門研究Ⅱ（通年）必修

15. 卒業論文（通年）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【法学・日本国憲法・社会保障Ⅰ・社会保障Ⅱ・貧困に対する支援・権利擁護を支える法制度・刑事司法と福祉】 ①限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。 ②講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。 ③学生の集中力維持のため、途中 5 分程度の休憩を入れた。 ④講義内容の理解度の確認のため、講義途中（休憩前）と講義終了後の 2 回、Google Form を使い、学生はスマホ（またはパソコン）を用いて解答する確認テストを実施した。確認テストの結果は、成績評価に加えた。 ⑤講義終了後、コメントカード兼用のマークシート式出席カードを用いて、学生からの講義内容に関する感想・質問を回収し、質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。 ⑥やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に Google Classroom に.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。
2.	授業科目名【法学・日本国憲法・社会保障Ⅰ・貧困に対する支援・権利擁護を支える法制度】 土曜日に授業を受ける学生（振替授業・補講）の負担を軽減するため、振替授業・補講はすべてオンデマンドで実施した。
3.	授業科目名【法学】 講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。
4.	授業科目名【日本国憲法】 抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介するほか、とりわけ女性・性的マイノリティに対する差別の現状と憲法上の論点について重点的に講義を行い、学生の理解の一助に努めた。
5.	授業科目名【社会保障Ⅰ・社会保障Ⅱ】

	非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、具体的な事例等を用いて説明した、とりわけ制度が複雑な年金制度については、「磯野家・フグ田家」を例に挙げて、年金の保険関係や給付について説明を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
6.	授業科目名【貧困に対する支援】 最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
7.	授業科目名【権利擁護を支える法制度】 成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
8.	授業科目名【刑事司法と福祉】 犯罪と刑罰制度、施設内処遇・社会内処遇、医療観察制度、高齢・障害者による犯罪と福祉、犯罪被害者等支援など、幅広い内容で講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
9.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・初年次セミナーⅡ】 「初年次セミナーⅠ」では、「調べる」と「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。学生は「この世の中で『おかしい』『改善すべき』と考えていること」を調べ、各自発表を行った。 「初年次セミナーⅡ」では、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1クラスを4グループに分けて「ディベート」を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995年12月～現在に至る	日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009年10月～2017年3月) 企画委員(2018年10月～2022年3月)
2.	1998年5月～現在に至る	日本労働法学会	
3.	2008年8月～現在に至る	日本司法福祉学会	
4.	2012年12月～現在に至る	日本更生保護学会	
5.	2016年12月～現在に至る	日本障害法学会	

6.	1995 年 4 月～現在に至る	九州社会法研究会	
7.	1995 年 4 月～現在に至る	社会法判例研究会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025 年 3 月	「犯罪をした者に対する社会内支援とソーシャルワーク」	単著	西南女学院大学 紀要 29 号	①日本の更生保護法において、社会復帰のための支援を受ける者はあくまで支援の対象者であること等により、当事者としての性質が乏しいが、ドイツにおいては、「再社会化」が行刑法上の重要な目的となっているが、当事者としての地位は日本と同様に乏しいといえる。犯罪をした者等が社会復帰を目指すための支援に関する制度における社会保障法的な支援の位置づけと、犯罪をした者等が支援に関する制度の当事者、さらには社会保障法上の権利主体としてとして位置づけるための法理を検討するには、ドイツの「再社会化」をめぐる議論を参考にしつつ、さらなる検討が必要である。 ②37～46 頁
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					
（判例解説）					

1.	2025年2月	「保護の補足性と自動車保有（大阪地判平成25・4・19）」	単著	別冊ジュリスト No.269 「社会保障判例百選〔第6版〕」（有斐閣）	①本件は、障害のある生活保護の被保護者の自動車保有の可否をめぐって争われた事件である。生活保護世帯の自動車保有について、本判決は、自動車の保有が被保護者の自立助長に資するかという視点で自動車の保有の可否を検討しており、生活保護法1条が定める生活保護の目的の双方に即した判断要素を示しているといえる。 ②162－163頁

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.	「犯罪行為者の社会復帰と自立支援法理の構築」	日本学術振興会	800,000	2025年3月まで延長
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等
1.	2024年4月～2028年3月	放送大学 総合科目「地域生活を支える社会福祉と法（'24）」	主任講師
2.	2023年4月～現在に至る	放送大学	客員教授
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期	会議・委員会等の名称	役職名等

	期 間 等	(内 容)	
1.	2015 年 5 月～現在に至る	西南女学院大学生生活協同組合	理事長
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	人事委員会	委員
3.	2014 年 4 月～現在に至る	フォークソング部	顧問
4.	2015 年 4 月～現在に至る	KOIKOI	顧問

准教授
杉谷 修一

■ 学歴

1. 1993 年九州大学大学院教育学研究科地域教育社会学専攻（博士課程）単位取得満期退学

■ 学位

1. 1990 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 教育社会学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. ゲーミフィケーション
2. 子ども文化
3. 遊び

■ 研究課題

1. 教育分野におけるゲーミフィケーションについて、参加者の主体的関与とナラティブの関連を中心に検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 道德教育の理論と実践（前期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
2. 教育社会学（後期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
3. 教育原理（後期）（福祉学科）選択
4. 教育原理（後期）（福祉学科）選択
5. 社会学と社会システム（後期）（福祉学科）選択
6. 社会調査の基礎（前期）（福祉学科）選択
7. 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉・栄養学科）必修
8. 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科）必修
9. 教職実践演習（後期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
10. 養護実習（前期）（福祉学科）選択
11. 養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【道德教育の理論と実践】 道德の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道德教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。「考え、議論する」道德教育という学習指導要領の方向性を踏まえ、道德科のテーマに学生自身が深くコミットできるよう心掛けた。学習指導案の構造と基本的な書き方を身に付け、教材研究、発問の工夫、評価の観点と実際など、実践的力量形成を重視した。また「道德教育データベース」やその他の実践記録を視聴・分析するなど、具体的な授業イメージの形成を促した。
2.	授業科目名【教育社会学】 「社会化」をキーワードに、理論的枠組みとそれが把握しようとする教育現象について、できるだけ具体的な場面や事例を取り上げて解説した。また、学校、地域、家族が時代の変遷とともにどのように移り変わったのか。現代的な教育課題にどのようにつながるのかを通時的に取り上げた。学力、貧困などのテーマについては、調査データを丁寧に読みながら、教育問題への理解力の向上を目指した。スライド資料や動画資料などできるだけ興味を持てるよう工夫した。
3.	授業科目名【社会調査の基礎】 統計学の手法と関わりが大きい科目であり、学生の苦手意識が強い科目である。この概念はなぜ必要なのか、使い方やその意味を身近な例を使って理解できるよう心掛けた。テキストを補足するスライド資料を充実させ、授業中に理解したスライドの内容を自宅でテキストを参照しながら復習できるようにした。
4.	授業科目名【教育原理】 保育士を目指す学生の科目であるが、なじみの薄い教育の本質論、目的や方法についての歴史や哲学などに触れるため、テキストを補足するスライド資料を工夫した。教育の歴史については、社会の在り方と教育がどのように関連するのかを具体例を挙げて解説した。また、現代的な教育課題については、いじめ・不登校・暴力行為等、子どもと貧困の現状と社会の取り組みについて、教育現場だけでなく広い視野で理解できるよう資料を工夫した。
5.	授業科目名【社会学と社会システム】 国家試験の科目であるため、内容が総花的になりやすい科目である。社会システム論を基盤としながら、社会を説明・理解するツールとしての理論について、できるだけ実例を挙げながら解説した。特に現代社会の課題に関する部分は変化が早く、テキストがフォローできない部分や学生がニュースで触れている日常のできごとをなるべく多く取り上げ、自分事として社会学を意識できるよう工夫した。スライド資料、動画視聴など興味を引く教材作成にも取り組んだ。また、履修後に活用できる音声ファイルで学べるスライド教材を作成した。
6.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 大学初年次を対象とする、基礎的なスキル向上を目指す科目だが、アカデミックスキルだけでなく、時間管理や課題への取り組み方など日常生活に関連する TIPS も取り上げた。この授業ではアカデミックなものに限らない広がりテラシーの基礎を作るという意味で、情報リテラシー、読む楽しさをどう見つけ、広げるかなど「本を好きになる」きっかけづくりを心がけた。読み取りに課題のある学生は、実際に問題を解き、解説し、グループワークで解決策を共有・発表するなどの方法で体験してもらった。

■ 学会における活動

加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）

1.	1985 年 6 月～現在に至る	日本教育社会学会	
2.	1990 年 11 月～現在に至る	日本社会学会	
3.	1990 年 5 月～現在に至る	日本教育学会	
4.	1997 年 5 月～現在に至る	日本教育方法学会	
5.	1990 年 5 月～現在に至る	九州教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				
（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考

1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2007 年 9 月～現在に至る	特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	講師
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014 年 4 月～現在に至る	教職課程委員会	
2.	2021 年 4 月～現在に至る	大学点検評価改善会議 FD 部門 会議	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	福祉学科インスタグラム検討会	
4.	2024 年 4 月～現在に至る	図書委員会	

講師

杉本 有紗

■ 学歴

1. 2006 年 九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻心理臨床学コース博士後期課程 単位取得満期退学

■ 学位

1. 2003 年 修士（人間環境学）

■ 研究分野

1. 心理学
2. 臨床心理学
3. 発達心理学

■ 研究キーワード

1. 認知症高齢者
2. 集団心理療法（心理劇）
3. 動作法
4. 対人援助職者の支援

■ 研究課題

1. 施設入所認知症高齢者に対する対人交流を用いた心理的支援
2. 心理劇的ロールプレイングを用いた対人援助職者の自己理解・他者理解を促す研修のあり方
3. 児童養護施設職員のストレスの理解と支援

■ 担当授業科目

1. 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉学科） 必修
2. ヒューマンサービス基礎演習（前期）（福祉学科） 必修
3. 心理学と心理的支援Ⅰ（前期）（福祉学科） 選択
4. 発達心理学Ⅱ（前期）（福祉学科） 選択
5. カウンセリング論（前期）（福祉学科） 選択
6. カウンセリング演習（前期）（福祉学科） 選択
7. 発達臨床心理学演習（前期）（福祉学科） 選択
8. 高齢者支援学Ⅰ（前期・集中）（看護学科・福祉学科・栄養学科） 選択
9. 高齢者支援学Ⅱ（前期・集中）（看護学科・福祉学科・栄養学科） 選択
10. 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科） 必修
11. 心理学と心理的支援Ⅱ（後期）（福祉学科） 選択
12. 発達心理学Ⅰ（後期）（福祉学科） 選択

13. 社会心理学（後期）（福祉学科） 選択
14. 高齢者臨床心理演習（後期）（福祉学科） 選択
15. 子ども家庭支援の心理学（後期）（福祉学科） 選択
16. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 必修
17. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 必修
18. 卒業論文（通年）（福祉学科） 選択
19. 母子の心理・社会学（前期・集中）（助産別科） 必修 * 1コマのみ
20. 心理学（後期）（保育科） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 本演習では、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。 2024年度は14名前後のグループを1グループあたり4回、全3グループを担当した。 心理学の雑誌記事を題材に、課題図書の講読、批判的読解、レポートの書き方についてスモールステップで課題を課した。グループワークを取り入れ、学び合う姿勢が育まれるよう心掛けた。
2.	授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 本演習では、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキルの育成を目指した。 2024年度は12名前後のグループを1グループあたり15回、全2グループを担当した。 参加型・体験型の演習プログラム（グループワーク）を中心とした授業を行った。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況を把握し、フィードバックを行った。
3.	授業科目名【心理学と心理的支援Ⅰ】 本講義では、心理学、心理的支援についての基本的知識の習得を目指した。 主に、心理学の研究法、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、心理療法の基礎的知識について解説した。配布プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。 毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
4.	授業科目名【発達心理学Ⅱ】 本講義では、人生後半期の発達心理学についての基本的知識の習得を目指した。 青年期、成人期、老年期の発達の特徴について、感覚・運動、認知（記憶、知能）、自己、人間関係（家族、社会）などの側面から解説した。配布プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
5.	授業科目名【カウンセリング論】 本講義では、カウンセリングの理論、進め方と技法についての基本的知識の習得を目指した。 カウンセリングの理論、カウンセリングの基本的な進め方と基礎的な技法について解説を行った。 配布プリントにて詳細を示し、模擬事例の一部やワークシートを利用し、学生の理解が進むように努めた。小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
6.	授業科目名【カウンセリング演習】 本演習では、カウンセリングの理論、進め方と技法についての基本的な知識を基礎とし、福祉・教

	育領域における事例と、各事例に応じたアセスメント、面接の方法とプロセスについて解説を行った。ディスカッションを重視し、学生の意見を踏まえた解説を行い、学生の理解が進むように努めた。模擬面接を実施し、逐語録の作成について実践を促し、解説を行った。
7.	授業科目名【発達臨床心理学演習】 本演習では、発達臨床心理学の事例研究を題材に、文献購読演習を行った。事例研究を分析し、グループディスカッションを行う中で、各事例を通して福祉領域における発達支援や心理支援のあり方について検討を促した。ワークシートを利用し、学生的事例の理解が進むように努めた。また、事例の支援のあり方について、客観的に評価し自分の主張を述べるよう促した。
8.	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 本講義は、看護、福祉、栄養の3学科6教員により、看護、福祉、栄養の3学科の学生を対象に、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法について、解説と実技指導を行うものである。講義では、高齢者の心理的発達、高齢者の社会参加とその臨床心理学的意義についての解説を担当した。アイスブレイクを行い、3学科の学生合同のグループでのPBL（問題解決型学習）が円滑に進むよう促した。
9.	授業科目名【高齢者支援学Ⅱ】 本年度は、履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
10.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 本演習では、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。 2024年度は14名前後のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。 心理学研究の研究論文を課題図書とし、課題図書の講読、データの収集と分析、レポートの書き方についてスモールステップで課題を課した。グループワークを行い、学び合う姿勢が育まれるよう心掛けた。
11.	授業科目名【心理学と心理的支援Ⅱ】 本講義では、心理学、心理的支援についての基本的知識の習得を目指した。 主に、学習心理学、認知心理学、社会心理学等の基礎的知識について解説を行った。 プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
12.	授業科目名【発達心理学Ⅰ】 本講義では、発達心理学、特に人生前半の心理についての基本的知識の習得を目指した。 主に、胎児期から学齢期までの生涯発達心理学について、特に乳幼児期の心身の発達や様々な理論を中心として解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
13.	授業科目名【社会心理学】 本講義では、社会心理学についての基本的知識の習得を目指した。 社会心理学の理論や著名な研究、概論について解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートでは、授業で紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて例示するよう促した。授業のはじめに、前回の授業のキーワードとその意味、小レポートで提出された例について共有し、学生の知識の定着が進むよう心がけた。

14.	授業科目名【高齢者臨床心理演習】 2024年度は、受講希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
15.	授業科目名【子ども家庭支援の心理学】 本講義では、子ども家庭支援に必要な心理学の基本的な知識の習得を目指した。 主に、生涯発達心理学、家族・家庭の機能や構造、支援を必要とする家庭についての講義、解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、支援を必要とする事例についてプリントを配布し、支援の必要性に気づき、支援の工夫について検討することができるように工夫した。学生同士で話し合うことで理解を深めるような機会も適宜取り入れた。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
16.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 受講する学生の興味関心のある専門書や論文を持ち寄り、文献講読を行った。 また、人間科学についての研究法を解説し、研究テーマの設定について議論を深めた。少人数のクラスであり、積極的に意見交換を行った。学生が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めた。
17.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 受講する学生の興味関心のある専門書や論文を持ち寄り、文献講読を行った。 また、研究テーマの設定について、学生の興味関心を絞り込んだり、具体的な実施可能性を吟味し、議論を深めた。研究レポートを自らの力で進めていくことができるよう、学生が主体的に課題を見出し取り組む、必要に応じて教員に相談できる環境づくりに努めた。
18.	授業科目名【卒業論文】 本年度は、受講する学生は0名であった。
19.	授業科目名【母子の心理・社会学】 本講義では、第1回テーマ「ライフサイクルの心理的特性と発達課題」について解説を行った。 発達心理学の理論と母子を取り巻く課題について取り上げた。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
20.	授業科目名【心理学】 本講義では、心理学についての基本的知識の習得を目指した。 感覚、知覚、学習、記憶、動機づけ、情動などの心理学の基礎的知識について解説を行った。 プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001年4月～現在に至る	日本心理臨床学会	会員
2.	2001年4月～現在に至る	日本臨床心理劇学会	監事（2012年4月～現在に至る）
3.	2002年4月～現在に至る	日本リハビリテーション心理学会	会員
4.	2004年4月～現在に至る	日本臨床心理士会	会員
5.	2004年4月～現在に至る	福岡県臨床心理士会	会員

6.	2007 年 4 月～現在に至る	日本発達心理学会	会員
7.	2008 年 4 月～現在に至る	日本心理学会	会員
8.	2022 年 4 月～現在に至る	九州臨床心理学会	北九州地区委員（2022 年 4 月～現在に至る）

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				

2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年 4 月～現在に至る	九州大学大学院人間環境学府付 属総合臨床心理センター	研究員
2.	2016 年 4 月～現在に至る	大分県中津児童相談所（発達相 談・心理判定）	非常勤心理判定員
3.	2021 年 4 月～現在に至る	大分県中津児童相談所（保護者 等カウンセリング事業）	サイコロジカルスーパーバイザ ー
4.	2023 年 6 月～現在に至る	別府大学臨床心理相談室（心理 面接・心理査定・実習指導）	面接臨床指導員
5.	2024 年 9 月	（公社）成年後見センター・リ ーガルサポート本部・福岡支部 共催「対人援助の基礎」研修	研修会講師
6.	2025 年 1 月～3 月	大分県中津児童相談所（施設支 援専門事業）	講師（職員向け研修会全 3 回）

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	キャンパス・ハラスメント防止 委員会	委員
2.	2023 年 4 月～現在に至る	附属シオン山幼稚園・発達相談	発達相談員
3.	2024 年 4 月～現在に至る	学生委員会	委員

教授
園山 繁樹

■ 学歴

1. 1988 年 筑波大学大学院一貫制博士課程心身障害学研究科 単位取得後退学

■ 学位

1. 1994 年 博士（教育学）（筑波大学）

■ 研究分野

1. 特別支援教育学
2. インクルーシブ保育
3. 行動情緒障害学

■ 研究キーワード

1. 特別支援教育
2. 場面緘黙
3. 行動障害

■ 研究課題

1. 場面緘黙のある人の支援方法。場面緘黙の状態像は多様であり、それぞれの状態像に応じた支援方法の開発を目指す。
2. インクルーシブ保育の方法。統合保育からインクルーシブ教育への理念の展開を踏まえた保育の方法論について考察する。
3. 行動障害のある人の支援方法。行動障害の生起に関係する要因の特定、及びそれらの要因に基づく支援方法の在り方の定式化を目指す。

■ 担当授業科目

※該当なし（2025 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2025 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1979 年 3 月～現在に至る	日本特殊教育学会	理事（2012 年 9 月～2020 年 6 月） 和文誌編集委員長（2013 年 1 月～2016 年 7 月） 常任編集委員（2001 年 9 月～2024

			年 7 月)
2.	1982 年 5 月～現在に至る	日本行動分析学会	理事長(2012 年 4 月～2015 年 5 月) 第 27 回年次大会実行委員長 (2009 年 7 月) 第 19 回年次大会実行委員長 (2001 年 8 月)
3.	2008 年 7 月～現在に至る	障害科学学会	会長 (2021 年 4 月～2024 年 3 月)
4.	2014 年 9 月～現在に至る	日本場面緘黙研究会	会長 (2018 年 9 月～現在に至る) 学術機関誌編集委員長(2022 年 5 月～現在に至る) 第 1 回研究大会共同実行委員長 (2025 年度)
5.	2024 年 6 月～現在に至る	日本保育学会	
6.	2003 年 3 月～2023 年 3 月	日本自閉症スペクトラム学会	副会長(2014 年 7 月～2017 年 7 月) 第 11 回研究大会会長(2012 年 8 月)
7.	2003 年 4 月～2023 年 3 月	日本福祉心理学会	編集委員長 (2005 年 7 月～2016 年 6 月) 第 8 回大会実行委員長 (2010 年 8 月)

■ 研究業績等に関する事項 (2024 年度)

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文 等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表 学会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2025. 2	Supporting Foreign Students in Elementary Schools: A Questionnaire Survey on Elementary School Teachers	共	Journal of Special Education Research, Vol.13, No.2 (査読付)	① 外国人児童を指導する小学校教員 36 名を対象に、教員と児童の指導上の困難について質問紙調査を行った。その結果、保護者とのコミュニケーションの困難、授業における「聞く力」「書く力」「計算力・推論力」という学習技能が授業や学校生活への参加に影響を与えていることが示唆された。 ② 共著者名: Yuqian Yang, Hong Pei,

					Ami Sambai, <u>Shigeki Sonoyama</u> , Hiroki Yoneda ③ (P105～118)
2.	2025. 3	場面緘黙のある子どもの支援における学校・家庭・専門家の連携をめぐって	単	場面緘黙研究 , 第 3 巻第 1 号	① 学校に在籍する場面緘黙の子どもの支援においては学校（担任）と家庭（保護者）の連携協力が不可欠である。一方、我が国における場面緘黙支援の専門家の要件は不明確である。専門家としての要件を論議し、三者の連携協力の態様を筆者の臨床経験に基づいて考察した。 ② (P67～P72)
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024. 9	教育・福祉における強度行動障害の支援体制のあり方～現場に根付くチーム支援・人材育成に焦点を当てて～(自主シンポジウム)		日本特殊教育学会第 62 回大会 (於：福岡国際会議場)	① 教育・福祉分野における行動面の課題を有する人たちの支援実践や支援人材の育成の取り組みから、各現場の組織に効果的に根付く強度行動障害の支援体制のあり方について検討した。指定討論者として、行動論的視点から強度行動障害の軽減・予防の支援について討論した。 ② 共同発表者：倉光晃子, 下山真衣, 丸山裕也, 今本繁, 松本奨平, 森口哲也, <u>園山繁樹</u> ③ 日本特殊教育学会第 62 回大会発表論文集 自主シンポジウム 7-14
2.	2024. 9	わが国における場面緘黙研究の現在と今後の方向を考える X—学校・保護者・専門家間の連携の必要性を保護者への調査と教師の実践から		日本特殊教育学会第 62 回大会 (於：福岡国際会議場)	① 場面緘黙の支援を取り巻く現状を保護者・教師のそれぞれの立場から改めて整理し、それぞれが必要とするサポートや連携の在り方について検討した。指定討論者として、教員・保護者・専門家のコンサルテーションの観点から討論した。 ② 共同発表者：奥村真衣子, 梶正義, 田島瑠姫, 大久保美香, 石田一平, <u>園山繁樹</u>

		問うー(自主シンポジウム)			③ 日本特殊教育学会第 62 回大会発表論文集 自主シンポジウム 3-12

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2025 年 2 月 14 日	茨城県発達障害者支援センター あい主催「令和 6 年度 発達障害支援セミナー（場面緘黙症支援）」において、「場面緘黙の理解と支援」をテーマに講演した。	講師
2.	2025 年 1 月 6 日	NHK「午後 LIVE ニュースー ン」で取り上げられた場面緘黙 の症状や有病率について情報提 供した。	情報提供
3.	2020 年 6 月～2023 年 3 月	松江市教育委員会	専門巡回相談員
4.	2015 年 3 月～2019 年 3 月	土浦市障害者介護認定審査会	委員
5.	2012 年 4 月～2015 年 3 月	独立行政法人日本学術振興会学 術システム研究センター	専門研究員（社会科学専門調査 班、心理学・教育学担当）
6.	2005 年 7 月～2006 年 3 月	茨城県特別支援教育体制推進事 業特別支援連携協議会	座長

7.	2004 年 7 月～2007 年 3 月	つくば市障害者計画策定懇談会	委員
8.	2003 年 6 月 2005 年 3 月	つくば市障害幼児教育研究推進 連絡会	委員長
9.	2003 年 6 月～2009 年 5 月	つくば市障害児就学指導委員会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2025 年度入職）

准教授

通山 久仁子

■ 学歴

1. 2018 年 立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科コミュニティ福祉学専攻（博士課程）単位取得満期退学

■ 学位

1. 2019 年 博士（コミュニティ福祉学）

■ 研究分野

1. 障害者福祉
2. 地域福祉

■ 研究キーワード

1. 障害者家族
2. 「親亡き後」
3. 当事者組織

■ 研究課題

1. 発達障害者家族を対象として、「親亡き後」の生活課題・生活支援ニーズを明らかにし、そのニーズに応じた支援体制を「障害当事者」および「親当事者」の「当事者」組織を主体として構築していくための具体的な方策について検討する。

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワーク演習（後期）
2. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（前期）
3. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（後期）
4. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（前期）
5. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（後期）
6. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（後期）
7. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）
8. 保健福祉学入門（前期）
9. 福祉入門（前期）
10. 福祉サービスの組織と経営（前期）
11. 障害者福祉（後期）
12. 専門研究Ⅰ（通年）
13. 専門研究Ⅱ（通年）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 本演習は初年次生を対象とした演習科目であるが、面接技法やソーシャルワーク・グループワークの展開過程などのソーシャルワーク技術を実践的に学ぶ内容が多く含まれている。初学者を対象としているため、はじめは楽しみながらグループづくりができるようなプログラムを取り入れた。また、わかりやすい事例を選定したうえで、基礎的な知識の確認を行いながら演習を展開した。できる限り多くのグループワークやロールプレイを取り入れ、他者と意見を共有しながら、ソーシャルワークのスキルを学べる機会を設けるようにした。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
2.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ】 本演習はソーシャルワークの実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、「人権」などの福祉的価値・倫理を基盤に知識・技術を用いることができるようにプログラムを展開した。そして学生がソーシャルワークのスキルを体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイを取り入れ、面接場面などをクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるような機会を設けた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
3.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ】 本演習はソーシャルワークに関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、「人権」などの福祉的価値・倫理を基盤に知識・技術を用いることができるようにプログラムを展開した。そして学生がソーシャルワークのスキルを体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイを取り入れ、面接場面などをクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるような機会を設けた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ】 本演習はソーシャルワーク実習と連動して開講される演習科目である。そのため、福祉現場で用いられる技術・技法に焦点化し、演習を展開した。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないよう、その基盤にある福祉的価値・倫理を十分に説明する機会を設けるようにした。また、できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
5.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】 本演習はソーシャルワークの技術を学ぶ最後の演習であり、学生には実態がとらえづらい「地域福祉」における、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得する演習科目である。まず学生が地域とは何かを理解できるよう、「まち歩き」などのプログラムを取り入れ、体験的に地域福祉の視点を学べるような機会を設けた。そして個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。今年度は「住民座談会」の場面などのロールプレイを取り入れ、また「ひきこもりの家

	族支援」のグループ運営、事業の企画など、当事者へのアプローチや多職種との調整、地域向けの活動・事業の企画を実践的に学べるプログラムを取り入れた。またふり返りの課題を課し、その内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 本科目は2年次の実習科目で、障害者領域を担当している。「障害者福祉」を履修中の学生を対象としているため、「障害者福祉」に関する基礎的な知識を学習できる機会を多く設けた。また車いすの使用法や、障害者を対象として実施されている各種療法等を実践的に学ぶ機会を設けるとともに、実習の目的や実習に臨む姿勢について考える機会を設けるようにした。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 本科目は3年次の実習科目で、障害者領域を担当している。実習体験から自ら気づきを得、考察を深める力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では障害者福祉に関わる法制度の復習、車いすの使用法や、障害者を対象として実施されている各種療法等を学ぶ機会を設け、基礎力を養うことに焦点化した。また後期実習前には、個別支援計画書の作成、支援会議の実施、計画書の交付までのプロセスを模擬的に体験する機会を設けた。事後学習では、各実習生が担当した事例の検討会を行い、プレゼンテーションや会議の運営方法について学ぶ機会を設けるとともに、グループスーパービジョンなど、グループでの実習体験の共有を通して、体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けた。
8.	授業科目名【保健福祉学入門】 本科目は保健福祉学部の7人の教員によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉学の研究」について1コマを担当した。対象が初年次生であり、他学科の学生も対象としているため、社会福祉とは何かという基本的な説明を行い、社会福祉分野での研究について、自身の大学・大学院での学びを実例としてあげ、大学で研究を行うことの意義をわかりやすく伝えられるように努めた。
9.	授業科目名【福祉入門】 本科目は4人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の2コマを担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。
10.	授業科目名【福祉サービスの組織と経営】 本科目は4年生を対象とした社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を行い、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。またこれまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。 本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいメゾ・マクロの視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、実習での体験と関連づけて理解できるようなアクティブラーニングのワークを取り入れるなどして、学生が身近にとらえて理解できるよう努めた。
11.	授業科目名【障害者福祉】 本科目は2年生を対象とした社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を行い、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。 本科目は、2年生を対象としており、社会福祉の基礎となる科目のひとつでもあるため、出生前診

	断に象徴される優生思想や、「親亡き後」問題に象徴される社会的排除や孤立の問題といった具体的な事象を取り上げながら、障害者福祉の理念や基本的な視点を伝えられるよう努めた。また障害者の実像についてできるだけ具体的にイメージできるよう、視覚教材を用いるようにした。そしてできるだけアクティブラーニングを取り入れ、学生が他の学生と意見を共有しながら学べる機会を設けるようにした。
12.	授業科目名【専門研究Ⅰ】
	前期は学生の関心のある文献を取り上げ、文献の読み方を中心に、論文作成の方法についての学習を進めた。後期は学生の関心のあるテーマにしたがって、論文作成に向けた指導を行った。
13.	授業科目名【専門研究Ⅱ】
	学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の方法を指導した。また国家試験の受験勉強のサポートを行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2004 年～現在に至る	日本社会福祉学会	
2.	2005 年～現在に至る	日本発達障害学会	
3.	2009 年～現在に至る	障害学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
（学術論文）					
（翻訳）					
（学会発表）					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（１） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

（２） 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.	発達障害者家族の「親亡き後」の支援体制の構築に関する研究	日本学術振興会	1,820,000	発達障害者家族の「親亡き後」の支援体制の構築に関する

				研究

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年 6 月～現在に至る	特定非営利活動法人 nest	理事
2.	2013 年 4 月～2025 年 3 月	北九州市障害支援区分認定審査会	委員
3.	2020 年 4 月～現在に至る	北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会	専門委員
4.	2023 年 6 月～現在に至る	社会福祉法人薫会	理事

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年 4 月～現在に至る	保健福祉学研究所運営委員	運営委員
2.	2021 年 4 月～現在に至る	倫理審査委員	委員
3.	2022 年 7 月～現在に至る	外部資金導入促進プロジェクトチーム	委員
4.	2023 年 4 月～現在に至る	教務委員	委員

講師

中川 美幸

■ 学歴

1. 2020 年 福岡県立大学 修士課程卒業

■ 学位

1. 2020 年 修士（社会福祉学）

■ 研究分野

1. 医療分野のソーシャルワーク
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 意思決定支援
2. 退院支援
3. 多職種連携
4. 業務の可視化

■ 研究課題

1. 医療ソーシャルワーカーの意思決定支援に関する研究
2024 年度診療報酬改定により、すべての病棟において意思決定支援の体制整備が求められる中、医療ソーシャルワーカーは現場でどのような支援を実践しているのかを明らかにする。特に、退院支援や ACP（アドバンス・ケア・プランニング）において、患者・家族の意向がどのように確認され、尊重されているかに焦点をあてる。全国の入院医療機関を対象とした調査を通じて、病棟機能・地域差・経験年数などによる実践の特徴や課題を明らかにし、今後の支援の質的向上と制度整備に資する知見を得ることを目的とする。
2. 医療ソーシャルワーカーの業務の可視化と専門性発揮に関する共同研究
介護分野向けに開発された業務記録支援アプリ「ハカルト」を、医療ソーシャルワーカーの業務実態に合わせて再設計し、これを用いた業務記録・分析を行う。業務の種類・所要時間・実施頻度などを定量的に記録し、専門業務とそれ以外の業務を分類・分析することで、医療ソーシャルワーカーが本来の専門性を発揮しやすい環境整備の方向性を明らかにする。別府大学・民間企業との共同研究として実施する。

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの理論と方法（専門）（前期・後期）（福祉学科）
2. ソーシャルワーク実習指導 I（通年）（福祉学科）

3. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科）
4. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（前期）（福祉学科）
5. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（後期）（福祉学科）
6. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（前期）（福祉学科）
7. ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（後期）（福祉学科）
8. ソーシャルワーク演習（後期）（福祉学科）
9. 福祉入門（前期）（福祉学科）
10. 専門研究Ⅰ（通年）
11. 専門研究Ⅱ（通年）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法（専門）】 ソーシャルワークの実践を行う上で問題を抱えた人々を「人と環境の相互作用」と理解する視点を学べるよう努めた。また実践モデルとアプローチ等といった問題解決を図るための基盤となる理論を通して、社会福祉の専門職としての心構え、態度などをイメージできるように、現場での事例を用いて理解を深められるよう工夫した。
2.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 医療ソーシャルワーカーの役割と病院機能など、実習で必要となる基礎知識を中心に実施。また、動画の活用や、現場の経験などを伝えることで、医療ソーシャルワーカーについての理解が深まるよう工夫した。また、実習終了後の振り返りでは、現状と課題を整理し、3年時の実習につながるよう努めた。
3.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 実習前にはグループごとに病院機能などについて、調べ学習をし、全体で共有することで実習に必要な知識が定着するよう努めた。また、ロールプレイを行ったり、医療ソーシャルワーカーの業務指針や倫理綱領について学ぶ時間を取り、より具体的に医療ソーシャルワーカーの業務を理解し、実習に臨めるよう工夫を行った。実習後の振り返りを一人ずつ発表し、全員で共有することで実習報告会の準備を全員で行えるよう努めた。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】 事例を個人ワークで考えた後にグループディスカッションを行うことで、より深くソーシャルワークの視点や価値観、倫理観などを学べるよう努めた。また、アセスメントでは、問題点にのみ目を向けるのではなく、本人の持っているリソースにも目を向けるよう努めた。ロールプレイも積極的に取り入れ、実習や現場でも活かせるよう配慮した。加えてロールプレイでは、クライアント体験から専門職の態度や価値観、倫理観についても考えられるような演習を行った。
5.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ】 地域に関する事例を個人ワークで考えた後にグループディスカッションを行うことで、より深くソーシャルワークの視点や価値観、倫理観などを学べるよう努めた。地域の課題のみならず、強みにも目が行くよう努めた。実際に地域を歩き、使わなくなった産婦人科をリノベーションし、新しい地

	域拠点の場所として利用している場面を見学し、体感することで学ぶ工夫も行った。
6.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 まずは知識を楽しみながら学ぶため、絵本など身近な物を使いながら演習に慣れてもらうよう工夫した。事例の検討では、個人ワーク後にグループワークを行い、まずは自分の考えをまとめ人に伝えることができるよう行った。他の授業で習得した知識が演習とリンクできるように、現場での体験も交えながら、わかりやすい言葉を使うよう心掛けた。
7.	授業科目名【福祉入門】 医療ソーシャルワーカーが病院でどのような実践を展開しているのかを現場の状況交えながら伝え、学生の医療ソーシャルワーカーへの関心を高めることができるよう工夫した。
8.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 学生の興味のあるテーマを中心にディスカッションを行った。自分の考えをまとめる力をつけることができるよう、必要に応じ参考文献なども示した。また、実際の現場を見学し、学生が現場を体感できるよう工夫した。
9.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 学生の興味のあるテーマを中心にディスカッションを行った。自分の考えをまとめる力をつけることができるよう、必要に応じ参考文献なども示した。また、実際の現場を見学し、学生が現場を体感できるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1990年7月～	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	理事（2010年～2022年6月迄） 副会長（2014年～2022年6月迄）
2.	2010年4月～	日本医療ソーシャルワーク学会	理事（2010年度～現在に至る） 事務局長（2015年～2020年5月迄） 会長（2020年6月～現在に至る）
3.	2017年4月～	日本医療・病院管理学会	
4.	2019年4月～	日本社会福祉学会	
5.	2022年10月～	日本医療ソーシャルワーク協会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2024年4月	「医療福祉相談ガイド」	共著	明石書店	① 本書は、新人の医療ソーシャルワーカーや医療ソーシャルワーカーを目

		ドブック 2024 年度 版」			指す学生、医療・福祉従事者、福祉サービスを利用する当事者や家族向けに作成したガイドブック。 ② 編集代表：村上須賀子、高石麗理湖、徳富和恵、森崎千晴 村上武敏、<u>中川美幸</u> ③ 担当部分 第3章 社会資源活用の基本と局面での対応 (P36～P52)
2.	2024年5月	「4訂 介護支援専門員研修テキスト 専門研修課程Ⅰ」		一般社団法人 日本介護支援専門員協会	① 介護支援専門員の法定研修である「専門研修課程Ⅰ」のために作成され、介護支援専門員に必要な知識や技術を習得することを目的とした内容。 ② 一般社団法人介護支援専門員協会 ③ 担当部分 「第5章 生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実践」(P132-160)
3.	2024年5月	「4訂 介護支援専門員研修テキスト 主任介護支援専門員研修」		一般社団法人 日本介護支援専門員協会	① 主任介護支援専門員研修のために作成され、主任介護支援専門員としての役割を果たすために必要な知識や技術を習得することを目的とした内容。 ② 一般社団法人 日本介護支援専門員協会 ③ 担当部分 第7章 地域における生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実現」
(学術論文)					
1.	2025年3月	アセスメントを再考するー解決構築アプローチと診断的アセスメン	単著	「医療ソーシャルワーク研究」 日本医療ソーシャルワーク学会 (No.15)	① 本論文は、ソーシャルワーク実践におけるアセスメントの概念を歴史的に整理し、診断的アセスメントとソリューション・フォーカスト・アプローチ(SFA)の視点から再検討を行ったものである。SFA が重視する「未来志向・強みへの注

		トー			目」と、診断的アセスメントの「原因解明・客観評価」の違いを明確にしたうえで、両者を現場でいかに統合し得るかを考察した。事例では、医療ソーシャルワーカーが SFA を基盤としながら診断的アプローチも併用することで、柔軟な支援が可能となる実践の可能性を示している。 ② P10
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

任 期	団体・委員会等の名称	役 職 名 等

	期 間 等	(内 容)	
1.	2022 年 6 月 1 日～現在に至る	北九州市精神保健福祉審議会	委員
2.	2020 年 6 月～現在に至る	日本医療ソーシャルワーク学会	会長
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2025 年 3 月	就職委員会	
2.	2023 年 4 月～2025 年 3 月	キャンパスハラスメント委員会	
3.	2024 年 4 月～現在に至る	国試対策担当	

准教授

西丸 月美

■ 学歴

1. 熊本大学大学院教育学研究科学校教育専攻（修士課程） 卒業

■ 学位

1. 2010 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 学校保健学
2. 健康教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 専門性
2. 養護教諭
3. 不登校・多職種連携

■ 研究課題

1. 養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。具体的には、不登校・教室外登校の児童生徒に対する支援において、養護教諭と多職種連携について考察する。さらに現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。

■ 担当授業科目

1. 地域保健学Ⅱ（前期）（福祉学科）選択
2. 学校保健（前期）（福祉学科）選択
3. 学校保健教育法（後期）（福祉学科）選択
4. 養護概説（後期）（福祉学科）選択
5. 教職実践演習（後期）（福祉学科）選択
6. 養護実習（通年）（福祉学科）選択
7. 2021 入学養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択
8. 2022 入学養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択
9. 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科）必修
10. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【地域保健学Ⅱ】 本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習（病院実習）、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説する。将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように授業を展開した。また、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎にできるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。さらに、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会を行った。
2.	授業科目名【学校保健】 学校保健は、学校において児童生徒や教職員の健康を保持増進し、心身ともに健康な国民の育成を図るという教育目的に寄与することを目指す科目である。 本講義では学校における保健管理、保健教育、保健組織活動について主に解説し、養護教諭として理解しておく必要のある事項について、基本的内容を中心的に授業を行った。また健康課題の解決に向けた実践事例を取り入れ、養護教諭としての具体的なイメージができるように事例検討、演習などグループワークを取り入れ授業を展開した。さらに児童生徒の健康課題について各自テーマを設定し、プレゼンテーションを作成し、自己評価及び他者評価を行い実践力の向上に努めた。
3.	授業科目名【学校保健教育法】 学校における保健教育の意義及び学習指導要領の基本方針等について概説し、小・中・高等学校・特別支援学校における保健教育の位置づけ、目標・方針・内容等について講義を行った。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について解説した。小・中・高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指し授業を展開した。授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき保健教育の指導計画案を作成した。また、授業において一人ひとりが、保健教育の指導案、教材を作成し、10 分間の保健教育を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。教育実習で授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。
4.	授業科目名【養護概説】 学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室の機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、学校救急処置、健康相談などである。授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。また、養護教諭としての実務経験を踏まえ、実際の養護教諭の職務がイメージできるように具体例を示し解説した。特に保健室経営についての講義では、グループでディスカッションを行い、「私たちの理想とする保健室のレイアウト」、「保健室の掲示物」を作成しグループごとに発表を行った。将来養護教諭としてのイメージが持てるように授業内容を工夫した。

5.	授業科目名【教職実践演習】 この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指す。授業では、養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。また、養護教諭と多職種連携について具体的な事例を通して演習をおこない、学校現場における実践的な力を身につけるために授業の構造を工夫した。多職種との連携するための実践力を高めるために、グループワークを多く取り入れた。さらに、養護教諭として「特別支援学校・特別支援教育における役割」、「性教育における養護教諭の実践」について外部講師を招き、実践力を高めるための工夫を行った。
6.	授業科目名【養護実習】 養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において3週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じた計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。教職課程担当者が、実習期間中に実習校に実習訪問に出向き、学生の実習の様子を把握し、実習の事後指導に生かした。本年度は後期に実習となる学生も数名いたが、全ての学生が実習を終了し実習報告会を実施した。
7.	授業科目名【2021 入学養護実習事前事後指導】 養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的におこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることができるよう講義を行った。養護実習の事前指導として実習前にオリエンテーションを行い、人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。学校現場がイメージでき、臨機応変に対応できるように具体的な事前指導を心がけた。養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、実習報告会を実施した。
8.	授業科目名【2022 入学養護実習事前事後指導】 養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的におこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。養護実習の事前準備として、健康診断、保健室経営、保健教育啓発活動（保健だよりの作成）などを実施した。グループワークを取り入れ、実際の実習が体験できるような工夫を行った。実習前の学習等を指示し、実習校に向かう心構えや準備等が具体的にわかりやすいように授業内容の工夫を行った。

9.	授業科目名【専門研究Ⅰ】 専門研究Ⅰでは、研究テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。また、教員採用試験について各自が過去問題を持ちより情報交換を行い、問題のポイントを解説し、理解が深まるように授業内容を工夫した。保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるようグループワークを取り入れるなどの工夫を行った。さらに養護教諭としての実践力を高めるために、学校現場で養護教諭として活躍する卒業生の保健室を訪問し、保健室経営や児童生徒への対応について学びを深めた。
10.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭の視点から専門性を深め、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成も工夫した。また、2年間のまとめとして研究レポートを作成し、研究のまとめをおこなった。また、保健室の掲示物作成を行い、養護教諭として保健室経営について具体的にイメージできるような授業内容を工夫した。さらに卒業後の進路について定期的に個人面談を行い、一人ひとりの適性に応じた就職支援を心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009年4月～現在に至る	日本学校保健学会	学会員
2.	2009年9月～現在に至る	日本教育心理学	学会員
3.	2009年6月～現在に至る	日本教育保健学会	学会員
4.	2010年6月～現在に至る	日本人間性心理学会	学会員
5.	2014年8月～現在に至る	日本教育カウンセラー協会	協会員
6.	2015年1月～現在に至る	日本学校心理士会	協会員
7.	2015年1月～現在に至る	日本アロマコーディネーター協会	協会員
8.	2016年2月～現在に至る	日本産業カウンセラー協会	協会員
9.	2022年～現在に至る	応用教育心理学会	学会員

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の 名称	単 著・ 共著 の別	発行所、発表雑 誌等又は発表 学会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					

(学術論文)					
1.	2024.4	「教職実践演習」における多職種連携に関する学生意識の変化	単	西南女学院大学紀要 Vol.28	①「教職実践演習」において、養護教諭を目指す学生が、養護教諭の他職種と連携する際に必要な視点や具体的場面がイメージでき、さらに多職種連携の姿を理解するための方法として事例検討を教職実践演習に取り入れた教育実践を行った。受講生に対して受講前後に実施した、多職種連携の能力に関する調査データを量的に分析し、授業の教育効果を検討した。 ②単著 西丸月美 ③ (P39～P46)
2.	2024.9	養護教諭と多職種連携に関する事例を用いた授業「教職実践演習」の教育効果の検証	単	「応用教育心理学研究」第41巻第1号	①「教職実践演習」において養護教諭と多職種連携の事例を用いた授業について学生の自由記述式の自己評価を質的に分析し、その教育効果を明らかにすることを目的とした。その結果、＜自己課題の理解＞、＜養護教諭の専門性の理解＞、＜多職種連携の理解＞、＜グループワーク体験によるチームワークの必要性の理解＞は【多面的理解】と相互に関連し、それらのカテゴリの関係性は養護教諭の専門性や役割に関する理解を促進し、多職種連携の必要性について役立つ学びが示唆された。 ②単著 西丸 月美 ③43 項～54 項
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2017年～現在に至る	日本養護教諭養成大学	評議委員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2017年4月～現在に至る	教職課程委員会	委員
2.	2024年4月～2025年3月31日	国際交流委員会	委員
3.	2020年4月～2023年3月31日	キャンパスハラスメント委員会	相談員
4.	2017年4月～2025年3月31日	学生アドバイザー	アドバイザー教員

講師

文屋 典子

■ 学歴

1. 1994 年 3 月 関西学院大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士課程前期課程修了

■ 学位

1. 修士（社会学）

■ 研究分野

1. 社会福祉学
2. ソーシャルワーク方法論
- 3.

■ 研究キーワード

1. 子ども家庭支援
2. ファミリーソーシャルワーク
- 3.

■ 研究課題

1. 子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性
- 2.

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ
2. ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ
3. 児童・家庭福祉
4. 子ども家庭支援論
5. 子育て支援
6. ファミリーソーシャルワーク論
7. ソーシャルワーク演習
8. ソーシャルワーク実習Ⅰ
9. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
10. ソーシャルワーク実習Ⅱ
11. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
12. 保育実習Ⅲ
13. 保育実習指導Ⅲ

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ】 ミクロ・メゾ・マクロ領域におけるソーシャルワーク実践と実践プロセスの展開、求められる技術について具体的な事例等を用いて説明した。ソーシャルワーク援助対象者の生活状況やニーズ・困難さをイメージしやすいよう、事例提示の方法を工夫した。毎回の授業終了後、コメントカードに授業のポイントを記入・提出を課し、学生の理解度や疑問・質問を把握した。コメントカードは翌週全員に返却するものとし、質問への回答や修正は手書きで記入すると同時に全学生に対する補足説明も行った。
2.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて、基盤理論やアプローチ成立の時代背景なども詳細に解説すること、事例提示の方法を工夫することを通して、アプローチ間の差異や固有の視点を理解することをめざした。毎回の授業終了後にコメントカードに授業のポイントを記入・提出を課し、学生の理解度や疑問・質問を把握した。コメントカードは翌週全員に返却するものとし、質問への回答や修正は手書きで記入すると同時に全学生に対する補足説明も行った。
3.	授業科目名【児童・家庭福祉】 現代社会における子どもと家庭をめぐる状況や諸問題、社会構造や人々の価値観の変化について具体的に引き上げ、子どもを権利の主体とする視点から子ども家庭福祉の理念と法制度やソーシャルワーク実践について理解することをめざした。毎回の授業終了後にコメントカードに授業のポイントを記入・提出を課し、学生の理解度や疑問・質問を把握した。コメントカードは翌週全員に返却するものとし、質問への回答や修正は手書きで記入すると同時に全学生に対する補足説明も行った。
4.	授業科目名【子ども家庭支援論】 既習の保育専門科目と関連づけて解説を行った。家庭を取り巻く社会的状況や生態学的視点、価値観の多様性にも触れつつ、子ども家庭支援に求められる援助者の姿勢や視点を涵養することに努めた。
5.	授業科目名【子育て支援】 既習の保育専門科目やソーシャルワークの実践理論に関連づけながら、事例検討を中心に授業を展開した。子育て支援実践を実際的に学ぶこと、子育て支援に求められる援助者の姿勢や視点を涵養することに重点をおいた。
6.	授業科目名【ファミリーソーシャルワーク論】 家族を取り巻く社会的状況との相互作用として家族の状況を捉えること、支援の展開について多角的に考察すること、ソーシャルワーク専門職に求められる現象の捉え方、様々なアプローチに基づく多様な分析枠組みを持つことの重要性に学生自身が気づくことを主軸として授業を展開した。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 理論系科目より先行して学習する位置づけであるため、専門的な用語や概念についての説明を丁寧に行うと同時に、グループを活用して自分の意見をもつこと、表明すること、他者の意見を受け入れ、グループの話し合いをさらに発展させることができることを経験できるようグループの状況を見守り、時折介入しつつ授業を展開した。
8.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】

	学生の社会性と専門性の未熟な部分を実習に臨むにふさわしい程度まで高められるよう、個別指導や日常的な関わりの中で繰り返し助言指導を行うよう心がけた。子どもの発達や特性、障害の理解、援助の実際について具体的なイメージを持てるよう教材を工夫した。
9.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅰ】 実習生の学習準備性と実習計画について実習先実習指導者と事前打合せを行い、実習プログラムや事前学習の内容、学生の個別の状況を含めて情報を共有した。また実習終了後には実習期間中の学生の状況の確認、実習後の振り返りでの学生の学びや発言等について情報共有を行い、今後の実習に向けての考え方を確認した。
10.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 実習前の事前学習では個別指導を強化し、各自の関心事と実習で学びたいこと、準備性をふまえた上で実習目標をたて、各自が準備して実習に臨めるよう指導を行った。前期実習後の振り返りと課題の明確化のためのスーパーバイズに注力し、後期実習に向かう事前学習をサポートした。後期実習後の振り返りにおいては個別指導と並行してグループダイナミクスを活用した。
11.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅱ】 実習生の学習準備性と実習計画について実習先実習指導者と事前打合せを行い、実習プログラムや事前学習の内容、学生の個別の状況を含めて情報を共有した。前期実習終了後には実習先実習指導者より、指導者の考える学生に不足している部分と学生が自覚している自身の課題との乖離が生じており、実習指導者が実習指導を行ううえでの困難となっているとの相談を受け、後期の実習指導の方法や実習先実習指導者としての学生に対するスーパービジョンの進め方について協議を行った。
12.	授業科目名【保育実習指導Ⅲ】 視聴覚教材を用いて実習施設の役割・機能や対象者理解について知識を確認し、実習記録の方法については個別指導を強化した。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいても個別指導を重ね、学生の学びや課題の整理をサポートした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1992 年 10 月	日本社会福祉学会	
2.	2001 年 3 月	日本キリスト教社会福祉学会	
3.	1991 年 11 月	日本ブリーフサイコセラピー学会	
4.	1998 年 11 月	日本家族研究・家族療法学会	
5.	1997 年 5 月	日本小児保健学会	
6.	2011 年 10 月	日本保育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					

2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2021年3月～	社会福祉法人あゆみの森たけのこ会	評議員
2.	2021年7月～	社会福祉法人栄光園	評議員
3.	2017年度～	特定非営利活動法人学童保育協会 福岡県委託事業	福岡県放課後児童支援員認定 資格研修講師

4.	2024 年 7 月	北九州市指定管理者の評価に関する 検討会議	臨時構成員（福祉分野）
5.	2025 年 1 月	北九州市 親子ふれあいルーム運営 事業者選考委員会	委員長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年度	学生募集委員	
2.	2024 年度	教育経費予算配分委員	
3.	2009 年度 ～現在に至る	吹奏楽部	顧問

講師

増本 由紀子

■ 学歴

1. 県立広島大学大学院総合学術研究科（修士課程） 修了

■ 学位

1. 2016年 修士（保健福祉学）

■ 研究分野

1. 保健学
2. 養護学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 児童生徒の健康
2. 学校保健
3. 養護教諭

■ 研究課題

1. 養護教諭の実践に基づく理論の構築について研究
2. 養護教諭の感染症に対する保健管理についての研究

■ 担当授業科目

1. 基礎看護技術（前期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
2. 看護学（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
3. 地域保健学Ⅰ（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
4. 教職実践演習（後期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
5. 看護臨床実習（通年）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
6. 養護実習（通年）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
7. 養護実習事前事後指導 4年生対象（三期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
8. 養護実習事前事後指導 3年生対象（三期）（福祉学科） 必須（養護教諭一種免許取得）
9. 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【基礎看護技術】
	基礎看護技術について、養護教諭として必要な基礎的看護技術と、児童生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法について、講義による解説と技術の演習を行った。写真や図、実物例を示し、医

	療機関や保健室で使用している機器を用いて実践的な演習を工夫した。看護技術の習得のため、確認問題、動画紹介、及び自主練習期間を別途に設け、また、実技試験による確認をおこなった。
2.	授業科目名【看護学】 看護学について、概論を解説し、養護教諭の力量としての看護観を培えるよう学校保健に関連して考察を加えた。症状別の看護を解説し、援助の根拠を持して学校での実践の基礎を学習した。現代的な健康課題に対応して図書や新聞記事等の探索、養護教諭として適切に医学情報の収集と整理、伝達するため代表的な疾患を題材にプレゼンテーション演習等のアクティブラーニングを実施した。
3.	授業科目名【地域保健学Ⅰ】 地域保健学について、概論を解説し、関連する養護教諭の職務と考察を加えた。外部講師を招き、主に母子保健活動と感染症の保健活動の実践を学んだ。ICT を活用して、模擬フィールドワークによる地域診断と、感染症の流行調査と分析、及びプレゼンテーションによる演習のアクティブラーニングを実施した。地域保健活動をふまえた学校保健活動について考察ができるよう工夫した。
4.	授業科目名【看護臨床実習】 看護臨床実習について、講義と演習では、看護学の知識と技術の実践化、さらに学校での実践の具現化を目指した。医療機関での看護実習では、医療と看護の実践を体験的に学び、看護の基本を習得し、学校保健の在り方や養護教諭の役割を見出せることを目指した。主体的に実習に取組み、看護の理解が深まる指導助言を心掛け、さらに、個別及びグループワークによる学びの整理をおこなった。
5.	授業科目名【養護実習事前事後指導】 養護実習事前事後指導について、養護実習の準備を整え心構えができるとともに、実習の学びの整理を追求的におこなった。実習前は実習校での学校教育活動と保健室運営の参与に必要な知識と技術を身につけるよう演習を工夫した。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互の意見交換等をとおして省察的整理や定着化を図り、養護実習報告会で学びの整理をおこなった。
6.	授業科目名【養護実習】 養護実習について、養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力の修得を目指した。実習計画は実習校の重点的な保健活動と期間中の行事等を考慮し、機会のない実習項目は、講話や資料を通じて学習できるよう事前、事後に指導した。実習中の質問等には、メールで迅速かつ詳細に対応した。学校訪問を行い、実習状況に応じた指導助言と質問等の対応をおこなった。
7.	授業科目名【教職実践演習】 教職実践演習について、教職課程での学修を振り返り、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを目指した。各演習テーマについて、グループワークや討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指した。理想の養護教諭像を検討し、教職課程の学びの整理をおこなった。
8.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 児童生徒の健康課題について、学生の興味のある題材を中心に先行研究等の文献検索を行い、ディスカッションをとおして考察を深めた。意欲的に研究に取り組めるよう、各自で考えた研究テーマを設定して、研究を支援した。学校での実践事例の紹介や文献の読み解きなど、児童生徒の健康課題と養護教諭の職務についての理解が深まるように取り組んだ。

■ 学会における活動

加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）

1.	2014 年 4 月～現在に至る	日本学校保健学会	
2.	2016 年 4 月～現在に至る	中国・四国学校保健学会	
3.	2017 年 4 月～現在に至る	日本不安症学会	
4.	2018 年 4 月～現在に至る	日本教育保健学会	
5.	2018 年 4 月～現在に至る	全国養護教諭サークル研究協議会	
6.	2019 年 4 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
7.	2019 年 4 月～現在に至る	日本疫学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025.1	Class-specific school closures for seasonal influenza: optimizing timing and duration to prevent disease spread and minimize educational losses	共	PLOS ONE	①季節性インフルエンザによる学級閉鎖について、感染症数理モデルを用いたシミュレーション研究を行い、学級閉鎖の効果を定量的に示した。学級閉鎖による児童生徒への影響を最小にするための最適なタイミングと期間について検討した。 ②共著者名：Yukiko Masumoto, Hiromi Kawasaki, Ryota Matsuyama, Miwako Tsunematsu, Masayuki Kakehashi ③DOI: 10.1371/journal.pone.0317017
2.	2024.10	Outdoor Learning Activities in Early Childhood Education: Exploring	共	Journal of Sport Science and Education 9(2)	①学童期における屋外学習の効果と課題を明らかにするため、文献検討により分析した。屋外学習と、学童の身体的、認知的、社会的、及び情緒的発達に貢献する認識の変化、さらに限られた資源や環境的制約、教育者の視点の違いについて検討した。

		Benefits and Challenges Through Bibliometric Analysis			②共著者名：Nice Maylani Asrila, Ni Wayan, Surya Mahayanti, Ni Komang, Arie Suwastini, I Wayan Artanayasa, <u>Yukiko Masumoto</u> , Fumiko Kagiura ③ (p. 83-93)
3.	2024.6	Decisions and Influential Factors Regarding Class-Specific School Closures Against Seasonal Influenza Outbreak	共	Cureus	①小学校の学級閉鎖の実際について、調査結果から学校での学級閉鎖の判断に関与する要因を検討した。季節性インフルエンザにおける学級閉鎖の開始のタイミング、期間、判断時の考慮事項、及び養護教諭の考え等についてまとめた。閉鎖時の意思決定に必要な要因や、実施による児童への影響について検討した。 ②共著者名： <u>Yukiko Masumoto</u> , Hiromi Kawasaki, Miwako Tsunematsu, Ryota Matsuyama, Masayuki Kakehashi ③DOI：10.7759/cureus.62394
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024.10	小学校における季節性インフルエンザ流行時の学級閉鎖の実際	共	第 83 回日本公衆衛生学会総会（於 札幌コンベンションセンター）	①季節性インフルエンザによる小学校の学級閉鎖の実際についての調査結果から、学級閉鎖の実施状況と養護教諭の保健活動、及び児童への影響等について要点をまとめた。 ②共同発表者名：増本由紀子、川崎裕美、恒松美輪子、松山亮太、梯 正之 ③日本公衆衛生学会総会抄録集 83 回 (p. 421)
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外	交付決定額 (単位：円)

			者	
1.	感染症の流行予測に基づく 養護教諭の保健管理モデル の展開	日本学術振興会科学 研究費助成事業 基盤研究(C)	○ 増本由紀子 (川崎裕美) (恒松美輪子)	4,680,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	学生個人情報保護委員会	委員
2.	2024 年 4 月～現在に至る	ハラスメント防止委員会	委員
3.	2023 年 4 月～現在に至る	アドバイザー (福祉学科 1 年生・2 年生)	

講師

水貝 洵子

■ 学歴

1. 九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻 博士後期課程 単位満期取得後退学

■ 学位

1. 臨床心理修士（専門職）

■ 研究分野

1. 臨床心理学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 青年期
2. アクションメソッド
- 3.

■ 研究課題

1. 青年期を対象に心理社会適応の促進を目指した臨床心理学的支援の在り方について検討する。
特に、臨床動作法や心理劇などのアクションメソッドを用いた支援の在り方について検討する。
2. 学生支援の一環として、本学全学科の 1 年生を対象に健康管理カルテの配布および利用状況調査を行い、健康管理カルテの活用の仕方について検討する。

■ 担当授業科目

1. ヒューマンサービス基礎演習（前期）必須
2. 初年次セミナーⅠ（前期）必須
3. 発達アセスメント演習（前期）選択
4. 臨床健康心理学（前期）選択
5. 家族心理学演習（前期）選択
6. 初年次セミナーⅡ（後期）必須
7. 臨床心理学概論（後期）選択
8. 障害者心理学（後期）選択
9. 発達臨床心理学（後期）選択
10. 認知行動療法基礎演習（後期）選択
11. スクールカウンセリング論（後期）選択
12. 専門研究Ⅱ（通年）必須
13. 対人関係論（前期）（看護学科）必須

14. 臨床健康心理学（後期）（看護学科）選択
15. 心理学（後期）（保育科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 他者との円滑で受容共感的なコミュニケーションの体験や自分自身への気づきを深める体験が得られることを目指し、様々な対人ワークを実施した。その都度、受講生自身による振り返りを行った。1年生前期での実施のため、受講生の緊張感に配慮して自発的な参加ができるようワーク内容を吟味した。
2.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 学生の提出した課題に対し、多かった回答内容や模範となる回答内容を示しながら、ポイントの解説を行った。課題に関して教員と学生間で一方的なやり取りに限定されないよう、上記のような方法で課題に対するフィードバックを行うなど受講生との相互的なやり取りを心掛けた。
3.	授業科目名【発達アセスメント演習】 学生の多くが実習や就職後に活かせる知識と技術を身に付けようと意欲的に受講していることが予測された。そのため、ロールプレイングを通じ実際に発達検査を実施する体験を提供するだけでなく、発達検査を通じた被検者の特徴の理解の仕方や支援への活かし方について事例検討等を通じ学習した。
4.	授業科目名【臨床健康心理学】 受講学生の関心領域を尋ね従来の授業内容との関連を持たせながら、解説やワーク等を新たに加えた。また、4年生開講科目であるため、事例の紹介なども適宜行い、より実践的な内容を取り入れるようにした。
5.	授業科目名【家族心理学演習】 家族療法の基礎理論について学習した後に、事例検討やロールプレイング等を用いた演習を積極的に実施し、より実践的、体験的な理解を目指した。また、受講学生が少なかったため、演習内で学生の疑問や感想を積極的に取り上げて意見交換を行った。
6.	授業科目名【臨床心理学概論】 臨床心理学の基礎となる理論について解説した。学生からの質問や感想に対し、授業で取り上げて回答や解説を行うなどして、学生の知識の定着や理解の深まりをはかった。
7.	授業科目名【障害者心理学】 精神障害から身体障害にわたって代表的な障害を取り上げ、診断的理解及び社会生活において障害児者がどのような体験をしている可能性があるかについて生涯発達の視点から解説した。診断的理解にとどまらず、当事者の立場から障害について理解する視点が培われるよう、事例や当事者の手記等を適宜資料として提示した。実習等で本講義での知識が活かされるよう適切な援助の在り方についても、臨床心理学的援助を紹介しながら解説した。
8.	授業科目名【発達臨床心理学】 発達障害当事者の手記を教材として障害当事者の体験的理解の深まりを目指した。障害や障害者支援に関し多角的に考え捉える機会となるよう様々な事例を提示した。

9.	授業科目名【認知行動療法基礎演習】 認知行動療法について初めて学習する受講生もいたため、授業前半では基礎的な用語や理論について時間をかけて説明した。後半は医療や福祉、保育など様々な領域で実践された事例を紹介し、学生が学習した知識や理論をどのように実践の場で活かしていくのかイメージしやすいよう工夫した。
10.	授業科目名【スクールカウンセリング論】 受講人数は多くなかったが、実践に活かそうと意欲的に受講していた学生が多かった。そのため、解決志向アプローチをはじめとする主要な臨床心理学的援助方法について事例検討などを通じより実践的に学習した。また、教育者を目指している受講生が多かったため、教育的立場と心理的立場から児童生徒に関わる際の共通点や相違点などについても考え、多職種連携の重要性を確認した。
11.	授業科目名【専門研究Ⅱ】 学生は自ら学びたいキーワードやテーマを設定し、文献を検索した。文献購読やディスカッションを通じ、そのテーマや領域での基本的概念の整理や課題の検討を行った。学生が意欲的に学習に取り組めるよう、学生それぞれの興味関心に応じ文献を選択してもらった。
12.	授業科目名【対人関係論】 円滑なコミュニケーションや適切な支援の基礎となる対人関係に関する心理学的理論について解説した。1年生を対象とした開講科目であり、心理学の学習が初めてである学生が多いため、学生からの授業内容に対する質問や感想について授業内で適宜取り上げて解説や回答をした。教員と学生間で相互的なやり取りを増やし、学生の理解が得られやすいよう配慮した。
13.	授業科目名【臨床健康心理学】 臨床心理学についての基礎知識および、臨床心理学的視点を医療現場等でどのように患者理解や支援に活かすか等について解説した。受講生によって臨床心理学への理解度の差が見られたため、基礎的内容と事例などの発展的内容を合わせて伝えるよう工夫した。
14.	授業科目名【心理学】 円滑なコミュニケーションや適切な支援の基礎となる対人関係に関する心理学的理論について解説した。グループワークによる演習や映像資料を適宜取り入ながら、基本的な事柄についての定着を図った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2010年4月～現在に至る	日本臨床心理劇学会	
2.	2010年4月～現在に至る	日本リハビリテーション心理学会	
3.	2013年4月～現在に至る	日本心理臨床学会	
4.	2016年4月～現在に至る	日本発達心理学会	
5.	2016年4月～現在に至る	特殊教育学会	
6.	2019年4月～現在に至る	日本心理学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2025.3	健康管理ツ ールとして の「健康管理 カルテ」を用 いた大学生 への健康支 援 ー利用状況 と運用に関 する考察ー	共	西南女学院大学 紀要 Vol.29	①大学における学生への健康支援の一 助となることを目的に、学生自身が健康 を意識し管理するツールとして、本学独 自の「健康管理カルテ」を作成し入学生 に配布し、その利用調査を行った。その 利用状況から、学生の健康記録の保管手 段として、また、正しい情報を得る手段 となっていた。今後は健康管理カルテの 配布に留まらず、継続的に情報発信し、 学生自身による健康管理を促す取り組 みが課題となった。 ②共著者：樋口由貴子，水貝洵子，山田 恵，高崎智子，目野郁子 ③ p 47～56
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外	交付決定額 (単位：円)

			者	
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター	面接指導員
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	福岡女学院大学 臨床心理センター	面接指導員
3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	NPO 法人しょうがい生活支援 の会すみか	動作法訓練会 スーパーバイザー

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	紀要委員会	委員
2.	2022 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室	アドバイザー
3.	2022 年 4 月～現在に至る	ダンスサークル	顧問

教授

山根 正夫

■ 学歴

1. 2002 年 福岡教育大学大学院教育学研究科障害児教育専攻 修了

■ 学位

1. 教育学（修士）

■ 研究分野

1. 障害児者の支援方法
2. 応用行動分析学
3. 保育ソーシャルワーク

■ 研究キーワード

1. 障害児・者の支援
2. 行動分析学
3. 保育ソーシャルワーク

■ 研究課題

1. 就学前の障害児および特別なスペクトラムにある子どもの療育について行動分析学的視点から考察する
- 2.

■ 担当授業科目

1. 障害児保育 選択必須
2. 社会的養護Ⅰ 選択必須
3. 社会的養護Ⅱ 選択必須
4. 特別支援教育論（前期）（英語学科・看護学科・福祉学科・栄養学科）選択必須
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【障害児保育】

	障害があると診断された子どもに加えて、多様な支援ニーズのある子どもの発達援助の方法や家族支援、地域・専門機関との連携の在り方について、学生の学習ノート、プレゼンテーション等の予習を基に討議し、解説を加え内容の理解を深化させた。
2.	授業科目名【社会的養護Ⅰ】 テキストを参考に講義形式で解説した。対人援助に関する科目であり文献だけでは想像が困難なことを踏まえて、実際場面のVTRなどの視聴を取り入れた。
3.	授業科目名【社会的養護Ⅱ】 予習用のプリントを配布し、指定の事例検討及び毎回の授業内容についてのまとめを準備し、授業において発表を通して共有を図った。
4.	授業科目名【特別支援教育論】 英語・看護・福祉・栄養学科の教職課程履修者の必須科目であるが、学科によって障害等に関する準備性が異なるため、解説の際に用語等について受講学生に確認しながら授業を展開した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	所属学会はない		
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	なし				
2.					
3.					
（学術論文）					
1	なし				
2.					
3.					
（翻訳）					

1.	なし				
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2005年4月～	福岡教育大学教育総合研究所付 属特別支援教育センター	教育研究部会員
2.	2023年4月～	北九州市障害者自立支援協議会	地域ネットワーク部会部会長
3.	2022年4月～	NPO 法人暁煌会	理事

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	なし		
2.			
3.			

助教

山本 佳代子

■ 学歴

1. 2022年 放送大学修士課程 卒業

■ 学位

1. 2022年 修士（学術）

■ 研究分野

1. レクリエーション
2. 障害福祉
- 3.

■ 研究キーワード

1. 障害のある人の余暇
2. きょうだい
3. アートマネジメント

■ 研究課題

1. 障害のある人が取組むアート活動を通じた社会包摂の実践
2. 病気や障害のある子どものきょうだいへの支援プログラムの検討

■ 担当授業科目

1. ヒューマンサービス基礎演習（前期）必須
2. 基礎実習（通年）選択
3. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（通年）選択
4. ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（通年）選択
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】
	一年前期の必須科目であり、ヒューマンサービスの専門家として基本的なコミュニケーションス

	キルについて理解を深めることを目的とした科目である。他者と関わりながら、自分自身への理解や自分の行動を多面的に捉える力がつけられるよう、グループワークを積極的に取れ入れた。授業終了後の振り返りシートを利用し、体験を言語化、他者との共有、新たな視点の獲得ができるよう努めた。
2.	授業科目名【基礎実習】 3名の教員で少人数のグループを担当し、個別指導を行いながら初めての実習への準備を進めた。各自で取り組む事前学習のほかに、実習生としての心構え、相手に合わせた自己紹介の方法やマナー等、実際の現場ですぐ活かせるようグループでの演習にも力を入れた。また実習中もそれぞれの体験を共有できる機会を設け、悩みや不安、課題を共有しグループ皆で協力しながら実習を終えることができるよう工夫した。
3.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】 一人ひとりが実習に主体的に取り組み、自分自身の実習を組み立てていくことができるよう、まずは先輩の体験談や学びを聞く機会を設け、実習の具体的なイメージを持てるよう努めた。事前学習には、視覚障害の体験や車いす操作等の実技も取り入れ、基礎的な技術の習得に努めた。またグループ学習を取り入れ、調べること・発表することを通し全体で基本的な理解を深めた後、それぞれの興味関心に基づき実習計画書を作成できるよう指導した。また事前学習では、ワークシートを用い、各自がオリジナルの事前学習シートを作成し、実習中も活用できるよう工夫した。
4.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 実習分野における基本的な理解を深められるよう、課題を設定し調べ学習と発表を行いながら学びを深めた。また実習Ⅰでの自身の課題の整理にも取り組み、それぞれが実習Ⅱにおける達成目標を明確にできるよう努めた。実習計画書作成時は、各自が何を学びたいか整理し、実習に臨めるよう個別指導を行いながら書類を作成した。実習後は、同じ領域に実習へ行った学生同士が、学びや課題を共有することで全体の学びにつながるよう発表準備の個別指導を工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2004年	日本レジャー・レクリエーション学会	
2.	2013年	九州レジャー・レクリエーション学会	
3.	2021年	日本小児保健協会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					

3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2 0 0 4 年～現在に至る	地域貢献活動「チャレンジ」	
2.			
3.			

栄 養 学 科

教授

天本 理恵

■ 学歴

1. 2000 年 中村学園大学大学院栄養科学研究科栄養科学専攻（修士課程）修了

■ 学位

1. 2012 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 応用栄養学 分野（母子栄養）
2. 栄養代謝（生活習慣病とミトコンドリア）
- 3.

■ 研究キーワード

1. 生活習慣病とミトコンドリア
2. 栄養代謝（葉酸等）
- 3.

■ 研究課題

1. 生活習慣病（主に癌や加齢性疾患）とエネルギーおよび栄養代謝（ミトコンドリアを中心に）との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 応用栄養学Ⅰ（前期）栄養学科 必修
2. 応用栄養学Ⅱ（後期）栄養学科 必修
3. 総合演習Ⅱ（前期）栄養学科 必修
4. 応用栄養学実習（前期）栄養学科 必修
5. 管理栄養士演習Ⅰ（前期）栄養学科 選択
6. 臨地実習Ⅱ（後期）栄養学科 選択
7. 実践活動（3年後期～4年前期）栄養学科 選択
8. 栄養学概説（後期）栄養学科 必修
9. 母子栄養学（前期）助産別科 必修
10. 栄養学（前期）福祉学科 養護教諭 必修
11. 臨床栄養活動論（後期）栄養学科 選択
12. 調理師論（夏期集中）栄養学科 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説、調理師論】 1. 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2. 1 の教材を印刷したプリントと、関連資料を配布し、重要なところをマークさせた。また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、板書し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書＋スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した（調理師論以外）。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストには、講義理解度を書く欄を作成し、学生に自己評価させた。また自由質問の欄に記載がある場合には、必ずそれに回答して返却した。以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。
2.	授業科目名【応用栄養学実習】 本実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、食物アレルギー対応食、嚥下調整食や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにしている。調理実習では示範時に調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にもきちんと捉えることが出来る講義内容となるように考えた。演習時においても各ライフステージの対象者の特性に合わせて、食事摂取基準を活用できる力を身につけることが出来るように講義を展開した。今後も学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように改善を行っていく。
3.	授業科目名【臨地実習Ⅱ、臨床栄養活動論】 臨床栄養活動論は、臨地実習Ⅱ（医療施設）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、献立作成、プレゼンなど、3 人の担当教員および助手教員とともに講義時間外も含め、指導に尽力した。私が昨年度まで臨地実習Ⅰの担当であり、今年度から臨地実習Ⅱの担当に異動したが、臨床の現場経験がないため、講義の大半はお二人の先生（渡邊先生、山田先生）にオンブ状態であったことを反省している。今後も臨地実習に関しては、臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲすべてに協力して出来る限りの学生の支援をしていきたいと考えている。
4.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。それらの問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は板書し、学生に書き取らせることで、理解を促した。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設している国家試験対策講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

5.	授業科目名【母子栄養学 助産別科】 視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。母性の栄養補給法に関して、実習先での課題に対するポイントの解説も行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。
6.	授業科目名【栄養学 福祉学科】 対象が福祉学科で養護教諭を目指す学生たちのため、栄養のことを少しでも理解してもらい、将来の仕事に活かして欲しいとの思いから、栄養に関する難しい専門用語に関しては、出来る限り噛み砕いて教授するように努力した。毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに感想や質問を書いてくる学生たちが多く、その質問に必ず回答し、返却した。
7.	授業科目名【実践活動】 2020 年度まで実施していた極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』の後継プロジェクトとして、2021 年度より『ほほえみ project』が立ち上がった。2024 年度も、看護・福祉・栄養の 3 学科の学生たちが連携し、八幡病院の小児病棟に入院している子どもたちへ（乳児 40 名、幼児 80 名、学童 30 名）、各ライフステージの成長発達に合わせた知育玩具（クリスマスプレゼント）作りを実施した。プレゼントの企画から、材料購入、そして作製まで、3 学科の学生たちが協力して実施した。ゼミを通して、多職種との協働・連携ができる人材や精神の育成（学生教育）を目指したいと考える。また、今年度は、船越ゼミ、永田ゼミ生と協働して、北九州市学校給食応援団にも参加した。ぬか炊き、ぬかみそを使用した献立をテーマに、学生たちが連携して、献立を作成した。北九州市教育委員会で選ばれた献立は、1 月の郷土料理週間の時に提供され、学生も小学校での交流会に参加し、献立のプレゼンを実施した。学校給食応援団での経験を通して、協働・連携の力が身に付いたと考えられる。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002 年 4 月～現在に至る	日本栄養士会	
2.	2002 年 4 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
3.	2002 年 11 月～現在に至る	日本栄養・食糧学会	
4.	2010 年 4 月～現在に至る	日本癌学会	
5.	2012 年 4 月～現在に至る	日本分子生物学会	
6.	2017 年 4 月～現在に至る	日本スポーツ栄養学会	
7.	2022 年 4 月～現在に至る	日本 DOHaD 学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.	2025 年 4 月 1 日初版発 行予定	イラスト 応用栄養学 ・ライフステー ジ別栄養ケア・ マネジメント の理解と実践・	共	東京教学社	①管理栄養士を目指す学生が広範囲の「応用栄養学」を学ぶために、平易な文章とイラストを多用したテキスト。国家試験出題基準に準拠して作成。食事摂取基準 2025 年版の改訂に合わせ、前版のイラスト応用栄養学から全てを見直し、イラストを増やし、オールカラーで作成した。 ②共著者：藤木理代（編）、<u>天本理恵</u> 熊原秀晃、三田有紀子、大和孝子 中岡加奈絵、水田文、山田紀子 ③担当部分：第 4 章妊娠期・授乳期(p.76-104)、第 5 章新生児・乳児期(p.106-132) 総頁：318 ページ ④B5 判
2.	2025 年 4 月 5 日初版発 行予定	スタンダー ド人間栄養 学 これから の応用栄養 学演習・実習 (第 2 版) ー栄養ケアプ ランと食事計 画・供食ー	共	朝倉書店	①応用栄養学の演習と実習のための教科書(実習書)である。食事摂取基準 2025 年版の改訂もあり、前回の応用栄養学実習書の中身を全て見直し作成した。今回は編集に関わった。 ②編集者：渡邊 早苗、宮崎 由子、 吉野 陽子、<u>天本 理恵</u> 共著者：渡邊早苗、<u>天本理恵</u> 他 14 名 ③担当部分：序章 (p.2-7)、4 章妊娠期の栄養管理の実際 (p.28-33)、献立の編集 総頁：136 ページ ④A4 判
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					

3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2021年8月～現在に至る	北九州市小児保健研究会	理事
2.	2024年6月28日	福岡県保育協会研修会（給食研修会）	講師
3.	2024年7月27日	人権市民講座（大蔵市民センター）心身の健康を支える食について	講師
4.	2024年8月27日	北九州市社会福祉協議会 (穴生学舎 健康づくりサポーターコース)	講師
5.	2024年11月18日	遠賀・中間地区保育協会研修会	講師
6.	2024年12月	北九州市立保育所給食調理業務 受託候補者選定検討会構成員 (北九州市こども家庭局)	構成員
7.	2024年3月～2025年3月	北九州市学校給食応援団	構成員（西南女学院大学として）

			永田・船越・天本ゼミ協働

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	教務委員会	教務副委員長
2.	2016年8月～現在に至る	地域連携室 室員（子ども・子育て支援分野）	
3.	2025年1月25日	地域連携室 おはなしづくりワークショップ (保育科 阿南先生が主導)	運営スタッフ
4.	2019年4月～現在に至る	動物実験委員会	
5.	2021年6月～現在に至る	ほほえみproject(ほほえみの会2014年4月～2020年3月活動終了からの後継project)	看護学科・福祉学科と連携
6.	2024年 7 月26日	西南女学院高等学校進路ガイダンス	
7.	2024年 ～現在に至る	STEP UP	支援教員

教授

岡部 明仁

■ 学歴

1. 1999 年 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科博士後期課程 研究指導認定退学

■ 学位

1. 2001 年 博士（バイオサイエンス）（奈良先端科学技術大学院大学）

■ 研究分野

1. 神経科学
2. 神経生理学
3. 神経解剖学
4. 自律神経機能
5. 呼吸生理
6. 病態生理

■ 研究キーワード

- 1.
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 抑制性神経伝達物質（GABA、グリシンなど）
2. Cl⁻共輸送体
3. 細胞内 Cl⁻濃度
4. 呼吸リズム
5. 延髄
6. 摂食・満腹中枢
7. 視床下部

■ 担当授業科目

1. 生物と生命科学（前期）（栄養学科） 選択
2. 解剖生理学（前期）（栄養学科） 必須
3. 人体の構造と機能基礎実習（分担・前期）（栄養学科） 必須
4. 解剖学（前期）（福祉学科） 選択
5. 応用生理学（後期）（栄養学科） 必須
6. 解剖生理学実習（後期）（栄養学科） 必須
7. 初年次セミナーII（分担・後期）（栄養学科） 必須

8. 生理学（後期）（福祉学科） 選択
9. 管理栄養士演習Ⅰ（分担・通年）（栄養学科） 選択
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【生物と生命科学】 毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。高校で生物を選択していない学生にも苦手意識ができないように、意識的に身の回りの出来事と関連させながら講義を行った。
2.	授業科目名【解剖生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。人体の構造と機能基礎実習と本講義が並行して進められたので、座学と実習の連携を特に意識して行った。
3.	授業科目名【人体の構造と機能基礎実習】 後半 10 回を担当した。実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。実習では、前年度のデータを使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫した。マウスの解剖実習を行うことで、命の大切さと臓器の配置の精巧さを体験してもらい、座学の解剖生理学と強く連携していることを意識してもらえるようにした。加えて、提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
4.	授業科目名【解剖学】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。
5.	授業科目名【応用生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。また、病気や病態と正常機能を比較することで理解を深めってもらうため、可能な限り病態の例を提示して意識してもらえるよう努めた。
6.	授業科目名【解剖生理学実習】 実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。本実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫している。加えて、体を構成する組織に意識を向けてもらうために、バーチャルスライドを用いて組織標本のスケッチを行うことで、器官・組織が様々な形の細胞からできていることを理解してもらえるよう構成した。本実習も提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
7.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 栄養学科で使用する単位およびプレゼンテーションの基本について講義・演習を行った。単位については前期と内容を一部重複させて復習を兼ねたものにし、知識の定着を狙った。プレゼンテーションの基本については、口頭発表とポスター発表に分けそれぞれの特徴と提示の仕方を、具体例を用いて

	伝えた。
8.	授業科目名【生理学】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。
9.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 講義スライドを全て資料として配布した。過去4年分の国家試験の過去問から、解剖生理にかかわる分野の問題を抽出し、解説を行った。また、国家試験模試の該当分野を用いて頻出問題を提示し、その解説を行った。解説を行う際、ただ正答を示すだけでなく、誤答についても詳細な説明を行い、知識の拡充に努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1999年7月～現在に至る	日本生理学会	評議員（2002年4月～現在に至る）
2.	2001年10月～現在に至る	日本解剖学会	代議員（2019年3月～現在に至る）
3.	1996年7月～現在に至る	日本神経科学会	
4.	1999年11月～2023年11月	北米神経科学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2024年7月	Reduced gene expression of KCC2 accelerates axonal regeneration and reduces motor dysfunctions after tibial nerve	共著	Neuroscience Volume 551	① ヘテロ接合性 KCC2 ノックアウト (HT) マウスと野生型 (WT) マウスの脛骨神経を損傷した。HT マウスでは、運動機能障害および ChAT (Ach 合成) の低下はそれほど重症ではなかった。EM および免疫染色により、変性、再生、髄鞘形成が速まっていることが明らかになった。神経損傷は、HT マウスにおける KCC2 の減少をより早期かつ長期間にわたって引き起こす可能性がある。KCC2 発現の低下は GABA/Gly

		severance and suturing			興奮を介して軸索再生を促進する可能性がある。 ② 共著者名： Hironobu Ando, Chigusa Shimizu-Okabe, Nobuhiko Okura, Tsukasa Yafuso, Yoshinori Kosaka, Shiori Kobayashi, Akihito Okabe and Chitoshi Takayama ③ P55-68
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	周産期運動機能発達における抑制性神経伝達物質グリシンの役割	日本学術振興会	○（清水千草） （荒田晶子） 岡部明仁	4,680,000	
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年 4 月 1 日～現在に至る	動物実験委員会	副委員長
2.	2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	人事委員会	副委員長
3.	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	学習支援（1 年生担当）	委員

教授
尾上 均

■ 学歴

1. 1989 年 大阪大学大学院医学研究科単位取得退学

■ 学位

1. 博士（医学）

■ 研究分野

1. 生化学
2. 分子生物学
3. 細胞生物学

■ 研究キーワード

1. カルシウムイオン
2. タンパク質間相互作用
- 3.

■ 研究課題

1. 細胞内カルシウムイオン動員機構
2. イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用

■ 担当授業科目

1. 生活の中の化学
2. 生化学 I
3. 生化学 II
4. 生化学実習
5. 人体の構造と機能基礎実習
6. 管理栄養士演習 I
7. 実践活動
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【生活の中の化学】
	• 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩

	基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを目標の中心として講義を行った 本科目、生化学Ⅰおよび生化学Ⅱをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントのPDFファイルをClassroomに提示し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた 講義は、スライドを用いて行った。スライドには改訂を加えた。
2.	授業科目名【生化学Ⅰ】 - 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた - 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な原理・原則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした - 講義に用いるスライドにも改訂を加えて使用した - 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに改訂を加えて配布した - 講義中に話した内容に関する質問を行い、理解度の把握に努めた 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した
3.	授業科目名【生化学Ⅱ】 - 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。 - 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した - 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。 - 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
4.	授業科目名【人体の構造と機能総合実習】 - 本科目は岡部教授とのオムニバス科目であり、15回中5回を担当した - 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学Ⅰ(後期に開講)で学ぶ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした - 実験ノート的重要性を強調し、毎回の実習後、学生の手帳をチェックした - 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
5.	授業科目名【生化学実習】 - 実験を通じて「事実(データ)を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた - 実験ノート的重要性を強調し、毎回の実習後、学生の手帳をチェックした - 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てら

	れるように指導した
	● レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
6.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】
	● 本科目は、複数の教員によるオムニバス科目であり、15 回中 2 回担当した
	● 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と国試過去問等の練習問題を組み合わせた授業内容にした
	● 生化学ⅠおよびⅡでは取り扱わなかったトピックとして、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った
	● 練習問題は国試や模試の過去問とオリジナルに作成したもの組み合わせたものにした

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995 年 5 月～現在に至る	日本生化学会	
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究

	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防 止・対策委員会	
2.	2022 年 4 月～現在に至る	学生個人情報保護委員会	委員長(2023 年度)
3.			

教授
木村 宏和

■ 学歴

1. 1999 年 九州大学大学院農学研究科食糧化学工学専攻博士後期課程 修了

■ 学位

1. 1999 年 博士（農学）

■ 研究分野

1. 応用微生物学
2. 食品バイオテクノロジー
3. 食品科学

■ 研究キーワード

1. 機能性ペプチド
2. 長期熟成糠床
3. 未利用バイオマス

■ 研究課題

1. 長期熟成糠床の栄養価・機能性に関する研究
2. 未利用バイオマスの乳酸発酵を利用した新規採卵鶏用飼料の開発

■ 担当授業科目

1. 食品衛生学 前期（栄養学科）必修
2. 加工食品機能論 後期（栄養学科）必修
3. 食品衛生学実験 後期（栄養学科）必修
4. 管理栄養士演習Ⅰ 通年（栄養学科）必修
5. 初年次セミナーⅠ 前期（栄養学科）必修
6. 卒業ゼミ 通年（栄養学科）選択
7. 微生物学 前期（栄養学科）選択
8. 食品機能特論 前期（栄養学科）選択
9. 栄養学概説 後期（栄養学科）必修
10. 調理師論 前期（栄養学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【食品衛生学実験】
	食品衛生学実験で使用するオリジナルの実験書を作成した。注意点や取り組みなどを説明し、学生の

	理解力向上に努めた。
2.	授業科目名【食品機能特論 】 食品機能特論で使用するオリジナルの資料を作成し、最新の食品機能性について講義した。
3.	授業科目名【 】
4.	授業科目名【 】

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994 年～現在に至る	日本農芸化学会	
2.	1994 年～現在に至る	日本生物工学会	
3.	2006 年 4 月～現在に至る	日本乳酸菌学会	
4	2013 年 4 月～現在に至る	バイオテクノロジー研究推進 会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					

3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024年5月10日～2025年3月31日	北九州市 北九州市の郷土料理「ぬか炊き」 の食文化価値の再発見事業	栄養学有識者
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024年4月～2025年3月	研究紀要委員会	委員
2.	2024年4月～2025年3月	倫理審査委員会	委員

教授
坂田 郁子

■ 学歴

1. 2010 年 福岡女子大学大学院卒業

■ 学位

1. 2010 年 修士（人間環境学）

■ 研究分野

1. 公衆栄養学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 食環境整備
2. 減塩食品
3. 若い世代の食育

■ 研究課題

1. 高血圧予防のための減塩とカリウム増加のための食環境整備が、減塩食品の販売促進につながる手法の検討を行う。
2. 若い世代の食の課題である野菜摂取不足、朝食欠食について原因を分析し対策を検討する。

■ 担当授業科目

1. 公衆栄養学Ⅰ（後期）（栄養学科）必須
2. 公衆栄養学Ⅱ（前期）（栄養学科）必須
3. 公衆栄養学実習（後期）（栄養学科）必須
4. 地域栄養活動論（後期）（栄養学科）選択
5. 臨地実習Ⅲ（後期・前期）（栄養学科）選択
6. 総合演習Ⅱ（前期）（栄養学科）選択
7. 管理栄養士演習Ⅱ（通年）（栄養学科）選択
8. 実践活動（後期・前期）（栄養学科）選択
- 9.
- 10.
- 11.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ】 集団や地域の健康・栄養改善のために、栄養課題やニーズを把握し、対象集団の特性に応じて、適切な栄養関連サービスを提供する公衆栄養プログラムの作成、実施、評価・フィードバックするための知識や方法を修得させるため、自治体で実施されている実践事例を紹介し公衆栄養プログラムへの理解を深めた。
2.	授業科目名【公衆栄養学実習】 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識・技術を基に、地域診断、既存資料の活用、文献検索を行い、グループ毎の主体的な取組みを尊重しながら、PDCA サイクルに基づいた公衆栄養プログラムが作成できるように指導した。
3.	授業科目名【地域栄養活動論】 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務について外部講師の講義を交えながら解説を行い、管理栄養士の役割や多職種連携について理解させるとともに、臨地実習Ⅲに臨むための基礎知識の修得に努めた。
4.	授業科目名【臨地実習Ⅲ】 実習期間中に実施される実習課題内容を事前に確認し、課題への指導を徹底して行い、臨地実習が有意義なものとなるように取り組んだ。臨地実習の巡回時には、実習での学びが今後の授業や職業選択に活かされるように、実習中の学生への助言を行った。また、今年度はコロナ蔓延防止期間中のため、2週間前から健康管理の記録、自粛行動を遵守させ実習に臨ませた。
5.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】 管理栄養士国家試験教科「公衆栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解するために、国家試験の過去問題を分析し、出題傾向に的を絞った問題を作成し解説を行った。また、苦手な問題は何度も練習問題を解かせ、克服することに努めた。
6.	授業科目名【総合演習Ⅱ】 卒業後管理栄養士として働くために必要な個人の栄養管理手法について、高齢社会の中、在宅で療養する高齢者が多くなってくるため、在宅療養高齢者に必要な栄養管理手法について、事例をとおし説明し、幅広い視点をもって対応することができるよう努めた。
7.	授業科目名【実践活動】 地域でおこなわれている公衆栄養活動を理解させるために、北九州市が取り組んでいる若い世代の食育推進事業に協力し、管理栄養士としての活動を理解させ、健康増進・疾病予防に必要な知識と技術の修得に努めた。また本年度は未活用農産物を活用した商品開発についても指導を行った。
8.	

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987 年 2 月～現在に至る	福岡県公衆衛生学会	
2.	2005 年 3 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
3.	2006 年 5 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
4.	2021 年 9 月～現在に至る	日本高血圧学会	

5.	2024 年 5 月～現在に至る	日本食育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2024 年 7 月	地域におけ る減塩食品 の入手可能 性を評価す るための調 査方法の開 発	共	日本公衆衛生学 雑誌第 71 巻第 7 号	①地域における減塩のための食環境整備を推進するために、標準的な減塩食品販売状況調査方法を確立させるため、減塩食品の基準、実践のためのマニュアルを作成し、全国で使えるような手法の検討を行った。 ② 共著者名：早瀬仁美、武見ゆかり、太田雅規、 坂田郁子 、坂口景子、久保彰子、由田克士、北岡かおり、岡見雪子、大久保孝義、岡村智教、野出孝一、三浦克之 ③P366-375
2.	2025 年 3 月	未活用農産物を商品化に SDG s に取り組もう	共	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部地域貢献活動報告 2024	①食べられるのに捨ててしまう地場産野菜を活用して、地域の農家や企業および行政と連携し販売できる商品開発を行った。 ②共著者名：坂田郁子、山田志麻、船越淳子 ③P14-16
3.	2025 年 3 月	8つの料理区分を用いた簡易食事診断手法の検討	共	西南女学院大学紀要 VOL.29	①「主食」「主菜」「副菜」等の料理区分を用いて、簡便でかつ対象者に分かりやすい結果を提供できる、24 時間思い出し法を用いた食事診断手法を検討した。 ②永原真奈見、山口瑠美、原田帆乃花、 坂田郁子 ③P1-16
（翻訳）					

1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024.9	8つの料理区分を用いた簡易食事診断手法の検討	共	第 71 回日本栄養改善学会（於大阪公立大学）	①主食、主菜、副菜、牛乳・乳製品、果物、菓子、飲物、酒の8つの料理区分を用いて、簡便でかつ対象者に分かりやすい結果を提供できる食事診断手法を検討した。 ②共同発表者名：永原真奈見、山口瑠美、原田帆乃花、坂田郁子 ③第 71 回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P377)
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	若い世代の食育推進事業	北九州市	○坂田郁子 永原真奈見	69,965 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等
1.			
2.			

3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 6 月 16 日 ～2024 年 3 月 31 日	保健福祉学部栄養学科長	
2.			
3.			

学生部長・栄養学科長・教授

高崎 智子

■ 学歴

1. 1992 年 九州大学医学部医学科 卒業

■ 学位

1. 2001 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 予防医学

■ 研究キーワード

1. 健康管理
2. 生活習慣
3. がん教育
4. がん検診

■ 研究課題

1. 健康寿命の延伸を図るため、啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す。がん検診に関する地域住民の意識と課題について検討し、がん検診の受診率を高めるための方策等について考察する。
2. 女子大学生の健康維持・増進に向けた支援の効果的な取り組みについて検討する。

■ 担当授業科目

1. 疾病診断治療学Ⅰ（前期）（栄養学科）必修
2. 臨床基礎医学実習（前期）（栄養学科）必修
3. 病理基礎医学（後期）（栄養学科）必修
4. 疾病診断治療学Ⅱ（後期）（栄養学科）必修
5. 管理栄養士演習Ⅰ（通年）（栄養学科）選択
6. 実践活動（通年）（栄養学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【病理基礎医学】
	1 年生を対象としており、大学で初めて学ぶ医学講義であるため、医学用語をはじめとし、医学の基礎となる基本的な知識を習得することを目標とした。病気の本質を理解するために、体の中で起きる変化を遺伝子・細胞・組織レベルから学び、疾病の種類や病因、病態との関連へと理解を深めていくように努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあ

	てるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
2.	授業科目名【疾病診断治療学Ⅰ】 管理栄養士として栄養学を学ぶ上で臨床医学の知識は不可欠である。管理栄養士が知っておくべき基礎知識および医学的な考え方について学ぶために、代表的な疾患の成因、症状、診断方法、検査結果、治療方法などの知識を修得することを目標とした。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
3.	授業科目名【疾病診断治療学Ⅱ】 疾病診断治療学Ⅰで学んだ臨床医学的知識を基に、疾病や栄養療法に関する専門知識をさらに深めるとともに、健康増進・疾病予防において管理栄養士が果たすべき役割についての重要性を学ぶことを目標とした。改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。また実際に社会で問題となっている事例を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示することで関心を高めるよう努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
4.	授業科目名【臨床基礎医学実習】 管理栄養士はチーム医療を担う一員である。医療の現場においては対象者の栄養状態や健康状態を把握した上で、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療現場の実際を理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定した。血圧脈波検査・腹部エコー検査・骨密度検査・乳がん検診方法等を体験するとともに、高齢化社会を意識して認知機能を調べる検査を組み込んだ。各実習の最初には、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、講義形式と質疑応答形式による導入を行った。検査を実際に体験するのみならず、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課し、理解度を確認した。なおレポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することを促すとともに、参考となるURLを提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。
5.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 4年生を対象として、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野を中心に演習形式による講義を担当した。実際に出題された国家試験問題を中心に解き、解説を行った。解答を導き出す過程や要点をまとめたスライドを作成し、暗記に頼るのではなく理解して考える習慣付けができるようにした。国家試験頻出分野に関しては、類題をくり返し解くことで理解の定着に努めた。
6.	授業科目名【実践活動】 がんの原因の中には生活習慣とかかわるものも多く、予防のためのがん教育が小学校から始まっている。そのような状況を受け、特に大腸がんと乳がんについての「がんの予防と食事との関連」をテーマに、3名の4年生および4名の3年生を指導した。学生の主体性を大切にしながら、資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について教授し、文献検索等により情報収集・考察し、ス

ライド発表することを指導した。3年生は、10月の大学祭にて、第一生命（株）および本学看護学科吉原ゼミと共同で乳房触診体験ブースを出展し、乳がん検診啓発活動を行った。

また「食と健康」に関して地域住民に啓発活動を行うための本学栄養学科および九州歯科大学口腔保健学科との連携公開講座にて成果を披露する場を得た。参加者とともに「治療食（嚥下食）を調理体験する」講座を開催した。家庭でも簡単に作れる嚥下食を作り、食事が病気の治療を支えることを紹介した。また本公開講座での活動内容を、地域貢献活動交流会にてポスター発表した。大学で学んだ知識や技術をもとに、「食と健康」「口腔保健」の立場から連携して地域住民への情報発信と健康支援を行ったことは、将来就くべき専門職に対するモチベーションを高め、多職種連携によるチーム医療への理解を深めることにつながったと考える。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000年8月～現在に至る	日本人間ドック・予防医療学会	人間ドック認定医 (2005年8月～現在に至る)
2.			人間ドック健診情報管理指導士 (2007年8月～現在に至る)
3.			人間ドック健診専門医 (2012年1月～現在に至る)
4.			人間ドック健診指導医 (2017年4月～現在に至る)
5.			遺伝学的検査アドバイザー (2020年4月～現在に至る)
6.	2006年10月～現在に至る	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ読影認定医 (2006年10月～現在に至る)
7.	2010年5月～現在に至る	日本がん検診・診断学会	がん検診認定医 (2012年10月～現在に至る)
8.	2011年4月～現在に至る	日本抗加齢医学会	日本抗加齢医学会専門医 (2020年1月～現在に至る)
9.	2017年4月～現在に至る	肺がんCT検診認定機構	肺がんCT検診認定医 (2017年4月～現在に至る)
10.	2010年4月～現在に至る	日本医師会	日本医師会認定健康スポーツ医 (2011年5月～現在に至る)
11.			日本医師会認定産業医 (2016年9月～現在に至る)
12.			日医生涯教育認定 (2019年12月～現在に至る)
13.			かかりつけ医こころの健康対応力 向上研修修了 (2019年12月～現在に至る)
14.			かかりつけ医認知症対応力向上研

			修了 (2019 年 12 月～現在に至る)
15.			日医かかりつけ医機能研修制度修了 (2024 年 4 月～現在に至る)

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
(学術論文)					
1.	2025. 3	健康管理ツ ールとして の「健康管理 カルテ」を用 いた大学生 への健康支 援－利用状 況と運用に 関する考察 －	共	西南女学院大学 紀要 2025 Vol.29	① 大学における学生への健康支援の一助となることを目的に、学生自身が健康を意識し管理するツールとして、本学独自の「健康管理カルテ」を作成した。入学生に配布し、その利用状況に関する調査を行った結果、学生の健康記録の保管手段として、また、正しい情報を得る手段として利用されていることがわかった。今後は健康管理カルテの配布に留まらず、継続的に情報発信し、学生自身による健康管理を促す取り組みを進めることが課題である。 ② 共著者名：樋口由貴子、水貝洵子、山田恵、高崎智子、目野郁子 ③ (P47-56)
(翻訳)					
1.					
(その他)					
1.	2025. 3	「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座～治療食（嚥下食）の調理体験～	共	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部地域貢献活動報告 2024	① 口腔機能と栄養は密接に関連している。2 大学が連携し、2024 年 11 月に「治療食（嚥下食）の調理体験」をテーマに、高校生とその保護者等を対象とした咀嚼や嚥下に関する体験型講座を開催した。本連携公開講座における地域住民への情報発信と健康支援活動について報告した。 ② 共著者名：高崎智子、渡邊和美、黒

					岩かすみ、中村愛奈、邵仁浩、中道敦子、辻澤利行、船原まどか、磯部彩香 ③ (P9-11)
(学会発表)					
1.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年 2 月～現在に至る	国家公務員共済組合連合会 新小倉病院	非常勤医師・産業医・ 衛生委員会 副委員長
2.	2022 年 4 月～現在に至る	北九州市食品衛生懇話会	会員（座長）
3.	2024 年 11 月 2 日	「食と健康」に関する西南女学院大学栄養学科・九州歯科大学口腔保健学科連携公開講座	「治療食（嚥下食）の調理体験」 企画・運営
4.	2025 年 3 月 7 日	2024 年度 地域貢献活動交流会 2024 年度 地域懇談会	「治療食（嚥下食）の調理体験」 ポスター発表 地域連携室運営協議会 構成員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021 年 4 月～現在に至る	学校法人西南女学院 将来計画委員会	大学・短期大学部 委員
2.	2021 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学・短期大学部 学生部	学生部長

3.	2024 年 11 月～現在に至る	西南女学院大学保健福祉学部栄養学科	栄養学科長
4.	2021 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学・短期大学部 大学評議会	構成員
5.	2021 年 4 月～現在に至る	運営会議	構成員
6.	2021 年 4 月～現在に至る	点検評価改善会議	構成員
7.	2021 年 7 月～現在に至る	将来計画検討プロジェクト会議	構成員
8.	2022 年 10 月～現在に至る	教学マネジメント会議	構成員
9.	2023 年 4 月～現在に至る	改革推進グループ会議	構成員
10.	2024 年 11 月～現在に至る	入学試験会議	構成員
11.	2023 年 6 月～現在に至る	教学 IR 推進室	室員
12.	2024 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室	室長
13.	2021 年 4 月～現在に至る	地域連携室運営協議会	構成員
14.	2021 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室運営連絡協議会	構成員
15.	2021 年 4 月～現在に至る	学生委員会	委員長
16.	2021 年 4 月～現在に至る	就職委員会	委員長
17.	2021 年 4 月～現在に至る	国際交流委員会	委員長
18.	2021 年 4 月～現在に至る	学生個人情報保護委員会	委員
19.	2021 年 4 月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防止・対策委員会	委員
20.	2025 年 2 月 13 日	2024 年度 大学キャンパスハラスメント防止セミナー「大学におけるハラスメントの防止と対策」	座長
21.	2019 年 4 月～現在に至る	栄養学科 学生アドバイザー	アドバイザー
22.	2019 年 4 月～現在に至る	管理栄養士 国家試験対策講座（前期・夏期集中・後期・国試直前）	講師
23.	2024 年 6 月 15 日	オープンキャンパス 栄養学科模擬授業「自分の体の成分を知ろう～See what you're made of!～」	講師

准教授
藤和 太

■ 学歴

1. 2005 年 九州大学博士課程 卒業

■ 学位

1. 2005 年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 栄養疫学研究
2. 分子疫学研究
3. 生活習慣病に関する疫学研究

■ 研究キーワード

1. 疫学
2. 遺伝子多型
3. 生活習慣病

■ 研究課題

1. 症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究
2. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と空腹時血糖値に関する疫学研究

■ 担当授業科目

1. 公衆衛生学（前期）（栄養学科）必須
2. 栄養疫学（後期）（栄養学科）選択
3. 公衆衛生学（前期）（福祉学科）選択
4. 健康管理概論（前期）栄養学科 必須
5. 管理栄養士演習 I（通年）（栄養学科）必須
6. 国際栄養論（後期）（栄養学科）選択
7. 科学英語文献講読（前期）（栄養学科）選択
8. 実践活動（3 年後期・4 年前期）（栄養学科）選択
9. 卒業研究（3 年後期）
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【公衆衛生学】（栄養学科）
	聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が

	分かりやすくすることに気がつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
2.	授業科目名【栄養疫学】 公衆衛生学Ⅰでは、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、栄養疫学の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。毎回小テストを実施し、理解度を確認した。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
3.	授業科目名【公衆衛生学】（福祉学科） 公衆衛生学の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れ、毎回小テストを実施し、理解度を確認した。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
4.	授業科目名【健康管理概論】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
5.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
6.	授業科目名【国際栄養論】 「国際栄養論」は2単位（2時間×15回）の後期科目である。講義内容は各国の医療栄養制度、栄養摂取状況、食文化について勉強する科目である。履修登録学生は少なかったため、アクティブラーニングを活用し、課題に対し、自分で調べ、自分でまとめて、発表する形で授業を進めた。
7.	授業科目名【科学英語文献講読】 「科学英語文献講読」は1単位（2時間×8回）の後期科目である。主に栄養学に関する英語論文を講読する。履修登録学生は少なかったため、アクティブラーニングを活用し、英語論文をPubMedで調べ、調べた論文を講読し、発表するようにした。
8.	授業科目名【実践活動】 学生が研究テーマを決め、決められた研究テーマに関する先行研究を調べ、講読し、週一回発表する。最後に自分の研究テーマについてまとめて文章にし、口頭発表する形で学生が自分から能動的に勉強するよう工夫した。
9.	授業科目名【卒業研究】 卒業研究テーマは「コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と空腹時血糖値に関する疫学研究」である。卒業研究生は研究の先行研究論文を購読し、ゼミ生と一緒に抄読会をしました。また、研究データの整理と分析方法を学習した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002年 10月～現在に至る	アジア太平洋がん予防学会	会員

2.	2003 年 1 月～現在に至る	日本疫学会	会員、(2021-2022 年、代議員)
3.	2003 年 10 月～現在に至る	日本癌学会	会員
4.	2004 年 8 月～現在に至る	日本がん疫学研究会	会員
5.	2010 年 12 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	会員

■ 研究業績等に関する事項 (2023 年度)

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.	2023 年 11 月	健康 管理 概 論 第 4 版	共著	講談社	① 栄養学 NEXT シリーズ教科書として編まれたもので、管理栄養士国家試験ガイドライン「社会・環境と健康」において、生涯を通じた健康管理をまとめた教本である。妊産婦、乳幼児、児童生徒、学生、成人及び高齢者の健康管理の順で構成されている。 ② 監修者名：桑波田雅士 塚原丘美 共著者：久保加織、 <u>藤和太</u> 、他 17 名 ③ 担当部分：第 8 章 生徒の健康管理 (P127-144) 総頁数：P201 ④ B5 判
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	なし				
2.					
3.					
(翻訳)					
1.	2023 年 5 月	医学部教科 書、病気がみ える vol.11 運動器・整形 外科 モンゴル語・ 英語・日本語 語彙集	共著	Medic Media 名古屋大学	① 名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学、モンゴル国立医科学大学大学院研修所と協力し、日本の医学部教科書である「病気がみえる」シリーズをモンゴル語に翻訳する作業を行っている。2023 年 5 月に vol.11 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。 ② 監修者名：浜島信之、バトウムル トウムルクヤク

					共訳者名：<u>藤和太</u>、ナランデルガ ドルゴル、オトゴンバト アルタンゲレル ③ 担当部分：日本語のモンゴル語訳 (P1-103) 総頁数：P103 ④ B5 判
2.	2023 年 4 月	医学部教科書、病気がみえる vol.5 血液 モンゴル語・英語・日本語語彙集	共著	Medic Media 名古屋大学	① 名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学、モンゴル国立医科学大学大学院研修所と協力し、日本の医学部教科書である「病気がみえる」シリーズをモンゴル語に翻訳する作業を行っている。2023 年 4 月に vol.5 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。 ② 監修者名：浜島信之、バトウムルトウムルクヤク 共訳者名：<u>藤和太</u>、ナランデルガ ドルゴル、オトゴンバト アルタンゲレル ③ 担当部分：日本語のモンゴル語訳 (P1-87) 総頁数：P87 ④ B5 判
3.					
(学会発表)					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
2.				
3.				

(2) 個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	なし		
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年度～現在	保健福祉学部研究所運営委員会	委員
2.	2023 年度～現在	予算委員会	委員
3.	2020 年度～現在	国際交流委員会	委員
4.	2023 年度～現在	公開講座委員会	委員

講師

永田 純美

■ 学歴

1. 2010 年 中村学園大学大学院 栄養科学研究科 博士前期課程 修了

■ 学位

1. 2010 年 修士（栄養科学修士）

■ 研究分野

1. 給食経営管理
2. スポーツ栄養
- 3.

■ 研究キーワード

1. 給食
2. 栄養教育
3. マーケティング
4. 運動生理学

■ 研究課題

1. 食品企業へのレシピ提供による、マーケティング効果について
2. 給食を媒体とした栄養教育の効果について

■ 担当授業科目

1. 給食計画論（前期）必修
2. 給食経営管理論（後期）
3. 給食経営管理実習Ⅰ（後期）必修
4. 給食経営管理実習Ⅱ（前期）選択
5. 総合演習Ⅰ（前期）選択
6. 臨地実習Ⅰ（後期）選択
7. 管理栄養士演習Ⅱ（通年）選択
8. 実践活動（通年）選択
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【給食計画論】

	給食経営管理に求められる給食の計画・生産（調理）・サービス・評価にかかわる基本的な知識を修得するための科目である。栄養・食事管理においては、演習を取り入れ、実践的な学びができるよう工夫した。本科目は給食経営管理実習の準備科目でもあるため、修得した知識をどのように実習に活かすか、また、実務家教員として現場のどのような場面で必要になるのかを写真や図表を用いて説明した。知識の定着を図るために、項目ごとに小テストを実施した。管理栄養士国家試験や栄養士実力認定試験の問題も加え、講義での学びと国家試験の結びつきを意識できるよう工夫した。
2.	授業科目名【給食経営管理論】 給食を効率かつ安全に運営するための給食システムおよび組織の構築とそのマネジメントを理解するための科目である。本科目は、経営学や経済学に関する内容を含むため、テキストの内容のみでは理解が難しいことがある。そのため、パワーポイントのスライドや配布資料に、テキストに記載のない予備知識や図表を加え、理解が深まるための工夫を行った。また、過去に管理栄養士国家試験問題で出題された計算問題やデータの解釈が必要な項目に関しては、演習を含む講義形式とした。給食計画論と同様、知識定着のための小テストの実施、給食経営管理実習や実務での知識の活用方法についても説明した。
3.	授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】 給食管理業務の運営計画から実施・評価までの一連のマネジメントサイクルの流れに沿って学び、特定給食施設における管理栄養士の職務内容と、給食経営管理の知識・技術を体験的に理解することを目的とする実習である。給食に関する初めての实習であるため、帳票の作成方法、給与栄養目標量の設定方法、食品構成および食品群別荷重平均成分表の作成方法について、演習を交えて指導した。また、実際の給食現場では、これらの作業を給食管理ソフト上で行うため、パソコンを使用した実践的な演習を実施した。給食実習では、特に調理実習と違う工程や調理方法を行う際は、全ての学生に対して必ずデモンストレーションを行い、少量調理と大量調理の違い、安全・衛生面における注意点を説明した。臨地実習Ⅰにつながる実習でもあるため、礼儀や身だしなみ、気配りなどについても指導を行った。
4.	授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】 給食経営管理実習Ⅰに引き続き、給食経営に関わる一連のマネジメントについて体験的に学ぶ実習である。Ⅰでは栄養・食事管理を重点的に実施したが、Ⅱでは経営管理、会計・原価管理、情報処理管理といった給食のトータルシステムにおける支援システムを中心とした指導を行った。また、給食提供後の評価・改善方法について重点的に説明した。給食実習では、各グループで作成した献立を調理し、他学年に提供した。給食の計画に当たっては、学生の自主性を尊重するため、コミュニケーションを密に行いながら、学生の考えを引き出し、各学生やグループに合ったアドバイスを行うように努めた。給食実習の他、給食に関わる調査研究を各グループで実施し、情報をまとめる力やプレゼン能力が養える実習になるよう工夫した。
5.	授業科目名【総合演習Ⅰ】 本科目は、臨地実習Ⅰに臨むための準備科目として位置づけられ、これまで修得した給食経営管理論等の知識を用い、栄養アセスメント手順、経営管理に関する総合的なマネジメントを振り返り、修得することを目的とする。また、給食対象者への栄養情報の必要性を理解し、栄養教育を通じて適正な情報提供ができる技術を修得する。臨地実習Ⅰに臨むにあたり、給食施設と給食対象者の特性を理解し、給食提供現場の管理者としての責務を学ぶ必要がある。そのため、福祉施設や学校で勤務する管理栄養士を招聘し、実践的な学びの機会を設けた。栄養教育の指導案の返却は個別対応を行い、学生

	1人1人に合わせた指導に努めた。また、実務家教員として実例を加えたアドバイスをを行い、学生の理解が深まるよう工夫した。
6.	授業科目名【臨地実習Ⅰ】 臨地実習Ⅰは、学外の実務家教員による実地の給食運営、栄養教育の指導を受け、給食運営・給食技術の実際を体験的に学ぶ。また、大学での学びと、特定給食施設で栄養士・管理栄養士が果たす専門分野のマネジメント業務に関する知識と技術の統合を図ることが目的である。学内においては、事前指導として、臨地実習Ⅰに必要な給食運営に関わる知識の復習、栄養教育方法、社会人として必要なマナー、臨地実習の心得について実務経験を踏まえて指導を行った。事後指導として報告会を実施し、実習先での学びを学生間（下学年含む）で共有できる体制作りに努めた。
7.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】 給食経営管理論を担当している。過去問5年間および業者模試の解説、項目別の説明を実施した。給食経営管理論は理論的知識と実践的知識が必要となるため、実務家教員として両方の視点を踏まえた説明をするように努めてた。また、知識の定着・整理を目的とし、出題基準に沿った講義内容、図や表を用いて視覚的な理解ができるよう工夫した。 担当教科のみではなく、他教科との結びつき、問題の解き方、勉強方法についても説明し、学生の希望があれば個別対応も行った。
8.	授業科目名【実践活動】 給食経営管理におけるマーケティングの一環として株式会社ハローデイと産学連携を行っている。2024年度は久原本家の商品をPRするためのレシピ提供を行った。レシピ提供にあたっては、事前に久原本家の管理栄養士および営業担当者より、商品の特徴やアピールポイントの説明を受けた。その際、就職活動方法や企業で活躍する管理栄養士や営業の仕事についての質問も受けていただき、学生の就職活動や学業に対するモチベーション向上につながった。提供したレシピはハローデイの店頭およびチラシにて掲載していただいた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2017年4月～現在に至る	日本栄養士会	
2.	2019年7月～現在に至る	日本栄養改善学会	
3.	2022年4月～現在に至る	日本給食経営管理学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					

1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年～現在に至る	(株)ハローデイとの産学連携	レシピ提供 2024年度：久原本家
2.	2024年3月～2025年3月	令和6年度おいしい給食大作戦	学校給食応援団

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等

1.	2023 年 4 月～現在に至る	料理研究部	顧問
2.	2023 年 4 月～現在に至る	学習支援（国家試験対策）	講師
3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生募集委員会	委員
4.	2024 年 4 月 25 日	模擬講義ガイダンス 福岡県立光陵高等学校	講師
5.	2024 年 6 月 15 日	オープンキャンパス 給食ってどうやって作る？～大 量調理機器と調理方法について 知ろう～（模擬授業）	企画・運営 講師 食事提供
6.	2024 年 7 月 7 日	オープンキャンパス	企画・運営
7.	2024 年 8 月 17 日	オープンキャンパス 保健福祉学部 3 学科合同企画 看護・栄養・福祉のお仕事	企画・運営 管理栄養士役担当
8.	2024 年 10 月 26 日	オープンキャンパス	運営
9.	2024 年 12 月 11・12 日	ゆめみらいワーク	企画・運営
10.	2025 年 3 月 22 日	春のオープンキャンパス 大学の調理実習を知ろう！	企画・運営 講師 食事提供

講師

永原 真奈見

■ 学歴

1. 福岡女子大学大学院 人間環境科学研究科博士後期課程 人間環境科学専攻 修了

■ 学位

1. 博士（人間環境科学）

■ 研究分野

1. 栄養教育学
2. 実践栄養学

■ 研究キーワード

1. 食育
2. 食事調査・食事診断
3. 料理区分
4. 特定保健指導

■ 研究課題

1. 主食・主菜・副菜等の料理区分を活用した食事評価
2. 女子大学生における朝食摂取状況、運動習慣、身体あるいは精神上の自覚症状に関する検証
3. 福岡県内のある市における食育に関する調査結果の検証
4. 特定保健指導における減量目標及び長期的指導効果の検証

■ 担当授業科目

1. 栄養教育基礎（1年後期）
2. 栄養教育論Ⅰ（2年後期）
3. 栄養教育論Ⅱ（3年前期）
4. 栄養カウンセリング論（3年後期）
5. 栄養教育論実習Ⅰ（3年前期）
6. 地域栄養活動論（3年後期）
7. 総合演習Ⅱ（4年前期）
8. 管理栄養士演習Ⅱ（栄養教育論）（4年前期・後期）
9. 臨地実習Ⅲ（3年後期・4年前期）
10. 初年次セミナーⅠ（1年前期）
11. 実践活動（3年後期、4年前期）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【栄養教育基礎】 本科目は、1年次を対象に、健康増進や疾病予防を目的とした栄養教育手法を学ぶ上で基本となる概念の解説、及び管理栄養士に必要とされる知識・技能・態度の養成を目指して、2023年度より新設した科目である。2年次以降に始まる専門科目の履修につなげられるよう、動機づけや意識づけに重きをおいた。
2.	授業科目名【栄養教育論Ⅰ】 管理栄養士国家試験の出題基準における「栄養教育論」分野は、年々、問題の難易度が上がっている傾向にある。毎回の講義では、教科書に加えて、パワーポイントによるスライドとプリント資料（書き込み欄付）を作成・配布し、学生の理解度が深まる工夫を行った。また毎回、前回の講義内容の復習小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら講義を進めた。2年生で履修する科目であるが、国家試験において出題頻度が高い用語についてはその旨を強調し、時には過去問を示して解説を行うことで、国家試験対策にも通じるよう工夫した。
3.	授業科目名【栄養教育論Ⅱ】 栄養教育論Ⅰで学んだ理論を基に、各ライフステージやライフサイクルに応じた栄養教育の特徴や課題、国や自治体における健康づくりの制度及び施策について解説した。栄養教育論ⅡにおいてもⅠと同様に、毎回、前回の講義内容の復習小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら講義を進めた。また、講義の中で各ライフステージにおける実践活動の実際を紹介することで、学生がイメージしやすいように工夫した。
4.	授業科目名【栄養カウンセリング論】 栄養教育論Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ基本的なカウンセリング技法を用いて、行動科学の理論に基づいたカウンセリングを行う実践的スキルについて解説した。様々な課題やライフステージ別の事例を用いた演習を取り入れることで、行動科学理論への理解が深まるよう工夫した。
5.	授業科目名【栄養教育論実習Ⅰ】 栄養教育論Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識・理論を基に、個人及び集団におけるカウンセリングや栄養教育を実際に体験し、計画・実施・評価・改善を通して栄養教育マネジメントスキルを習得することを目標に掲げ、実施した。健康や食生活に関する情報収集、優先課題の特定、学習計画の立案、実施、評価、改善までのPDCAサイクルの作業を体験的に学ぶことで、実践につなげられるよう工夫した。
6.	授業科目名【地域栄養活動論】 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務内容について、実際の手法をもとに解説を行い、管理栄養士の役割について解説した。また、地域栄養活動実践の概要と行政組織、地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法等についても理解が深まるよう工夫した。さらに臨地実習における集団を対象とした講義の実施に向けて、指導略案や学習材の作成、発表指導等に従事した。
7.	授業科目名【総合演習Ⅱ】 管理栄養士として必要となる最新情報や重点事項等を解説するとともに、これまでに学んだ専門的知識を統合して、対象者への適切な栄養管理ができる能力を養うことを目的として実施した。グループ討議を通して、多職種連携を意識した自分の考えの表出、他社の意見を受け入れる姿勢、総合的に判断する能力が育まれるよう、討議の様子を見守りながら進めることを意識した。
8.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ（栄養教育論担当）】

	「栄養教育論」分野を担当した。国家試験対策の模擬試験受験後に配布される解答・解説書は、解説が簡素であることが多いため、「栄養教育論」分野に苦手意識をもつ学生も多い。出題された問題の各選択肢について、解答のみにとどまらず、その範囲で系統化して習得しておくべき基礎知識も併せて解説を行った。
9.	授業科目名【臨地実習Ⅲ】 臨地実習Ⅲでは、保健所へ実習に行く学生の指導を行った。実習期間中に実施される実習課題や研究授業内容を事前に確認し、より円滑に実施できるよう指導した。臨地実習の巡回時には、実習中の学生への助言及び学生の研究授業の講評を行った。実習報告会では、各施設での実習内容について講評を行い、教員としての立場から実習の効果が最大限に得られるよう努めた。
10.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 学生自らが目的をもって主体的に学ぶための着想力、論理性、表現力、独創性などの力を養成するため、1年生を対象に、スタディ・スキルの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図ることを目的とした科目である。その中でも、ノート・テイキングやリーディングに関する講義を担当し、例題を使って実際に体験させながら習得させることで、講義の中で定着を図るよう工夫した。またグループディスカッションを行う講義も担当しており、学生の発想を大切にしながら、自由に意見交換ができる場の提供を心がけた。
11.	授業科目名【実践活動】 栄養教育に関連した文献を探求し、内容を適切にまとめて紹介するスキルの習得を目指した。 また、幼児や小学生を対象とした食育、及び高校生や成人を対象とした栄養教育の実践を通して、栄養教育手法を身に付け、社会人として働く上でのより実践的な知識とスキルの習得ができるよう心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001年4月～現在に至る	日本栄養士会	
2.	2018年4月～現在に至る	日本食育学会	編集委員
3.	2019年9月～現在に至る (2001年4月～2016年2月まで所属)	日本栄養改善学会	
4.	2022年4月～現在に至る	日本健康教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
（学術論文）					

1.	2025 年 3 月	8 つの料理区分を用いた簡易食事診断手法の検討 一子育て中の母親における料理区分別摂取状況と食事指導の遵守性高低別比較を通して―	共著	西南女学院大学 紀要 29, 1-10	本研究の目的は、主食・主菜・副菜等の料理区分を用いて、簡便でかつ対象者に分かりやすい結果を提供できる、24 時間思い出し法を用いた食事診断手法を確立することである。2023 年 7 月に北九州市内で開かれたイベント会場において、未就学児及び小学生の母親 30 名を対象に、簡易食事調査及び調査手法や理解度に関するアンケート調査を実施した。調査手法に関する全項目において肯定的回答が 100%を占め、本研究の食事診断手法が対象者に受容されたことが確認できた。
(翻訳)					
1.					
(学会発表)					
1.	2024 年 7 月	3-4 歳児・5-6 歳児の食生活の特徴の比較と食教育の重点項目の検証	共著	第 12 回 日本食育学会 (開催：千葉)	3-4 歳児と 5-6 歳児における偏食の有無や食生活の差異、各年齢の保護者の食育に関する取組みや考え方の違いを検証し、幼児期における食教育の重点項目を明らかにすることを目的とした。
2.	2024 年 9 月	8 つの料理区分を用いた簡易食事診断手法の検討	共著	第 71 回 日本栄養改善学会 (開催：大阪)	主食、主菜、副菜、牛乳・乳製品、果物、菓子、飲物、酒の 8 つの料理区分を用いて、簡便で、対象者に分かりやすい結果を提供できる食事診断手法を確立することを目的とした。結果より、8 つの料理区分を用いた簡易食事診断手法は対象者に受容されたことが確認できた。今後、対象の幅を広げ、本手法の妥当性と汎用性を検証していく必要がある。

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	若い世代の食育推進事業	北九州市	○坂田 郁子 永原 真奈見	69,965 円

2.	子ども食堂「ちゅうおうま ち食楽福亭」における食育 実践（※天候により中止）	西南女学院大学	○永原 真奈見 矢野 夏実	50,000 円

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 12 月 11 日	令和 6 年度保育所(園)調理員研修 講習「輝け！ 乳幼児！ ～乳幼児の 特徴と保育所(園)におけるおやつ の役割～」 対象：北九州市保育所勤務の 栄養士及び調理員120名	講師
2.	2022 年～現在	公立大学法人 福岡女子大学 福岡県内のある市における地域住民 を対象とした食育アンケート調査	客員研究員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2025 年 3 月	学生委員	
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	キャンパスハラスメント相談員	
3.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	学習支援委員	
4.	2021 年 4 月～2023 年 3 月	教職課程委員	
5.	2024 年 7 月 11 日	オープンキャンパス・ブース担当 「あなたのコマの傾きは？ ～一緒に食生活チェック～ in 西女」	食生活セルフチェックの実施 及び食生活診断とアドバイス 対象：高校 1～3 年生
6.	2024 年 10 月 26 日	しおん祭・ブース担当 「これであなたの明日からの食生活 が変わる？ Let's ベジチェック！」	ベジチェック(推定野菜摂取 量測定機器)による測定 対象：15～34歳

准教授

浜谷 小百合

■ 学歴

1. 2023 年 福岡女子大学大学院人間環境科学研究科博士課程 卒業

■ 学位

1. 2023 年 博士（人間環境科学）

■ 研究分野

1. 栄養教育
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 子どもの食育
2. 栄養教諭
3. 学校給食

■ 研究課題

1. 学童期の子どもの食育指導の効果とその検討
- 2.

■ 担当授業科目

1. 学校栄養指導論Ⅰ（前期）選択
2. 学校栄養指導論Ⅱ（後期）選択
3. 栄養教育実習事前事後指導（3期）選択
4. 栄養教育実習（通年）選択
5. 教職実践演習（後期）選択
6. 総合演習Ⅰ（前期）必修
7. 臨地実習Ⅰ（後期）必修
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【学校栄養指導論Ⅰ】
	本科目は、栄養教諭の職務内容やその役割について学ぶ専門科目である。また、学校給食の意義と役

	割の理解を深め児童生徒の食に関する課題とその解決策を探ろうとする意識や態度を持つことを目標とする。講義では、栄養教諭の実務経験から得た実践事例を適時提示しつつ、理論のみの修得とならないよう授業構成の工夫を行った。また、複数回のグループワークや ICT を活用した食育指導の検討等を取り入れ、主体的な学びにつながる工夫を行った。
2.	授業科目名【学校栄養指導論Ⅱ】 本科目は、学校栄養指導論Ⅰをふまえ、小中学校における食に関する指導内容、授業構想案の作成及び具体的な指導方法を理解することを目標とする。授業実践に必要な学習指導案の作成や授業展開の検討、教材研究の方法等の教育技術を習得することを目指した。学習指導案の作成については個別の指導を行い、現実的な授業計画となるよう導いた。
3.	授業科目名【栄養教育事前事後指導】 本科目は、実際の教育現場において栄養教育実習を行う際の心構えや留意事項、具体的な指導方法を理解・習得し、実習を着実に進めることができることを目標とする。実習終了後には実習時の反省や問題点等の分析を行い、今後の教育実践へと繋ぐことも目標としている。授業においては学習指導案の作成や模擬授業を複数回実施し、実習校での授業実践を行うことができる指導スキルの習得を目指した。また、希望者には更に個別指導を実施し、指導技術の向上を図った。実習終了後は実習報告書やプレゼンテーションを作成し、実習報告会を実施した。
4.	授業科目名【栄養教育実習】 本科目は、これまでに履修した教職科目の理論やスキルを基盤に学校での食育指導の一端を体験することを目標とする。また、児童生徒の人格形成と身体の成長と発達に寄与しつつ、教育における研究課題を発見し、自己の望ましい教師像を形成することを目指す。栄養教育実習期間中には実習校の管理職や学級担任、栄養教諭との意見交換を行い、実習後の学生に対する指導と次年度以降の栄養教育実習に向けた改善に役立てた。
5.	授業科目名【教職実践演習】 本科目では、他学科の教職課程指導者と協力した授業を実施し、将来的に栄養教諭になるために各自に必要と考えられる課題の発見と向上を目標とした。授業では、栄養教育実習終了後、教師としての資質能力に関する自己確認シート等を活用し各々の残された課題の発見を行った。それらの課題についてのグループワークやディスカッションを演習に取り入れ、意見交流や自己の課題解決を目指す場とした。外部講師として現職の栄養教諭を招いて意見交流を行い、栄養教諭の実務に対して多様な視点を持たせ、栄養教諭になるための学びの集大成とした。
6.	授業科目名【総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ】 本科目は、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と併せた演習である。実習前の指導、実習の事前課題学習、実習時に行う栄養指導媒体作成、実習報告会時のプレゼンテーションの作成に関し、本科目担当教員、助手教員とともに演習時間外も含めて指導に尽力した。臨地実習中には、実習先の管理職（施設長）及び関係職員の方々と意見交換を行い、実習後の学生指導や次年度以降の臨地実習の改善に役立てた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2015年5月～現在に至る	日本栄養改善学会	
2.	2017年1月～現在に至る	日本食育学会	

3.	2020 年 11 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	
4.	2021 年 9 月～現在に至る	日本健康支援学会	
5.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.				
2.				

3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在に至る	教職課程委員会	
2.	2024 年 10 月～現在に至る	FD 委員会	
3.			

准教授
船越 淳子

■ 学歴

1. 2010 年 中村学園大学大学院 栄養科学研究科 博士後期課程 修了

■ 学位

1. 博士（栄養科学）

■ 研究分野

1. 食品科学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 機能性
2. 穀類、豆類
3. 糠

■ 研究課題

1. ササゲ豆に関する研究
ササゲ豆を粉末化し新たな商品を創成する。食品の機能性や物性の測定による科学的評価、官能評価による嗜好的な評価を加え考察する
2. 糠床の美味しさに関する研究

■ 担当授業科目

1. 食品学Ⅰ（１年・前期）必須
2. 食品学Ⅱ（１年・後期）必須
3. 食品学実験（１年・後期）必須
4. 食品栄養実習（２年・前期）必須
5. 初年次セミナー（１年・前期）必須
6. フードスペシャリスト論（１年・前期）選択
7. 食品流通・消費論（２年・後期）選択
8. 管理栄養士演習Ⅰ（４年・通年）選択
9. 実践活動（３年後期～４年前期）選択
10. 調理師論（夏季集中）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【食品学Ⅰ】 本科目は、栄養成分の化学的性質、食品成分間の相互作用、pH、加熱、光などによる成分の変化、さらに食品の色、味、香りの機能性や役割など、食品に関する基礎的知識の修得を目標としている。テキストを中心として授業を行うが、各項目をまとめた資料の配布を継続して行った。また、授業初めには、授業の目的を提示し、特に理解しなければならない点を把握させることを意識づけた。さらに、授業の振り返り、理解度の把握のために、小テストを実施した。
2.	授業科目名【食品学Ⅱ】 本科目は、農産食品、畜産食品、水産食品、微生物利用食品、機能性食品などの素材となる食品の種類、分類、性状、化学成分、機能性、さらに食品の基本的性質を基にした利用法（加工と貯蔵への応用、微生物を利用した発酵食品など）について理解することを目標としている。また、授業初めには、授業の目的を提示し、特に理解しなければならない点を把握させることを意識づけた。項目ごとにまとめた資料の配布や授業の振り返り、理解度の把握のために小テストは昨年度同様に実施した。
3.	授業科目名【フードスペシャリスト論、食品流通・消費論】 フードスペシャリスト資格取得のための必修科目であり、フードスペシャリストとして社会で活躍するために必要な知識（食文化、食品の開発・流通～消費、食品の情報、など）や、日本の食市場の変化、食品の流通ならびに食料消費の課題を理解することを目標としている。授業はスライドを用いて行い、重要項目をまとめるためのプリントを配布し、それをレポートとして提出を課した。さらに、授業の振り返り、理解度の把握のために、小テストを実施やフードスペシャリスト資格認定試験の過去問を活用した授業を取り入れた。
4.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 本科目は、管理栄養士国家試験の『食品学』分野を理解することを目標としている。過去5年分の問題を用いて、各食品のポイントを理解できるように授業を組み立てた。夏期までは食品ごとに、問題を解き、各分野の解説授業を行った。後期からは毎回10問程度過去問を解き、解説を繰り返し行い理解できていない点がしっかりと学生自身で把握とさらなる知識の定着に努めた。
5.	授業科目名【食品学実験】 本科目は、化学実験の基礎的な手法と、食品成分の分類や特性について理解することを目標としている。「食品学Ⅰ」で学んだことを踏まえて、実験を通して体得できるよう授業を行った。実験の原理や食品成分の特性などを解説し、実験の流れは器具を使って説明を加えた。昨年同様に、班の担当者が結果・考察を教員に説明する時間を設け、実験の目的を把握し、結果をもとに自ら考察すること意識づけた。
6.	授業科目名【食品栄養実習】 本科目は、食品加工における製造原理やその特徴について理解することを目標としている。「食品学Ⅱ」で学んだことを関連付けて理解できるよう食品の製造原理の説明を行った。加工食品の製造に関する流れやポイントは、実際にデモンストレーションを行う際に説明を加え、製造した食品は官能評価を行い製造した食品に対する評価を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005年4月～現在に至る	日本食品科学工学会	

2.	2008 年 4 月～現在に至る	日本食品保蔵科学会	代議員
3.	2019 年 1 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
4.	2019 年 7 月～現在に至る	日本食生活学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	未活用農産物を商品化し SDGs に取り組もう！	共著	2025 年 3 月	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部地域活動論叢（2024 年度）	①地場産業の発展さらには北九州市 SDGs の取組みにも貢献することを目的として、北九州市特産の未活用食材の商品化に向けた活動を報告した②代表：坂田郁子 協働研究：山田志麻、船越淳子
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～現在	福岡県栄養士会	研究教育委員
2.	2024 年 4 月～現在	福岡県栄養士会・北九州支部	連絡係
3.	2024 年 4 月～現在	北九州市・学校給食応援団	
4.	2024 年 4 月～現在	クアトロヘリックスキャンプ	

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生募集委員会	
2.	2024 年 10 月～現在に至る	情報システム管理運営委員会	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	水泳部	顧問
4.	2024 年 9 月、2025 年 3 月	臨地実習 I、II 巡回指導	
5.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学習支援委員	
6.	2024 年 4 月～2025 年 2 月	4 年生学習支援対策講座実施	
7.	2024 年 6 月～7 月	高校訪問	
8.	2024 年 6 月～8 月	模擬講義、進路ガイダンス	
9.	2025 年 3 月	春の対策講座（2 年生対象）	

講師

森山 美加代

■ 学歴

1. 1997 年 中村学園大学 家政学部 食物栄養学科 管理栄養士専攻 卒業

■ 学位

1. 1997 年 学士

■ 研究分野

1. スポーツ栄養
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. スポーツ栄養
2. 栄養アセスメント
3. 食事調査
4. 栄養サポート

■ 研究課題

- 1.
- 2.

■ 担当授業科目

1. 栄養教育論実習Ⅱ（3年後期）（栄養学科）必須
2. 運動栄養演習（スポーツ栄養含む）（4年前期）（栄養学科）選択
3. 臨床栄養管理学（2年後期）（栄養学科）必須
4. 運動・環境と栄養（3年後期）（栄養学科）選択
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】

	栄養管理プロセスに基づいた栄養管理の実践のスキルを身につけるために、PowerPoint を使って解説した後、グループでの演習や課題に取り組んでいった。そして、ロールプレイングやプレゼンテーション発表を通して、実践のスキルを身につけていった。
2.	授業科目名【運動栄養演習(スポーツ栄養含む)】 スポーツ栄養マネジメントの理論を学び、競技特性・期分けを考慮した栄養サポート計画を立てていった。そして、プレゼンテーション発表を行い実践のスキルを身につけていった。
3.	授業科目名【臨床栄養管理学】 テキストと PowerPoint を使用して講義を行った。PowerPoint では、要点をまとめ復習しやすいように作成した。また、確認テストを実施し、授業の理解度を確認しながら進めていった。
4.	授業科目名【運動・環境と栄養】 オムニバスでの担当教科であり、テキストと PowerPoint を使用して講義を行った。PowerPoint では、要点をまとめ復習しやすいように作成した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997 年～現在に至る	(公社)日本栄養士会	正会員
2.	1997 年～現在に至る	(公社)福岡県栄養士会	理事(2016 年～現在に至る) 副会長(2020 年～現在に至る) 筑後支部長(2022 年～現在に至る)
3.	2017 年～現在に至る	日本スポーツ栄養学会	正会員

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					

2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 7 月～現在に至る	福岡県保険者協議会専門部会企画調査部会	委員
2.	2022 年～現在に至る	福岡県医療団体協議会	常務理事
3.	2022 年～現在に至る	福岡県男女共同参画推進連絡協議会	委員
4.	2024 年 6 月～現在に至る	(一社)くるめ地域支援センター	理事

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

教授

八木康夫

■ 学歴

1. 1987 年 筑波大学大学院修士課程 修了

■ 学位

1. 2003 年 博士（医学）「産業医科大学 B-252 号」

■ 研究分野

1. 運動生理学
2. 心理生理学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 運動
2. 認知
3. 加齢

■ 研究課題

1. 高次脳機能に及ぼす運動の効果について
2. 運動パフォーマンス、代謝経路や高次機能に及ぼすサプリメントや栄養素の効果について

■ 担当授業科目

1. 運動と健康（前期）（栄養学科）必修
2. 運動と健康（前期）（英語学科・観光文化学科）必修
3. チームスポーツ（前期）（栄養学科・英語学科・観光文化学科）選択
4. チームスポーツ（前期）（看護学科）選択
5. チームスポーツ（前期）（福祉学科）選択
6. 運動栄養演習（前期）（栄養学科）選択
7. 運動生理学（後期）（栄養学科）選択
8. 運動・環境と栄養（後期）（栄養学科）選択
9. 生涯スポーツ（後期）（栄養学科・英語学科・観光文化学科）選択
10. 生涯スポーツ（後期）（看護学科）選択
11. 生涯スポーツ（後期）（福祉学科）選択
12. 卒業研究ゼミ（3 年後期～4 年前期）（栄養学科）選択
13. 卒論ゼミ（3 年後期～4 年前期）（栄養学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【 運動と健康 】 講義は、PC を用いて PowerPoint を活用した。資料は、スライド資料と必要データをプリント配布し、Google classroom も必要に応じて用いた。毎授業で、復習を兼ねて基本事項を調べまとめる課題を作成してもらい、知識の定着を図った。
2.	授業科目名【チームスポーツ】 学期の始講と最終講で、形態・体力測定及び体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、自己の現状把握、具体的な行動目標を立ててから受講させた。「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数基準の持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際」の講習時間を設け、これから自ら運動の処方することを促した。毎回の授業では、カロリーカウンター装着によって、学生自身が運動の量や強度を観察記録し、個々の運動意欲を喚起した。期末に運動量の総括と自己評価をおこなった。集団スポーツ種目を主に実施し、チームミーティングを重視し、自チームの練習方法、戦略立案や個々人の役割分担、現チームの中での個々のポジティブなあり方など考えた積極的な行動を促した。
3.	授業科目名【生涯スポーツ】 学期の始講と最終講で、形態・体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、自己の現状把握、具体的な行動目標を立てて活動した。毎授業時にカロリーカウンターにて自己の運動量と強度の関係、運動意欲の喚起を促した。期末にて実習期間全体の自己評価、健康度と運動量、体組成の変容と運動量との関係、身体運動の程度と運動量の関係理解を図った。運動種目にラケット競技のペア種目を導入し、個々の技能到達度から練習目標を設定し、分担してルールや器具の使用法の解説、勝利を目指した能動的チームワークの形成を図った。
4.	授業科目名【運動生理学】 講義では Power Point を活用し、資料提示等、少人数を利用し、対話、双方向の教育指導をおこなった。毎講義後に単元のまとめ小テストを行い、単元要点を確認する作業をおこなわせた。さらに講義ノートを作らせ、全授業終了後に採点・添削し評価に加えた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1992.4	日本運動生理学会	常任理事（2008.7~2023.3）
2.	1985.4	日本体力医学会	評議員,会計委員(2017.4~2022.3)
3.	1991.4	日本生理学会	101 学術大会委員（2023.4~2024.3）
4.	1997.4	日本臨床神経生理学会	
5.	1990.4	西日本生理学会	
6.	1988.4	九州体育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024.5	全九州大学 バスケットボール 春季選手権 大会	共	九州大学バスケットボール連盟	全九州の大学バスケットボール競技部の選手権大会で第5位であった。顧問:八木康夫 監督:溝口博
2.	2024.5	全九州大学 バスケットボール 新人大会	共	全九州大学バスケットボール春季選手権大会	全九州の大学バスケットボール競技部の1・2年生大会で、全日本新人インカレ出場権(上位2大学)を争う大会で3位であった。顧問八木康夫・監督溝口博
3.	2024.11	全九州大学 バスケットボール リーグ戦(一部)	共	九州大学バスケットボール連盟	全九州の大学バスケットボール競技の上位6校(一部)で選手権及び全日本インカレ出場権(上位3大学)を競う大会で第6位であった。顧問:八木康夫 監督:溝口博

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2011.5.25～至現在	日本バスケットボール協会	JBA 公認 C 級コーチ
2.	2015.3.26～至現在	日本体育協会	指導員
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2002.4～至現在	入試委員会	
2.	2023.4～2024.3	紀要委員会	
3.	1987.4～至現在	バスケットボール部	顧問・監督
4.			
5.			
6.			

准教授

山田 志麻

■ 学歴

1. 2017年3月 九州歯科大学 地域健康開発歯学分野 (博士課程) 単位取得満期退学

■ 学位

1. 2019年12月 博士(歯学)

■ 研究分野

1. 調理学・調理科学
2. 食育
3. 高齢者の栄養

■ 研究キーワード

1. フードコーディネート
2. 食文化
3. 低栄養

■ 研究課題

1. 在宅高齢者の口腔・栄養状態実態調査
2. 次世代向けおせち料理の開発
3. 糠床・糠炊き調理

■ 担当授業科目

1. 基礎調理学実習(前期)(栄養学科)必須
2. 調理学(前期)(栄養学科)必須
3. フードコーディネート論(前期)(栄養学科)選択
4. 実践調理・調理科学演習(前期)(栄養学科)選択
5. 高齢者支援学Ⅰ(後期)(栄養学科)選択
6. 調理師論(前期)(栄養学科)選択
7. 応用調理学実習(後期)(栄養学科)必須
8. 初年次セミナー(後期)(栄養学科)必須
9. 管理栄養士演習Ⅰ(通年)(栄養学科)必須
10. 実践活動(通年)(栄養学科)選択
11. 臨床栄養活動論(後期)(栄養学科)選択
12. 臨地実習Ⅱ(病院実習)必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【基礎調理学実習】 食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理学実習で活用できるよう周知徹底させた。
2.	授業科目名【調理学】 調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い（保存や調理加工）、それにとまなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。单元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度な高いキーワードについて学習させた。
3.	授業科目名【フードコーディネート論】 フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に单元ごとにまとめて講義した。
4.	授業科目名【実践調理・調理科学演習】 1 年時から学習してきた調理学及び調理科学のまとめとして、数種の官能評価を実施・集計し、その結果を評価できるように実践した。また、食品材料の特性を知り、食品の組織や成分の変化を化学的・物理的な面から学ぶため、実験及び測定を行った。その他、未知の調味料や食材について学習し、実際に調理することで想像力や実践力を身に付けられるよう工夫した。
5.	授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 看護・福祉と合同で高齢者を支援するための知識を習得し、さらに PBL を導入により、それぞれの分野や立場から、課題の抽出、問題の解決を図れるよう、学習内容を検討した。他学科の学生が互いに率直な意見を述べ問題解決までの話し合いとまとめができるよう環境づくりを心掛けた。
6.	授業科目名【調理師論】 1 年前期に学んだ調理学、食品学、解剖生理学等の復習および調理師として、その他に必要な領域を総合的に学び、調理師としての知識を習得するよう、専門分野ごとに複数の教員が指導に当たるようオムニバス形式としている。
7.	授業科目名【応用調理学実習】 1 年前期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで簡単に時短料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へステップアップするため、食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。
8.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】 初年次セミナーⅡは、前期初年次セミナーⅠより、ブラッシュアップした形で、大学生として必要な学習能力を向上するための支援を行った。遠隔授業だったため、グループワークを円滑に行えるよう努めた。
9.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 1 年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、基礎的な栄養士認定試験問題から複雑な国家試験問題まで、問題を解かせ解説を行った。
10.	授業科目名【実践活動】

	数名のグループに分かれ、テーマにあったデモンストレーションを実施した。計画、買出し、実演することで、栄養士としての立場を理解し、アンケートの実施により実践の評価を行った。自らが今後の課題を見つけ、学習目標につながるよう努めた。
11.	授業科目名【実践栄養活動論】 臨地実習Ⅱ（臨床栄養：病院実習）を履修するために重要な科目である。臨床における管理栄養士の役割や臨床栄養管理業務と給食経営管理業務の関連を理解し、チーム医療での管理栄養士の役割を理解するよう努めた。
12.	授業科目名【臨地実習Ⅱ（病院実習）】 臨地実習Ⅱ（臨床栄養：病院実習）を受けるための準備を行い、特に調理指導においては、細部までこだわった献立を試作し万全の状態で臨地実習に臨めるよう努めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997 年 4 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
2.	1997 年 4 月～現在に至る	日本家政学会	九州支部実行委員
3.	2013 年 4 月～現在に至る	日本口腔衛生学会	
4.	2013 年 4 月～現在に至る	日本調理科学会	九州支部福岡 A 幹事
5.	2024 年 2 月～現在に至る	日本キリスト教教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2025 年 3 月	イラスト調 理科学第 2 版	共著	東京教学社	栄養士養成施設の専門学校・短大及び管理栄養士の養成に必要な調理科学の専門書
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025 年 3 月	聖書にまつ わる食べ物 ～旧約聖書 を中心に～	単著	西南女学院大学 紀要 29, 2025	旧約聖書にまつわる食べ物について、食物の歴史や栄養などについて解説
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					

3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2016年4月～現在に至る	グリーンパーク食育事業 (障害ある子どもやその家族との芋ほり及び食育実習)	食育実習担当
2.	2022年4月～現在に至る	八幡バプテスト教会	役員・司式
3.	2024年3月～現在に至る	北九州市立ユースステーション (小中高を対象としたミニクッキング講座)	調理実習講師
4.	2024年1月～現在に至る	九電(未活用農作物の商品開発)	調理担当
5.	2024年11月19日	北九州市産業経済局 (北九州糠床・糠炊き研究会会長による調理実習)	実習担当

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2016 年 4 月 ～現在に至る	アドバイザー	
2.	2017 年 4 月 ～現在に至る	生協組合	理事
3.	2018 年 4 月 ～現在に至る	フードスペシャリスト認定試験	責任者
4.	2019 年 4 月 ～現在に至る	大学チャペルアワー	司会
5.	2019 年 4 月 ～現在に至る	朝礼	司会
6.	2019 年 4 月 ～現在に至る	弓道部	顧問
7.	2023 年 4 月 ～現在に至る	就職委員会	委員
8.	2024 年 8 月 17 日	オープンキャンパス	ブース担当
9.	2024 年 6 月 13 日	大学チャペルアワー	奨励
10.	2024 年 10 月 26・27 日	大学祭栄養・英語学科ブース	担当
11.	2024 年 10 月 31 日	F D研修会授業紹介	講師
12.	2025 年 1 月 14 日	大谷小学校（糠床調理実習）	引率
13.	2024 年 2 月 20 日	校内進路ガイダンス(稲築志耕館)	講師

■ 学歴

1. 2019 年 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻（修士課程） 卒業

■ 学位

1. 2019 年 修士（環境共生学）

■ 研究分野

1. 臨床栄養学
2. 栄養治療学
3. 食育

■ 研究キーワード

1. 栄養評価
2. 食事調査
3. 精神疾患
4. 地域・子ども食堂

■ 研究課題

1. 精神疾患と栄養に関して食生活を中心に考察する。また、抗精神病薬の副作用を考慮しながら、食事や生活習慣の乱れから起因する肥満や脂質代謝異常についても考察する。
2. 地域子ども食堂は「子どもの貧困」「孤食」「虐待」などの社会問題が背景にある。学生による栄養バランスの良い食事の提供や食育の支援を通じて、これからの管理栄養士のあるべき姿を考察する。

■ 担当授業科目

1.	栄養治療学Ⅰ	（前期）（栄養学科）	必須
2.	栄養治療学Ⅱ	（後期）（栄養学科）	必須
3.	臨床栄養管理演習	（前期）（栄養学科）	選択
4.	総合演習Ⅱ	（前期）（栄養学科）	選択
5.	管理栄養士演習Ⅱ	（通年）（栄養学科）	選択
6.	臨床栄養学実習	（後期）（栄養学科）	必須
7.	臨床栄養活動論	（後期）（栄養学科）	選択
8.	臨地実習Ⅱ	（後期）（栄養学科）	選択
9.	実践活動	（通年）（栄養学科）	選択
10.	臨床栄養学	（後期）（看護学科）	必須
11.	高齢者支援学Ⅰ	（前期）（福祉学科）	選択
12.	保健福祉学入門	（前期）（看護学科）	必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【栄養治療学Ⅰ、Ⅱ】 ・パワーポイントを使用して、授業に使用したスライドを印刷して毎回配布を行った。 ・復習から始めて、授業まとめとして国試過去問を提示して学生に考えて貰うことで理解を促した。
2.	授業科目名【臨床栄養学実習】 ・教科書だけでなく、オリジナル資料を配布して、学生がより理解が深まるように工夫した。 ・治療食の実際について、調理から盛り付けまでを実演し、イメージしやすい実習内容に近づけた。
3.	授業科目名【臨床栄養活動論】 ・実務家教員の立場から、過去の経験を活かした事例紹介やエピソードを含めた内容とした。 ・スムーズな臨地実習Ⅱに結び付くような直前対策として、外部講師を招聘し特別講義を企画した。
4.	授業科目名【臨床栄養学】 ・パワーポイントを使用して、授業に使用したスライドを印刷して毎回配布を行った。 ・復習から始めて、授業まとめを簡単なクイズ形式として、学生に答えて貰うことで理解を促した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1983 年 4 月～現在	日本栄養士会	
2.	2008 年 1 月～現在	日本臨床栄養代謝学会	
3.	2013 年 4 月～現在	日本栄養改善学会	
4.	2018 年 1 月～現在	日本精神科医学会	
5.	2019 年 1 月～現在	全国精神科栄養士協議会	
6.	2024 年 1 月～現在	日本キリスト教教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表 雑誌等又は発 表学会等の名 称	概 要
(著書)					
1.					
(学術論文)					
1.					
(翻訳)					

1.					
(学会発表)					
1.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座～治療食（嚥下食）の調理体験	西南女学院大学共同研究費	○高崎智子 渡邊和美 黒岩かすみ 中村愛奈	50,000 円
2.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～現在に至る	みんなの食堂（つきだテラス） 子ども食堂（戸畑テラス）	スタッフ・講師
2.	2024 年 4 月～現在に至る	福岡県栄養士養成施設協議会	臨地実習Ⅱ担当者
3.	2024 年 11 月 2 日	「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座～治療食（嚥下食）の調理体験	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～現在に至る	宗教委員会	構成員
2.	2024 年 4 月～現在に至る	朝の礼拝での司会 (6/17、8/5、2/10)	構成員

3.	2024 年 4 月～現在に至る	チャペルアワーでの司会進行係 (5/30、1/9)	構成員
4.	2024 年 4 月～現在に至る	チャペルアワー (10/23-24) 大学・短期大学部の奨励者 クリスマス礼拝 (12/19) 説教者のエスコート役	構成員
5.	2024 年 4 月～現在に至る	栄養学科アドバイザー	アドバイザー
6.	2024 年 4 月～現在に至る	管理栄養士国家試験対策講座 (前期・夏期集中・後期・国試 直前)	講師
7.	2024 年 4 月～現在に至る	・福岡県立八幡高校 (6/7) ・福岡県立北筑高校 (6/7) ・福岡県立中間高校 (6/7) ・萩光塩学院高校 (6/14) ・山口県立萩高校 (6/14) ・玉名女子高校 (7/5) ・三池高校 (7/5) ・ありあけ新生高校 (7/5)	高校訪問担当者
8.	2024 年 4 月～現在に至る	職員研修懇談会 (8/22)	構成員
9.	2024 年 4 月～現在に至る	キリスト教センター運営委員会	センター便り編集委員
10.	2024 年 4 月 27 日	臨地実習Ⅱ実習報告会 (3 年生・4 年生合同)	担当指導者
11.	2024 年 5 月 17 日	墓前礼拝 (西南の森)	参列者
12.	2024 年 7 月 7 日	オープンキャンパス模擬授業	講師
13.	2024 年 8 月 17 日	オープンキャンパスコラボ企画	講師
14.	2024 年 9 月～2025 年 3 月	臨地実習Ⅰ、Ⅱ巡回指導・挨拶	福岡県内外を含めて 8 施設

人 文 学 部

英 語 学 科

講師

アンデリュウ・ジッツマン

■ 学歴

1. 2008 年 オーストラリア マクウォリ大学院 言語学科卒業

■ 学位

1. 2008 年 修士（言語学）

■ 研究分野

1. 社会言語学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 異文化コミュニケーション
2. 少年時教育
3. 教育の変遷

■ 研究課題

1. アイデンティティの確立
2. 大学進学

■ 担当授業科目

1. エリア・スタディ II
2. グローバル英語 I
3. 専門演習 I, II
4. 卒業研究
5. 英語プロジェクト II
6. English Extension I, II, III, IV
7. ライティング基礎
8. パラグラフ・ライティング
9. エッセイライティング
10. ツーリズム英語
11. エアライン英語

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ライティング基礎】

	この科目では、基本的なライティング・スキルと文法事項を復習し、強化します。また、より上級のライティングコースで重視される中級スキルも紹介します。
2.	授業科目名【エリア・スタディ II】 隣国についての知識を持つことは、国際理解のための重要なステップです。このコースでは、ASEANの国々に焦点を当て、彼らがお互いに、そして日本とどのような関係にあるのかを考察しました。
3.	授業科目名【English Extension I,II, III,IV】 このシリーズは、学生が様々な方法で英語を使用する機会を提供します。他の学年と協力して様々な活動を行います。海外の国や文化について英語で話すスピーカーから学ぶこともできます。また、定期的なオンライン・アクティビティもあり、学生の語学力を向上させます。
4.	授業科目名【英語プロジェクト II】 その目的は、学生たちがディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加するように促すことだ。様々なトピックについて調べ、説明させるために、多くのグループワークが行われた。個人発表とグループ発表では、最初の 2 年間で学んだいくつかのスキルを実践的に使い、クラスで自分の考えを発表したり、他の生徒が調べたことから学んだりしました。
5.	授業科目名【専門演習 II】 このクラスは全国プレゼンテーション・コンテストに出場しました。様々なスキルを駆使して詳しく調べ、プレゼンテーションを準備し、京都での決勝大会に臨みました。最終学年の卒業論文に向けて、とても実践的かつ教育的なプロジェクトとなりました。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994~現在に至る	全国語学教育学会	北九州支部報告担当（2019 年 11 月～現在に至る） 学会ビジネス・マネージャー(2006 年 11 月～2010 年 11 月) 学会企画担当理事(2004 年 7 月～2006 年 11 月)
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					

(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期	会議・委員会等の名称	役職名等

	期 間 等	(内 容)	
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生委員	副委員長
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	教育経費予算配分委員	役員
3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	西南女学院大学生協 理事会	理事
4.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	職員研修委員	役員
5.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	ESS サークル	顧問
6.	2024 年 9 月～2025 年 1 月	ZION Cup(スピーチコンテスト)	企画担当

教授

太田 かおり

■ 学歴

1. 2007 年 国際基督教大学大学院博士後期課程 修了

■ 学位

1. 2007 年 博士（教育学）

■ 研究分野

1. 英語学（英語音声学）
2. 英語教育学
3. 教育学
4. 諸外国の学校教育

■ 研究キーワード

1. 英語の発音とリズムの指導法
2. 英語科教育法
3. 小中高連携の英語教育
4. 初等中等教育学
5. 教師教育
6. 教育における ICT 活用

■ 研究課題

1. 初等・中等教育における英語音声指導の重要性と課題点に関する研究
2. 小中高連携を視座においたグローバル時代の英語教育の在り方に関する研究
3. 教育原理に関する研究
4. 諸外国の学校教育に関する研究
5. e ラーニング英語教育における教師の役割および学習効果を上げる指導法に関する研究

■ 担当授業科目

1. 実践英語音声学 I （前期）（英語学科）必修
2. 教育実習 II （前期・後期）（英語学科、教職課程）選択
3. 教育実習事前及び事後の指導 （前期・後期）（英語学科、教職課程）選択
4. 専門演習 I （前期）（英語学科）必修
5. 卒業研究 （前期・後期）（英語学科）必修
6. 実践英語音声学 II （後期）（英語学科）必修
7. 教職実践演習（中・高） （後期）（英語学科、教職課程）選択
8. 教育における ICT 活用 （後期）（全学科、教職課程）選択

9. 専門演習Ⅱ（後期）（英語学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【実践英語音声学Ⅰ・Ⅱ】 「実践英語音声学Ⅰ」の講義では、音声学を学問として初めて学ぶ学生が大半を占めているため、丁寧でわかりやすい授業を心がけた。英語の母音・子音の調音方法や IPA 表記に加え、文レベルにおける音変化（連結・省略・同化など）、英語特有のリズムについても理論と実践の両面で学んだ。英語のリズムやイントネーションについては英会話文や洋楽などを活用し、学生が興味を持ちながら楽しく学べるよう工夫した。子音の発音については、調音点や調音方法を丁寧に確認しながら授業を進行し、学生ひとり一人が実際に声に出して発音する機会をより多く設けることによって授業後の英会話や英語学習にも応用できるよう、実用的な授業を意識した。学生たちは全体的に意欲的に授業に参加しており、個別の発音訓練にも熱心に取り組んでいる。毎回の授業の終わりに学生たちは Google form の振り返りフォームを提出した。振り返りフォームを活用し、毎回の授業に対する学生の理解度を確認したり、学生からの質問を受け付けるなどして、次回の授業にて質疑応答を含むフィードバックを行うことで、双方向型で活気ある授業を心がけた。
2.	授業科目名【教育における ICT 活用】 「教育における ICT 活用」は 2022 年度から新設された教職課程科目である。全学部学科の教職課程履修者全員が履修するため、80 名を超える受講者数のクラスである。全国の小学校・中学校・高等学校では GIGA スクール構想の推進もあり、授業内外における ICT の活用が加速している。本学の教職課程においても、学校教育現場において ICT 機器を効果的に活用することができる学生を養成するよう努めている。当科目を通じて教育における ICT 活用に関する基本的な知識・理解を深めるとともに、異なる学科の学生が一堂に集う機会を最大限に活用し、学部学科横断的に互いに学びあえるよう心がけた。具体的には、多様な専門的背景を持つ学生らが異なる視点から各々の意見や考えを交換し合い、それを全体で共有しあう場面を多く設けるよう工夫した。教育における ICT 活用に関する授業であるため、授業においても積極的に ICT を活用するよう心がけ、より実践的な授業となるよう工夫した。受講した学生たちは、自身が小・中・高校生時代に比べはるかに ICT 化が進んでいる教育環境について理解を深めるとともに、4 年次の教育実習においても積極的に ICT を取り入れることができるようより実践的な活用事例についても指導を行った。
3.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 3 年生のゼミにあたる専門演習Ⅰ・Ⅱでは、学生が中心となって地域連携活動を企画・運営・実施し、地域や社会の人々とつながりながら社会へ貢献するとともに、学生自身の学びや成長へとつながるよう指導を工夫した。子ども英会話スクールと学生が連携してプロジェクト活動を行った。学生たちは大学での専門領域の学びを活かして地域の人々とつながり、多くの学び、気づき、達成感を感じる貴重な学びの機会となったようである。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2010 年 12 月～現在に至る	日本音声学会	
2.	2010 年 12 月～現在に至る	日本教育学会	

3.	2011 年 4 月～現在に至る	国際教育学会	
4.	2014 年 4 月～現在に至る	小学校英語教育学会	理事（2019 年度～2024 年度）

■ 研究業績等に関する事項

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2012 年 3 月	e-learning 英語教育の 学習効果に 関する研究 －学習者の 自律学習へ 向けた教師 の役割－	単著	九州国際大学国 際関係学論集第 7 巻第 2 号, 51-80.	大学生を対象に、4 ヶ月に亘って実施し た e-learning 英語教育の成果報告を行 った。また、e-learning 英語教育におけ る教師の役割や、学習者の自律学習へ向 けた授業運営の在り方等についても考 察を行った。 (総頁数 30 頁)
2.	2012 年 3 月	日本の英語 科教育にお ける音声指 導の現状－ 初期英語教 育における 音声指導の 導入及びそ の教授法の 確立を目指 して－	単著	九州国際大学社 会文化研究所紀 要 第 69 号, 53-73.	日本の大学生を対象に、中学・高等学校 の英語科教育における音声指導の実態 調査を行い、その結果を報告した。調査 結果に基づいて、英語科教育における音 声指導の現状と問題点を提示し、さら には、小学校外国語活動も視野に入れ つつ、今後の日本における英語音声教育 の在り方について論じた。 (総頁数 21 頁)
3.	2013 年 3 月	日本の英語 教育におけ る盲点－音 声教育の現 状と課題－	単著	九州国際大学国 際関係学論集第 8 巻第 1・2 合併 号, 37-70.	学校教育における英語の音声指導の実 態について調査研究を行い、日本の初 等・中等教育において英語の音声指導が 充分に行われていない実態を明らかに した。また、音声指導の具体的な内容に ついて詳細な調査を行った結果、子音や 母音の音声指導だけでなく、リズム・強 勢・イントネーション・連結・同化・省 略などを含む超音節的側面についても、

					学校教育では、調和の取れた指導が十分ではない現状を明らかにした。日本における英語教育の盲点として、音声指導の必要性和重要性を論じた。 (総頁数 34 頁)
4.	2014 年 3 月	学校教育の現場に学ぶ－小学校外国語活動の事例研究－	単著	九州国際大学国際関係学論集第 9 巻第 1・2 合併号, 19-38.	小学校外国語活動を論ずるにあたり、外国語活動の授業を参観した。その際の記録および所見について報告を行い、小学校外国語活動の現状と課題について考察した。 (総頁数 20 頁)
5.	2016 年 2 月	教育の本質および教職の意義に関する一考察－全人教育としての教師の教育観・生徒観・指導観－	単著	九州国際大学社会文化研究所紀要第 77 号, 23-45.	教育の目的及び教職の意義について考察し、教育の本質とは何かに迫った。教育基本法並びに学校教育法における教育の目的について概観し、全人教育を行う上での教師の教育観・生徒観・指導観、さらには、教師や学校の果たす役割について論じた。また、社会が求める人材について言及し、学校教育が育む人間像と実社会が求める人材像との一貫性について考察を行った。 (総頁数 23 頁)
6.	2020 年 3 月	小学校外国語活動の課題と展望－小学校外国語活動に関するアンケート調査から読み解く－	単著	西南女学院大学紀 Vol. 24, 65-84.	北九州市内の全ての小学校 135 校(有効回答数 90 校、有効回答率 66.7%)を対象に実施した「小学校における外国語活動に関するアンケート調査」の結果を分析し、小学校外国語活動の成果と課題について考察した。アンケート調査では、全体の 97% (90 校のうち 87 校) が小学校外国語活動に関して「課題はある」と回答し、ほとんどの小学校が外国語活動に課題を抱えつつも、学級担任と ALT が授業工夫と努力を重ね、児童の英語力の素地づくりに鋭意取り組んでいる様子が明らかとなった。 (総頁数 19 頁)
(翻訳)					
1.					他

2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2012年8月 26日	英語科教育 における音 声指導のす すめー学習 指導要領(外 国語編)は 「音声教育」 をどう取り 扱ってきた かー	単独	日本教育学会 第71回大会 (於 名古屋大 学)	日本教育学会第71回大会において、『英 語科教育における音声指導のすすめー 学習指導要領(外国語編)は「音声教育」を どう取り扱ってきたかー』と題し、音声 教育に関する現状報告と問題提起を行 った。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	北九州市内の小学校における「外国語活動」に関する研究調査：現状と課題、及び改善策の提案～地域活性化へ向けたグローバル人材の育成強化を目指して～	産業経済局 高度人材育成課	500,000	
2.	北九州市内の中学校における英語教育の小中連携に関する調査研究：現状と課題、および今後の展望～今後の教育改革を見据えた小中連	産業経済局 高度人材育成課	350,000	

	携の在り方を考える～			
3.	小学校・中学校・高等学校の英語教育をCAN-DOリストでつなぐ：「北九州市内高等学校の英語教育に関する調査研究」および「小中高一貫CAN-DO リスト(試案)の開発」	産業経済局 高度人材育成課	1,000,000	

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2019年7月8日～現在に至る	中間市教育委員会	教育委員
2.	2019年4月1日～現在に至る	公益財団法人 日本英語検定協会	英検セミナー派遣講師
3.	その他、県内外の小学校・中学校・高等学校の英語科教員や生徒を対象に英語教育に関する講演会や研修会の講師を務める。		

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2019年4月1日～2021年3月31日	学生募集委員会	委員
2.	2019年4月1日～2021年3月31日	研究紀要委員会	委員
3.	2019年4月1日～2020年3月31日	学生委員会	委員
4.	2022年4月1日～2024年3月31日	地域連携室運営協議会	構成員
	2019年4月1日～2024年3月31日	教職課程委員会	委員
	2021年4月1日～2022年3月31日	教務委員会	委員
	2022年4月1日～2024年9月30日	教務部長	
	2025年4月1日～現在に至る	人事委員会	委員

教授
倉富 史枝

■ 学歴

1. 1995 年 久留米大学修士課程修了

■ 学位

1. 修士（文学）（

■ 研究分野

1. ジェンダー論
2. 家族社会学
- 3.

■ 研究キーワード

1. ジェンダー構造
2. 日本型近代家族
- 3.

■ 研究課題

1. ジェンダー論に関して日本の近代化に伴うジェンダーの構造化を中心に考察する。また、ジェンダー意識の形成の過程と現在の意識変容を把握し、今後の女性と男性のキャリア形成連についても考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 共生社会とジェンダー（前期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科、保育科の2年次）選択
2. インターンシップ（前期）（英語学科）選択
3. ライフイベントとキャリア支援（前期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科2年次）選択
4. キャリア開発（後期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科1年次）必須
5. 女性史（後期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科）選択
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【共生社会とジェンダー】 ジェンダー平等や男女平等教育、ハラスメント、性暴力の根絶などのテーマでワークショップを実施した。社会や学問に存在する性差に関わる既成概念や諸問題について講義で学習し、学んだことについてグループに分かれて意見交換した。性別にとらわれずに、国籍、人種、障害の有無などに関わらず多様な人々との共生社会のあり方について当事者性を持って考えられるよう、双方向でのアクティブラーニングで授業を進めた。
2.	授業科目名【インターンシップ】 実際の職場で就業体験する教育プログラムであるインターンシップを通じて、自らの職業観、勤労観を構築することを目的とする。就職そのものや自らの適性について考えを深めるために、就業体験の前に、6時間の座学の時間を設け、実務家として経験豊かな外部講師（一般社団法人学生就職支援協会職員）に講義を依頼した。
3.	授業科目名【ライフイベントとキャリア支援】 職場での管理職への昇進、起業、専業主婦など、女性の働き方やライフスタイルは多様化している中で、様々なライフイベントに際し、具体的な自分のキャリアと主体的に結び付けて考えられるよう、障害となり得る社会的要因を様々な角度から最新のデータや事例を示して解説した。多様なロールモデルを外部講師として招き、質疑応答の時間で交流し、学生のキャリア形成のイメージを高めた。 授業科目名【キャリア開発】
4.	これからの社会情勢を見据えてキャリアに関する最新の情報をネットで示した。多様な分野から外部講師から講師を招き、多角的な視野でキャリア形成ができるよう支援した。 講義内容を自分のキャリアと結び付けて考えられるよう、レポートを作成させた。
	授業科目名【女性史】
5.	現在の日本の女性の意識形成の過程を確認するという趣旨で、主に明治以降と第2次世界大戦後の教育や政治体制を対比させ、さらに、近代化が現在の学生の実態に与えた影響を理解し、歴史を生きた情報として学習意欲を高めた。卒業後、就職や家族形成など自己決定する際に、社会の仕組みの歴史的背景を理解したうえで適正に情報選択できるよう、課題を提供した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1993年9月	西日本社会学会	
2.	1993年10月	日本社会分析学会	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	特になし				
2.					

3.					
(学術論文)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(翻訳)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	特になし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	特になし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	特になし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2002 年 3 月～現在に至る	特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所	理事兼研究員
2.	2014 年 4 月～現在に至る	福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発・研修講師団	講師

3.	2017 年 7 月～現在に至る	福岡県エイズ・性感染症対策推進協議会	委員
4.	2017 年 7 月～現在に至る	福岡県人権施策推進懇話会	委員
5.	2015 年 4 月 ～現在に至る	古賀市男女共同参画審議会	会長
6.	2017 年 4 月～現在に至る	志免町男女共同参画推進審議会	会長
7.	2018 年 8 月～現在に至る	九州大学文学部同窓会	会長
8.	2023 年 4 月～現在に至る	篠栗町男女共同参画推進審議会	会長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	特になし		
2.			
3.			

教務部長・教授

クリステン マリー サリバン

■ 学歴

1. 2013 年 マッコーリー大学（オーストラリア）修士課程 修了

■ 学位

1. 2013 年 修士（応用言語学）

■ 研究分野

1. 応用言語学
2. 外国語教育
3. 日本学・日本語学

■ 研究キーワード

1. 留学、高等教育における国際化
2. 異文化コミュニケーション、異文化理解、異文化間能力の育成
3. ことばとアイデンティティ
4. 学習者アイデンティティ、学習者オートノミー
5. カリキュラム・デザイン、コース・デザイン

■ 研究課題

1. 日本と豪州の高等教育における国際化に関する政策および戦略の変遷と関係、日豪関係を背景にして両国の高等教育における国際化政策及び戦略、学術交流の在り方に関する研究
2. 留学の学習効果を高めるための取り組みの計画と評価、留学経験者の留学後のことなど、留学に関する研究
3. 異文化間能力の育成を目指すコース・デザインに関する研究
4. 外国語学習における自律学習能力・学習者オートノミーの育成を目指す実践的取組みに関する研究

■ 担当授業科目

1. 異文化間コミュニケーションⅠ（前期）（英語学科）選択
2. エリア・スタディⅠ（Aクラス及びBクラス）（前期）（英語学科）選択
3. 英語プレゼンテーションⅢ（前期）（英語学科）選択
4. 英語通訳演習Ⅰ（前期）（英語学科）選択
5. 異文化間コミュニケーションⅡ（後期）（英語学科）選択
6. 国際ボランティア演習（後期）（英語学科）選択
7. グローバル英語Ⅱ（Aクラス及びBクラス）（後期）（英語学科）選択
8. 英語通訳演習Ⅱ（後期）（英語学科）選択
9. 日本語教育実習（通年）（英語学科、日本語教員養成課程）必須

10. 専門演習Ⅰ（前期）（英語学科）必須
11. 専門演習Ⅱ（後期）（英語学科）必須
12. 卒業研究（通年）（英語学科）必須
13. 人文学入門（1回）（前期）（人文学部総合人間科学）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ・異文化間コミュニケーションⅡ】 異文化間コミュニケーションⅠ・Ⅱでは、異文化コミュニケーションにおける誤解や失敗を取り上げるケースについてのグループディスカッションと発表、体験型アクティビティ、視聴覚資料、外部講師による講義、振り返り課題などを活用して、異文化コミュニケーションの概念への理解を深める工夫を行った。異文化間コミュニケーションⅡでは、日本における多文化共生および英語を使った異文化コミュニケーション、多文化な職場における異文化コミュニケーションというテーマを設定することで異文化コミュニケーションについてより具体的に考える機会を取り入れた。
2.	授業科目名【エリア・スタディⅠ】 CLIL（内容言語統合型学習）手法を用いて行う授業である。移民・多文化主義と先住民というテーマを通して様々な角度から豪州というエリアについて考えることができるよう授業を行った。様々な情報源や形の資料を活用することで学生の理解や関心を高めつつ、エリアを学ぶときの手法についても意識させるよう工夫した。また、学んだことや身につけた手法を活かして、他の地域における多文化社会や先住民に関する状況を英語で調べて発表する機会を取り入れた。
3.	授業科目名【英語プレゼンテーションⅢ】 通訳案内士に必要な知識および英語力を育成することを目標とした授業である。バイリンガル教材を活用して日本の地理・歴史・文化に関する知識を再確認しながら、それをどのように英語で伝えたら良いかを確認した。必要な表現力および知識をしっかりと身につけさせ、応用できるようになることをサポートするためのアクティビティなどを工夫しながら授業を行った。
4.	授業科目名【国際ボランティア演習】 カンボジアの幼児教育に取り組んでいるチャリティ団体 TukTuk と協力して、PBL という形を取り、学生が主体的になってボランティア・プロジェクトの計画・実施・結果報告・振り返りが行えるよう授業運営を行った。ボランティア・プロジェクトの実施を通して、国際協力や世界の情勢について知識や意識を深めると同時に、チームワーク力、コミュニケーション能力、プロジェクト管理能力などのソフトスキルを向上させるよう授業運営を行った。
5.	授業科目名【グローバル英語Ⅱ】 ビジネス英語スキルの向上を目指す授業である。ビジネス場面における電話でのやり取り、メールの仕方、売り上げや財務状況等の情報の説明の仕方を中心に、実践的な授業展開を図った。その中で社内と社外、インフォーマルとフォーマルの表現の違いに気付かせ、両方を練習する機会を多く取り入れた。
6.	授業科目名【英語通訳演習Ⅰ・英語通訳演習Ⅱ】 通訳技術を磨くための様々なトレーニング方法を実践を通じて学びながら、通訳の基礎技術を身につけるとともに、英語運用の総合的な強化を図ることを目的とし、授業を行った。英語能力に関係な

	く、すべての学生が取り組めるように工夫し、ペアワーク等を取り入れた。また、小テストの結果を丁寧に分析、フィードバックし、学生の次に目指すべき目標を提示すると共に、学生自身による振り返り、自己分析、目標設定を促すためこれらの活動を小テスト後の振り返り課題に取り入れた。
7.	授業科目名【日本語教育実習】 日本語教員養成課程の最終段階として、実際に日本語学習者を対象に教壇実習を行い、今までに学んできた理論と実践の統合を目指した。前期では、オンラインツールを活用して海外に住む生涯学習者を対象にした教壇実習、後期では北九州 YMCA での教壇実習を実施した。教案や教材、模擬授業等についてフィードバックをしっかりと行い、フィードバックの内容が次回に活かされていることを確認しながら指導を行った。一方で、学生のセルフリフレクションや学生同士のピアフィードバックや助け合い・チームワークを促すため、教員より前に本人やピアによる気づきやフィードバックの共有を必ず行ったり、すべての学生が率直に意見を述べられる雰囲気を作ったりするなど、日本語教員として求められる資質や能力が育成されるよう授業運営などにおいて工夫を行った。また、学生のひまわり中学校での日本語学習支援活動について公益財団法人北九州国際交流協会と協力した。
8.	授業科目名【専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱ】 専門演習Ⅰではゼミのテーマ（多文化社会・多文化教育）に対する知識を身につけさせながら、調べる力、批判的思考力、チームワーク力、計画力、プレゼン力などを育成させることを目的とし、ゼミの運営方法において工夫を行った。具体的には、学生は毎回異なる役割で授業での報告に励み、毎回学生全員が発言してゼミに貢献できるよう工夫を行った。また、NPO 法人せいぼじゅぱんと連携し、サービスマネージング活動にも取り組んだ。アフリカ・マラウイの現状、ソーシャルビジネス、NPO 法人せいぼのマラウイの子ども給食支援事業について学んだうえで、学生は貢献できる方法について話し合い、活動を計画した。専門演習Ⅱでは、前期で計画した活動を実施したうえで、活動内容等を振り返り、NPO 法人せいぼじゅぱんに報告を行った。また、前期に取り組んだ多文化社会の学びから医療アクセスとことばの壁およびコミュニティ通訳についてさらに調べ、考えると同時に、災害時の通訳のための実践練習を試みた。学生は一年間の学習・取り組み成果を山口県立大学で行った合同ゼミで発表した。
9.	授業科目名【卒業研究】 計画的に研究に取り組むこと、同級生の研究課題に関心を持つこと、同級生から学ぶことを大切にしながらゼミ運営を行った。毎回の授業で学生一人一人にその週取り組んだことや研究の進捗状況などをクラスの前で発表させ、翌週の課題や計画を合わせて発表してもらった。それぞれの発表の後、フィードバックやアドバイスをを行った。クラスの前で発表やそれに対するフィードバックを行うことによって、お互いから学び合う機会をつくった。また、後期になって卒業論文の執筆やそれに対する一対一の指導が中心になってからでもゼミ生同士で支え合う、協力的な学習環境ができた。学生は卒業研究の成果を山口県立大学で行った合同ゼミで発表した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005 年 9 月～現在に至る	全国語学教育学会	全国語学教育学会年次国際大会査読委員会査読者(2011 年度～

			現在に至る)
2.	2013 年 1 月～現在に至る	大学英語教育学会	
3.	2013 年 9 月～現在に至る	日本自律学習学会	
4.	2019 年 4 月～現在に至る	留学生教育学会	留学生教育学会紀要 編集委員会委員 (2024 年 11 月～現在に至る)
5.	2019 年 4 月～現在に至る	オセアニア教育学会	
6.	2021 年 6 月～現在に至る	言語文化教育研究学会	
7.	2021 年 7 月～現在に至る	Japanese Studies Association of Australia	
8.	2022 年 6 月～現在に至る	異文化間教育学会	
9.	2022 年 8 月～現在に至る	日本語教育学会	
10.	2023 年 5 月～現在に至る	大学日本語教員養成課程研究協議会	
11.	2023 年 6 月～現在に至る	日本言語政策学会	
12.	2023 年 7 月～現在に至る	オーストラリア学会	
13.	2023 年 7 月～現在に至る	小出記念日本語教育学会	

■ 研究業績等に関する事項 (2024 年度)

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表 学会等の名称	概 要
(著書)					
(学術論文)					
(翻訳)					
(学会発表)					
1.	2024.6.23	Creating Opportunities to Think about Multicultural Japan through an Australian Studies Course: An Example of Curriculum	単著	異文化間教育学会第 45 回大会 (於 金沢大学角間キャンパス)	This poster presentation showed how an area studies course was designed to have students reflect upon issues of prejudice, discrimination, and inequality in not only the target area of Australia, but also the students' own society, Japan. In the presentation it was suggested that area studies courses exploring multicultural and Indigenous themes can be used to support students to think critically about these issues in

		Design for Intercultural Education			their own societies within the greater context of intercultural education; indeed, critical engagement with students' own societies is crucial to avoid othering and should always be embedded in such courses.

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	Investigating Interconnections between the Higher Education Internationalization Policies of Japan and Australia	日本学術振興会	1,950,000 円	

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 11 月 8 日	令和 6 年度 JET プログラムによる山口県外国語指導助手指導力等向上研修会にて講演 ("How can we enhance students' output skills in English? – Through enrichment of language activities –")	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 10 月 3 日～現在に至る 2024 年 3 月 1 日～2024 年 10 月 2 日		教務部長 教務部長代行
2.	2024 年 3 月～現在に至る	教務委員会	委員長
3.	2024 年 3 月～現在に至る	大学評議会	構成員
4.	2024 年 3 月～現在に至る	運営会議	構成員
5.	2024 年 3 月～現在に至る	教学マネジメント会議	構成員
6.	2024 年 3 月～現在に至る	点検評価改善会議	構成員
7.	2024 年 3 月～現在に至る	点検評価改善会議 FD 部門	議長
8.	2024 年 3 月～現在に至る	教職課程委員会	構成員
9.	2024 年 3 月～現在に至る	地域連携室運営協議会	構成員
10.	2024 年 3 月～現在に至る	将来計画検討プロジェクト	構成員
11.	2024 年 3 月～現在に至る	将来計画委員会	構成員
12.	2024 年 3 月～現在に至る	西南女学院評議会	評議員
13.	2022 年 4 月～現在に至る	国際交流委員会	副委員長
14.	2024 年 7 月～2024 年 12 月	学長候補者選考委員会	委員
15.	2021 年 4 月～現在に至る	英語学科 学生アドバイザー	アドバイザー
16.	2022 年 4 月～現在に至る	英語学科留学制度担当者：留学 前・留学中・留学後のすべての 段階において学生の支援を行う と共に、受け入れ先機関等と綿 密な連携をとり、英語学科の留 学制度の運営を行っている。	
17.	2025 年 1 月 23 日	高等学校への模擬授業（早鞆高 等学校）	

教授
高野 基子

■ 学歴

1. 1989 年 岡山大学文学部卒業

■ 学位

1. 1989 年 学士

■ 研究分野

1. ホスピタリティマネジメント
2. エアラインビジネス
3. キャリア教育

■ 研究キーワード

1. ホスピタリティ
2. 地域活性化
3. キャリア教育
4. エアラインビジネス

■ 研究課題

1.
2.

■ 担当授業科目

※該当なし（2025 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2025 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.			
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学	概 要

				会等の名称	
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2021年4月～2024年3月	日本航空株式会社客室乗員部	室長

2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	JAL航空みらいラボ産学連携部	マネージャー
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2025 年度入職）

教授
塚本 美紀

■ 学歴

1. 2005 年 テンプル大学修士課程 卒業

■ 学位

1. 2005 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 英語教育学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 異文化理解教育
2. 異文化理解・対応力の測定
3. ESD (Education for Sustainable Development)

■ 研究課題

1. 異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。
2. 持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察する。

■ 担当授業科目

1. グラマー・コンポジション I（前期）
2. 専門演習 I（前期）
3. 教育ボランティア演習（前期）
4. グラマー・コンポジション I（後期）
5. 英語教科教育法 I（後期）
6. 専門演習 II（後期）
7. 教職実践演習（中・高）（後期）
8. 北九州の過去・現在・未来（後期）
9. 現代ビジネス人材論（後期）
10. 地域プロジェクト（後期）
11. 教育における ICT 活用（後期）
12. 卒業研究（通年）
13. 教育実習事前事後指導（通年）
14. 教育実習 II（通年）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【文法・コンポジションⅠ】 学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるように、重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用した。質問の時間を十分にとったり、LINE やメールで質問を受け付けるようにしたりして、学生の疑問にすぐに答えられるようにした。
2.	授業科目名【専門演習Ⅰ】 国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、オンラインでアジア太平洋地域の若者と半年間にわたるプロジェクトを行ったり、韓国で持続発展教育に取り組んでいる施設を訪問したりした。
3.	授業科目名【教育ボランティア演習】 様々な文献やデータから教育の現状や課題について理解した後、オンラインで実施できる国際交流のプログラムを学生たちが作成し、理論と実践が結びつくようにした。
4.	授業科目名【英語教科教育法Ⅰ】 学習指導要領の改訂に鑑み、学生たちが中学校や高等学校で学んできたことと現行の学習指導要領との違いがわかるよう解説した。毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。
5.	授業科目名【専門演習Ⅱ】 来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。
6.	授業科目名【教職実践演習（中・高）】 教育実習での経験を活かして模擬授業の教案を作成し、実施してもらうようにすることで、教育実習での実践を振り返ることができるようにした。また、教育活動を行う際、どのようなリソースを活用できるか、教育実習での実践を振り返りながら討論した。
7.	授業科目名【北九州の過去・現在・未来】 北九州に関する新聞記事、書籍、映像などを用いたり、外部講師による講演を行うなどして、北九州について多角的に捉えられるよう工夫した。また、それぞれが学ぶ専門分野がどのように地域に貢献できるかということについて考察できるようにポスターセッションを行った。
8.	授業科目名【現代ビジネス人材論】 卒業後の自分自身のキャリアを現実的に考えることができるように、行政で女性の就労についてを専門にしている方にご講義いただいたり、様々な企業の人事担当者等にご講義いただいたりした。また、外部講師によるご講義の運営の一部も学生が担当し、企業の方をより身近に感じたり、マナー等を実践的に学べるようにした。
9.	授業科目名【地域プロジェクト】 人文学部の学生が、それぞれが学んでいる専門分野の知識や技能を活かし、行政や地域の人々と協働することができるようなプロジェクトをスムーズに行えるように、地域について学ぶ授業を行った。

10.	授業科目名【教育における ICT 活用】 新しい分野で、さまざまな実践が試されている状況であるが、中でも成果が上がっているものなるべく紹介するようにした。また、授業の中でもなるべく ICT を活用し、授業の中でどのように使用することができるのかということを学生が実感できるようにした。
11.	授業科目名【卒業研究】 計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。
12.	授業科目名【教育実習事前事後指導】 4 年生による教育実習についての発表を聞いたり、3 年生の模擬授業に 4 年生からコメントをもらうなどして、いろいろな面から教師としての在り方や教育実習について学生が学べるようにした。
13.	授業科目名【教育実習 II】 教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1990 年 9 月～現在に至る	アクロス「英語教師のための異文化研究会」	理事（2008 年 8 月～現在に至る）
2.	2017 年 4 月～現在に至る	日本 ESD 学会	会員
3.	2017 年 6 月～現在に至る	北九州サステナビリティ研究所	会員
4.	2021 年 12 月～現在に至る	日本比較文化学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023. 5	わたしの異文化体験—エッセー集—	共	ACROSS 出版局	① 語学教育に携わる者の視点から、それぞれの異文化体験について考察し、まとめたもの。 ② 編集委員：辻莊一、河野良子 共著者名：井川好二、塚本美紀、他 16 名 ③ 担当部分：「わたしの異文化体験：古城と帽子」（p. 99 - p. 105） 総頁数：p. 159

					④ A5判
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2025. 3	オンライン での国際共 同プロジェ クトにおけ る同期・非同 期コミュニ ケーション の効果	単	西南女学院大学 教職論集 第4号	① オンラインによる国際共同プロジ ェクトにおける時間差によるコミュ ニケーションの断絶やコミュニケー ション能力の不足による議論の停滞 等の課題を解決するための同期・非 同期コミュニケーションの活用につ いての考察
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2025. 2	Why English Matters: A Study of the Impact of a Blended Approach to Online Projects	共	21 th CamTESOL Conference (於 カンボジ ア工科大学)	① 同期・非同期のコミュニケーション を取り入れた国際オンラインプロジ ェクトについての考察 ② 共同発表者: Miki Tsukamoto, Emi Tanabe, Brian Nuspliger
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位: 円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	1993 年 7 月～現在に至る	日本英語検定協会	面接委員
2.	2010 年 4 月～現在に至る	北九州 ESD 協議会	会員
3.	2015 年 6 月～現在に至る	Zonta International	会員
4.	2021 年 4 月～現在に至る	福岡県立小倉西高等学校学校関係者評価委員会	評価委員
5.	2021 年 7 月～現在に至る	北九州市立ユースステーション	アドバイザーリーボード

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014 年 4 月～現在に至る	ハラスメント	相談員
2.	2016 年 4 月～現在に至る	教職員懇親会	委員
3.	2018 年 4 月～現在に至る	入学試験会議	委員
4.	2018 年 4 月～現在に至る	学生募集委員会	委員
5.	2021 年 4 月～現在に至る	総合人間科学小委員会	委員
6.	2022 年 4 月～現在に至る	教職課程委員会	副委員長
7.	2014 年 4 月～現在に至る	ゴールデン Z クラブ	顧問

教授
西原 真弓

■ 学歴

1. 1990 年 Arizona State University 修士課程修了

■ 学位

1. 1990 年 Master of Arts in English (修士 英語学)

■ 研究分野

1. 英語音声学
2. 英語教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 英語イントネーション
2. Bloom's Taxonomy

■ 研究課題

1. 小学校英語教育で音声教育のために用いられるチャンツを分析対象とし、イントネーションの中でも特に日本人学習者に多い核強勢の誤配置について考察する。
2. Bloom's revised taxonomy を用いて、日本の英語教育における目標と評価の設定の仕方について考察する。

■ 担当授業科目

1. 英語学概論Ⅰ（前期）必修
2. 英語学概論Ⅱ（後期）選択
3. 実践英語音声学Ⅰ（前期）必修
4. 実践英語音声学Ⅱ（後期）必修
5. 専門演習Ⅰ（前期）選択
6. 専門演習Ⅱ（前期）必修
7. 欧米文化交流研修（前期）選択
8. リーディングⅢ（前期）選択
9. 英語教科教育法Ⅱ（後期）選択
10. 英語教科教育法Ⅲ（後期）選択
11. 英語教科教育法Ⅳ（後期）選択
12. 英語教科教育法Ⅴ（前期）選択
13. 教職実践演習（中・高）（後期）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【英語学概論Ⅰ・Ⅱ】 専門的な分野であるため、それぞれの理論を、学生がわかりやすく・役に立つと感じられるよう説明の際使用する例文や状況を工夫した。授業内外で学習した事項に関する事例を探させ、クラスの皆で共有することで理解を深めた。また、質問しやすい雰囲気づくりを心掛けた。
2.	授業科目名【実践英語音声学Ⅰ・Ⅱ】 英語音声学の理論的事象を実践を通して理解できるよう工夫した。40名弱の学生を一斉に指導しなくてはならないため、個々の発音の矯正は録音したものを提出させコメントをつけて返却したり、一人一人を授業外でよび、中間、期末の発音のテストを行った。その際、必ず録音をして学生自身が自己評価をするようにした。全員に発音の向上が認められたことを自身で確認することができた。
3.	授業科目名【欧米文化交流研修】 初めての海外インターンシップを実施した。オーストラリアのシドニーで参加者一人ずつが別々の職場に配置されるため、事前指導でできるだけ自信をつけることができるように心がけた。研修中も毎日ラインで各学生の様子を確認した。全員が3週間の研修を無事終え、学生たちの成長やプログラムの教育効果が見られた。
4.	授業科目名【リーディングⅢ】 長文読解のコツを掴ませることを大切にし、リーディングのスキルを教えた。スキミングやスキミング、リテリングなどを組み合わせて行ったり、直読直解する習慣をつけるよう速読の練習も行った。最も工夫した点は題材選びである。学生が興味を持ちそうな社会的、文化的なテーマで、ニュース、TED Talk、賛成/反対がある意見文などを用いた。
5.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 ゼミのテーマが「ことばと文化」であるため、題材を映画翻訳、日英映画比較、絵本比較、広告比較などで行った。反転授業で、自宅学習をしてきたものに対し、授業内で学生同士がディスカッションをするというスタイルで行った。各学期の最終発表では学生たちのオリジナルの視点での文化広告比較を行うことができた。
6.	授業科目名【英語教科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 基礎となる英語教育に関する理論を理解するⅡ、模擬授業を中心とした実践的な学びをするⅢと、理論的な枠組みで実践を振り返りながらさらに深く考える力を身につけるⅣ、さらに教育現場での教育実習を挟んだⅤが、それぞれ相乗効果をもたらすことができるように工夫した。学生自身でお互いに評価し合う中で、授業づくりの視点をしっかり持ち、自分の授業を振り返ることができるようにした。学生間でより効果的にコメントをしあえるための環境づくりや声掛けに心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1991	全国英語教育学会	

2.	2021	日本英語教育音声学会	理事
3.	2017	小学校英語教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
（学術論文）					
1.	2025 年 1 月	発 音 指 導 に おける教育 目 標 の 明 確 化：ブルーム の 改 訂 版 タ キ ソ ノ ミ ー の 活 用	単 著	『英語教育音声 学』第 4 号, 99- 112.	英語コミュニケーションにおいて発音 は非常に重要な要素であるにも関わら ず、効果的な発音の指導方法は確立して いない。この課題を解決するために、ブ ルームの改訂版タキソノミーを用いて 発音教育の目標設定を明確化すること を提案した。さらに、この目標分類に従 いできる活動を具体的に提示した。
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024 年 5 月 26 日	発 音 指 導 に おける教育 目 標 の 明 確 化：ブルーム の 改 訂 版 タ キ ソ ノ ミ ー の 活 用	単	第 4 回英語教育 音声学会全国大 会	効果的な発音指導の方法を確立するた めの指針としてブルームの改訂版タキ ソノミーを利用することを提案した。そ れにより、これまで行われている活動や 今後できる活動を具体的に分類しなが ら目標を明確化することができること を示唆した。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額

			○代表者（ ）内は学外 者	(単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 8 月	諫早市中学校英語教員研修	講師
2.	2025 年 2 月	東彼杵町中学校英語教育研修	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024.4-2025.3	教務委員	
2.	2024.4-2025.3	FD 委員	
3.			

講師

ブラウン馬本 鈴子

■ 学歴

1. 2006 年 英国イースト・アングリア大学大学院人文科学研究科文学専攻（博士課程前期）修士（文学）
2. 2008 年 福岡大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻（博士課程後期）博士（文学）

■ 学位

1. 博士（文学）

■ 研究分野

1. イギリス文学
2. イギリス文化

■ 研究キーワード

1. ドリス・レスリング
2. ジェイン・オースティン
3. ジェンダー

■ 研究課題

1. 主に現代の女流イギリス文学に関する研究
2. 女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析

■ 担当授業科目

1. 英語文学 I
2. 英語文学 II
3. 初年次セミナーI
4. 初年次セミナーII
5. TOEIC 演習 I
6. TOEIC 演習 II
7. 初級英文講読
8. 専門演習 I
9. 専門演習 II
10. 卒業研究
11. リーディング IV
12. 英検演習 II

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【英語文学Ⅰ・Ⅱ】 英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していった。「英語文学Ⅰ」から「英語文学Ⅱ」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である <i>The Tale of Peter Rabbit</i> を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げていった。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料（DVD）を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たちは、授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、精読、速読を進める中で、英語力の向上を図った。対面授業の中でも資料のアーカイブや課題の提出場所として、Google Classroom を効率良く使った。
2.	授業科目名【卒業研究】 前期には、専門演習Ⅰ,Ⅱを得て得た文学的読みを更に深化させ、ゼミ内でディスカッションを行った。また前期には、特に卒業論文のテーマ選びを行い、選んだテーマをどのように研究していくかの計画を入念に立てた。夏休みには、実際に卒業論文を書き始め、後期には、個人指導もたくさん行いながら、論文を書き進めた。ゼミ内で、仲間同士で指摘しあう機会を与えたり、ポスターセッションの練習会も行った。
3.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 前期から後期にかけて、イギリス現代文学の短編集やジェイン・オースティンの『ノーサンガー・アベイ』を読み、ゼミの中で調べてきたこと、まとめあげたこと、疑問に思ったことなどのディスカッションを行った。またゼミの初めには、各自が持ち寄った新聞記事を紹介し合い、社会現象を分析した。またその新聞の活動に加え、就職活動を意識して SPI 対策と TOEIC 練習を始めた。
4.	授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 通年を通して、テキスト『知へのステップ』をベースに、基礎的な学習スキルや、大学での授業の受け方、生活の送り方、計画の立て方についての概論を教えた。また書き込み式の『マイキャリアノート』を使い、学生個人個人が独自の思いを綴り内省を行ったり、キャリアへの計画、調べ物を行なった。前期後半では個人の、後期後半ではグループでのプレゼンテーションを行い、前期では主にパワーポイントで、後期には Google スライドで発表を行うことで、自分たちで決めたテーマに沿っての研究を行うミニプロジェクトを完成させた。またそれぞれの発表についてのフィードバックを Google クラクルームのアンケートシステムを使ってクラス全員で行い、その結果で学んだことをレポートに課した。後期では外部講師も招いて、プレゼンテーションのお手本として、デート DV に関するワークショップを行ってもらった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001 年 10 月～現在に至る	日本英文学会九州支部	支部評議員（なし）
2.	2006 年 10 月～現在に至る	映画英語教育学会（ATEM）九州支部	
3.	2015 年 11 月～現在に至る	日本オースティン協会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(翻訳)					
1.	特になし				
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	特になし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.	特になし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	特になし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

任 期	団体・委員会等の名称	役 職 名 等

	期 間 等	(内 容)	
1.	特になし		
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～現在に至る	公開講座委員	委員長（2024 年 4 月～現在）
2.	2022 年 4 月～現在に至る	研究起用委員	
3.	2022 年 4 月～現在に至る	1、2 年生アドバイザー	
4.	2023 年 4 月～2025 年 3 月	就職委員	

教授

Malcolm Ross Swanson

■ 学歴

1. University of Southern Queensland 2002 年

■ 学位

1. 教育学修士

■ 研究分野

1. Active learning
2. AI in the classroom
3. Student-centered learning

■ 研究キーワード

1. Active learning
2. Artificial intelligence
3. Presentations

■ 研究課題

1. Language study through active learning
2. Digitizing language learning

■ 担当授業科目

1. 卒業研究
2. 英語プレゼンテーション I (前期) (A class, B class)
3. 人文学入門 (前期)
4. 英語プロジェクト I (前期)
5. 英語コミュニケーション I (前期) (A class, B class)
6. メディア英語 I (前期)
7. 実用英語コミュニケーション (前期) (福祉学科 A class, B class)
8. 英語プレゼンテーション II (後期)
9. パラグラフ・ライティング (後期)
10. メディア英語 II (後期)
11. 英語コミュニケーション II (後期) (A class, B class)
12. 英会話 II (後期) (観光文化学科 A class, B class)

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【卒業研究】 今年は私のゼミにとって非常に忙しい年でした。プロジェクト活動に重点を置いたためです。最大のプロジェクトは、10月に戸畑の旧安川邸で開催されたイベントでした。茶道部と協力し、外国人向けに茶道体験を提供するとともに、建物の英語ガイドツアーを実施しました。イベントには約150人が参加しました。また、カナダ・バンクーバー島大学から30人の学生と教員のグループを招き、北九州市内を案内するほか、キャンパス内で1日間のワークショップを開催しました。このゼミグループは大変成功し、すべての学生がリーダーシップとプロジェクトスキルを学ぶ機会を得ることができました。
2.	授業科目名【パラグラフ・ライティング】 作文クラスは、2年生を対象とした目標を十分に達成する非常に成功した授業でした。すべての生徒が異なるスタイルの段落を書く能力を身につけ、学術的な作文の基盤を固めました。また、オンラインツールやAIプログラムを効果的に活用し、作文スキルを向上させる方法も学び、より自立した学習者となるための基盤を築きました。さらに、このコースでは語彙力の強化に重点を置き、生徒がより明確で多様な表現力を身につけることができました。全体として、このクラスはエッセイ執筆の優れた入門コースとなり、学生たちは来年受講するより高度なライティングコースに完全に備えることができました。
3.	授業科目名【英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ】 英語コミュニケーションクラスは、学生が流暢さ、発音、語彙を著しく向上させるための、魅力的で支援的な学習環境を提供しました。コースを通じて、生徒は正式な場面と非公式な場面の両方で英語を使用する自信を大きく高めました。グループワーク、プレゼンテーション、クラスディスカッションが効果的に実施され、学生は言語スキルを実践し応用する機会を積極的に得ることができました。これらの経験を通じて、すべての学生が授業にポジティブな評価を寄せ、楽しく効果的な学習体験であり、英語コミュニケーション能力の向上に役立ったと評価しました。
4.	授業科目名【英語プレゼンテーションⅠ】 英語プレゼンテーションの授業では、学生が効果的なプレゼンテーションを作成し、発表するための必須のスキルと知識を習得しました。学生は、アイデアを明確かつ論理的に整理する方法を学び、強力なプレゼンテーションの構造を習得しました。また、PowerPoint、Keynote、Google Slides、Canvaなどのツールを使用して、オリジナルでインパクトのあるスライドをデザインする技術も習得しました。指導付きの練習を通じて、視覚的に魅力的で理解しやすいスライドを作成するデザインスキルを向上させました。さらに、研究スキルを強化し、より意味深く根拠のあるコンテンツを開発する能力を養いました。最後に、定期的な練習の機会を通じて、自信を築き、プレゼンテーションの伝達力を向上させました。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996年～現在に至る	全国語学教育学会	- 北九州支部プログラム委員長 - 出版物ウェブサイト編集者 - 学会論文集編集者
2.	2005年5月～現在に至る	CALICO	
3.	2020年1月～現在に至る	Moodle moot	

4.	2015 年 7 月～現在に至る	JASAL	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024 年 4 月	Project Work in the Language Classroom	単著	北九州 JALT	このプレゼンテーションでは、教室外でのプロジェクトの活用を英語学習の基盤として取り上げました。
2.	2024 年 11 月	Classroom Assessment	単著	北九州 JALT	GradeScanner を使用した迅速な評価と分析
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考

1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年度	全国語学教育学会年次国際大会 査読 査読者	委員会
2.	2024 年 3 月	西南女学院高等学校ディベート &スピーチ・コンテスト審査員	キャンベル杯ディベート & スピーチ・コンテスト
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年度	英語学科	学科長
2.	2024 年度	情報システム管理運用委員会	副委員長
3.	2024 年度	英語学科ウェブサイトの管理	
4.	2024 年度	学生個人情報保護委員会	委員長
5.	2024 年度	図書委員	

觀 光 文 化 學 科

教授

池口 功晃

■ 学歴

1995 年 慶応義塾大学商学部商学科卒業

2013 年 久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程単位取得満期退学

■ 学位

2019 年 博士（経済学）

■ 研究分野

1. 観光経済学
2. 地域活性化・マーケティングリサーチ

■ 研究キーワード

1. 産業連関分析・マーケティングリサーチ
2. 観光政策・商圈分析
3. まちづくり

■ 研究課題

観光を通じた地域経済活性化に関する研究は、観光地の「魅力」がその核心であると捉えたものが多く、観光資源の魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられてきた。しかし、近年の急速な高速交通網の発達に伴い、観光地の「魅力」は否応なく相対化されつつある。この認識のもと、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析、②観光地間の競合関係の分析、③産業連関表を通じた観光の経済分析など、主として3つのテーマを設定し、観光による地域経済の計量的分析および評価をおこなっている。

■ 担当授業科目

1. 日本経済入門（前期）（観光文化学科） 選択
2. 国際経済入門（前期）（観光文化学科・英語学科） 選択
3. 旅行業法（前期）（観光文化学科） 選択
4. 国内旅行実務（前期）（観光文化学科） 選択
5. 専門演習Ⅰ・Ⅱ（前期・後期）（観光文化学科） 必修
6. 卒業研究（通年） 必修
7. 地域観光資源開発論（後期）（観光文化学科） 選択
8. 地域活性化演習（後期）（観光文化学科） 必修
9. マーケティングリサーチ（後期）（観光文化学科） 選択
10. ビジネスファイナンス（後期）（観光文化学科） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【マーケティングリサーチ（地域活性化研究）】 データ解析を通じた地域活性化について解説している。具体的にはデータの構造、データ間の関連性を探りながら、相関、単回帰分析、多変量解析などを通じてデータ解析を行い、地域活性化の客観的・具体的方法について実践的な授業をおこなっている。
2.	授業科目名【地域観光資源開発論】 九州各県および山口県における地方自治体の観光の取り組みについて、学生がグループに分かれて実地・文献調査をおこない、観光振興上の課題の発見と新しい観光のあり方について議論・考察する機会を設けている。
3.	授業科目名【地域活性化演習】 地域活性化の重要な担い手の一つである企業に着目し、企業と学生の共同作業を通じて一定の成果を生み出すことを目的としている。具体的には、企業等の選定と課題の発見～共同作業の提案～成果発表に至る過程でアクティブラーニングを実施している。
4.	授業科目名【日本経済入門】 経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎的理解が必須である。そこで、1回～7回までの授業ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない知識の定着を図っている。また、8回以降では戦後の日本経済（GHQの占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題）について説明している。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2008年4月～現在に至る	日本観光研究学会	
2.	2008年4月～現在に至る	日本地理学会	
3.	2012年4月～現在に至る	観光学術学会	設立発起人
4.	2018年4月～現在に至る	日本企業経営学会	常任理事
5.	2021年4月～現在に至る	東アジア企業経営学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
（学術論文）					
（学会発表）					
1.	2025年3月	「老舗料亭	単独発表	九州・沖縄フー	大分県中津市は江戸時代以降、鰻料理が

		の伝統と経営革新—日本料理・筑紫亭を事例に一—		ドツーリズム学会 第1回研究会(於 中村学園大学)	地域の食文化として受け継がれてきた。現在も鰻料理を当地で提供する店は十数軒にも及んでいる。本発表においては、当地における鰻料理の歴史を踏まえ、明治34年に創業し、120年の歴史を有する料亭「日本料理 筑紫亭」を事例に、その伝統の技と経営革新について分析考察した。
2.	2024年12月	「宿場町の観光振興に関する一考察—長崎街道・筑前六宿を事例として—」	単独発表	東アジア企業経営学会 第4回全国大会（於 周南公立大学）	江戸時代、宿場町はおよそ2里から4里おきに配置され、参勤交代の大名行列や寺社参詣の旅人の往来のほか、さまざまな物資の輸送路として利用されてきた。本発表は、宿場町の観光振興のあり方を考察するために、長崎街道、とりわけその筑前六宿について、これらの歴史・概要のほか、商業店舗や祭り・イベントなどの現況を分析・考察した。

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	平成25年9月～現在に至る	「輝こう！あまがせ・支援大使」 (大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」)	観光振興に関する助言・指導
2.	平成27年7月～現在に至る	宇佐市まち・ひと・しごと創生 有識者会議 審議委員	副委員長
3.	平成28年8月～現在に至る	津久見市まちづくり推進事業審 査委員	副委員長
4.	平成30年9月～現在に至る	日田市天瀬農業公園検討委員会	会長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2019年4月～2020年3月	学生委員会	
2.	2020年4月～2021年3月	教務委員会	副委員長
3.	2021年4月～現在に至る	教務委員会	

准教授

角谷 尚久

■ 学歴

1. 2023 年 BAM(Dr Babasaheb Ambedkar Marathwada)University (India)

■ 学位

1. 2023 年 博士（観光学）Ph.D. (Tourism)

■ 研究分野

1. 人文・社会 / 観光学
2. 人文・社会 / 経営学
3. 人文・社会 / 経営情報学

■ 研究キーワード

1. 航空産業
2. 観光マーケティング
3. 国際観光（インバウンド）
4. 地方創生

■ 研究課題

1. グローバル化する航空事業において収益構造の変化や協業体制の課題について
2. 複雑な旅行ビジネス構造の中での旅行業が直面している課題について
3. 地方創生において地域のかかえる課題について

■ 担当授業科目

1. 初年度セミナーⅠ（前期）(観光文化学科)必須
2. 専門演習Ⅰ（前期）(観光文化学科)必須
3. インターンシップ（前期）(観光文化学科)選択
4. 観光フィールドワーク（前期）(観光文化学科)選択
5. 宿泊産業論（前期）(観光文化学科)選択
6. タウンマネジメント（前期）(観光文化学科)選択
7. 初年度セミナーⅡ（後期）(観光文化学科)必須
8. 専門演習Ⅱ（後期）(観光文化学科)必須
9. 航空産業論（後期）(観光文化学科)選択
10. 観光産業論（後期）(観光文化学科)選択
11. ニューツーリズム論（後期）(観光文化学科)選択
12. フィールドワーク入門（後期）(観光文化学科)選択
13. マルチメディアツーリズム（後期）(観光文化学科)選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【インターンシップ】 就職選考の早期化が進む中、インターンシップの重要性を学生に認識させることに注力した。また、就職課との連携を強化し、業種の絞り方など具体例を提示しながら指導を行うことで、学生自身の社会活動の可視化を促進するよう工夫した。
2.	授業科目名【宿泊産業論】 対面授業において、宿泊産業の歴史やビジネスモデルをできるだけ具体例を交えて講義した。さらに、実学重視の視点から授業を構成し、理解度を深めるとともに、就職活動を見据えた解説を行うことで、学生が実社会に直結した知識を身につけられるよう配慮した。
3.	授業科目名【航空産業論】 行動制限が解除され航空需要が回復しつつある現状を踏まえ、各航空会社のリカバリープランや業界の最新動向について解説した。また、航空業界への就職を志望する学生を意識し、実務家によるゲスト講演を実施することで、航空産業のリアルな現状を伝え、より実学的な理解を深める工夫を行った。
4.	授業科目名【観光フィールドワーク】 前年度後期に開講した「フィールドワーク入門」の内容を発展させる形で、フィールドワークの役割を再認識するとともに、実施に必要な意義や手続きについて実践的に指導した。学生が現場で活用できるスキルを身につけられるよう、実務習得に重点を置いた工夫を施した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009 年 4 月	東北亜観光学会	
2.	2009 年 4 月	旅行ビジネス研究学会	
3.	2013 年 4 月	日本ウマ科学会	
4.	2016 年 8 月	観光学術学会	
5.	2016 年 8 月	日本海運経済学会	
6.	2018 年 12 月	日本観光研究学会	
7.	2019 年 12 月	日本観光経営学会	
8.	2021 年 10 月	沖縄経済学科	
9.	2022 年 6 月	共生学会	設立発起人
10.	2022 年 12 月	日韓国際学術学会	常任理事(2024 年 2 月～現在)
11.	2022 年 12 月	日本企業経営学会	理事(2024 年 9 月～現在)
12.	2022 年 12 月	東アジア企業経営学会	
13.	2024 年 5 月	日本比較文化学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共 著 の 別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
（学術論文）					
1.	2025.2	Resilience of Human Resources in the Tourism Industry: Case Studies of a Major Travel Agency in Japan	共	Northeast Asia Tourism Research Vol.21 No.1 (査読付)	①本研究は、日本の大手旅行会社を事例に、観光業における人的資源のレジリエンスを分析した。COVID-19 による打撃後、離職率の上昇と人手不足が業界に深刻な影響を与え、サービス低下や観光収入の減少が GDP にも波及している。人的資本の維持と強化は、観光業の持続可能性と経済成長に不可欠であり、政策的支援や柔軟な雇用戦略が求められることを示した。 ②共著者名：重谷陽一・小山聖治 ③共同執筆につき本人担当部分抽出不可能
2.	2025.2	航空産業における戦略転換と収益構造の変容 -日本航空と全日本空輸の事例分析-	単	東亜企業経営研究 第4号 (査読付)	①本稿は、日本航空（JAL）と全日本空輸（ANA）の経営戦略を比較分析し、新型コロナウイルス感染症下における対応と業績回復過程を考察した。収益構造の多様化、環境対応、柔軟な経営戦略が航空産業の持続的成長に不可欠であることを明らかにした。
3.	2025.3	Insights into Interests and Tourism Image of Okinawa through SNS Data	共	Journal of Glocal Studies Vol.2 (査読付)	① 本研究は、SNS 投稿と検索行動データを分析し、沖縄観光に対する関心や観光イメージの傾向を明らかにした。季節変動に伴う検索傾向、肯定的・否定的感情、主要観光地への関心の可視化を通じて、観光資源の強化点と課題を特定した。SNS データ活用による観光戦略最適化の可能性を示唆した。 ② 共著者名：國崎 歩 ③ 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能
4.	2025.3	How the	共	Journal of	① 本稿は、Covid-19 危機が沖縄県のリ

		Covid-19 Crisis Changes the Tourism Industries in Island Resort -Case Studies in Resort Hotels in Okinawa-		Glocal Studies Vol.2 (査読付)	ゾートホテル業に及ぼした影響を分析した。コロナ禍により国際観光は消失したが、国内需要への転換と高付加価値化により宿泊業は回復を遂げた。価格維持による収益安定化、設備投資による差別化が奏功し、今後の持続的発展には市場多様化とレジリエンス強化が不可欠であることを示した。 ② 共著者名：重谷陽一・渡辺俊也 ③ 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能
(実践報告)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024.9	インターネットとSNS投稿からみる沖縄観光における関心と観光イメージの特徴について -観光客行動歴分析レポートをもとに-	共	International Academic Conference on Glocal Tourism	
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023.4～現在に至る	学生募集委員	副委員長
2.	2023.4～現在に至る	入試委員	
3.	2024.4～現在に至る	国際交流委員	

大学・短期大学部宗教主事・教授

神崎 明坤

■ 学歴

1. 九州大学大学院博士課程満期終了退学（2002 年）

■ 学位

1. 九州大学大学院教育研究科修士（1995 年）

■ 研究分野

1. 中日の近代における思想家の道徳修養に関する研究
2. 中日における大学の改革に関する比較研究
3. 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究

■ 研究キーワード

1. 思想家の日記修養法
2. 大学のキャリア教育
3. 異文化に関する若者の意識志向

■ 研究課題

1. 中国の大学キャリア教育と創新創業に関する研究
2. 日中における大学キャリア教育の比較に関する研究

■ 担当授業科目

1. 入門中国語会話及び初級中国語会話
2. 中級中国語及び上級中国語
3. 基礎中国語及び応用中国語
4. キリスト教と現代
5. 中国語通訳ガイド演習
6. 比較文化論
7. 初級日本語及び応用日本語
8. 初年次セミナー
9. 専門演習Ⅰ・Ⅱ
10. 卒業論文研究

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【入門中国語会話・初級中国語会話・応用中国語・中級中国語・基礎中国語・中国語通訳ガイド演習】

	1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組み合わせることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国文化や中国の大学生の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等、学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取り入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 3. 講義内容が学生将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引き出す工夫を行った（検定試験は半年の勉強で4級、1年間で3級合格者出た）。 4. 毎回講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度に纏めて再表示し、印象付けるように工夫を行った。 5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。「初級中国語会話」「実用中国語会話」「中級中国語」「基礎中国語」「中国語通訳ガイド演習」の授業は中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。
2.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び、一生の知的財産とする。論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる受講マナーが身についている。新聞や本を読む習慣が身についている。規則正しい大学生生活習慣を見つけることが本授業の旨である。 1. 講義にテレビ、DVDなどの補助教材の活用、疑問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を向上させ、積極的な授業参加することに工夫を行った。 2. 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等、学生の能力に対応した個別学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。更に学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。
3.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってきている。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。例えば、米やお茶等の食文化、漢字や儒教の思想もちろんのこと、年中行事、ものの考え方等の伝来文化によって形成された文化や習慣等の現代の日本の文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことが本授業の旨である。 1. この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすく日本と中国の文化に関する論文を多数読んでもらい、その文化の相違点の比較研究などを通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。 2. 日本と中国及びヨーロッパ文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研究計画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら、各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。 3. 実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えを纏め、口頭発表や論文作成の方法に必要な能力を身に付けさせる工夫を行った。
4.	授業科目名【卒業研究】

	卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。 1. 上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の図書館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。 2. 先行研究を批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うために、ゼミ同士や指導教員との交流を通し、繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。 3. 仮説を論文として展開する力等を養い、学生自身のオリジナルな論文を書くことを心掛けて、最終的に集大成の論文を完成させる工夫を行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1998 年 4 月～現在に至る	日本中国学会	会員
2.	1994 年 4 月～現在に至る	九州教育学会	会員
3.	2011 年 4 月～現在に至る	日本比較文化学会	研究誌委員、会員
4.	2012 年 5 月～現在に至る	日本比較文学学会	会員
5.	1996 年 11 月～現在に至る	日本比較教育学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2022年4月～2024年3月		宗教主事補
2.	2022年4月～2024年3月		人文学部宗教副委員長
3.	2004年4月～現在に至る		学生委員

教授
高橋 幸夫

■ 学歴

1. 2009 年京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了

■ 学位

1. 経済学修士（京都大学 2006 年）

■ 研究分野

1. マーケティング（広告・ブランド）
2. デザインマネジメント
3. 日中大学におけるキャリア教育

■ 研究キーワード

1. ラグジュアリーブランド
2. 地域におけるマーケティング・コミュニケーション
3. 社会人基礎力・創新創業教育

■ 研究課題

1. マーケティングコミュニケーション活動による大学生のキャリアデザイン力向上についての考察
2. 企業経営におけるデザインマネジメントの有効性についての考察

■ 担当授業科目

1. 初年次セミナー I（前期）必修
2. 専門演習 I・II（前期・後期）必修
3. 卒業研究（前期・後期）必修
4. マーケティング入門（前期）必修
5. 広告宣伝論（前期）選択
6. 消費者行動論（後期）選択
7. イベント・テーマパーク論（後期）選択
8. ブランド戦略論（後期）選択
9. キャリア・デザイン論 I（後期）選択
10. 地域プロジェクト（後期）選択
11. メディア政策論（前期）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【卒業研究】 大学生生活の最終年の締めくくりとして、卒業論文の執筆指導はもとより、社会人としての心構えやプレゼンテーション能力の向上を目指し外部講師を招いてディスカッションを多用するなどの授業展開とした。
2.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 デジタルマーケティングの基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 社会貢献活動の企画・実施を演習授業に取り入れた。 さらには、就活を控える学生に対して、「企業研究」「自己分析」「適職診断」「面接」の指導を行なった。
3.	授業科目名【マーケティング入門】 受講者がマーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業活動の中でマーケティングが担う役割を具体例、特に映像を用いて理解できる仕組みを構築した。 実用性の高い知識と応用力を身のつけるために実務家の講義も実施した。
4.	授業科目名【ブランド戦略論・デザインマネジメント論・広告宣伝論】 各科目とも基本理論の習得を基礎に、外部より各領域の専門実務家を招聘し、ワークショップ展開の授業を行なった。これにより履修学生は各科目に対する興味と意欲の向上を目指した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005 年 4 月～現在に至る	商品開発・管理学会	
2.	2021 年 12 月～現在に至る	日本比較文化学会	
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名 称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
2.					
3.					
（翻訳）					

1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	北九州市内交流施設におけるコンテンツ企画・開発	旭興産株式会社	2,200,000	
2.	北九州地域活性化活動	旭興産株式会社	1,100,000	
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2018年～2024年	就職委員会	副委員長（2022年～2024年度）

2.	2020 年～2024 年	情報システム管理運用委員会	
3.	1019 年～2024 年	学生個人情報保護委員会	

教授

林 裕二

■ 学歴

1. 1993 年 西南学院大学大学院修士課程修了

■ 学位

1. 1993 修士（文学）

■ 研究分野

1. 英語学
2. 比較文化学
3. 文学

■ 研究キーワード

1. 統語論
2. 会話分析
3. 翻訳

■ 研究課題

1. 映画、会話、小説等の文学を対象とする談話分析。
2. 英語と日本語の呼び掛け語の体系を比較考察する。

■ 担当授業科目

1. 入門英語通訳ガイド演習（前期）（観光文化学科）選択
2. 基礎英語（前期）（観光文化学科）必須
3. 北九州の技と文化（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科）選択
4. 初年次セミナー I（前期）（観光文化学科）必須
5. マルチメディアイングリッシュ基礎（前期）（観光文化学科）必須
6. 中級日本語（前期）（観光文化学科）必須
7. 人文学入門（前期）（英語学科・観光文化学科）必須
8. 応用英語（後期）（観光文化学科）必須
9. 応用英語通訳ガイド演習（後期）（観光文化学科）選択
10. マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科）必須
11. 上級日本語（後期）（観光文化学科）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【マルチメディアイングリッシュ応用】

	一人一台の PC 利用ができる情報処理室の機能を利用して、英語に学生が接触するコンタクト時間を増やすことを目指し、アクティブな活動に従事させた。一つの学年の全員が受講しており、教員が学生一人一人に接する場面と、例えば PC の音声入力で英語の会話能力の基礎を鍛えるようなオンライン活用場面とを組み合わせ、授業の効率化に取り組んだ。
2.	授業科目名【中級日本語】 留学生の必修科目であり、二名の受講生である。受講生の弱い箇所－助詞－の知識、運用能力を強化するためにフォーマルな文章からユーモアのある柔らかい文章まで、色々な文章を読ませ、要約させ、発表させるというサイクルで学ばせた。
3.	授業科目名【入門英語通訳ガイド演習】 英語通訳ガイドがよく使う定型表現に慣れるために、予習でかなりの量のディクテーションをさせて、オンラインで提出させた。それを授業で PPT で示して、どこが強化すべき点なのかを意識させた。音読のペア学習、正解の根拠を論理的に回答させて、分かりやすく発表する力を養成した。
4.	授業科目名【初年次セミナー I】 総合人間学の科目であり、新入生対象である。内容のある、フォーマルな文章を読み、要約して、発表するというパターンを繰り返した。文章は新聞の社説から学生に選ばせた。「新聞の社説とは何ですか」の段階から指導を始めて、新聞等の印刷物を読む習慣を身につけさせようとした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1993 年 6 月～現在に至る	国際ビジネスコミュニケーション学会	査読委員（2016 年 10 月～現在に至る）
2.	2010 年 2 月～現在に至る	日本比較文化学会	理事、事務局長（2018 年 5 月～現在に至る 2024 年 5 月）
3.	1996 年 10 月～現在に至る	映像メディア英語教育学会	九州支部運営委員（2012 年 1 月～2024 年 3 月）

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					

1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2025 年 2 月	Kazuo Ishiguro Nocturnes: Five Stories of Music and Nightfall の Come Rain or Come Shine の二人称に ついての考 察	単	日本比較文化学 会九州支部大会 (於 : SAWARAPIA (ももち文化セ ンター)	小説の登場人物 3 名の会話における呼 び掛け語の統計を取り、それぞれの会話 の場面に特定の呼び掛け語のパターン があることを考察して、呼び掛け語が社 会的関係を規定するものの一つである ことを示した。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

任 期	団体・委員会等の名称	役 職 名 等

	期 間 等	(内 容)	
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～現在に至る	人事委員会	委員長（2024 年 4 月+2025 年 3 月）
2.	2022 年 4 月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防 止・対策委員会	副委員長
3.	2022 年 4 月～現在に至る	倫理審査委員会	副委員長
4.	2024 年 4 月～現在に至る	FD 部門	副委員長

教授

八尋 春海

■ 学歴

1. 1996 年 九州大学大学院博士課程 満期退学

■ 学位

1. 1993 年 修士（文学）

■ 研究分野

1. 観光学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 観光資源
- 2.
- 3.

■ 研究課題

1. 地域振興のための新しい観光資源の開発
- 2.

■ 担当授業科目

1. 卒業研究（通年）（観光文化学科）必修
2. 専門演習Ⅰ（前期）（観光文化学科）必修
3. 専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科）必修
4. 初年次セミナーⅠ（前期）（観光文化学科）必修
5. 映画で学ぶ欧米文化（後期）（観光文化学科）選択
6. 映画で学ぶ世界遺産（後期）（観光文化学科）選択
7. 欧米観光文化地理Ⅰ（前期）（観光文化学科）選択
8. 海外旅行実務（前期）（観光文化学科）選択
9. 人文学入門（前期）（人文学部）必修
10. 欧米観光文化地理Ⅱ（後期）（観光文化学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【卒業研究】
	昨年度、論文執筆が遅い学生が数名いたため、今年度はそのような学生に集中指導を行った。

2.	授業科目名【専門演習Ⅰ】
	観光フィールドワークの手法に特化して指導をした。
3.	授業科目名【専門演習Ⅱ】
	ゼミでの活動が活発になるため、学生間での負担が公平になるように心がけた。
4.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】
	入学直後ということであり、これまでの自分の経験で学生が疑問に思うことを中心に指導した。
5.	授業科目名【映画で学ぶ欧米文化】
	就職活動でも役に立つように、時事問題について詳細に解説をした。
6.	授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】
	世界遺産検定の取得に向けてポイントを分かりやすく教授した。
7.	授業科目名【欧米観光文化地理Ⅰ】
	総合旅行業務取扱管理者試験や世界遺産検定試験に役立つように心がけた。
8.	授業科目名【海外旅行実務】
	時差の問題など難解なものについては、じっくり時間をかけて説明をするようにした。
9.	授業科目名【人文学入門】
	人文学の奥行の広さが分かるように、具体例を挙げて説明した。
10.	授業科目名【欧米観光文化地理Ⅱ】
	総合旅行業務取扱管理者試験や世界遺産検定試験に役立つように心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996 年	日本比較文化学会	理事（2006 年～現在）
2.	1996 年	日本比較文化学会九州支部	支部長（2010 年～現在）
3.	2005 年	余暇ツーリズム学会	支部事務局長（2014 年～現在）

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					

1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024.11	日本における海外からの留学生の現状と課題	単独	2024 年度台湾日本語教育研究国際シンポジウム（於 淡江大学）	海外から日本に留学している留学生の生活と就職活動について、各種調査資料を分析しながら、現状と課題を明らかにした。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等

1.	2020 年 4 月～現在		人文学部長
2.	2020 年 4 月～現在	学生募集委員	
3.	2010 年 4 月～現在	教育経費予算委員	

教授

劉 明

■ 学歴

1. 大学院

■ 学位

1. 博士（経営学）〔立命館大学 2011 年〕 修士（観光学）〔桜美林大学 1996 年〕

■ 研究分野

1. 観光学
2. 経営学
3. ホスピタリティ学

■ 研究キーワード

1. インバウンド観光
2. 観光マーケティング
3. 日中ホスピタリティの相違について

■ 研究課題

1. 九州ディステーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について
2. インバウンド観光対応型の人材育成について

■ 担当授業科目

1. 観光学入門
2. インバウンド観光論
3. 観光マーケティング論
4. アジア観光文化地理Ⅰ
5. 初年次セミナーⅠ
6. 専門演習Ⅰ
7. ホスピタリティ論
8. 観光社会学
9. アジア観光文化地理Ⅱ
10. 旅行商品企画論
11. 経営学入門
12. 専門演習Ⅱ
13. 卒業研究

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【観光学入門】 「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。また、プリント・P C・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。
2.	授業科目名【インバウンド観光論】 「インバウンド観光論」では、日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等について論じ、観光マーケティングの視点から、日本や九州におけるインバウンド観光の振興にとっては、重要なターゲットとなるアジア、欧米特に中国、韓国、アメリカ、イギリスなどの国からの訪日観光客の誘致を事例に講義する。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。
3.	授業科目名【観光マーケティング論】 「観光マーケティング論」では、観光サービスに関するマーケティングを取り上げる。観光産業に特有の観光マーケティング、観光まちづくりを担う組織などが主体となるデスティネーションマーケティングをそれぞれ事例を基に紹介していく。観光を学ぶ学生たちに観光産業及び観光地域でのマーケティング事例を分かりやすく紹介し、それらの事例を通して、観光マーケティングの魅力とその理論のエッセンスを理解してもらえるように工夫した。
4.	授業科目名【アジア観光文化地理Ⅰ】 「アジア観光文化地理Ⅰ」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。
5.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】 初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートを取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等の ITC 活用法など、大学で主体的に学ぶ技法を習得することができるように工夫した。
6.	授業科目名【専門演習Ⅰ】 「専門演習Ⅰ」では、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしても

	らったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動に参加してもらった。
7.	授業科目名【ホスピタリティ論】 ホスピタリティは今や企業が生き残るために必須の要素になっているのである。お客さま、従業員、地域社会、そしてそのほかの利害関係者に、夢・感動・幸福を提供することこそが企業の存在にとって必要不可欠なのである。つまり、ホスピタリティは企業が存在するための「規範」あるいは「価値」として位置づけられるようになったのだ。この講義では、ホスピタリティとは何かを理論的に学び、企業の事例などを用いてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。
8.	授業科目名【観光社会学】 本講義では、観光社会学が観光を捉える視点や方法を説明し、研究対象の新しい観光と多様化する観光形態を現代社会の動向に絡めて紹介する。また、観光社会学の事例研究の成果を解説する。また、質問をしていただき、学生達の関心あることについて話をする。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。さらに、授業の感想や提案などを学生に書いてもらい、学生との交流を図る。
9.	授業科目名【アジア観光文化地理Ⅱ】 「アジア観光文化地理Ⅱ」の授業では、映像を通して、学生たちにタイ、シンガポール、ベトナム等の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらおう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらおう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。
10.	授業科目名【旅行商品企画論】 「旅行商品企画論」では、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成プロセスを学ぶ。 また、演習として学生が自分の馴染みの地域を選んで、そこでのフィールドワーク（FW）活動を通して、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をする。さらに、その成果について、発表を行う。
11.	授業科目名【経営学入門】 本講義では、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。企業の事例などを挙げてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。
12.	授業科目名【専門演習Ⅱ】 「専門演習Ⅱ」では、「専門演習Ⅰ」に続き、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動に参加してもらった。
13.	授業科目名【卒論研究】

	「卒業研究」では、時間をかけて、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。また、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。さらに、地域貢献活動について、後輩たちへの指導を求めた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1994 年 9 月～現在に至る	日本ホスピタリティ・マネジメント学会	
2.	2001 年 1 月～現在に至る	日本観光研究学会	
3.	2007 年 12 月～現在に至る	余暇ツーリズム学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額

			○代表者（ ）内は学外 者	(単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 7 月 14 日～ 現在に至る	北九州市のインバウンド観光振 興活動	企画者代表
2.	2023 年 7 月 14 日～ 現在に至る	北九州魅力探究プログラム 「アオハルし放題」	企画者代表
3.	2024 年 7 月 1 日～ 現在に至る	福岡県みやこ町・西南女学院大 学・第一ピアサービス株式会 社の産学官地域連携活動	企画者代表

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	観光文化学科長	
2.	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	キャンパス・ハラスメ ント相談員	
3.			

助 産 別 科

講師

古賀 玉緒

■ 学歴

1. 2009 年 久留米大学修士課程 修了

■ 学位

1. 2009 年 修士（医科学）

■ 研究分野

1. 母性看護学
2. 助産学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 周産期
2. 更年期
3. 教育

■ 研究課題

1. 周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。
2. 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。
3. 看護・助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

■ 担当授業科目

1. 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）	（前期）必須
2. 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）	（前期）必須
3. 助産診断・ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）	（前期）必須
4. 初産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）	（通年）必須
5. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）	（通年）必須
6. ウイメンズヘルスケア	（前期）必須
7. 助産学基礎実習	（前期）必須
8. 助産学実習Ⅰ（正常）	（通年）必須
9. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）	（後期）必須
10. 母性看護方法論	（後期）必須
11. 母性看護学演習	（前期）必須
12. 母性看護学実習	（通年）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【助産診断ケア学Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 助産別科の学生を対象に産褥期・新生児期に関する講義・演習を行った。 実践経験が少ない学生が、対象をイメージし、観察ポイントを見出し、適切な看護ケアについて思考を深められるよう、具体的な支援についてグループワークやディスカッションを通して考える機会を設けた。また、事前に教員が作成した助産技術の動画を視聴することで、演習に向けたイメージ作りや準備に活用できるよう工夫した。その他、助産学実習を見据え、模擬患者へのロールプレいの演習を取り入れるなど、学生の実践力向上を目指した。 助産診断ケア学Ⅴでは主担当と検討し、ハイリスクに関する内容は臨床において対応する機会が多い事例について解説し実習や国家試験対策につながることを意識した。
2.	授業科目名【助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ】 助産診断ケア学Ⅵでは、健康教育の概要についての解説し、学生が産褥期・思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に実践できるように、講義内容を組み立て実施した。演習では他教員とともに少人数を受け持ち、個別的に対応した。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導するよう心がけた。学内での学習は臨地実習における対象者へ向けた直接指導や高校生を対象とした思春期教育へつながることもあり、実技演習も意識して取り入れた。 助産診断ケア学Ⅶでは、担当する学生の進捗状況を確認しながら、個々の理解につながる指導を意識した。
3.	授業科目名【ウイメンズヘルスケア】 講義は主に解説が中心であるが、教科書のほか国の施策や世界の動向、関係する NGO 団体の活動を紹介することで、ウイメンズヘルスに関する助産師としての自身の支援の方向性や知見を広げられるよう意識した。
4.	授業科目名【助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ）】 臨地実習では適宜、施設担当者との連絡をとり、実習方法や感染対策に関する施設の受け入れ条件を厳守し臨んだ。また、学生が目標とする分娩件数を達成できるよう、実習期間の延長や実習方法を指導者と相談するなどの対応を行った。
5.	授業科目名【母性看護方法論・母性看護学演習】 母性看護方法論では、看護学科 2 年生を対象に、学生が周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的变化の理解およびウエルネス看護診断・看護過程を理解することを目的に、映像を活用し知識の定着や思考力の向上に努めた。 看護過程演習では、看護学科 3 年生を対象に臨床実習を見据え、得られた知識を実践で活用できるよう個人ワークや担当学生との質疑応答の時間を確保し、個々の進捗状況をふまえて効果的な指導になるよう努めた。また、適宜学生の学習成果を確認し指導のポイントをふまえて授業に臨んだ。 母性看護技術演習では母性看護学実習を見据え、臨地実習で活用する機会が高い基本的な技術を中心に演習し、技術テストを行った。なお、実施に際しては、本学の感染予防ガイドラインに沿って実施した。

6.	授業科目名【母性看護学実習】
	臨地実習では効果的な実習を提供するため、事前に実習担当者と実習方法について共有した。 科目担当者として、適宜、直接指導に当たる教員と調整し、各学生の状況を把握し協力しながら指導に携わった。また、臨地にて直接指導に当たる際には、上記同様、個々の学生のレディネスを考慮して個別的指導を心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2007 年 4 月～現在に至る	日本母性衛生学会	会員
2.	2008 年 4 月～現在に至る	日本看護研究学会	会員
3.	2011 年 9 月～現在に至る	日本助産学会	会員
4.	2014 年 5 月～現在に至る	日本看護科学学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外	交付決定額 （単位：円）

			者	
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 6 月～12 月	全国助産師教育協議会	令和 6 年度助産師国家試験プール問題作成・登録活動協力員
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2013 年～現在に至る	助産別科学生アドバイザー	
2.	2016 年～現在に至る	助産別科実習コーディネーター	
3.	2016 年～現在に至る	入学試験会議	構成員
4.	2016 年～現在に至る	学生募集委員会	構成員
5.	2017 年～現在に至る	保健福祉学研究所運営委員会	構成員
6.	2022 年～現在に至る	看護学科種まきプロジェクト分科会（実習）	分科会メンバー
7.	2024 年 7 月	オープンキャンパス担当	

助教
新郷 朋香

■ 学歴

1. 2009 年 天使大学大学院 助産研究科 助産専攻修了

■ 学位

1. 助産修士（専門職）

■ 研究分野

1. 助産ケア
2. 産後ケア
3. 母性看護学

■ 研究キーワード

1. 助産ケア
2. 産後ケア
3. 継続支援

■ 研究課題

1. 助産師の妊娠期から産褥期における継続的ケアについて考察する
2. コロナ禍での学内実習における学生の学びと実習の成果を考察する

■ 担当授業科目

1. 看護学科 母性看護学演習
2. 看護学科 母性看護学実習
3. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）
4. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）
5. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）
6. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児期・乳幼児期）
7. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）
8. 助産別科 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）
9. 助産別科 母子の心理・社会学
10. 助産別科 助産学基礎実習
11. 助産別科 助産学実習Ⅰ
12. 助産別科 助産学実習Ⅱ
13. 福祉学科 看護学

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護学科 母性看護学演習】 看護過程の展開では、実際に実習で活用できるよう、事例を設けた。小グループでワークを行い数十名の学生を受け持ち、個別での時間を設け理解を深めることが出来るよう関わった。 また、技術演習では、繰り返し確認できるよう動画視聴による工夫を行った。技術練習・技術テストの時間を設け、細やかな指導が行えるよう時間と場所の設定をした。
2.	授業科目名【看護学科 母性看護学実習】 臨地実習では、施設ごとに感染による制限が異なっていたが、指導者と調整を行いできるだけ多くの経験や見学ができるよう調整した。テーマカンファレンス・まとめカンファレンスを実施しディスカッションを通して母性看護への学びを深めることが出来るよう支援した。また、実習初日と最終日には面談を実施し各学生の自己課題や母性看護の学びについて振り返りを行った。
3.	授業科目名【助産別科 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）・Ⅱ（分娩期）・Ⅲ（産褥期）Ⅳ（新生児期乳幼児期）】 科目責任者と共に、助産学生の学習状況や達成状況などを考え演習の組み立て、実践を行った。学生の知識が実際の対象者へのケアに結びつけることが出来るよう支援を行った。 また、ロールプレイで対象者や助産師、第三者の視点に立つことが出来るよう計画し、自分のケアを振り返る機会を設けた。
4.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）・Ⅶ（助産過程演習）】 看護過程の展開では、実際に実習で活用できるよう、事例を設けた。小グループでワークを行い数名の学生を受け持ち、知識の共有を行ったり、個別での時間を設け理解を深めることが出来るよう関わった。
5.	授業科目名【助産別科 助産学実習】 臨地実習では、学生の体調管理や感染予防に努め、実習施設や母児、学生の安全を最優先に配慮した。学生の個性を考慮し、指導の方向性を他教員とも共有しながら支援した。また、臨床指導者との意見交換を行い学生の進捗状況や学びをフィードバックし、より深く理解できるよう支援した。
6.	授業科目名【福祉学科 看護学】 福祉学科 2 年生に対し、助産師の役割・活動の実際について講義を実施した。助産師を身近な存在と捉えることが出来るよう、また生命の尊さについてベビー模型を使用しながら視覚・体験から感じる事の出来るよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2009 年 4 月～現在に至る	日本看護協会	
2.	2020 年 4 月～現在に至る	日本助産学会	
3.	2020 年 4 月～現在に至る	全国助産師教育協議会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学	概 要

				会等の名称	
(著書)					
1.	なし				
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	なし				
2.					
3.					
(翻訳)					
1.	なし				
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	なし				
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			

2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020 年～現在に至る	助産学生アドバイザー（4 名）	
2.	2020 年～現在に至る	国家試験対策委員	

教授
杉浦 絹子

■ 学歴

1. 長野県看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了

■ 学位

1. 博士（看護学）

■ 研究分野

1. 母性看護学
2. 助産学
3. 生涯発達看護学

■ 研究キーワード

1. 知的障がい
2. 意思決定
3. 支援
4. 妊産婦
5. 親
6. 育児

■ 研究課題

1. 知的障がいのある女性への周産期保健医療現場における意思決定支援
2. 知的障がいのある妊産婦・親への支援

■ 担当授業科目

1. 母性看護学概論
2. 母性看護学演習
3. ウィメンズヘルス
4. 基礎助産学Ⅰ
5. 助産診断・技術学演習Ⅶ
6. 助産管理学
7. 助産学研究演習
8. 子育て支援論
9. 人間関係とコミュニケーション
10. キリスト教と生命倫理
11. 助産基礎実習
12. 助産実習Ⅰ

13. 助産実習Ⅱ
14. 助産管理実習

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【基礎助産学Ⅰ】 本科目では、助産の基盤となる知識を教授するとともに、助産に関連する最新トピックスを提示し、グループ討議および全体討議の時間を多く設けた。自分とは異なる意見や考え方を知るとともに自分の考えについて振り返る機会となっていた。口頭およびリアクションペーパーにて質問・意見・感想をフィードバックしてもらい、質問については次の授業時に回答した。
2.	授業科目名【助産学研究演習】 Evidence-based practice の重要性と研究と理論との関係性、助産学研究の目的と意義を教授したうえで、臨床の助産師の倫理審査における仮想事例を題材として、助産実践における課題を臨床研究に繋げる過程および研究倫理について考えるグループ討議および全体討議の時間を設けた。その後、各学生の関心に基づく研究テーマについて研究計画書および研究計画発表会用のスライドを作成し発表してもらった。
3.	授業科目名【母性看護学概論】 本科目は看護師国家試験受験のための必修科目で、2年生前期での開講である。母性看護に関連する最新の統計的データや最新のトピックスに関する動画等視聴覚教材を多く用いた。また、実際の患者の語りや体験談を示すことで、興味・関心を促すとともに、看護の場面を具体的にイメージできるよう工夫した。オンラインホワイトボードを用いて各学生の意見や感想の共有を行った。
4.	授業科目名【ウィメンズヘルス】 本科目は看護学科3、4年生対象の選択科目である。women-centered care、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダーの概念を中心に据え、女性の健康問題に関する最新のトピックスについて視聴覚教材を活用しつつ解説した。そのうえで、どのような支援、対応・対策が求められるかについての各自の意見をオンラインホワイトボードを用いて共有する時間を設けた。
5.	授業科目名【子育て支援論】 PBLとして、指定した公共性のあるWeb上の情報から乳幼児を育児中の親が抱く子育てに関する疑問や悩みとそれらに対する子育て支援の専門家の回答を調べ、発表・討議する時間を設けた。また、全国の子育てしやすい自治体ランキングで上位にある自治体の地域特性をふまえた子育て支援策について調べ、発表・討議する時間を設けた。
6.	授業科目名【助産管理学実習】 PBLとして、実習要項および実習オリエンテーションにおいて事前に提示した助産管理に関する学習項目について各実習施設の実際を実習中に主体的に調べ、発表資料およびスライドを作成して発表し、全体で共有する機会を設けた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2001年3月～現在	日本看護科学学会	

2.	2005 年 4 月～現在	日本母性衛生学会	
3.	2007 年 4 月～現在	日本助産学会	専任査読委員
4.	2013 年 4 月～現在	日本看護倫理学会	
5.	2011 年 9 月～現在	川崎医療福祉学会	
6.	2023 年 10 月～現在	International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities, International Consortium of Research on Parents and Parenting with Disabilities	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2025 年 2 月	助産師基礎 教育テキスト 助産概 論・母子保健 2025 年版	共著	日本看護協会出 版会	杉浦絹子（分担）B 5 版全 p285 中、第 5 章 2 諸外国のお産の歴史 pp.153-158、 3 お産と文化 pp.159-177
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025 年 1 月	知的障害の ある親の母 子健康手帳 の利用実態 と改善点の 検討	共著	母性衛生, 64 (4), 378-386	藤澤和子, <u>杉浦絹子</u>
2.	2025 年 2 月	Support Strategies for Mothers with Intellectual Disabilities by Public	共著	Kawasaki Journal of Medical Welfare, 30(2)	<u>Sugiura K</u> and Fujisawa K

		Health Nurses			
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024 年 10 月	知的障害者にわかりやすい母子健康手帳(パイロット版)の制作	共著	第 64 回日本母性衛生学会学術集会, 宮崎	藤澤和子, <u>杉浦絹子</u>
2.	2024 年 10 月	知的障害に配慮した「赤ちゃんの泣きと眠りパンフレット(パイロット版)の当事者による評価	共著	第 64 回日本母性衛生学会学術集会, 宮崎	<u>杉浦絹子</u> , 藤澤和子
3.	2024 年 10 月	知的障害に配慮した「母乳育児パンフレット(パイロット版)の当事者による評価	共著	第 64 回日本母性衛生学会学術集会, 宮崎	<u>杉浦絹子</u> , 藤澤和子
4.	2024 年 12 月	知的障がい(知的発達症)のある人々の結婚・妊娠・出産・子育て支援に関する現状と課題	共著	第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本	<u>杉浦絹子</u> , 藤澤和子, 田中恵美子

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	知的障害のある親への乳幼児育児の支援方法の検討 2021年度～2024年度	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C	○ <u>杉浦絹子</u> ，(藤澤和子)	416 万
2.	知的障害者の妊娠出産育児支援のためのわかりやすい母子健康手帳と活用ツールの開発 2021年度～2025年度	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C	(○藤澤和子)， <u>杉浦絹子</u>	403 万
3.	知的障害のある妊産婦の意思決定を支える合理的配慮の検討 2024年度～2027年度	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C	○ <u>杉浦絹子</u> ，(藤澤和子)	455 万

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2013年～現在	(公社) 全国助産師教育協議会	資格・専門能力委員会委員、委員長
2.	2024年6月～現在	(公社) 福岡県看護協会	地区理事
3.	2024年7月	東京都中央区保健所	令和6年度要支援家庭への支援 検討会講師
4.	2025年2月	島根大学医学部附属病院子どもの こころ診療部	令和6年度子どものこころ診療 部研修会「かかりつけ医等発達 障害対応力向上研修」講師
5.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～現在	入学試験会議	委員
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	学生募集委員会	委員
3.			

■ 学歴

1. 2006 年 天使大学大学院 助産研究科 助産専攻

■ 学位

1. 2006 年 助産修士（専門職）

■ 研究分野

1. 助産学
2. 母性看護学

■ 研究キーワード

1. 助産ケア、助産師外来、分娩介助
2. バースレビュー、出産想起、分娩・出産の振り返り
3. 助産学生、看護学生、乳がん検診

■ 研究課題

1. 助産学生の分娩介助の習得過程に関して考察する
2. 分娩体験におけるバースレビューの意義や役割について考察する
3. 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学びについて考察する

■ 担当授業科目

1.	母子の心理・社会学	(前期) 必須	(助産別科)
2.	助産診断・ケア学Ⅰ 妊娠期	(前期) 必須	(助産別科)
3.	助産診断・ケア学Ⅱ 分娩期	(前期) 必須	(助産別科)
4.	助産診断・ケア学Ⅴ 周産期のハイリスク	(前期) 必須	(助産別科)
5.	助産診断・ケア学Ⅵ 健康教育演習	(通年) 必須	(助産別科)
6.	助産診断・ケア学Ⅶ 助産過程演習	(通年) 必須	(助産別科)
7.	ウィメンズヘルスケア	(前期) 必須	(助産別科)
8.	助産管理学	(通年) 必須	(助産別科)
9.	助産学基礎実習	(前期) 必須	(助産別科)
10.	助産学実習Ⅰ (正常)	(通年) 必須	(助産別科)
11.	助産学実習Ⅱ (正常逸脱)	(後期) 必須	(助産別科)
12.	母性看護方法論	(2年後期) 必須	(看護学科)
13.	母性看護学演習	(3年前期) 必須	(看護学科)
14.	母性看護学実習	(3年後期～4年前期) 必須	(看護学科)

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1. 授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ】

助産診断・ケア学では、基礎的知識及びフィジカルアセスメント、助産技術の習得ができるように、事前課題やワークシートなどを活用した。学生自身が意欲・関心を持ち、自ら主体的に学習できるように工夫した。双方向型の授業を意識し、グループワーク、ディスカッションや発表を取り入れるなど、学生同士学びの共有ができる授業を心掛けた。演習においては、最新のガイドラインなどを活用し、机上の学習で得た知識を統合させ、ケアの実践につなぐことができるように、担当教員とともに環境を整えた。また、実際に臨床の場において体験する場面やケアなどを積極的に取り入れて授業を展開した。

1. 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）

母性看護学で培ってきた知識をより深く掘り下げ定着させるために、ワークシートを用い、個人ワークとグループワークを併用しながら知識習得のための授業を目指した。特に、妊娠期における保健指導の必要性やその根拠について理解し、対象者にとって必要な指導を導き出せるように意識しながら授業を展開した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において、必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、演習内容に妊婦と助産師役、第3者の視点も含めロールプレイを行い、ケアに結び付けられるよう演習を組み立て取り組んだ。演習後は、観察したことをアセスメントするとともに、経験したことに対する振り返りの機会をもった。また模擬妊婦体験を通して、妊婦として日常生活を体験する機会もち、その経験を共有し、ケアへ結びつけることができるように工夫した。

2. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）

事前課題を課して母性看護学で得た知識を復習するとともに、助産の専門的知識の習得に結びつけることができるよう準備をした。分娩期の生理・分娩経過に伴う産婦や胎児の変化、支援方法について学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるように動画や模型を使用し、授業を実施した。また、知識の定着を確認できるように小テストを行い、結果をフィードバックし復習へつなげることができるように工夫した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準に沿って、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。実習において必須である分娩介助やそれに伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、動画の活用、事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。また、学生が胎盤の模型を各自作成し、使用することで主体性を促した。分娩経過に沿って、経過診断と時期診断が行えるように、実際にバルトグラムの記載を行いながら、情報収集・アセスメント・ケアの方向性を常に修正し、分娩のケアの演習を行った。記録の重要性にも触れ、助産録など責任をもって記載することを実施した。感染対策についても学生自身がより意識して行動できるように工夫した。

3. 助産診断・ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）

周産期におけるハイリスクの対象の方のケアについて、実際の事例などを用いながら対象者のイメージを持てるように工夫した。この科目は助産学実習Ⅱにつながるため、実習で関わる事例の助産計画をレポートとして課すことで、実習に活用できるように工夫した。

4. 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）

健康教育演習の妊娠期を主に担当した。助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）と連動しながら、保健指導の

	指導案とパンフレット（リーフレット）の作成をおこない、発表会を実施し学生同士の共有を行った。担当教員とともに、保健指導案の作成方法や妊娠期に必要な保健指導の内容に関して、きめ細やかな指導を心掛けた。 <u>5. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）</u> 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期と事例を通して、各期における助産過程の演習を行った。担当教員が学生 3～4 人を担当して、それぞれの学生の進度に合わせて指導した。また発表会を通じて共有を行うとともに、学生自身それぞれの考え方を表現する機会をもつことで、実習への準備となるよう支援した。また講義の時期を各期の授業と合わせることで、連動して学びを深めることができるように工夫した。
2.	授業科目名【助産学基礎実習】 基礎助産学実習では、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行った。具体的には、対象者を捉えることからはじめ、母子の安全を考え、また科学的根拠に基づいたケアを学生が提供できるように支援した。学生個々の価値観等を考えながら支援するとともに、助産ケアに関して、フィジカルアセスメントをしたうえで、今後どのようなことが予測されるか、対象者に必要なケアは何か、学習で得た知識を活用できるようにフィードバックを行い工夫した。実習後には、面談を行い学生の学びの振り返りができるよう支援するとともに、学生全員で実習のまとめ発表会を行うことで、基礎実習での経験が次の段階へつながるように工夫した。
3.	授業科目名【助産学実習Ⅰ・Ⅱ】 実習目標に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるよう学生の支援を行った。特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者や家族を多角的に捉え、気づき、対象者に寄り添ったケアを提供できるように意識して支援した。 <u>1. 助産学実習Ⅰ（正常）</u> 正常経過と逸脱経過の判断を行いながら、倫理的視点を常に持ち、ケアを実施できるよう助言等の工夫をした。臨地実習では、臨床指導者や他の教員と連携をとり、意見交換しながら支援するとともに、学生がより対象者の個別性を考えたケアを実施できるように工夫して、フィードバックを行った。また、正常からの逸脱の事例を経験した学生には、1つ1つの場面やケアの振り返りを行う機会を持つとともに、グループ間での情報共有やディスカッションを通し、より客観的に学びを共有することができるよう支援した。 <u>2. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）</u> 逸脱の経過やハイリスク疾患の学習をしっかり行い、対象の理解へつなげるとともに、必要な保健指導を考え実施できるよう指導者と連携を図り支援した。また NICU での実習では、NICU での実習を通して、対象者及び家族の支援レポートを考えることができるように支援した。 全ての実習後には、面談を行い学生の学びの振り返りができるよう支援するとともに、学生全員で実習のまとめ発表会を通し、臨地実習で学生が経験したことを共有する機会をもち、助産学生としての学びの総まとめとなるように支援した。
4.	授業科目名【母性看護方法論】 2024 年度は、産褥期・新生児期を担当した。母性看護は、対象が女性や子どもと家族であるため、学生が自分自身の身体と結びつけることができるよう、日常生活での関連性を示すとともに、産褥体操など学生が机上でも体験できる方法も取り入れた。学生が主体的に学習できるように、講義の中でワークシートを用いた学習や小テストなどを取り入れ、学生自身が知識の習得状況を確認できる機

	会を設けた。母性看護学をより具体的にイメージでき、また興味を持てるよう写真や動画などの映像を取り入れるなどの工夫をした。また、学生が教科書の知識と結び付けてイメージしやすいよう臨床の現場で起こりうることや自身の経験、実習で先輩たちが経験したことなど具体的な事例等を用いて、看護者としての考え方や対象者との関わり方について考える機会をもてるよう工夫した。また、時事的な話題も加えることで、学生が日常生活中で母性看護を身近に意識できるよう工夫した。
5.	授業科目名【母性看護学演習】 母性看護学演習は、看護過程演習と看護技術演習からなる。看護過程演習においては、看護過程に関しては、ワーク型の演習を取り入れ、小グループ単位で担当教員が支援し、個別的で細やかな指導を実施した。また、看護技術に関しては、実習の状況に近い形で技術演習を行った。また動画などをClassroomへ掲載することで、学生が繰り返し技術を学べるように教材を工夫した。
6.	授業科目名【母性看護学実習】 臨地実習では、実習指導者と相談しながら、学生が学びを深めることができるよう感染対策を行いながら、見学やケアの実施の機会が得られるように工夫した。学生自身がケアを受ける立場の状態を体験することで、対象者の状況や気持ちを考える機会を設けた。ケアの振り返りやカンファレンスを多く取り入れ、学生自身の気づき、学生同士の気づきを大切にし、ケアをより深く考えることができるように工夫した。また、実習初日に学内で看護技術について振り返り、練習をすることで落ち着いて実習に臨めるように工夫した。臨地実習を行う中で、主体的に学生が興味をもったことに関してテーマを決め、テーマカンファレンスを実施した。実習の総括として、まとめカンファレンスを行うとともに、実習最終日に面談を行い、学生が学びの振り返りをできるよう支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2003 年 4 月～現在に至る	日本看護協会	佐賀県看護協会助産師職能委員 （2013 年 6 月～2015 年 5 月） 福岡県看護協会代議員 （2024 年：1 期 1 年）
2.	2017 年 3 月～現在に至る	日本助産学会	
3.	2018 年 4 月～現在に至る	日本母性衛生学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					

2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024年11月6日	中1・高1はないちプロジェクト Mission 夢トーク	福岡女学院中学校・高等学校 ボランティアとして参加

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2019年～現在に至る	教務委員会	
2.	2019年～現在に至る	助産別科 教務全般担当	

3.	2019 年～現在に至る	助産別科	助産師国家試験対策担当	
4.	2019 年～現在に至る	助産別科	受胎調節実施指導員資格認定 に関することを担当	
5.	2016 年～現在に至る	助産別科	学生アドバイザー	
6.	2024 年 6 月・7 月	助産別科	オープンキャンパス担当	

助教

山田 恵

■ 学歴

1. 2022 年 北九州市立大学大学院 修士課程 卒業

■ 学位

1. 2022 年 修士（人間関係学）

■ 研究分野

1. 助産学
2. 母性看護学
3. 思春期学

■ 研究キーワード

1. アタッチメント
2. 寄り添う支援
3. 女性の健康

■ 研究課題

1. アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産褥婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。
2. 思春期世代に対して、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

■ 担当授業科目

1. 人間関係とコミュニケーション（前期） 選択
2. 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）（前期） 必修
3. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）（前期） 必修
4. 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）（前期） 必修
5. 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）（前期） 必修
6. 助産診断・ケアⅥ（健康教育演習）（通年） 必修
7. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（前期） 必修
8. 母子の心理・社会学（前期） 必修
9. ウイメンズヘルスケア（前期） 必修
10. 助産学基礎実習（前期） 必修
11. 助産学実習Ⅰ（正常）（通年） 必修
12. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）（後期） 必修
13. 母性看護学演習（前期） 必修

14. 母性看護学実習（後期）必修

授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【人間関係とコミュニケーション】 助産ケアを行う上で土台となる対人関係構築に関する技法について、共同学習の技法を取り入れ展開した。
2.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）、Ⅱ（分娩期）、Ⅲ（産褥期）、Ⅳ（新生児期）、Ⅶ（助産過程）】 Ⅰ～Ⅳの科目間での学習過程をふまえ、助産過程の展開では知識を活用したアセスメント・診断の技法などを解説した。グループ活動であったが、学習状況により適宜個別対応をした。 演習科目においては、映像教材の活用とデモンストレーションを組み合わせ、細かい手技まで確認できるようにした。事例作成において、現在の臨床事例を土台に、対象事例の背景や経過を緻密に提示し、対象の全体をとらえていけるよう工夫した。
3.	授業科目名【助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）】 思春期健康教育実施については準備期間が短期間であることを考慮し、事前アンケートを作成し、学生が企画運営に活かせるよう情報提供した。その後は、学生が主体となり運営できるよう統括チームのサポート役となり、チームで協働して1つのものを完成させる体験となるよう調整した。
4.	授業科目名【母子の心理社会学】 社会学的視点での知識を助産ケアにどのように活かしていくのか、最新の動向や課題について具体的に事例を用いて解説した。
5.	授業科目名【ウイメンズヘルスケア】 学習範囲が広範囲であるため、関連授業とつなげる形で授業資料を作成した。
6.	授業科目名【助産学基礎実習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ】 今年度より臨地にて10例到達が必須であったため、可能な限り分娩介助をさせていただけるよう、管理者や指導者と調整を行った。県外実習において、トラブル発生時は速やかに対応し、実習継続できるように調整した。
7.	授業科目名【母性看護学演習】 提出物内に個々に応じたコメントを記し、授業内外で質問を受け付け対応していく時間を設けた。
8.	授業科目名【母性看護学実習】 2つの留年グループや補習実習を担当する中で、学生の健康状態や心理状態をふまえ個々の目標設定を行い指導した。臨床指導者と密に連携し、可能な限り見学や実践の機会がもてるよう調整した。

学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1991年4月～現在	日本助産学会	会員
2.	1991年4月～現在	日本母性衛生学会	会員
3.	2002年11月～現在	日本不妊カウンセリング学会	会員
4.	2005年1月～現在	日本思春期学会	会員

5.	2023 年 8 月～現在	日本学校保健学会	会員
6.	2014年4月～現在	全国助産師教育協議会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2025.3	健康管理ツ ールとして の「健康管理 カルテ」を用 いた大学生 への健康支 援 ー利用状況 と運用に関 する考察ー	共	西南女学院大学 紀要 Vol.29	①大学における学生への健康支援の一助となることを目的に、学生自身が健康を意識し管理するツールとして、本学独自の「健康管理カルテ」を作成し入学生に配布し、その利用調査を行った。その利用状況から、学生の健康記録の保管手段として、また、正しい情報を得る手段となっていた。今後は健康管理カルテの配布に留まらず、継続的に情報発信し、学生自身による健康管理を促す取り組みが課題となった。 ②共著者：樋口由貴子，水貝洵子，山田恵，高崎智子，目野郁子 ③ p 47～56
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究

	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 7 月 3 日	チャイルドライン北九州 ボランティアスタッフ養成講座	講師
2.	2024 年 12 月 9 日	キャリア教育研究会「夢授業」	講師（職業人）
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	助産別科アドバイザー（4 名）	
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	オープンキャンパス企画・運営	補佐
3.	2024 年 11 月～2025 年 2 月	助産師国家試験対策	補佐
4.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	実習コーディネーター	補佐
5.	2021 年～現在	健康管理カルテ作成・配布	

短期大学部

保 育 科

教授

阿南 寿美子

■ 学歴

1. 2009 年 大分大学大学院教育学研究科学校教育専攻学校教育 修了

■ 学位

1. 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 保育学
2. 教育学
3. 保育者養成

■ 研究キーワード

1. 実習記録
2. 保育カンファレンス
3. 子どもの社会性の発達

■ 研究課題

1. 多様な実習記録の現状と求められる様式についての検討を行っている。
2. 保育の質向上に向けた省察の在り方の一つである保育カンファレンスの在り方について検討している。

■ 担当授業科目

1. 保育の心理学（前期）必須
2. 子どもの理解と援助（前期）選択
3. 子どもの発達理解とあそび（前期）選択
4. 子どもと絵本（前期）選択
5. 子ども学基礎演習（通年）必須
6. 子ども学特別演習（通年）必須
7. 保育内容「言葉」の指導法（後期）選択
8. 保育内容「人間関係」の指導法（後期）選択
9. 保育・教職実践演習（幼稚園）（後期）選択
10. 教育実習指導（2023 年度入学生）（通年）選択
11. 教育実習指導（2024 年度入学生）（通年）選択
12. 教育実習Ⅰ（後期）選択
13. 教育実習Ⅱ（前期）選択
14. 教育実習Ⅲ（後期）選択

15. 子どもの心理（前期）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【保育の心理学】 子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。
2.	授業科目名【子どもの理解と援助】 保育の心理学や1年次に学んだ指導法の基礎を振り返りながら、子どもの発達の状況に合わせた環境構成の在り方や保育者としての関わり方についてグループワークを中心に考えられるように授業を展開した。また、スライドやレジュメを適宜利用し、学びが深化できるように配慮した。
3.	授業科目名【子どもの発達理解とあそび】 共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に関しては、現役の幼稚園園長により、集団遊びや身近な素材を使った遊び、ルールのある遊び、わらべうた遊びなど子どもの発達や遊びの展開方法を中心に授業を進めてもらい、それを受けて講義の中で再度、遊びの留意点や子どもへの配慮などについて学生と考察しながら、指導案を作成する中で、実践に向けての取り組みを行った。
4.	授業科目名【子どもと絵本】 認定絵本士養成課程必修で外部講師による講座も行われる科目である。講師が多数関わるため、授業初めに当該講義の目的を学生に伝え、それぞれの講義内容が統合されるように努めた。また、学内にあるえほんのへや及び地域にある喜久屋書店でのおはなし会を実施し、実践的な力が身につけられるように指導した。
5.	授業科目名【子ども学基礎演習】 保育に関する基礎的理解を深められるように、おもちゃ作りなどを行った。前期は特に学生生活に慣れること、他者と協同する力やコミュニケーション能力を高められることを目標に個別面談を実施した。後期は、ゼミ長・副ゼミ長を中心に学生が中心となって話し合いを行い、大学祭子どもの広場を出店した。学生自らが考え、作り上げられるように教員は主に学生の活動を見守りながら進められるように配慮した。
6.	授業科目名【子ども学特別演習】 保育に関する実践的スキルを高められるように、ゼミ活動を展開した。具体的には、保育科えほんのへや及び喜久屋書店（セントシティ7階）における“おはなし会”の実施、大学祭における模擬店などである。準備を含めて学生を中心に進めることで、協同性や責任を持った行動ができるように配慮した。また、地域の保育園が園外保育等で訪問する施設（到津の森公園）を訪れ、保育者としての視点が深まるような活動も行った。
7.	授業科目名【保育内容「言葉」の指導法】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基にして、乳幼児期の言葉の発達や保育者の援助についての理解が深められるように配慮した。また、言葉の発達を促す児童文化財についての解説を行ったうえで、絵本・紙芝居・ペープサートなどの実践を行いながら、

	実際の保育において実践できるような取り組みを行った。
8.	授業科目名【保育内容「人間関係」の指導法】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基にして、実習で体験した子ども、子ども同士、保育者と子どもの関係性の理解が深められるように配慮した。特に学生の実習体験事例の他、現場の保育実践事例についてグループワークを通して読み解きながら、子どもの受け止め方や保育者としての考え方、関わり方について考えられるように授業展開を行った。
9.	授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、各自で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生自に保育者としての意識が高まるように配慮した。また、ICTを用いたドキュメンテーションオン作成を通して、保育を保護者に伝えるためのスキルを高められるように指導した。
10.	授業科目名【教育実習指導】 事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。 報告会は前期・後期にそれぞれ1、2年生合同で行い、2年生よるスライドを用いた発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2012年～現在に至る	日本保育学会	会員
2.	2018年～現在に至る	日本保育者養成教育学会	会員
3.	2018年～現在に至る	日本乳幼児教育学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
（学術論文）					
1.					
2.					
（翻訳）					

1.					
2.					
(学会発表)					
1.	2024.5	保育の質を 高めていく カンファレ ンスに関す る研究	共	第 77 回日本保 育学会（オンラ イン）	①保育の質を高めるための手立ての一 つとして行っている写真記録を用いた 保育カンファレンスについてのアンケ ートを実施し、保育者が感じている負担 感を明らかにした。 ②共同発表者：阿南寿美子・島田知和 ③第 77 回日本保育学会抄録
2.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.	保育実習における現場指導 担当者の実習日誌指導に関 する質問紙調査	保育士養成協議会九 州ブロック協議会	○末寄雅美 阿南寿美子，（上原真 幸，大谷朝，金子幸，島 田知和，藤本朋美，二子 石諒太，古林ゆり，脇信 明） ※2023 年度～2024 年 度にかけての継続研究	300,000
2.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.	2012 年 4 月～現在に至る	九州保育者団体合同研究集会	分科会運営委員

2.	2016 年 4 月～現在に至る	北九州市児童福祉事業第三者評価事業	委員
3.	2018 年 1 月～現在に至る	NPO 法人あゆみの森共同保育園	第三者委員
4.	2021 年 4 月～現在に至る	社会福祉法人喜久茂会（ふたば保育園）	評議員
5.	2021 年 6 月～現在に至る	北九州市社会福祉研修所キャリアアップ研修会	講師
6.	2022 年 4 月～現在に至る	北九州市児童福祉事業第三者評価事業評価基準見直しプロジェクト	委員
7.	2024.8	福岡県私立幼稚園振興協会主催 夏季教師研修会	助言者
8.	2024.7	北九州市私立幼稚園連盟教師研修大会	助言者
9.	2024.7	第 56 回全国保育団体合同研究集会	分科会世話人
10.	2024.10	北九州市指定管理者検討会	構成員

■ 学内における活動等（役職，委員，学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020.4～現在に至る	教務委員会	副委員長
2.	2016.4～現在に至る	西南女学院大学短期大学部附属 シオン山幼稚園運営委員会	運営委員
3.	2018.4～現在に至る	認定絵本土資格養成講座	責任者
4.	2024.12～現在に至る	かなめキッズひろば運営（北九 州市子育て支援事業）	コーディネーター
5.	2024.4～2025.3	西南女学院大学教職員研修会	委員

講師

氏 名 池田 佐輪子

■ 学歴

1. 2014 年 北九州市立大学大学院社会システム研究科地域コミュニティ専攻（修士課程）修了

■ 学位

1. 2014 年 修士（人間関係学）

■ 研究分野

1. 人間関係学（臨床教育学）
2. 保育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 代替的愛着、自我・社会性の発達、行動制御システム、内的作業モデル
2. 代替的愛着、自我・社会性の発達、養育者支援、就学支援
- 3.

■ 研究課題

1. 臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みを感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りを感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりについて考察する。
2. 保育所での3歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であること、その愛着関係を基盤に就学までの養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。

■ 担当授業科目

1. 保育実習指導Ⅰ（通年） 選択
2. 保育実習指導Ⅱ（通年） 選択
3. 保育実習指導Ⅲ（通年） 選択
4. 乳児保育Ⅰ（後期） 選択
5. 乳児保育Ⅱ（前期） 選択
6. 保育者論（前期） 必修
7. 子ども文化（前期） 必修
8. 女性とマナー（前期） 選択
9. 保育・教職実践演習（幼稚園）（後期） 選択
10. 在宅保育（後期） 選択
11. 保育総合表現（後期） 選択（不開講）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 昨年度に引き続き実習先の理解と協力によって感染症に留意しながら、保育現場の一人ひとりの子どもの姿や、子どもの発達を促す保育者の援助について理解しながら実習ができるように指導を行った。様々な児童福祉施設の特徴を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己振り返りシートを活用した演習を行った。
2.	授業科目名【保育実習指導Ⅱ】 特に子どもの権利と発達について留意しながら実習に向き合えるように指導を行った。自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的取り組みができるようにしていった。特に日誌の記述については、観察力、洞察力が身につくように留意しながら、指導計画については保育活動のねらいを明確にしたうえで、保育実践ができるように指導を行った。
3.	授業科目名【保育実習指導Ⅲ】 自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的取り組みができるようにしていった。またお互いの課題の情報交換をすることで自分の課題を客観的に多面的に捉えて、解決に向けられるようにしていった。
4.	授業科目名【乳児保育Ⅰ】 まずは保育所実習で3歳未満児と関わることを念頭に、3歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、基本的な3歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりとその留意点について講義を行った。また講義授業ではあったが、保育所実習を見通し、保育人形を使って、着替え、おむつ交換、授乳、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、具体的に関わりの基礎が学べるようにした。
5.	授業科目名【乳児保育Ⅱ】 1年生での保育所実習も振り返りながら、乳児保育Ⅰでの学びの知識に加えて現場での事例を交え、より現場での保育のイメージがしやすいように説明をしていった。また学んだ知識を応用しながら実習及び現場での実践につながるように指導計画を立てて検討し、保育所実習Ⅱで活用できるようにした。演習用の人形や教材を使って演習も行い、具体的に実践につなげるようにしていった。
6.	授業科目名【保育者論】 テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な基本的な知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。入学時に学生が思い描いた個々の理想の保育者像を最大限生かしつつ、社会に求められ得る保育者像を構築できるよう考慮しながら課題を事前に提示し、個別に考えをまとめたうえで発表を行うことで、自分の意見を持ち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるようにした。
7.	授業科目名【子ども文化】

	具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、まず教員が資料を用いてデモンストレーションを行うことで、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が各自で実際に制作したものをおはなし会の形式で発表することで実践力を身につけると共に、他者の様子も見て学ぶこともねらいとした。さらにお互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。特に認定絵本土の取得を視野に、外部講師の協力等も求めて絵本に関する知識、技術が身につくようにした。
8.	授業科目名【女性とマナー】
	社会人として、また保育学生として必要なマナーについての知識を学び、身につけることができるように、コミュニケーションや人材コンサルティングの専門性を有する内部の講師の協力も得ながら、ロールプレイやディスカッションなどアクティブラーニングの手法を活用した授業を行った。
9.	授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】
	保育現場で必要な実践的な内容について確認したのち実際に保育指導計画を作成し、保育者役、子ども役、観察者役と役割分担をして対面授業で模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決に向けた関わりできるようにしていった。
10.	授業科目名【在宅保育】
	基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、講義で理論の説明をしたうえで、演習において身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、意見を交換しながら保育内容を検討していけるよう配慮した。また子どもの発達や家庭状況に応じた保護者の子育て支援についても事例を取り上げながら検討した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2018年5月～現在に至る	保育学会	
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	2025.4 発行	イラスト乳 児保育	共	東京教学社	① 保育士の資格取得のために必要な保育の理論、実践の内容について整理し、教科書として編まれたものである。内容は、理論編に加えて乳幼児の発達に応じた関わり方について演習ができるように分かりやすく解説し

					た演習編にワークブックも付け、保育実践につなげられるように構成されている。 ② 編集者名：舟山洋美、池田佐輪子 共著者名：三宅美千代、春高裕美、 他 7 名 ③ 担当部分：主として第 1 部の序章、 第 1 章、第 4 章、第 7 章、 第 2 部、別冊実践ワークシート
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.					
2.					
3.					

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2009 年 4 月～2015 年 3 月 2015 年 4 月～現在に至る	・ コラボキャンパスネットワ ーク親子ふれあいルーム (親子の遊び場の提供と子育て 支援についてのアドバイス)	実行委員 オブザーバー
2.	2013 年 3 月～現在に至る	・ 特別非営利活動法人 チャイルドライン北九州 (子どもの電話相談)	理事
3.	2023 年 4 月～現在に至る	・ 北九州市教育委員会 幼児教育センター (市内の幼稚園の保育に関する 訪問相談、就学支援講座)	幼児教育アドバイザー
4.	2024 年 5 月 20 日	・ ほっと子育てふれあいセンタ ー (北九州市ファミリーサポ ートセンター) (ステップアップ研修)	講師
5.	2024 年 6 月 11 日	・ 北九州市教育委員会 幼児教育センター (「保・幼・小連携・接続につい て」オンデマンド講座の動画撮 影)	幼児教育アドバイザー
6.	2025 年 8 月 5 日	・ 北九州市私立幼稚園連盟 (ブロック研修) (「保・幼・小の接続・連携につ いて」)	講師
7.	2024 年 10 月 25 日	・ 北九州市社会福祉研究所 (令和 5 年幼児教育研修 保育 士等キャリアアップ研修分野② 幼児教育)	講師
8.	2024 年 11 月 8 日	シオン山幼稚園保護者会 (「こどもの心を育てよう(自我 の芽生えと関わり方)」)	講師
9.	2025 年 1 月 31 日	・ 北九州市私立幼稚園連盟 (ブロック研修)	講師

		(「幼稚園幼児指導要録(記録の仕方と小学校へのつなぎ方)」)	
10.	2025 年 2 月 12 日	・学童保育協会 (放課後児童支援員 フォローアップ研修「絵本の魅力・絵本のちから」)	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

教授

笠 修彰

■ 学歴

1. 2007 年 西九州大学大学院健康福祉学研究科健康福祉学専攻修士課程修了

■ 学位

1. 修士（健康福祉学）

■ 研究分野

1. 社会福祉学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 精神保健福祉
2. 障害者福祉
3. ソーシャルワーク

■ 研究課題

1. 精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究
2. 子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究
3. 保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

■ 担当授業科目

1. 子ども家庭福祉（前期）必須
2. 社会的養護Ⅰ（前期）選択
3. 子ども家庭支援論（前期）選択
4. 社会福祉（後期）選択
5. 社会的養護Ⅱ（後期）選択
6. 保育実習指導Ⅰ（通年）選択
7. 保育実習指導Ⅲ（通年）選択
8. 子ども学基礎演習（通年）必須
9. 子ども学特別演習（通年）必須
10. 施設実習Ⅰ（学外実習）
11. 施設実習Ⅱ（学外実習）
12. 精神障害リハビリテーション論（前期）（福祉学科）選択
13. ソーシャルワークの理論と方法（専門）B（後期）（福祉学科）選択
14. 精神保健福祉の原理Ⅱ（後期）（福祉学科）選択

15. ソーシャルワーク演習（専門）B（通年）（福祉学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【子ども家庭福祉】 保育科 1 年前期に開講される科目である。入学当初は、保育者が福祉を学ぶ必要性を理解できずにいる学生も少なくないため、保育者が福祉を学ぶ意義等について繰り返し説明するなどして、受講の動機づけを行うよう心掛けた。また、学生の学修準備性を高めること、学習状況を確認することを目的に、予習プリントの配布と小テストを実施した。なお、今年度は 2 年制コースの学生を対象に開講した。
2.	授業科目名【社会的養護Ⅰ】 社会的養護に関する制度・施策、子どもの人権擁護や自立支援、社会的養護の現状と課題など、社会的養護の担い手である保育士に求められる知識の獲得を目指し授業を行った。また、社会的養護への意欲関心を高めるとともに、社会的養護の実践を具体的にイメージできるよう、適宜事例等を用いた授業展開を心掛けた。学生の学習状況を把握するため、適宜小テストを行い、授業理解度の低い学生については必要に応じて個別対応を行った。
3.	授業科目名【子ども家庭支援論】 授業では、毎回教員が作成したレジュメを配布し、重要なキーワード等を穴埋め方式にすることでポイントが押さえられるよう工夫した。また、講義内容を実践に引き付けて理解することができるように、適宜事例を紹介し、支援方法等を検討する機会を設けた。学生の理解度の把握と予復習を促すため、単元ごとに小テストを実施した。
4.	授業科目名【社会福祉】 社会福祉が私たちの生活に密接にかかわるものであることの理解を促すとともに、福祉の専門職である保育士に求められる知識の獲得に向けて、適宜、具体的な事例を用い、現場実践に引き付けて学びを得ることができるよう心掛けた。また授業開始時に小テストを実施し、予習、復習に対する意識の向上と学習状況の把握につとめた。
5.	授業科目名【社会的養護Ⅱ】 社会的養護の担い手である保育士に求められる基本的な知識の獲得を目指すとともに、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう、事例検討の機会を多く取り入れるなどの工夫をした。
6.	授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 保育士資格取得に必要な実習に向けて、様々な児童福祉施設の特色を理解すること、授業で学んだことを実際の実習現場で活用できること等を目指し、授業を行った。また、自己課題シートや自己課題振り返りシートを用いることで、実習を通して自分の課題に気づき、次の実習に向けた改善ができるよう工夫した。
7.	授業科目名【保育実習指導Ⅲ】 施設実習の実施に向けて、自らの課題を明確にし、課題解決に向けて具体的な取り組みができるよう自己課題シートや自己課題振り返りシートを活用した。また、学生自身が自らの課題を多面的に捉え解決に向けられるよう、学生同士のグループディスカッションの実施や実習事後面談でのフィー

	ドバック等を行った。
8.	授業科目名【子ども学基礎演習】
	子ども学基礎演習では、子どもや保育に対する理解を体験を通して深め、将来の保育者としての実践力を身に付けることを目的としている。保育者に必要とされる基本的な力を養うため、丁寧な個別対応を心掛けた。また、学生が主体的に考え行動できるよう意識的な働きかけを行った。
9.	授業科目名【子ども学特別演習】
	保育と福祉の関連や保育者に必要な福祉的視点を養うことをねらいとして、福祉に関する知識を深めるための講義、障害児向けのレクリエーション教材の作成、卒業生による職業理解講座等を行った。また、学生自身が責任感をもち、能動的に活動できるよう学生主体のゼミ運営を心掛けた。
10.	授業科目名【精神障害リハビリテーション論】
	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかる科目であるため、授業では、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めた。また、必要に応じて実践事例を紹介することで、授業内容の実践的理解が深まるよう努めた。学生の授業理解度を把握するため、適宜リアクションペーパーを活用し、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。
11.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法（専門）B】
	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかる科目であるため、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めることを心掛けた。また、適宜、事例を紹介するなどして、精神保健福祉士の役割や精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの展開について実践的理解が深まるよう工夫した。学生の授業理解度を把握するため、適宜リアクションペーパーを活用し、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。
12.	授業科目名【精神保健福祉の原理Ⅱ】
	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかる科目であるため、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、可能な限り養成テキストに沿った内容で進めることを心掛けた。また、精神保健医療福祉に関する施策や制度等についての理解を深めることができるよう、適宜、教員が作成した資料を配布したり、事例を用いて説明するなどの工夫をした。
13.	授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）B】
	精神障害者の生活や生活上の困難を把握し、精神保健福祉士に求められるソーシャルワークの価値・倫理、知識や技術を実践的に習得することができるよう、事例検討を中心とした演習を行った。また、事例検討を行うにあたって、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、さまざまな視点で事例を捉え、協働性を意識して取り組むことができるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2008年7月～現在に至る	日本社会福祉学会	会員
2.	2016年9月～現在に至る	日本保育学会	会員
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2024 年 9 月	社会的養護 I・II—社会 的養護の理 念と実践—	共著	（株）みらい	①社会的養護の基礎理論やしくみを学 ぶ理論編と社会的養護実践の展開を学 ぶ実践編の 2 部構成となっている。法制 度の改正等の最新の動向を解説すると ともに、アセスメントから計画立案ま での演習課題を設定することで学びが深 化するようまとめている。 ②編著者名 中野菜穂子,東俊一 ③共著者名 笠修彰,他 12 名 ④担当部分 第 1 部 第 1 章 子ども・ 家庭を取り巻く生活環境と社会的養護 の視点 1.子どもをめぐる社会的状況と 人権 2.「社会的養護」を考える (P10～P14)。 総頁数 P211 ⑤B5 版
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額

			○代表者（ ）内は学外者	(単位：円)
1.	成年後見人等の死後事務の実態についての基礎的研究	日本学術振興会	(○古野 みはる) 今村 浩司 笠 修彰	5,720,000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008 年 4 月～現在に至る	日本精神保健福祉士協会	代議員 (2024 年 4 月～現在に至る)
2.	2009 年 6 月～現在に至る	福岡県精神保健福祉士協会	理事
3.	2015 年 4 月～現在に至る	北九州地区精神保健福祉士協会	会員
4.	2016 年 4 月～2024 年 3 月	「保育福祉小六法」(株) みらい	編集委員
5.	2024 年 4 月～現在に至る	「福祉・保育小六法」(株) みらい	編集委員
6.	2017 年 9 月～現在に至る	日本社会福祉士会	会員
7.	2017 年 9 月～現在に至る	福岡県社会福祉士会	会員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2016 年 4 月～現在に至る	学生募集委員会	副委員長
2.	2017 年 4 月～現在に至る	キャンパス・ハラスメント相談員	相談員
3.	2023 年 4 月～現在に至る	教育経費予算配分委員会	副委員長
4.	2024 年 4 月～現在に至る	研究紀要委員会	委員
5.	2024 年 4 月～現在に至る	将来計画委員会	委員

講師
櫻井 裕介

■ 学歴

1. 2013 年 学校法人中村学園中村学園大学大学院人間発達学研究科修士課程修了

■ 学位

1. 2013 年 修士（人間発達学）

■ 研究分野

1. 保育学
2. 幼児教育学

■ 研究キーワード

1. 保育
2. 幼児教育
3. 熟達化

■ 研究課題

1. 保育者の成長プロセス
2. 保育活動における保育者の役割

■ 担当授業科目

※該当なし（2024 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2024 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2011 年～	日本保育学会	
2.	2016 年～	保育者養成教育学会	広報委員（2021 年～現在に至る）
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					

1.	2016.2	保育表現技術の実践ワーク「かんじる・かんがえる・つくる・つたえる	分担執筆	保育出版社	保育士養成課程に所属する学生向けテキストを執筆した。保育における表現援助技術を身に着けていくことを目標に、①学生の能動的な学びを引き出す。②学生同士の評価や実践を取り入れる。③学生の自発性を重要視する。④ワークブック形式により、学生と教員がともに成長する。以上の4点を視点に、実践例やエピソードを取り入れた保育内容に関するテキストである。(編著：今井真理，共著者：長谷川恭子，麓洋介，新関伸也， <u>櫻井裕介</u> ，福井一尊他16名，担当執筆部分：第2章3項
2.	2017.12	新教育課程総論ワークブックー平成30年保育所保育指針・幼稚園教育要領対応ー	単著	権歌書房	改定保育所保育指針・改訂幼稚園教育要領に対応した全体的な計画及び教育課程の授業理解を深めるための書き込み式ワークブックである。
3.	2020.3	保育所における自己評価ガイドライン研修テキスト	分担執筆	厚生労働省	保育所における自己評価ガイドラインとハンドブックの解説書である。その後の同省研修テキストの執筆と研修講師を行った。(石井章仁、遠藤純子、田澤里喜、 <u>櫻井裕介</u> 他)
4.	2020.3	ワークシートで学ぶ保育所実習	分担執筆	同文書院	保育所実習テキストであり、P62-65、93-94、保育環境と実習課題についての内容である。(那須伸樹、相浦雅子、原孝成、 <u>櫻井裕介</u> 他)
(学術論文)					
1.	2012.4	保育実践における協同活動を活性化させる足場づくりの在り方	単著	福岡こども短期大学研究紀要(福岡こども短期大学研究紀要編集委員会)，第23号, 39-44.	造形活動を通し協同性を育むための保育計画、保育者の援助について保育実践をもとに考察した。子どもが主体的な活動を創造し、協同活動の中で成長していくための保育者の足場づくりについてヴィゴツキーによる社会文化的アプローチの視点から捉えた。保育者は子どもが他者を理解し、自分を調整して目的に向かって協同活動が進むような援助を行う必要があり、保育実践例から活動内

					容と指導計画の実際と留意点を考察した。
2.	2013.4	保育者を志望する短期大学生の2年間におけるこどもイメージの変化に関する縦断的研究	単著	福岡こども短期大学研究紀要（福岡こども短期大学研究紀要編集委員会），第24号, 25-28.	福岡こども短期大学研究紀要（福岡こども短期大学研究紀要編集委員会），第24号, 25-28.
3.	2014.4	保育者を志望する短期大学生の2年間における保育者効力感の変化に関する縦断的研究	単著	福岡こども短期大学研究紀要（福岡こども短期大学研究紀要編集委員会），第25号, 57-61.	保育者を志望する学生90名を対象に保育者効力感について質問紙調査を行った。量的分析とともに4ステップコーディング（SCAT）による質的分析を行い、量的には表れない学生の内面の変化を質的に考察した。学生は専門的知識や技術を学ぶ中で困難や不安に直面する。その困難を課題として受け止めるか、学習意欲の低下につながるのかという岐路に授業理解度が影響していることが解った。櫻井（2013）のこどもイメージとの関連からも、実習体験の受け取り方に授業の受け取り方、授業理解度が影響していることを読み取ることができた。
4.	2015.3	保育者の専門性研究の動向と課題	単著	道都大学紀要社会福祉学部（道都大学図書紀要編集委員会），第40号, 89－96.	平成23年度の保育士養成課程改正により、保育原理と保育者論が細分化された。これまでも多くの保育者専門性研究が行われきているが、保育者の専門性とし内容を明示しているものはない。テキストや先行研究を精査し8つの共通するキーワードを捉えた。子どもの実態を把握し、発達や生活援助ができること。先を見通した保育計画を立て、それに基づいた環境を構成し保育者間の人間関係を構築でき、積極的に保育に取り組めること。また保護者や地域との良好な関係構築ができるという保育者像である。
5.	2015.3	大学生の児童虐待への意識変化－	共著	道都大学紀要社会福祉学部（道都大学図書紀要	児童虐待防止活動の一環として学生によるオレンジリボン活動を行った。児童虐待についての講義、グループワーク、

		オレンジリボン活動の調査からー		編集委員会），第 40 号，1-7.	リボンや掲示物の作成を行い学園祭で発表を行った。また北広島市保健福祉部とも連携し市が主催する講演会でも発表を行った。その活動を通して学生の意識変化と成長の軌跡を実践報告としてまとめたものである。(飯浜浩幸, 小早川俊哉, <u>櫻井裕介</u> , 他 5 名, pp.1-7. 共同研究により抽出不可能)
6.	2016.3	幼稚園教育要領改訂に向けた教育課程の予備的考察	単著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 49 号, 193-199. (査読有)	平成 30 年実施予定の幼稚園教育要領改訂、保育所保育指針改定による、教育課程と保育課程（全体的な計画）の改訂・改定点を考察したものである。1956 年から実施された幼稚園教育要領の概ね 10 年毎の改訂による、教育課程に関する箇所とこれまでの文部科学省中央教育審議会や厚生労働省社会保障審議会などの報告書をもとに今後の教育課程、全体的な計画の方向性を予備的に考察した。
7.	2018.2	幼稚園における園長による主任保育者選定プロセスの TEM 分析	単著	中村学園大学発達支援センター研究紀要, 第 9 号, 51-57. (査読有)	幼稚園における園長による主任選定プロセスを質的に分析した。現在キャリアパス研修などが行われているが、実際の保育・幼児教育実践の営みの中で求められる主任力を明らかにすることで保育者の成長過程を明らかにすることを目的としている。保育所でも同様の調査を行っている。今後調査件数を増やし、主任に求められる力を明らかにすることで、現職者研修内容の構築と保育者のリカレント教育などにつなげる研究である。
8.	2018.3	学外実習における言語表現教材の実践状況についての調査研究Ⅱー保育者養成課程における全 5 実習の比較を中	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 50 号, 29-36. (査読有)	幼稚園教育実習と保育所実習の各初回の比較を行った。学生も実習準備を行い、指導通りに言語表現教材を持参した経験は少なくはなかった。しかし、実習先での指導に差があることが明らかになった。今後、学内の実習担当者と実習先での担当者との関係を密にし、実習指導内容についての相互理解を深める重要性が示唆された。(松尾智則、増田隆、永渕美香子、川俣沙織、 <u>櫻井裕介</u>) デー

		心にー			タ入力分・析担当
9.	2019.3	D 保育所における園長による主任保育者選定プロセスの TEM 分析	単著	D 保育所における園長による主任保育者選定プロセスの TEM 分析	D 保育所における主任選定プロセスを質的研究によって明らかにした。D 保育所では保育所の方針の理解とその実践を体現できる保育者であること。また、それらを実践のみでなく伝えられる力が必要と考えていることが分かった
10.	2019.3	幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 51 号, 17-31. (査読有)	幼稚園教育実習における、学生の実習体験内容について、幼稚園側の準備する経験内容について調査したものである。これらをもとに学内実習指導内容の精査と幼稚園と大学の要望の差異を明らかにした。(松尾智則、古賀和博、永渕美香子、 <u>櫻井裕介</u>) データ分析担当。
11.	2020.3	幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識 2 -佐賀県・大分県調査-	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 52 号, 11-27. (査読有)	平成 30 年に行った同調査について、地域差があるのではないかと範囲を広げ再調査、分析を行った。 有意な差異は見られなかったことにより、幼稚園教育実習としての本学科の実習指導に誤りがなかったことが確認できた。
12.	2020.3	保育原理と他科目の架橋を通した学生の理解を深める取り組み	単著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 52 号, 147-151. (査読有)	保育原理を制度や思想家の暗記科目と捉える学生がいることを感じ、教育課程総論、保育内容総論との往還を通じて理解深化に努めた。暗記ではなく、保育者になる者として知っておかなければならない歴史、考え方、制度という捉え方がみられた。
13.	2020.3	E 幼稚園における園長による主任保育者選定の視点 - TEM 分析を通して	単著	中村学園大学発達支援センター研究紀要, 第 11 号, 13-18. (査読有)	E 幼稚園における主任教諭選定プロセスを質的分析で明らかにした。E 幼稚園では、基本的には年功序列での職位決定を基本としていた。経歴が同じ場合は、生活環境を加味して無理なく仕事に取り組める職場環境づくりに注力していた。
14.	2021.3	学外実習の代替となる学内実習の概要と展開：ICT を	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 53 号, 157-165. (査読有)	突然のコロナ禍に見舞われ、保育実習の中断や中止が相次いだ。その折に WEB ツールを用いた保育現場との中継や園長とのリアルタイムのやり取りなど実習単位と同等の時間と学びを確保可能

		活用した保育現場との協働による学内実習プログラムの構築		有)	な計画と実践について報告したものである。(山下雅佳実、永渕美香子、 <u>櫻井裕介</u> 、川俣沙織、井上聡)
15.	2021.3	主任保育者に求められる能力の調査-先行研究を中心に-	単著	中村学園大学発達支援センター研究紀要, 第 12 号, 9-14. (査読有)	各種研修や先行研究を中心に、主任保育者に求められる能力についてキーワードのように端的に言葉を抽出した。今後の自身の研究の基礎的な部分となる。
16.	2022.3	幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識4: 九州7県調査結果	共著	中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 54 号, 7-24. (査読有)	継続研究であり、これまでの幼稚園実習に関する幼稚園側の実習、実習生に対する意識調査である。養成校側からの実習の意義、内容について説明や丁寧な文書での案内の必要性が明らかになった。 (松尾智則、宮坂明、永渕美香子、 <u>櫻井裕介</u>) データ分析担当。
17.	2022.12	先行研究からみる保育の質	単著	中村学園大学発達支援センター研究紀要, 第 14 号, 55-59. (査読有)	先行研究から保育の質について考察したものである。制度的な質、サービスの側面と事例研究を中心とした実質的な保育の質、また各種評価を基にした基準から捉える保育。子どもにとっての保育の質を考えるための基礎的資料となった。
18.	2024. 9	保育施設における園内研修の実践	単著	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部教職論集, 第 3 号, 80-85.	保育施設での自己評価につながることを目的に、年間を通して7回の園内研修の実践記録である。法人理念や保育方針から、実際の保育活動での子供の学びや保育の視点について、園での実際の保育活動や環境をもとに具体的な研修を構成・実施して、実現可能な改善の取り組みを行った。
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2019.3	園長による主任保育者	単	日本保育者養成教育学会 第 3	主任保育士を選定する園長の視点を研究していたものを整理した。これまでの

		選定の視点- H 保育所,D 保育所,C 幼 稚園の事例-		回研究大会 口 頭発表	質的研究で得た内容をキーワード的に まとめたものである。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.	児童養護施設入所児童とメンタルヘルス問題のある親との家族再統合に関する研究	科研費	○飯浜浩幸(星槎道都大学) 杉本 大輔(星槎道都大学) 上原 正希(星槎道都大学) 福富 律(星槎道都大学) 佐々木智城(星槎道都大学) 大島 康雄(星槎道都大学) 吉江 幸子(星槎道都大学)	1,560 千円
2.	食育プログラムに重点をおいた保幼小接続期のスタートカリキュラムの開発と実践	科研費	○田中るみこ(中村学園大学) 新井しのぶ(中村学園大学) 井手 友美(九州大学)	2,990 千円

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2018～2022	社会福祉法人和聖会 みらい保育園 園内研修	研修講師

2.	2018.8	教員免許更新講習講師	研修講師
3.	2018～2021	保育士等キャリアアップ研修 北九州市福祉事業団	研修講師
4.	2018～2019	保育士等キャリアアップ研修 久留米市保育協会	研修講師
5.	2021～現在に至る	社会福祉法人吉野福祉会 園内 研修講師	研修講師
6.	2022.11	宗像市保幼小連携研修	研修講師
7.	2019～2020	保育所における自己評価ガイド ライン【改訂版】(試案)の試行 検証に関する調査研究事業 厚生労働省	調査協力委員
8.	2020～2021	保育所における自己評価ガイド ライン周知・広報事業 全国研 修講師 厚生労働省	研修講師
9.	2022～現在に至る	北九州市児童福祉施設等第三者 評価専門委員	第三者委員
10.	2022～現在に至る	北九州市児童福祉施設等第三者 評価 評価項目検討委員	検討委員
11.	2024～	NPO 法人光楽園 保育アドバイ ザー	外部アドバイザー
12.	2023～	中村学園大学発達支援センター 学外研究委員	学外研究員
13.	2025～	NPO 法人光楽園おひさまいつ ぱい光楽園	副園長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2024 年度入職）

准教授
篠木 賢一

■ 学歴

1. 2001 年 鹿屋体育大学修士課程 修了

■ 学位

1. 2001 年 修士（体育学）

■ 研究分野

1. 体育方法学
2. 幼児体育
- 3.

■ 研究キーワード

1. バレーボールの戦術
2. 幼児の運動能力
- 3.

■ 研究課題

1. 幼児の喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力との関連について考察。
- 2.

■ 担当授業科目

1. スポーツ実技（通年）
2. 子どもの運動遊び（前期）
3. 子どもと健康（前期）
4. 運動と健康（前期）
5. 子ども学基礎演習（通年）
6. 子ども学特別演習（通年）
7. 保育・教職実践演習（後期）
8. 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ（通年）
9. 保育所実習Ⅰ・Ⅱ
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【子どもの運動あそび】
	子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、

	運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を図っている。
2.	授業科目名【子どもと健康】 子どもが自らの体や健康に関心を持ち健やかに成長していくために、幼児期の体の諸機能の発達や生活習慣の形成を、幼稚園教育要領・保育所保育指針に沿って解説した。また、生活習慣の獲得を促す環境や援助方法について、事例をもとに学生が自ら考えられるように授業を進めた。
3.	授業科目名【子ども学特別演習】 子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。
4.	授業科目名【保育・教職実践演習】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2人1組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生に保育者としての意識が高まるように配慮した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1997年～現在に至る	九州・体育スポーツ学会	会員
2.	2012年～現在に至る	日本保育学会	会員
3.	2013年～現在に至る	日本バレーボール学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					

3.					
(学会発表)					
1.	2025. 2	選抜チームの短期間のチームづくりに関する実践研究－ブレインストーミング法を用いたミーティングから抽出された選手の長所に着目したアプローチ	共	日本バレーボール学会第 30 回大会（ポスター発表）	2024 年度第 25 回西日本大学バレーボール学連女子選抜対抗戦において準優勝した九州選抜チームのチームづくりに関して、短期間にどのようなチームづくりを行ったかという実践報告。 BS 法を活用したチームコンセプト決定は、選手の意識改革に一定の効果があった。しかし、選手が持つスキルとの整合性を考慮することが、実際の試合における戦術の成功には不可欠であることが示唆された。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等

1.	2006 年～現在に至る	九州大学バレーボール連盟	女子強化委員
2.	2021 年～現在に至る		女子強化委員長
3.	2013 年～現在に至る	付属シオン山幼稚園「運動遊び」	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017 年度～現在に至る	大学キャンパス・ハラスメント 防止・対策委員	副委員長
2.	2021 年度～現在に至る	学生委員	副委員長
3.	2014 年度～現在に至る	排球部	顧問

短期大学部長・保育科学科長・教授

末寄 雅美

■ 学歴

1. 2001 年九州大学大学院人間環境学研究科博士課程単位取得満期修了退学

■ 学位

1. 1998 年修士号取得（教育学・九州大学大学院）

■ 研究分野

1. 保育者養成教育
2. 保育学（環境）
3. 社会教育

■ 研究キーワード

1. 実習指導
2. 環境遊び
3. 地域における保育者の体験学習

■ 研究課題

1. 2 年間の保育者養成における体験的な学びを通した保育観・子ども観の育成－環境遊びを中心として
2. 保育者養成教育における実習での保育の記録のあり方
3. 現場保育者向けの生活体験プログラムの構築とフィールドワーク
4. 保育の質の向上を目指した保育者の研修について

■ 担当授業科目

1. 教育実習指導（通年・1～2 年） 選択
2. 子ども学基礎演習（通年） 必修
3. 子ども学特別演習（通年） 必修
4. 保育原理（前期） 必修
5. 教育原理（前期） 必修
6. 子どもと環境（前期） 選択
7. 保育内容「環境」の指導法（後期） 選択
8. 保育方法とメディア（後期） 選択
9. 教育実習Ⅰ（後期） 選択
10. 教育実習Ⅱ（前期） 選択
11. 教育実習Ⅲ（後期） 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【教育実習指導】 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。 実習事後指導では一人一人の学生に対し面談を行い、また丁寧に日誌指導を行った。実習報告会は前期に1回、後期に保育実習と合同で1回実施し、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。
2.	授業科目名【子ども学基礎演習】 科目の主担当者として全体計画を作成した。ゼミ毎での活動を軸として、学生が話しやすい雰囲気作りや学習成果を実感できる活動への取り組みなど様々な工夫を行った。「認定絵本土」養成指定講座は複数回実施したが、特に外部講師を招いた授業では、認定絵本土としての実践力を高められるよう工夫と努力を行った。
3.	授業科目名【子ども学特別演習】 2年次のゼミ活動の科目のため、体験的な学習をできるだけ行えるよう工夫した。学外授業は、今年度は「いのちのたび博物館」の訪問を行った。また、「科学遊び」のテーマでは学生のアイデアを十分に生かせる内容を考え、シャボン玉遊び、ラムネ作り、毛糸のアート、ペーパークラフトなど学生が科学的な活動に関心を高められるような工夫を行った。また、年度の終わりには学外学習で、離島キャンプの体験学習も行った。少人数で自炊などの生活体験を、役割分担を行いながら実施した。
4.	授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。スライドは事例や映像など学生が理解しやすいよう工夫を行い、学生の学習ペースに十分配慮しながら授業進行を行った。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
5.	授業科目名【教育原理】 保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また就職後の自分にどのような影響があるか等、授業内での解説は学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるように工夫した。制度や概念の理解など学生にとって理解が難しい内容は、身近な話題と関連させて説明したり、映像を用いたりした。学生の学習ペースが保てるようノートプリント形式のプリントを配布し、要点をまとめやすくした。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
6.	授業科目名【子どもと環境】 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領」における5領域の「環境」について、そのねらいや内容、取り扱いについて、一つ一つ解説し、授業を進めた。入学して間もない学生が受講対象となるため、「幼稚園教育要領」等の文書や5領域の意義などから丁寧に説明を行い、毎回復習プリントで学習内容を確認し、理解の定着を図った。加えて、保育における遊びの意義や遊び環境との関係、遊びを引き出す玩具や教材、環境設定と保育のねらいとの関連など、概説的に取り

	扱った。
7.	授業科目名【保育内容「環境」の指導法】 前期科目「子どもと環境」と内容に関連させ、演習や実技的な内容を中心に授業内容を構成した。授業前半では、屋外での体験学習を中心に授業を組み立てた。特に、自然や生活環境への関心が高まるよう工夫した。保育活動で利用する様々な教材と思考力の発達について、映像教材や実物を用いたりしながら授業を進めた。 授業後半は、学生による「模擬保育」を行った。グループ毎に企画書を作成し、与えられたテーマに基づいた活動を2回ずつ行った。実技を行い振り返りを行うことで、学生の理解が深まっただけでなく、活動の楽しさを実感できたようである。
8.	授業科目名【保育方法とメディア】 授業の前半では、メディア環境をテーマにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。また、生成AIや保育現場でのIT化についての課題についても学生自身が考えられるように実技や発表の機会などを取り入れつつ授業を行った。スマホを用いてGoogle Geminiを実際に利用したり、Canvaによるプレゼン資料を学ぶ等、保育や教育現場の情報化に即した授業内容を組み込んだ。 授業の後半では多様な保育方法について学ぶが、それぞれの教育方法の考え方や育ちのとらえ方などの違いを理解できるよう丁寧に説明を行ったり、映像資料等を用いて理解を深めるよう工夫した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2013年5月	日本保育学会	
2.	2017年3月（発足より）	日本保育者養成教育学会	
3.	1998年10月（発足より）	日本生活体験学習学会	理事（2004-2010年、2018年-現在） 紀要編集部会担当理事（2021年10月-現在） 紀要編集部会部会長（2023年10月-現在）
4.	1996年4月	日本社会教育学会	
5.	1996年4月	九州教育学会	事務局幹事（1996-98年）

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					

1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	保育実習における現場指導担当者の実習日誌指導に関する質問紙調査	全国保育士養成協議会九州ブロック協議会	○末寄雅美 阿南寿美子 （上原真幸、大谷朝、島田知和、藤本朋美、二子石諒太、古林ゆり、脇信明）	300,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等
1.	2006年4月～現在に至る	柳川市保育協会保育士会研修部会	研修会助言講師（年4回）

2.	2016 年 9 月～現在に至る	福岡県八女市子ども子育て会議 委員会	会長・不定期開催（24 年度は 4 回）
3.	2018 年 8 月～現在に至る	福岡県保育士等キャリアアップ 研修	幼児教育分野担当講師（24 年度 は 8 月と 10 月実施）
4.	2018 年 8 月～現在に至る	九州保育団体合同研究会	4・5 歳児保育分科会運営委員 （24 年度は熊本にて全国大会 として 7 月実施）
5.	2019 年 6 月～現在に至る	福岡県八女市子育て支援員講座	講師（3 講座担当）（24 年度は 8 月に実施）
6.	2020 年 9 月～現在に至る	特定非営利活動法人体験教育研 究会ドングリ（NPO ドングリ）	研究部会、研究・実践担当 「保育者体験講座」の実施 （24 年度は 3 回実施）
7.	2018 年 9 月～現在に至る	日本生活体験学習学会	学会理事（24 年度は 5 回出席）
8.	2023 年 9 月～現在に至る	日本生活体験学習学会	学会誌編集部会・部会長（24 年 度は 4 回実施・12 月～9 月にか けて日常的な編集業務）
9.	2023 年 10 月～2024 年 10 月	日本生活体験学習学会第 24 回 研究大会（北九州市立大学）	大会実行委員（24 年度は実行委 員会 4 回実施・当日運営担当）
10.	2023 年 10 月～現在に至る	福岡県八女市公立保育支部会	研修担当講師（24 年度は 10 月 に実施）
11.	2024 年 2 月～現在に至る	北九州市子ども・子育て会議	専門委員（認定こども園・確認部 会員）
12.	2024 年 2 月～現在に至る	日本乳幼児教育学会第 35 回大 会実行委員会	現地実行委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 4 月～現在に至る	短期大学部	学部長
2.	2020 年 4 月～現在に至る	保育科	学科長
3.	2020 年 4 月～現在に至る	人事委員会	委員・副委員長として出席 人事選考委員会の開催
4.	2020 年 4 月～現在に至る	入試会議	保育科学科長・短期大学部学部 長（24 年 4 月～）として出席・ 不定期
5.	2020 年 4 月～現在に至る	運営会議	保育科学科長・短期大学部学部 長（24 年 4 月～）としてとして 出席・毎月
6.	2020 年 4 月～現在に至る	点検評価改善会議	保育科学科長・短期大学部学部

			長（24 年 4 月～）として出席・不定期
7.	2020 年 4 月～現在に至る	保育科学科会議	保育科学科長として進行・毎月
8.	2023 年 1 月～現在に至る	教学マネジメント会議	保育科学科長・短期大学部学部長（24 年 4 月～）として出席・不定期
9.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院理事・評議員	短期大学部学部長として出席・不定期
10.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院運営協議会	短期大学部学部長として出席・月 2 回
11.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学・大学評議会	短期大学部学部長として出席・月 1 回
12.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学・将来プロジェクト検討会	短期大学部学部長として出席・月 1 回
13.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学地域連携室運営協議会	短期大学部学部長として出席・月 1 回
14.	2018 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園幼稚園運営委員	学部長（24 年 4 月～）として会の進行・不定期
15.	2020 年 4 月～現在に至る	非常勤候補者選考会議	委員・保育科学科長として出席・不定期
16.	2020 年 4 月～現在に至る	学生総合支援室運営連絡協議会	委員・保育科学科長として出席・不定期
17.	2024 年 4 月～2024 年 11 月	学長候補者選考委員会	委員として出席・不定期
18.	2017 年 4 月～現在に至る	学生アドバイザー	保育科学生のアドバイザーとして通年で学生支援を行う
19.	2024 年 4 月	西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園入園式	短期大学部学部長として来賓出席
20.	2024 年 4 月	全国保育士養成協議会九州ブロック協議会	学科長として総会（佐賀）へ出席
21.	2024 年 5 月	保育科 1 年生、附属幼稚園見学実習	実習担当者として実習の引率指導
22.	2024 年 6 月	保育科保護者懇談会	学科長挨拶・保護者面談
23.	2024 年 6 月	北九州市市立幼稚園連盟、「村上順滋先生感謝の会」への出席	短期大学部学部長として会に出席
24.	2024 年 6 月	入学者選抜説明会	短期大学部学部長として出席
25.	2024 年 6 月	保育科 2 年生「教育実習Ⅱ」訪問指導	幼稚園へ来訪し現地指導
26.	2024 年 7 月	授業表彰者選考会	短期大学部学部長として出席
27.	2024 年 7 月	西南女学院大学短期大学部附属	ゼミ担当者として学生参加活動

		シオン山幼稚園夏祭り	の支援
28.	2024 年 8-9 月	保育科 2 年生「保育所実習Ⅱ」 「施設実習Ⅰ」「施設実習Ⅱ」訪問指導	保育所、児童福祉施設へ来訪し 現地指導
29.	2024 年 6-8 月	オープンキャンパス、各回	福祉学科子ども家庭福祉コース 広報への協力
30.	2024 年 9-10 月	保育科 2 年生「教育実習Ⅲ」訪問指導	幼稚園へ来訪し現地指導
31.	2024 年 9 月	若松商業高校での進路ガイダンス	幼児教育に関するグループワーク 中心の講義
32.	2024 年 10 月	保育科 1 年生「教育実習Ⅰ」訪問指導	幼稚園へ来訪し現地指導
33.	2024 年 11 月	北九州市保育研修大会	短期大学部学部長として式典出席
34.	2024 年 12 月	西南女学院大学短期大学部附属 シオン山幼稚園、クリスマス礼拝	短期大学部学部長として来賓出席
35.	2024 年 12 月	西南女学院大学短期大学部附属 シオン山幼稚園	園だより 1 月号巻頭言執筆
36.	2025 年 2 月	北九州市私立幼稚園連盟主催、 養成校との意見交換会	実習担当者・学科長として出席
37.	2025 年 2 月	保育科 1 年生「保育所実習Ⅰ」 訪問指導	保育所へ来訪し現地指導
38.	2025 年 2 月	保育科教育実習、実習園打ち合わせ (教育実習Ⅰ実習園)	実習担当者として出席
39.	2025 年 3 月	西南女学院大学短期大学部附属 シオン山幼稚園、卒園式	短期大学部学部長として来賓出席

講師

山路 麻佳

■ 学歴

1. 2013 年 国立福岡教育大学大学院修了

■ 学位

1. 2013 年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. ピアノ演奏学
2. 音楽表現
3. リトミック

■ 研究キーワード

1. ピアノ演奏表現
2. 音楽教育
3. 幼児の音楽表現
4. リトミック
5. アンサンブル
6. 保育者養成ピアノ教育

■ 研究課題

1. 保育者養成のためのピアノ教育において、ピアノの経験がない初心者への効率的な指導法を弾き歌い伴奏を中心に、幼児の音楽表現と関連させながら考察する。
2. 幼児の音楽表現に関して、リトミックや器楽アンサンブル(合奏)を中心に考察する。
3. ピアノ演奏表現について、ピアノ作品の作曲家や時代背景を中心にして演奏解釈を考察し表現を深める。

■ 担当授業科目

1. 子どものためのピアノⅠ（前期）選択
2. 音楽の基礎（前期）選択
3. 子どものうたと伴奏法Ⅰ（前期）選択
4. 保育内容「表現」の指導法（音楽・身体）（前期）選択
5. 子どものためのピアノⅡ（後期）選択
6. 子どものうたと伴奏法Ⅱ（後期）選択
7. 子どものうたあそび（後期）選択
8. 子どもと表現（後期）選択
9. 器楽アンサンブル（後期）選択

10. 子ども音楽療育演習（前期）選択
11. 子ども音楽療育実習（後期）選択
12. 子ども学基礎演習（通年）必須
13. 子ども学特別演習（通年）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【子どものためのピアノⅠ】 非常勤助手6名のもとグループに分けて個別レッスン形式で進めることにより、個々の学生に応じてピアノの基礎的な演奏技能を向上していけるように工夫した。また、個別レッスン以外に、科目担当者のもとで1人3回ずつグループレッソンの機会を設けることで、保育者に求められる人前で弾く力やコード伴奏の基礎を習得し、実践を意識してピアノ演奏に取り組む機会を設けた。
2.	授業科目名【音楽の基礎】 单元ごとに小テストを行うことでそれぞれの学習状況を把握するとともに復習への意識を高めた。講義の際は机間指導を適宜行いながら進めることで学生から質問を受ける機会を設け、全体の状況を把握できるよう配慮した。また、独自に作成したソルフェージュ教材を準備し、毎回の授業後半に取り組むことでリズム感や基本的な発声について演習を通して理解が深まるようにした。
3.	授業科目名【子どものうたと伴奏法Ⅰ】 学生が曲想を感じとり表現豊かにピアノによる弾き歌いができるよう個別レッスンを行った。個別レッスン以外に1人2回ずつ中間発表・グループレッソンの機会を設け、実践に即した形(保育者(弾き手)・子ども役(歌い手))で発表を行うことで、人前で弾くことに慣れながら保育者に必要なピアノ演奏技術について理解を深められるよう心がけた。また、課題とは別に実習先や就職試験で求められる曲の指導もしていくよう配慮した。
4.	授業科目名【保育内容「表現」の指導法】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」についての理解を深めた上で楽器や身近な素材・身体を使った表現など幅広い表現活動を行い、楽しみながら音楽技能や表現力が習得できるよう授業を展開した。授業の後半では、グループごとに指導案を作成し、模擬保育を行うことで子どもの表現への理解を深め実践力を高めることができるようにした。
5.	授業科目名【子どものためのピアノⅡ】 個別レッスンを行いながら、科目担当者のもとで1人2回ずつ中間発表・グループレッソンの機会を設けることで、実践を意識してピアノ演奏に取り組むだけでなく、他者の表現を感じ受け止め言葉で伝える大切さや自身の演奏を見つめ直す機会を設けた。弾き歌いの課題では前期「子どものためのピアノⅠ」で習得したコード伴奏の基礎を踏まえ、曲想にあったアレンジ用いることによりピアノ技能を高められるよう進めた。
6.	授業科目名【子どものうたと伴奏法Ⅱ】 これまでに習得したピアノ演奏技術をもとに、学生の習得状況に応じた個々に合わせた課題を準備し授業を進めた。個別レッスン以外に1人2回ずつ中間発表・グループレッソンの機会を設けることで、人前で弾くことに慣れながら実践に即した形(保育者(弾き手)・子ども役(歌い手))で発表を行い、

	保育者に必要なピアノ演奏技術について理解を深められるよう心がけた。また、ピアノ演奏に不安がある学生には個々の技能に応じた簡易伴奏法を教授した。
7.	授業科目名【子どものうたあそび】 保育者として求められる歌唱技術について理解を深めるとともに基本的な発声・音程・リズムを習得し、子どもの発達段階や環境と関連づけながらわらべうたや手あそびを選択して実践することができるよう工夫した。また、グループワークを通して身体表現を伴った歌唱表現について理解を深め発表する機会を設けることで、コミュニケーション力・協調性を育むことができるよう配慮した。
8.	授業科目名【子どもと表現】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」について理解を深められるよう、DVDを用いて日常生活の中でみられる子どもの表現を段階的に学び、表現を促すための環境について考えられるようにした。また、身近な素材を用いた表現活動を通して自分と他者の表現を共有し、保育現場での表現活動のあり方を考える機会を設けた。
9.	授業科目名【器楽アンサンブル】 履修者が少人数であったため編成の大きいアンサンブルはできなかったが、少人数でもできる教材を準備しハンドベルや保育現場で多く使われる楽器の奏法を学びアンサンブルの美しさ楽しさを感じられるようにした。また、楽器演奏に苦手意識をもっている学生もいたが、身体や声を使ったリズムアンサンブルを取り入れることで幅広くアンサンブルへの理解を深めていくことができるよう工夫した。
10.	授業科目名【子ども音楽療育演習】 「子ども音楽療育士」の資格取得を希望する学生が受講している。3名の外部講師をお招きし、特別支援学校等の現場の話や実際の映像を通して学生たちがより具体的に療育的な支援のあり方について学ぶことができるよう配慮した。また、配慮のなされた楽器に触れる機会を設け、グループワークを通して療育活動のプログラム作成・発表を行い実践力を高めることができるようにした。
11.	授業科目名【子ども音楽療育実習】 「子ども音楽療育概論」「子ども音楽療育演習」の科目を通して学んだことを活かし、本学附属幼稚園にて3回の実習を行なった。毎回の授業で振り返りを行うことで次の実習へ活かしながら、当日までに話し合い・練習を重ね、学生たちが自発的に考え動き協同的な学びとなるよう配慮した。
12.	授業科目名【子ども学基礎演習】 子どもや保育に対する理解を体験を通して深め、将来の保育者としての実践力を身につけることを目的とした科目である。前期には学生が円滑な学生生活を送ることができるよう個別面談の機会を設けることで丁寧に個々と向き合う機会を設けた。また、後期には大学祭にて地域の子どもたちに向けてあそびの場を展開し、当日に向けて学生たちが協同的にコミュニケーションを図りながら準備・運営を行うことができるよう配慮した。
13.	授業科目名【子ども学特別演習】 卒業年次のゼミ活動のため、学生たちがどのような学びを深めたいか話し合いの機会を多く設けるよう配慮した。今年度は楽器についての理解を深め、アンサンブルを中心とした活動に取り組んだ。また、前期・後期に各1回ずつ外部にて親子を対象としたリトミック活動を行い、学生たちでプログラム構成・準備・練習を行い、学生たちがコミュニケーションを図りながら協同的に実践することができる機会を設けた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2018 年 4 月～現在に至る	日本保育学会	会員
2.	2019 年 4 月～現在に至る	九州公立音楽学会	会員

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
（学術論文）					
1.					
（翻訳）					
1.					
（学会発表）					
1.					
（演奏）					
1.	2024.8.4	第 79 回九州 合唱コンク ール	ピアノ伴 奏	全日本合唱連盟	第 79 回九州合唱コンクール福岡県大会 において、折尾中学校のピアノ伴奏 場所：石橋文化センター
2.	2024.8.11	第 42 回ピア ノ発表会	ピアノ演 奏		第 42 回ピアノ発表会においてゲスト演 奏としてピアノ演奏 場所：宗像ユリックス ハーモニーホー ル
3.	2024.9.7	Ferris Joint Concert	ピアノ伴 奏	フェリス女学院 大学音楽学部同 窓会 F グループ 九州・山口支部 同窓会	フェリス女学院大学出身の演奏家によ るコンサートにおいてピアノ伴奏 場所：九州キリスト教会館 共演者：平野 亜衣(Vn.)
4.	2024.9.7 2024.9.8	チャイナフ ェスティバ ル in 九州	ピアノ伴 奏	九州華僑華人連 合会 九州中資企業協 会	中華人民共和国建国 75 周年記念イベン トにおいてピアノ伴奏 場所：福岡市役所西側ふれあい広場 共演者：崔 宗順、崔 宗宝
5.	2024.10.20	第 39 回福岡 県高等学校 総合文化祭	ピアノ伴 奏	福岡県高等学校 芸術・文化連盟	第 39 回福岡県高等学校総合文化祭にお いて、筑紫女学園高等学校のピアノ伴奏 場所：若松市民会館 大ホール
6.	2024.11.21	福岡クラシ ック音楽祭	ピアノ連 弾	福岡クラシック 音楽祭実行委員	福岡クラシック音楽祭においてクリス マスに関連した曲をピアノ連弾にて演

		(クリスマス アドベント)		会	奏 場所：貴賓館 共演者：井上 友里子
7.	2024.11.25	第2回響ホール室内合奏団クラシックコンサート	ピアノ伴奏	北九州健康友の会 小倉西・新小倉支部	入居者の方を対象に行ったクラシックコンサートにおいてピアノ伴奏 場所：大手町病院 共演者：菅原 文子 木村 郁
8.	2025.1.11	北九州音楽協会フェスタ 2025 vol.3	ピアノ連弾 ピアノ伴奏	北九州音楽協会	北九州音楽協会主催のコンサートにおけるピアノ連弾による演奏、ソプラノの伴奏 場所：戸畑市民会館中ホール 共演者：井上 友里子 金沢 永圭
9.	2025.2.22	2025 年福岡地区音楽教室発表会	ピアノ伴奏	島村楽器店	島村楽器店主催の音楽教室発表会におけるピアノ伴奏 場所：福岡市中央市民センター

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2014年度～現在に至る	福岡青年音楽家協会	企画委員役員

2.	2014 年度～現在に至る	北九州音楽協会	会員
3.	2024.6.23	北九州音楽協会 (創立 35 周年記念祝賀会)	ピアノ伴奏
4.	2024.7.28	九州・山口音楽協会 (第 37 回九州・山口ジュニアピアノコンクール)	審査員
5.	2024.11.17	西南シャントウール (能登半島地震チャリティーコンサート)	ピアノ伴奏
6.	2025.12.25	住宅型有料老人ホーム モナトリエ (訪問演奏)	ピアノ演奏
7.	2025.2.11	九州・山口音楽協会 (第 17 回ドリカム・ピアノコンクール)	審査員
8.	2024 年度	むなかた第九合唱団	ピアノ伴奏
9.	2024 年度	ジルベスター合唱団	ピアノ伴奏
10.	2024 年度	西南シャントウール	ピアノ伴奏

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年度	学生募集委員	
2.	2024 年度	図書委員	副委員長
3.	2024 年度	教職課程委員	副委員長
4.	2024 年度	後援会学校委員	
5.	2024 年度	キャンパス・ハラスメント相談員	
6.	2018 年度～現在に至る	大学・短期大学部チャペルアワーにおける奏楽	
7.	2018 年度～現在に至る	入学式・卒業式における奏楽	
8.	2018 年度～現在に至る	クリスマス礼拝における奏楽	
9.	2018 年度～現在に至る	ハンドベル・クワイヤー指導指揮	
10.	2024.9.23	ハンドベル・クワイヤー指導指揮 (戸畑市民会館にて開催された第 28 回九州ハンドベルフェスティバルでの演奏)	

11.	2024.11.2	ハンドベル・クワイヤー指導指揮 (リバーウォーク北九州で開催されたクリスマスイルミネーション点灯式にて演奏)	
12.	2024.11.11	筑豊高校への出張模擬授業	